

科目名	宗教学の人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択必修	
担当教員	福島 寛太郎			
開講期	後期			
授業概要	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。 位置づけ・水準：HL2101			
達成目標	「到達目標」 ・宗教学的”ものの見方”を理解する。 ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。 単位認定の最低基準は:「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係: 問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部生活科学科 1 年	成績評価 方法	試験成績（60点）・授業への理解度8割、合とする。	
教科書	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
参考書	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	月曜日以外、毎曜日の昼休みが対応可能。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。	初回に当たり、とくになし	1.5
2	神中心の宗教	神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神の宗教と無神の宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
3	人間主義的宗教	人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがあり、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれぞれである。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
4	神秘主義的宗教と預言者的宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
5	汎神的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
11	救済の原理と価値観の転倒	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	宗教的人間（１）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
14	宗教的人間（２）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
16	期末試験	期末試験を行う		0

科目名	哲学的人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択必修
担当教員	野口 周一		
開講期	後期		
授業概要	本講義のねらいは、前期で哲学的人間論を講義したので それを基礎にしてにさらに思想的思索をを深めて行くことにあります。前期では、教育哲学者・松田高志氏の『いのち輝く子ら』を基礎に具体例をもとに考えてきました。。本講義は、前期における「人間の理解」を基礎に、それを一歩進めて考えていきます。		
達成目標	1 受講者は人間の尊厳について理解し、まとめることができること。 2 受講者は松田高志氏の考え・思想のもとにあって「人間をどうとらえたか」という人間像を把握できること。 3 受講者は和田重正氏の考え・思想のもとにあって「人間としての生き方やあり方」を述べる可以做到。これら三つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「知識・理解」が深められ、「倫理観・社会的責任」が培われることが期待できる。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	毎回、グループ別形式で考えをまとめ、発表する方法の中で評価する。この評価を80点とする。最終課題として講義のまとめとそれに基づく自分なりの考えを求めたい。これを20点とする。
教科書	松田高志著『いのちの恵み—宗教と教育と私—』（N P O法人くだけけ会）		
参考書	特になし		
学生への要望	講義への主体的な関りを求める。		
オフィスタイム			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の進め方、グループ別討議の仕方などを説明する。	予習・復習	90
2	「人生の不思議」の読み込み (1)	人生の転機、について考えます。	予習・復習	90
3	同上 (2)	和田重正先生との出会い、について考えます。	予習・復習	90
4	同上 (3)	和田重正先生の教育論について考えます。	予習・復習	40
5	「宗教と教育と私」の読み込み (1)	体験的宗教教育論、について考えます。	予習・復習	90
6	同上 (2)	教育の前提としての三つの「信」、について考えます。	予習・復習	90
7	同上 (3)	教育の楽天主義、について考えます	予習・復習	90
8	「『人生科』と私」の読み込み (1)	「人生科」について考えます。	予習・復習	90
9	同上 (2)	くだけけ合宿、について考えます。	予習・復習	90
10	同上 (3)	グループ農園、についた考えます。	予習・復習	90
11	同上 (4)	ゼミナール「人生論入門」、について考えます。	予習・復習	90
12	同上 (5)	授業―「自分を生きる力をめぐって」、について考えます。	予習・復習	90
13	同上 (6)	ミッション・スクールの教員として、について考えます。	予習・復習	90
14	「合気道と私」の読み込み	どうして武道が合気（愛気）なのか、子どもと合気道、について考えます。	予習・復習	90
15	講義のまとめ	松田高志氏が和田重正先生に学んだことを、私たちはどのように考えるか。	予習・復習	90

科目名	家政学原論Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/ 家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	安田 純子,深谷 笑子			
開講期	前期			
授業概要	本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HL 2 3 1 2			
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ①家政学の定義が理解できたか。 ②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。 ③「住むとはどんなことか」について理解できたか。 ・単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任			
受講資格	人間生活学科2年生 食物栄養学科 2 年生		成績評価 方法	受講態度（10％）、テスト（90％）
教科書	関口富左編『家政哲学』家政教育社（プリント配布）			
参考書	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は 図書館にありますので、読んでください。			
学生への要望	予習、復習更に疑義等の解明について討議できるように種々の疑問点をす提起すること。			
オフィスタイム	安田一水曜日14:30~16:30,火曜日14:30~16:30 創学館 4 階No.1研究室 （＊ 深谷先生一火曜日14:30~15：30教務部）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家政から家政学へ	家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。 家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。 本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。	講義資料について復習する。	60
2	家政学の定義	先学者の定義の比較と意味内容の検討をします。 日本家政学会の定義、黒川喜太郎氏、松平友子氏、小池行松氏、中原賢次氏、林太郎氏、山本キク氏、林太郎氏、野口サキ氏、原田一氏の家政学の定義と関口富左氏の定義を比較します。そこから関口富左氏の定義は、個人や家族に視点があてられていること、また家政学は人間守護の学、という家政学の中心概念について理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
3	家庭生活と人間	文学作品、森鷗外『半日』における家庭を読み、主人公は家庭に何を望んでいるか、また家庭を存続させるには家庭には何が必要か、家族の役割をを学びます。また夏目漱石『道草』における家庭を読み、その文学作品から、主人公は家庭に何を望んでいるか、また子どもは家庭に何をのぞみ、子どもが育つためには何が必要かを学びます。	講義資料について予習・復習する。	60
4	ボルノーの被護性と本家政学における「人間守護」	本学家政学が、ボルノー哲学を拠り所として捉えた理由と、家政行為・技術の実態の内容の本質的意味について学びます。人間の生活の基本である住むことの哲学から、人間のよりどころとなる家庭や家族の本質を学び私たちの生活から人間を守護する方法を理解します。	講義資料について予習・復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	ボルノーの住むことの意味について	ボルノーの住むことの意味について、「住むとは、世界のすべての道がそこから出。またそこに帰ってくるような一定の場所に属しており、そこから自分の世界を作り上げるといことで、簡単に言えば居住地と呼ぶ。この居住地は秩序ある世界の中心であり、人間が住むことのできる限りにおいてのみ、人間の世界は一つの中心とともに整理され多秩序をもつものである」という言葉から住むこととは何かを具体的に学びます。	講義資料について予習・復習する。	60
6	家政学と人間所在一居住空間の分析一	人間の体験的生活空間を「内部空間」と「外部空間」との二層に区切っている。内部空間は人間がそこへ帰り、その中で自分が安全だと観ずることができる休息と平和の空間であること、すなわち守護空間です。外部空間は労働と仕事の空間で敵意に満ちた緊張の中の空間であることを理解します。また、人間生活の健全さはこの、2つの領域の均衡が正しく保たれていることにかかっているというボルノーの言の意味について、実例をもって理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
7	家政学と人間所在 一時間的 分析と日常一	生活とは一つの空間を所有することであるが、それと同時に、時間の経過の中に身を置くことでもあります。人間存在における時間性的の問題。主観・客観による時間の変化と日常生活の在り方を学びます。くつろいでいる時の時間は、可逆可能な時間、例えば回想・追憶・反省等々と時間をもどしたり、また静止させたりするなど自由な広がりを持つことができます。また、喜びに満たされている時の短いと感じる時間、苦痛を強いられている時の長いと感じる時間があり、これらの時間は主観的時間と言われます。他方、時計で計られる物理的な時間は客観的な時間と言い表すことについて理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
8	家政学の独自性 一 二相性の 解明 一 、 家政学の研究方 法論について 家政学における合理性、非合理 性	個人と家族、合理と非合理、内部空間と外部空間空間、主観的時間と客観的時間等々観点より捉え、これを実生活上より分析し、さらにその解明による実態確認をします。	講義資料について予習・復習する。	60
9	家政学における技術と行為	技術の本性、技術と人間、技術と家庭生活について講じます。	講義資料について予習・復習する。	60
10	人間守護におけるその本質と方法について（1）	愛について、エロス、アガペー、家庭における愛 について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
11	人間守護におけるその本質と方法（2） 本学家政学のパラダイム	本学家政学のパラダイムの概要を説明し、特に本学家政学の理念である「人間守護」について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
12	人間守護と物財	本学家政学の対象及び対象空間について説明をします。	講義資料について予習・復習する。	60
13	本学家政学の政策論（1）	本家政学における政策論として、シビル・ミニマムについて説明をします。	講義資料について予習・復習する。	60
14	本学家政学の政策論（2）	本家政学における政策論として、シビル・ミニマムの思想について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
15	本学家政学の政策論（3）	シビル・ミニマムの内容が生活の充実を実現する条件であることを解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60

科目名	家政学原論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	安田 純子			
開講期	後期			
授業概要	家政学原論（Principles Home Economics）は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門的各論の土台となる科目です。 家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。 本授業では、人間を大切に考え、健全な（家庭）生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HL2211			
達成目標	目標は ①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦労や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。 ②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。 ③今日の（家庭）生活について見つめ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力・創造的思考力			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修 家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修	成績評価 方法	試験60％、レポートは40％	
教科書	日本家政学会 家政学原論部会編「やさしい家政学原論」建帛社 （授業の準備や参照に使用する）			
参考書	関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。			
学生への要望	学問的要望 授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。 日常的要望（守るべきこと） 授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人とのおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。			
オフィスタイム	月曜日と木曜日の13:00~16:30 場所は、創学館N 0， 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 家政学への接近	・本科目の構成と進め方 ・その他の説明、受講生の確認 ・授業への導入 家政学とはどういう学問か	はじめての学問であり、基軸となる学問なので、授業の内容把握の復習をする。	30
2	家政学原論とは何か	1 家政学を知ること 家政学とは何か 家政+学 原論とは何か 2 家政学における原論の意味と必要性	テキストのp.83~p.90 p.91~p.98に目を通す。（読み込む必要はない。） 復習をする。	60
3	家政学入門 1 家政学の目的・対象・方法、定義	1 家政学の目的・対象・方法 2 家政学の定義	テキストのp.10~p.18の2.3.4.5.(授業内容に関連した項目)を読む。 復習をする。 定義の確認	60
4	家政学入門 2 家政学の領域と独自性	1 家政学の領域 2 家政学の独自性	テキストのp.10~p.18の6.7.8.(授業内容に関連した項目)を読む。 復習をする。	60
5	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程①)	1 家政学発祥の経緯 2 家政学の変遷	テキストのp.1ならびに第4章に目を通す。 復習をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程②)	家政学の変遷（胎動期から現在）	テキストの第4章を読む。復習をする。	60
7	学問研究と研究者たちの姿勢	学問研究と研究者たちの姿勢 先達から何を学ぶか （１）松島千代野先生 （２）亀高京子先生 *（３）関口富左先生	本学の創始者である、故関口富左名誉学園長について、御著書「家政哲学」などをもとに調べる。 復習をする。	60
8	人間・福祉・自然を護る家政学	1 人間・福祉・自然を護る家政学 （１）人間を護る家政学 （２）福祉を護る家政学 （３）自然を護る家政学	復習をする。 新聞などから生活に関する身近な諸問題を考える。	60
9	生活の学としての家政学	1 生活とは－生活のとらえ方 （１）人はなぜ着るのか－衣服がもつ意味 （２）なぜ食べるのか－食物がもつ意味 （３）なぜ住むのか－住まいがもつ意味（住むということ）	テキストp.50～p.56とp.83～p.90に目を通す。（読み込まなくともよい。） 復習をする。 課題レポートのテーマについて考え始める。	60
10	家族と生活（１）	1 家族とは何か （１）家政学がみる家族 2 家族の起源 （１）家族の基本的概念	テキストp.66～p.82に目を通す。（読み込まなくともよい。） 復習をする。	60
11	家族と生活（２）	1 日本社会における家族の変遷と諸問題 （１）核家族の進行と少子化 （２）家族構成の変化と高齢者世帯の増加 （３）出生数の低下の問題 （４）家庭における今日的不安定要因	テキストp.66～p.82に目を通す。（読み込まなくともよい。） 復習をする。 課題レポートに取り掛かる。	60
12	家庭生活と社会生活（１）	1 生活のバランス （１）ライフコースの多様化 （２）働くということ （３）家庭内の仕事（家事）と社会的労働	ライフコースについて簡単に調べる。 復習をしながら自分の将来について考える。 課題レポート作成（途中）	60
13	家庭生活と社会生活（２）	1 ワーク・ライフ・バランス （１）「仕事と生活の調和憲章」2007年 2 仕事と家庭経営 （１）時間と空間 （２）経済的自立 （３）健康で豊かな生活（豊かさとは） （４）多様な生き方・働き方	ワーク・ライフ・バランスについて調べる。 復習をしながら自分の生活について展望する。 課題レポート作成（途中）	60
14	家政学のこれから（１）	1 諸問題 （１）家事の外部化の問題 ・家庭における既製品利用の拡大と危険性について （２）利便性と効率性に振り回される生活スタイル 2 社会貢献・復興と家政学 3 確認テストに向けての復習	テキスト第6章に目を通す（読み込まなくともよい） 復習をする。 課題レポートを仕上げる。	90
15	家政学のこれから（２）	1 sustainability(持続可能性)と家政学 2 人間守護 人間が生きているということ 家政哲学へ 3 全体のまとめ 4 確認テストと解説	総復習をする。	120

科目名	家族関係学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	知野 愛			
開講期	前期			
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。最終回に、筆記試験採点後の答案を返却しフィードバックを行います。 位置づけ・水準:生活科学科DS2413、食物栄養学科FN2403、専攻科文化学専攻・専攻科幼児教育学専攻:専門関連科目			
達成目標	達成目標は、筆記試験で7割以上の得点となること。 単位認定の最低基準:内容の7割を理解していること。ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、2)課題解決力			
受講資格	特になし		成績評価 方法	筆記試験(50点)、授業提出物(50点)
教科書	園井ゆり監修『第4版 家族社会学 基礎と応用』九州大学出版会 2022年			
参考書	随時提示			
学生への要望	授業テーマに関連する新聞記事や書籍を積極的に読み理解を深めて下さい。			
オフィスタイム	火曜Ⅱ限10:40-12:10、Ⅲ限13:00-14:30 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき授業概要・目標、成績評価法、今後の授業予定等を説明した後に、家族の定義について学ぶ。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読む。予習:教科書pp.2-16を読み疑問点などを調べる。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について考察する。	復習:教科書pp.2-16を読み直し振返る。予習:教科書pp.17-31を読み疑問点を調べる。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について考察する。	復習:教科書pp.17-31を読み直し振返る。予習:教科書pp.32-47を読み疑問点を調べる。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚選択への過程、結婚について考察する。	復習:教科書pp.32-47を読み直し振返る。予習:教科書pp.48-63を読み疑問点を調べる。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に関する社会的視点、家制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の勢力関係と情緒関係等について考察する。	復習:教科書pp.48-63を読み直し振返る。予習:教科書pp.64-78を読み疑問点を調べる。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー・事実婚における親子関係について考察する。	復習:教科書pp.64-78を読み直し振返る。予習:教科書pp.79-93を読み疑問点を調べる。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係について考察する。	復習:教科書pp.79-93を読み直し振返る。予習:教科書pp.96-110を読み疑問点を調べる。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚等について考察する。	復習:教科書pp.96-110を読み直し振返る。予習:教科書pp.111-126を読み疑問点を調べる。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について考察する。	復習:教科書pp.111-126を読み直し振返る。予習:教科書pp.143-158を読み疑問点を調べる。	60
10	少子化と子育て支援	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、少子化対策、少子化の要因と背景等を考察する。	復習:教科書pp.143-158を読み直し振返る。予習:教科書pp.159-176を読み疑問点を調べる。	60
11	児童虐待と里親制度	児童虐待とその背景、里親制度の展開と意義、児童福祉の将来展望について学ぶ。	復習:教科書pp.159-176を読み直し振返る。予習:教科書pp.177-190を読み疑問点を調べる。	60
12	中高年世代と家族	中高年世代と家族変動、ロスジェネ世代が抱える問題、中高年者の社会的孤立、支援の仕組み等について学ぶ。	復習:教科書pp.177-190を読み直し振返る。予習:教科書pp.191-206を読み疑問点を調べる。	60
13	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、家族政策と高齢者介護等について考察する。	復習:教科書pp.191-206を読み直し振返る。予習:教科書全体を読み学修全体を復習する。	60
14	授業全体の振り返り・筆記試験	授業全体の内容を振り返り、理解度を確認するために筆記試験を実施する。	復習:教科書全体を読み直す。予習:全体的に見て興味をもったテーマを検索し関連書籍を読む	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	筆記試験の結果講評・フィードバック	筆記試験の結果を返却し講評、フィードバックする。	復習:筆記試験結果を振り返り、更に興味を持ったテーマに関する書籍を読む。	60

科目名	生活経営学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	大泉 由美,深谷 笑子			
開講期	前期			
授業概要	本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。 「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調和ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調和ある望ましい生活経営の在り方を考える。また、 私立高等学校での家庭科教員としての勤務経験を活かし、家庭科の授業で家族・家庭、消費生活分野における学校教育での意味と重要性、指導上の留意点などを踏まえながら理解を図るとともに、意見交換やプレゼンテーションも取り入れ、主体的な学びとして探究心を養いながら教員養成の一助として資質向上に資する。 ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HL 2 2 1 5			
達成目標	【履修カルテ】 ①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できたか。 ②私たちは、組織の中で家庭生活および社会生活を送っていることを理解できたか。 ③家庭経済の仕組みが理解できたか。 ・単位認定の最低水準はJ、上記の①～③の創意的評価が8割以上であること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力			
受講資格	生活科学科 2 年生以上 教職履修学生は必修	成績評価 方法	・ 確認レポート50％ ・ 課題への取り組み20％ ・ プレゼンテーション30％	
教科書				
参考書	『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育社出版 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣 『人間と空間』O.Fボルノー著 大塚恵一訳 セリカ書房 その他適宜授業中に紹介する。			
学生への要望	・ 新聞やニュースなどで情報を収集を収取しながら、社会の状況に興味・関心を持ってください。 ※毎時間ニュースの発表を行います。 ・ 多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むんでください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ・Ⅱ限 （家政学館4階 被服学研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・ 授業の概要と進め方の説明 ・ 生活経営・生活系学とは	シラバスを読んでおくこと。「生活」と「経営」の言葉の意味を調べておくこと。	30
2	人間の生活する空間	・ 人間が生活するためには家庭(内部空間)と社会(外部空間)は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを理解するとともに、両者の均衡を保つために必要なことは何かを意見交換する。	講義資料の予習をしておくこと。講義内容の復習をする。	60
3	生活の組織と単位の変化	・ 家族は時代や文化などによってその形態や機能は異なる。生活の単位に関わる基礎的概念の整理を行う。家族について自分の考えを発表する。	組織とは何かについて予め調べておくこと。 第2・3回の講義内容理解度を確認するためレポートを提出する。	60
4	計画の必要性 計画の限界	・ 計画の基本的な内容(意義)について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを理解する。 ・ また計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについてグループディスカッションを行う。	計画と予定の違いを調べておくこと。講義内容の復習をする。なぜ情報を持っていることが大切なのかを考えておくこと。	60
5	生活時間のとらえ方と生活時間の実態	・ 「生活時間」は、人間の生活を時間的側面から把握する主要な指標である。個々人により生活行動や時間の配分が大きく異なる。 ・ 生活時間調査から考える生活の課題についてグループディスカッションをおこなう。	講義資料を読み、その内容を理解しておくこと。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	生活手段（もの・サービス）でとらえる	・生活するための手段として所有しているものや利用しているサービスで生活をとられる。・ものやサービスの利用についてグループディスカッションを行う。	講義資料を読み、その内容を理解しておくこと。	60
7	生活と財貨	・生活のなかで重要な役割を果たす財貨と人間、生活、それぞれの関わりについて考える。	講義資料を読み、その内容を理解しておくこと。第5～7回の講義内容理解度を確認するためレポートを提出する。	60
8	指導・リーダーシップ	・生活に必要な指導とは、リーダーシップとは何かということ学ぶ。現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。講義内容を踏まえて自分が考える理想のリーダーについてプレゼンテーションをおこなう。	リーダーに必要な要素、影響力について考えをまとめておくこと。講義内容の復習をする。	60
9	社会環境と生活意識、価値観の変容	・生活経営の基盤である社会環境や生活意識、価値観について、戦後から現在までの変化を概観し、生活意識・価値観の傾向を知る。	講義資料を読み、その内容を理香しておくこと。	120
10	生活の社会化と家事労働の変容	・生活の社会化とは何か、家事労働の社会化によってもたれせられた家事労働の省力化により快適さ、利便さを増している。しかしその反面、生活の持続可能性を危うくする側面ももつことを理解する。	講義資料を読み、その内容を理香しておくこと。	60
11	ライフスタイルと環境	・地球環境の現状と消費生活が環境に及ぼす影響と環境に負荷を与えなし持続可能なライフスタイルについて、グループで検討する。検討内容についてプレゼンテーションを行う。	講義資料を読み、その内容を理香しておくこと。	60
12	家庭経済	・家庭経済と経済社会、家庭経済に影響を及ぼす経済動向について理解を深める。	経済に関するニュースを調べておくこと。 講義内容の復習をすること。	60
13	家計のとらえ方と実態	・生活経営と家計、家計の構造（収入・支出・貯蓄）、家計の個別化について理解する。ライフステージに合わせて家計の課題も変わっていくことを理解する。また、家計とSDGsについても考える。	総務省『家計調査』データの資料を基に、家計の変化について考えておくこと。講義内容の復習をする。	60
14	生活と契約・消費者問題	・契約とは何か、成人年齢引き下げと消費者契約について注意点について理解を深める。 ・キャッシュレス社会の進展と多重債務問題について考える。	消費生活に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をする。	60
15	まとめ	・講義内容の総括 ・最終トについての周知	講義内容をまとめ、定期試験に備える。	60

科目名	消費生活論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。 また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。 【実務経歴】 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】 DS2324			
達成目標	【単位認定の最低基準】 下記①～③の目標の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。 ①消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。 ②日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。 ③政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻 3年生 生活科学科 建築デザイン専攻 3年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	一般財団法人日本消費者協会「消費者力検定ワークブック2021」			
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。 ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。 ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。			
オフィスタイト	火曜日 2コマ目 木曜日 5コマ目 食品経営学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）し、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷①	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関 ～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者行政の変遷②	前回に続いて、消費者庁、国民生活センター、消費生活センターの役割について動画教材の視聴等も通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	消費者の権利と責任①	消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	消費者の権利と責任②	前回に続いて、消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について動画教材の視聴なども通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して①契約とは	契約の意味、未成年者契約、契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して②経済	消費者契約法・特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
9	自立した消費者を目指して③食	食品の安全・安心、新しい食品表示制度について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
10	自立した消費者を目指して④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	消費生活と環境～循環型社会のための法制度①	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
12	消費生活と環境～循環型社会のための法制度②	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。（前回の続き）	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
13	消費者教育・啓発活動	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。	60
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、過去問等にチャレンジする。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

科目名	保育学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	岡本 宏二			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。 〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。 【履修カルテの評価項目】 ①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。 〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。 【履修カルテの評価項目】 ①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。 ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。 ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。			
受講資格	教職（中学・家庭科）履修者及び上記対象学生。		成績評価 方法	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。
教科書	指定なし。授業毎に資料配布。			
参考書	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名 三恵社『初めて学ぶ保育学入門』著：保育学入門編集委員会			
学生への要望	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
オフィスタイム	授業開始前：教室 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。		0
2	保育を考える	1）未熟な状態で生まれるヒト ※保育の必要性を他の動物の生誕と比較して考える。		0
3	保育を考える	1）文化の中の人間 ※ヒトは文化的環境の中で成長していくことを野生児の事例から学ぶ。		0
4	子どもの発達①	1）母体の健康管理と子どもの誕生 2）乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。 3）子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	子どもの発達②	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。 3) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。		0
6	子どもの発達③	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。 2) 子どもの睡眠と成長について ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。		0
7	子どもの発達④	1) 子どもの発達課題の理解 ※子どもの発達を理解し、同時に発達に伴う課題について学ぶ。		0
8	子どもの心とからだについて①	1) 子どもの病気と対処法 ※子どもの主な病気と、家庭における子どもの症状に対する対処法を学ぶ。		0
9	子どもの心とからだについて②	1) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。 2) 保育体験学習の事前指導。 ※子どもを観察して、子どもについて身近に考えて見ましょう。		0
10	保育体験学習	1) 「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。		0
11	日本の幼稚園の始まり	東京女子師範学校付属幼稚園について知る。		0
12	日本の保育の始まり	倉橋惣三の保育論を学ぶ。		0
13	保育所の始まり	子守学校について知る。		0
14	子どもとのかかわり	1) 子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、発達にあわせた遊びとはどのようなものか考えていく。1) 子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。1) 保育実習 ※保育体験学習を通して、子どもについて理解を深める。		0
15	子育て支援と様々なタイプについて、保育学のまとめ	1) 児童福祉について 2) 子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。 3) これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。		0

科目名	社会福祉調査の基礎		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	長谷川 貴弘				
開講期	後期				
授業概要	社会福祉調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会福祉調査への理解を深めることを目標としたい。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。 【実務経歴】 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】 DS2316				
達成目標	【単位認定の最低基準】 社会福祉調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任				
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻 3年生 生活科学科 建築デザイン専攻 3年生		成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。				
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社				
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。				
オフィスタイム	火曜日 4コマ目 金曜日 3コマ目 食品経営学研究室				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会福祉調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会福祉調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会福祉調査の種類①	社会福祉調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会福祉調査の種類②	社会福祉調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会福祉調査のプロセス	社会福祉調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会福祉調査のデザイン①	社会福祉調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会福祉調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	調査報告とデータの管理 (パソコンを用いての実習)	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。 このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。	実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。	60
15	社会福祉調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト (2回目)	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

科目名	社会福祉原論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	後期			
授業概要	社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を学修する。 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について学ぶ。 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて学ぶ。 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 【課題に対するフィードバック方法】課題を返却し、コメントによるフィードバックを行う。 【位置づけ・水準】 DW2151			
達成目標	【達成目標】 社会福祉の歴史・思想・理論が理解できている 現代社会と福祉制度・福祉政策の動向と課題について理解できている 【単位認定の最低基準】 社会福祉の理念・福祉制度の概要の7割が理解できている。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	期末試験 70％ 課題 30％	
教科書	新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック 1『社会福祉の原理と政策』 岩崎晋也・金子光一・木原活信編著 ミネルヴァ書房			
参考書	適宜紹介します			
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会の出来事に関心を持ってください。			
オフィスタイム	水曜日の1時限目・金曜日の4 限目（創学館 4 階 No.6 研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 社会福祉の原理	・シラバスの説明 ・社会福祉の原理 ・現在の社会福祉の課題 ・関心のある福祉課題を発表し、ディスカッションを行う	自分の住む地域の福祉課題について調べる	30
2	社会福祉の歴史（1）	・日本の社会福祉の歴史的展開 事前事業と社会調査 日本国憲法の制定 生活保護法「新法」の制定	戦後のどのような人たちが生活に困窮していたかを調べる	30
3	社会福祉の歴史（2）	・欧米の社会福祉の歴史 貧困の発見 ベヴァリッジ報告 「福祉」を前進させた実践：民間の責務	「五つの巨人」について調べておく	40
4	現代の社会問題（1）	・現代社会の特徴 ・グローバル時代の社会問題 環境問題 感染症の拡大による社会の混迷	テキストp.45～「社会問題への視点」を読んでおく	30
5	現代の社会問題（2）	・日本の社会問題 格差問題・貧困問題 親密圏内での暴力 家族機能の脆弱化と個人化の進行 （視聴覚教材により理解を深める）	家族機能が脆弱化している事例を調べ、まとめる DVDの感想をまとめる	30
6	社会福祉の思想と哲学	・社会福祉の思想 ・社会福祉の哲学 ・社会福祉の価値観	テキスト第3章を読み、分からない用語を調べる	30
7	社会福祉の理論（1）	・社会福祉学の2つの視点 ・日本における社会福祉原論研究の展開 ・福祉国家の理論	社会福祉の本質論に関する研究者の理論を読んでおく	40
8	社会福祉の理論（2）	・福祉政策の理論 ニーズと資源 福祉政策の論点 資源の種類 日本の福祉政策の特徴	自分の暮らす地域の社会資源について調べる	50

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	福祉政策の機能	・福祉政策の機能と実施過程 ・政策結成 地域のニーズ把握 ・政策の実施方法	自分の住む地域の高齢者福祉・介護保険事業計画の内容を見ておく	40
10	福祉政策における財政	・福祉国家の財政 ・日本の福祉財政の課題	テキスト第6章ー1「財政の果たす役割」を読んでおく	40
11	福祉政策の供給と利用	・公的部門 ・民間部門 ・各部門間の調整・連携・協働	地域共生社会の実現に向けた自分の住む地域の取組を調べる	50
12	関連政策の動向（1）	・保健医療政策とソーシャルワーク ・教育政策とソーシャルワーク （視聴覚教材により理解を深める）	テキストp.196 「保健医療政策の概要」 「ソーシャルワーカーのかかわり」を読んでおく テキストp.202 「子どもの現状」「教育政策の概要」 「ソーシャルワーカーのかかわり」を読んでおく	60
13	関連政策の動向（2）	・住宅政策とソーシャルワーク ・労働政策とソーシャルワーク	テキストp.214「住宅政策の概要」「ソーシャルワーカーのかかわり」を読んでおく テキストp.220「労働政策の概要」「ソーシャルワーカーのかかわり」を読んでおく	40
14	社会福祉の国際比較	・福祉後進国と福祉先進国 ・自由主義レジーム・保守主義レジーム・社会民主主義レジーム	テキスト第9章ー1「比較福祉国家研究の展開」を読んでおく	50
15	まとめ	・「社会の責任で個人の生活問題をどこまで援助すべきか」 をテーマにディスカッションを行う	テキスト「終章」を読んでおく	30

科目名	社会保障論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	社会保障は、国民に社会的な危険・事故からの回避と回復を可能とするセーフティネットの制度である。福祉国家の重要な政策である社会保障の理念、目的、機能および手段などを理解し、安定した人間生活に社会保障が果たす役割と、社会保障制度が整備されてきた歴史と背景について考える。 【課題（レポート）に対するフィードバックの方法について】 各自提出してもらったレポートを元に、関心を持っている点や課題について振り返る。 【位置づけ・水準】 DW2352			
達成目標	【単位認定の最低基準】 下記①～③の目標の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。 ①社会保障制度の全体像（どのような制度が含まれるか）について理解できたか。 ②社会保障の各制度の役割と対象について理解できたか。 ③現代の貧困問題や社会的弱者の生活実態について理解・関心が深まったか。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻 3年生 専攻科 幼児教育学専攻 1年生	成績評価 方法	①小テスト 20点 ②定期試験 80点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	「わかる・みえる社会保障論 ー事例でつかむ社会保障入門ー」今井 伸 編、(株)みらい 「新・社会福祉士養成講座 社会保障」中央法規			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ目 木曜日 5コマ目 食品経営学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会保障とは何か①	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。私たちの生活と社会保障、自助・互助・共助・公助の展開について学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
2	社会保障とは何か②	少子高齢化社会と社会保障制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
3	社会保障とは何か③	個人・家族・地域・社会のしくみと関わり、及び生活と社会の関わりについて学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
4	医療保険制度①	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
5	医療保険制度②	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。（続き）	これまでの学修内容を復習し、小テストに備えること。	60
6	雇用保険制度	雇用保険制度の概要と各種給付について理解する。	これまでの学修内容を復習し、小テストに備えること。	60
7	労働者災害補償保険制度	労働者災害補償保険制度（労災保険）の概要について理解する。小テストを実施する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
8	年金保険制度	年金保険制度の役割と機能、仕組みについて理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
9	介護保険制度	介護保険制度の創設と概要等について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
10	地域共生社会と地域包括ケアシステム	地域共生社会と地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、制度などについて学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
11	生活保護制度	生活保護制度の目的と基本原理、生活保護の動向等について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
12	社会福祉制度	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、母子・父子・寡婦福祉について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
13	社会保障の財源と費用	社会保障費用統計と国の財政、国民負担率について理解する。	これまでの学修内容を復習し、定期試験に備えること。	60
14	諸外国における社会保障制度	ヨーロッパ、アメリカ、アジアの社会保障制度について理解する。	これまでの学修内容を復習し、定期試験に備えること。	60
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。	これまでの学修内容を復習し、定期試験に備えること。	90

科目名	特別支援教育総論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択
担当教員	小林 徹,佐藤 久美,藤村 励子		
開講期	前期		
授業概要	小林徹の中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、また、それぞれの教員の研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。 1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実践について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2217		
達成目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	生活科学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018		
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q＆A』チャイルド本社,2008		
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。		
オフィスタイム	毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育と障がい児保育の歴史の変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実践を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	知的障がい（小林 徹・藤村励子）	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	その他の障がい（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	障がい児支援の工夫（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と指導方法①（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と指導方法②（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	学習内容を振り返り、教師として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	知的障害者の心理・生理・病理	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	小林 徹,佐藤 久美,		
開講期	前期		
授業概要	小林徹の中学校知的障害特別支援学級担任教諭としての指導経験や森洋子の知的障害児・者医療の臨床経験に基づき、さらに、それぞれの教員の研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。 1. 知的障害の生理・病理に関する理解を深める。 2. 子ども全般に共通する心理的傾向と知的障害者に顕著な心理的傾向が相互に関連しながら成長する存在であることを理解する。 3. 知的障害者の心理・病理・生理の特徴を踏まえた教育支援について考察を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2218		
達成目標	1. 知的障害の生理と病理について理解し、説明することができるか。 2. 知的障害に独自な心理的傾向と、その対応の課題について理解し、説明することができるか。 3. 知的障害者の心理・生理・病理の傾向を踏まえた教育支援について理解し、説明することができるか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力		
受講資格	生活科学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点
教科書	笠井新一郎・坂井聡・荻田知則編著『認知機能・知的機能の困難への対応』建帛社,2021 文部科学省『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017 文部科学省『特別支援学校 高等部学習指導要領』2019		
参考書	授業内で紹介する。		
学生への要望	知的障がいについて関心をもち、学習を深めてほしい。		
オフィスタ임	毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	この授業が目指すこと（オリエンテーション）（小林・佐藤）	知的障がい児・者の心理・生理・病理の概要について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	認知機能・知的機能の困難とは（小林・佐藤）	知的障がい児・者等有する認知機能・知的機能の困難について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	認知機能・知的機能とは（小林・佐藤）	知能概念の変遷とその困難を有する人を理解する視点について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	心理学的基礎知識①（小林・佐藤）	認知や知的発達を学ぶ上で必要な心理学的な知見について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	心理学的基礎知識②（小林・佐藤）	知能検査や発達検査などの実際について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	医学的基礎知識①（森・小林・佐藤）	知的障がいの疫学的理解や発生要因、合併症について知り、医学的な評価について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	医学的基礎知識②（森・小林・佐藤）	知的障がい児・者に対する医学的な介入法や治療法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	特別支援教育・インクルーシブ教育システムの推進（小林・佐藤）	特別支援教育、インクルーシブ教育システムを推進する上での知的障がいに関する基礎的概念を整理する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	知的障がい特別支援学校における教育課程と指導法①（小林・佐藤）	知的障がい特別支援学校における教育課程と自立活動を中心としたさまざまな指導法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	知的障がい特別支援学校における教育課程と指導法②（小林・佐藤）	知的障がい特別支援学校における教育課程と自立活動を中心としたさまざまな指導法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	知的障がい特別支援学級における教育課程と指導法（小林・佐藤）	知的障がい特別支援学級における教育課程とさまざまな指導法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	知的障がいをめぐる学校内システムの構築 (小林・佐藤)	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成、学校内の環境整備等について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	知的障がい児・者の生涯発達支援①(小林・佐藤)	知的障がい児が生まれてから就学までの支援と家族・家庭に対する支援について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	知的障がい児・者の生涯発達支援②(小林・佐藤)	知的障がい児・者の卒業後の支援や社会生活のサポート、各機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ(小林・佐藤)	学習内容を振り返り、教師として知的障がいをどのように理解し、当事者の教育支援にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	藤村 励子			
開講期	前期			
授業概要	肢体不自由者の生理・病理に関する理解を深め、また、子ども全般に共通する心理的傾向と肢体不自由者に顕著な心理的傾向が相互に関連しながら成長する存在であることを理解する。さらに、肢体不自由者の心理・病理・生理の特徴を踏まえた教育支援について考察を深めていく。 教育的課題について学生同士でディスカッションやグループワークを行い、課題解決に向けた方策を検討する。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2219			
達成目標	1.肢体不自由者の生理と病理について理解し、説明することができる。 2.肢体不自由者の心理的傾向と、その対応の課題について理解し、説明することができる。 3.肢体不自由者の心理・生理・病理の傾向を踏まえた教育支援について理解を深める。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科の学生を中心とする		成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度） 試験50点
教科書	特に指定しない			
参考書	肢体不自由教育の基本とその展開（日本肢体不自由教育研究会監修）			
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り復習をすること			
オフィスタイム	水曜Ⅰ、Ⅱ限 No.3研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	肢体不自由とは	肢体不自由、肢体不自由教育の概念について整理する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
2	特別支援教育における肢体不自由教育の位置づけ	特別支援教育の基本的事項と肢体不自由教育の位置づけについて学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
3	肢体不自由教育の歴史と現状	肢体不自由教育の歴史的変遷と現状について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
4	肢体不自由者の心理的傾向	肢体不自由者特有の心理的傾向や困難を感じやすい場面について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
5	運動機能の制限による困難さ	姿勢や運動の発達や障害による困難さ、それに伴う肢体不自由者特有の心理的傾向について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
6	障害者差別の現状と合理的配慮	障害者差別の現状と合理的配慮について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
7	肢体不自由者への合理的配慮と基礎的環境整備	肢体不自由者の困難さを踏まえた合理的配慮と基礎的環境整備について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
8	肢体不自由の医学的概念 分類ごとの原因・症状	肢体不自由の医学的概念について原因や症状を学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
9	脳性麻痺	肢体不自由の主な起因疾患である脳原生疾患（特に脳性麻痺）について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
10	脳性麻痺に併発しやすい障害	脳性麻痺に併発しやすい障害について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
11	脊椎疾患	肢体不自由の主な起因疾患である脊椎疾患について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
12	骨関節疾患	肢体不自由の主な起因疾患である骨関節疾患について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
13	筋原性疾患	肢体不自由の主な起因疾患である筋原性疾患について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
14	てんかんの理解と発作時の対応法	てんかんの理解と発作時の対応について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
15	授業のまとめ：医学・教育・福祉の連携	授業のまとめとして、肢体不自由教育における医学・教育・福祉の連携の重要性について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30

科目名	病弱者の心理・生理・病理	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	栗山 宣夫,大西 弘太郎			
開講期	前期			
授業概要	病弱者の生理・病理に関する理解を深め、また、子ども全般に共通する心理的傾向と病弱者に顕著な心理的傾向が相互に関連しながら成長する存在であることを理解する。さらに、病弱者の心理・病理・生理の特徴を踏まえた教育支援について考察を深めていく。			
達成目標	1.病弱者の生理と病理について理解し、説明することができる。 2.病弱者の心理的傾向と、その対応の課題について理解し、説明することができる。 3.病弱者の心理・生理・病理の傾向を踏まえた教育支援について理解を深める。			
受講資格	生活科学科2年	成績評価 方法	ある程度の区切りごとに、授業内で小テストを数回（3回程度）おこなう（70％）。授業中の発表・取り組み（30％）。	
教科書	「病弱児の生理・病理・心理」小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著、ミネルヴァ書房			
参考書	「病気の子どもの教育入門 改訂増補版」全国病弱教育研究会編、クリエイツかもがわ			
学生への要望	項目ごとに分担し、学生自身がテキストを精読した上でレジュメを作成して発表する機会も設定します。主体的に取り組むことを要望します。			
オフィスタイム				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション及び「病気」と「障害」について	授業の進め方、内容、評価等の確認。「病気」とは何か、「障害」とは何かについて。	テキスト1頁～5頁「健康、病気、障害の概念」を精読しておくこと	0
2	小児がんの理解と支援（1）－白血病及び固形腫瘍－	白血病及び固形腫瘍（脳腫瘍を除く）の病理・生理の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト86頁～92頁及び94頁～96頁を精読しておくこと。	0
3	小児がんの理解と支援（2）－脳腫瘍－	脳腫瘍の病理・生理の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト92頁～94頁を精読しておくこと。	0
4	循環器疾患の理解と支援	先天性心疾患の病理・生理の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト59頁～68頁を精読しておくこと。	0
5	アレルギー疾患の理解と支援について	小児ぜん息とアトピー性皮膚炎の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。	0
6	Ⅰ型糖尿病の理解と支援	Ⅰ型糖尿病の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。	0
7	腎・泌尿器科疾患の理解と支援	ネフローゼ症候群などの腎・泌尿器科疾患の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト103頁～114頁を精読しておくこと。	0
8	神経系疾患の理解と支援	脳性まひ、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー及びてんかんの理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト150頁～163頁、182頁～191頁を精読しておくこと。	0
9	過換気症候群と心身症の理解と支援	過換気症候群と心身症について理解しそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト82頁～85頁及び参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。	0
10	病気の子どもの心理について（1）－入院中－	入院中の子どものストレスの分類とその対応について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。さらにテキスト206頁～214頁を精読しておくこと。	0
11	病気の子どもの心理について（2）－通常学級の中で－	通常学級における病気の子どものストレスの分類とその対応について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。さらにテキスト206頁～214頁を精読しておくこと。	0
12	心理的支援をおこなうためのネットワーク	病気の子どもへの心理的支援をおこなうための多職種連携について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。	0
13	まとめ	これまでの学びの重要事項の確認。全体的なフィードバック。	小テストの結果などをふまえて指示する。	0
14	低出生体重児であった子どもの生活、小児肥満(担当:大西)	低出生体重児であった子どもの生活とそれに対する支援について学ぶ。子どものやせ、肥満の理解とそれに応じた支援について学ぶについて学ぶ。	テキスト115頁～133頁を精読しておくこと。	0
15	消化器疾患・栄養障害の生理・病理及び教育的支援と配慮(担当:大西)	子どもの消化器疾患の理解とそれに応じた支援について学ぶ。子どもの消化器疾患の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト134頁～149頁を精読しておくこと。	0

科目名	視覚障害者教育総論		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修
担当教員	阿尾 有朋			
開講期	後期			
授業概要	視覚障害児（者）の実態と支援の必要性についての理解を目指す。授業では、日常生活や学習に係る支援機器やシミュレーションレンズを用いた体験を行い、視覚障害による生活や学習上の困難さについて理解を深める。また、視覚障害者が共に暮らす社会の現実に向けて、こういった障害理解教育や合理的配慮が必要か主体的に考える。			
達成目標	・ 視覚機能の低下の要因となる病理、視覚障害のある子どもの心理及び生理について理解する。 ・ 視覚障害のある子どもの視覚機能及び発達状況を把握することの意味や方法を理解する。 ・ 視覚障害のある子どもの教育課程の特徴と個別の指導計画の立案について理解する。 ・ 視覚障害のある子どもの障害特性及び発達段階に即した指導について理解する。 ・ 視覚障害のある子どもの定位と移動、点字の学習のあり方について理解する。			
受講資格	生活科学科 3年		成績評価 方法	授業のリフレクションシート（３０％）、グループワークへの取り組み状況（２０％）、レポート課題（５０％）により評価する。
教科書				
参考書	柴田裕一2015「視覚障害児・者の理解と支援（新版）」北大路書房（ISBN:4762828858）			
学生への要望	本授業では単なる知識・技能を学ぶということにとどまらず、視覚障害のある当事者の視点に立って当該の状況を理解し、考えることを求めます。グループワークなどを通して積極的に発言し、主体的に考えることを意識して臨んでください。			
オフィスタイム				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、障害の捉え方	障害を社会的障壁との相互作用においてとらえることの意味や意義を視覚障害を例として考える。	障害者の権利条約に関する資料について目を通しておく（参照URL） http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000069541.pdf	0
2	視覚器の理解	目の構造及び機能、「見える」仕組みについて屈折を中心に学ぶ。	配付資料について授業後に目を通し、資格器を構成する部位と機能について考える。	0
3	視機能異常と疾患	視機能の様々な異常とそれらを引き起こす原因疾患について学ぶ。	視機能の異常を引き起こす疾患について、授業で触れたもの以外にどのようなものがあるか自分で調べる。	0
4	様々な資機能検査	定量的視力検査や定性的視力検査など多様な検査とそれぞれの特徴について学ぶ。また、ランドルト環を用いた視力検査を実際に体験する。	授業での体験を踏まえ、授業後に検査の手続きを復習する。	0
5	視覚障害の発達への影響	選定的な視覚障害が発達に及ぼす影響について、発達の各側面に分けて学ぶ。	先天的な視覚障害が発達に及ぼす影響について、授業で触れたもの以外にどのようなことがあるか考える。	0
6	定位と移動（1）	アイマスクと白杖を用いた疑似体験を行い、歩行における困難さと支援の在り方についてディスカッションする。	視覚障害者の誘導方法に関する動画を視聴しておく。（参照動画） http://www.youtube.com/watch?v=ITDegAsdXGc	0
7	定位と移動（2）	視覚障害児に歩行を指導する上で必要な事項について学ぶとともにその具体的な方法について考える。	授業での疑似体験から気づいたことや学んだことを整理する。	0
8	環境の把握（1）	アイマスクをしながら構内の様々な場所や事物について触れる体験を行い、気づいたことを整理する。	視覚障害者の生活状況に関する動画を視聴しておく。（参照動画） http://www.youtube.com./watch?v=KXGwnvwxDFA	0
9	環境の把握（2）	前時の体験をもとに、環境の把握について指導する上で必要な事項について学ぶ。またその具体的な方法について考える。	授業での疑似体験から気づいたことや学んだことを整理する。	0
10	重複障害の理解	視覚と聴覚の重複である盲ろうの状態について学ぶ。また、アイマスクとイヤーマフを装着しての疑似体験を行い、気づいたことを整理する。	授業後に「人間開発」の動画を視聴し、感じたことを整理する。（参照動画） http://www.youtube.com./watch?v=tIVT3vbbQLY&t=2s	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	視覚障害の教育における配慮	シミュレーションレンズを装着しての疑似体験を行い、指導を受ける上での困難さについて整理する。その上で、指導上の留意点や重要な点を考える。	授業での疑似体験から気づいたことや学んだことを整理する。	0
12	点字の指導	点字の基本について学び、天板と点筆を用いて実際に点字を打つ体験を行う。その上で、点字の指導に必要な指導の在り方について考える。	点字の基本について授業後に復習し、修得する。	0
13	ICT機器の活用	教育におけるICT機器の活用について具体例とともに学ぶ。アプリやタブレット端末を使った体験も行う。	盲学校におけるICT機器の活用に関する動画を検索し、視聴する。	0
14	学習指導案の作成	仮想事例をもとに学習指導案（略案）を作成する。作成は少人数グループ単位に行う。	授業時間内にできなかった学習指導案の作業を継続する。	0
15	学習指導案の発表	前時に作成した学習指導案についてグループごとに発表する。	配布する学習指導案（例）によく目を通しておく。	0

科目名	聴覚障害者教育総論		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修
担当教員	石川 美希			
開講期	後期			
授業概要	聴覚障害者が社会とつながるためには？聴覚障害者と聴者との共存を実現させるためにはどうしたら良いのか？を大きなテーマとし、以下の内容を講義する。 1. 聴覚障害の生理・病理・心理に関する理解を深める。 2. ユニバーサルデザイン、UDカラー、バリアフリー、アクセシブルデザインについて理解を深める。 3. 情報保障、音声認識、音声読み上げ機能、合理的配慮について理解を深める。 4. 対人関係、対話、接触経験、障害理解教育について理解を深める。 課題、レポート、ワークショップについては、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
達成目標	1. 障害児（者）教育に携わる際に必要な聴覚障害についての基礎的な知識を身に着けているか。 2. 聴覚障害の生理・病理・心理について理解し、説明することができるか。 3. 聴覚障害に関連する課題について理解し、自分なりに説明することができるか。 4. 本授業で学んだ知識・考えを、ワークショップなどに実践的に生かすことができるか。			
受講資格	生活科学科の学生を中心とする		成績評価 方法	平常点50点（小レポート、討論・発表への参加、遅刻や授業態度による減点）、期末試験50点 毎回の授業ごと的小レポートへの記載が重要です。白紙提出や的外れな記述は無得点となるので留意してください。
教科書	文部科学省『聴覚障害教育の手引―言語に関する指導の充実を目指して―』2020 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）』2018 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』2018 等			
参考書	授業内で紹介する。			
学生への要望	本授業は担当教員が聴覚に障害があるため、手話、文字、（音声読み上げ機能の）音声の同時並行使用で授業を進めます。音声読み上げ機能の関係上、前半30-40分、後半30-40分とし、間に小レポート記入の時間を設ける予定です。			
オフィスタイム	個別相談（ishikawa.miki.r7@dc.tohoku.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の進め方 ・授業の概要 ・聴覚障害疑似体験	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	聴覚障害児・者の生理・病理・心理（1）	・聴覚障害児・者の生理・病理・心理について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	聴覚障害児・者の生理・病理・心理（2）	・聴覚障害児・者の生理・病理・心理について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	聴覚障害児・者のコミュニケーション（1）	・聴覚障害児・者のコミュニケーション手段について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	聴覚障害児・者のコミュニケーション（2）	・聴覚障害児・者のコミュニケーション手段について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	情報保障、音声認識、音声読み上げ機能、合理的配慮（1）	・『聴覚障害者が社会とつながるためには？』『聴覚障害者と聴者との共存を実現させるためには？』の一つの手立てとして情報保障、音声認識について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	情報保障、音声認識、音声読み上げ機能、合理的配慮（2）	・『聴覚障害者が社会とつながるためには？』『聴覚障害者と聴者との共存を実現させるためには？』の一つの手立てとして情報保障、音声認識について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	ユニバーサルデザイン、UDカラー、バリアフリー、アクセシブルデザイン（1）	・『聴覚障害者が社会とつながるためには？』『聴覚障害者と聴者との共存を実現させるためには？』の一つの手立てとしてユニバーサルデザイン、UDカラーなどについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ユニバーサルデザイン、UDカラー、バリアフリー、アクセシブルデザイン（2）	・『聴覚障害者が社会とつながるためには？』『聴覚障害者と聴者との共存を実現させるためには？』の一つの手立てとしてユニバーサルデザイン、UDカラーなどについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	学校現場について（1）	・学校現場において、聴覚障害教員がどんなことに困難を抱えているのか学習する ・対話、対人関係について学習する	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	学校現場について（2）	・学校現場において、聴覚障害教員がどんなことに困難を抱えているのか学習する ・対話、対人関係について学習する	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	討議（1）	・グループ討議	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	討議（2）	・グループ討議	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	発表	・グループ発表	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ・振り返り	学習内容を振り返り、教師として聴覚障害をどのように理解し、当事者の教育支援にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	重複障害者・学習障害者等の心理・生理・病理	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	小林 徹,佐藤 久美,藤村 励子			
開講期	前期			
授業概要	小林徹の中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、また、それぞれの教員の研究成果も踏まえて本授業では、重複障害（重度重複障害を含む）及び発達障害者の定義、心理面・生理面・病理面の特徴、分類と診断、状態把握について学ぶ。その上で、さまざまな障害のある児童生徒に対する発達支援のあり方について認識を深めていく。受講生は毎回授業内容に関する感想・意見及び質問を書いて提出し、担当教員がコメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2223			
達成目標	1. 重複障害の定義、起因疾患となる病理面と心理面・生理面の関係について認識を深める。 2. 発達障害の定義、心理面・生理面・病理面の特徴、二次的な障害について認識を深める。 3. 重複障害者及び発達障害者の障害の状態、感覚や認知及び行動の特性を把握することを理解している。 4. さまざまな障害のある児童生徒の特性を踏まえた支援のあり方、家庭や関係機関との連携の重要性について理解している。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	特別支援学校教諭一種免許状取得を希望する学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、レポート、受講姿勢） 期末試験50点	
教科書	適宜資料配布			
参考書	授業時に紹介			
学生への要望	障害や障害児について関心をもち、学習を深めてください。			
オフィスタイム	【小林】毎週水曜 9：10～12：00、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【藤村】毎週水曜 Ⅰ、Ⅱ限、No.3研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：10～12：50、No.3研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 発達障害の種類と歴史 [佐藤・小林・藤村]	授業の進め方や成績評価のつけ方について説明する。 「発達障害」に含まれる障害の種類を学習し、発達障害者支援の歴史を概観する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	自閉スペクトラム症（ASD）の理解 [佐藤・小林・藤村]	ASDの定義と診断基準、障害特性について学習する。 ASDのある子どもが学習・生活で困ること、懸念される二次障害、障害特性を踏まえた支援のあり方について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	学習障害（LD）の理解 [佐藤・小林・藤村]	LDの定義と診断基準、障害特性について学習する。 LDのある子どもが学習・生活で困ること、懸念される二次障害、障害特性を踏まえた支援のあり方について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解 [佐藤・小林・藤村]	ADHDの定義と診断基準、障害特性について学習する。 ADHDのある子どもが学習・生活で困ること、懸念される二次障害、障害特性を踏まえた支援のあり方について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達性協調運動障害（DCD）の理解 [佐藤・小林・藤村]	DCDの概要を学び、DCDのある子どもが学習・生活で困ること及びその支援について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	言語障害の理解 [佐藤・小林・藤村]	言語障害の概要を学び、言語障害のある子どもが学習・生活で困ること及びその支援について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	発達障害者支援における家庭や関係機関との連携 [佐藤・小林・藤村]	発達障害者支援における家庭や医療、福祉及び労働機関との連携体制を学習し、その重要性について考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	重症心身障害の理解① [藤村・小林・佐藤]	重症心身障害の定義や特性について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	重症心身障害の理解② [藤村・小林・佐藤]	重症心身障害のある児童生徒の困り感や心理的傾向について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	重症心身障害の理解③ [藤村・小林・佐藤]	重症心身障害のある児童生徒への教育的支援とその評価について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	盲ろうの理解 [藤村・小林・佐藤]	視覚障害と聴覚障害をもつ児童生徒の特性や支援方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	聴覚情報処理障害（APD）の理解 [藤村・小林・佐藤]	聴覚情報処理障害の基本的な知識と状態像について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	障害の原因、病理の理解 ① [藤村・小林・佐藤]	重複障害者・学習障害者等の障害の原因やその病理について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	障害の原因、病理の理解 ② [藤村・小林・佐藤]	重複障害者・学習障害者等の障害の原因やその病理について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ [藤村・小林・佐藤]	学習内容を振り返り、教育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	教育原理Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 日本や諸外国の教育制度を知ることで、現在の私たちをとりまく教育について自ら考えることをねらいとし、教育法規の視点から教育制度の理解を深めることができるようになることを目標とする。また、新聞報道内容から教育問題を抽出し、順番で発表して各自の学びを共有するアクティブラーニングを取り入れる。なお、教育に関する法規については、小テスト(次回授業冒頭でフィードバック)で知識の定着を図り、教員採用試験に備える。授業は、講義形式で行うことを基本とするが、調査発表、小レポートの作成、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。最終授業では授業全体のフィードバックを行う。 なお、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実感を意識した指導を行うことで、受講生の教職に就く者としての自覚を喚起する。 実務経歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。 位置づけ・水準 TP9104		
達成目標	①日本の教育制度について、その概要を理解し、説明することができる。 ②現代の教育制度の変化について、その概要を理解し、説明することができる。 ③教育経営的な要素について、その概要を理解し、説明することができる。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解・倫理観・社会的責任・創造的思考力		
受講資格	教職課程履修者で、2学年以上の者。	成績評価 方法	授業ごとに実施する小レポート・小テスト50％、最終授業時に実施する総まとめテスト50％で、総合評価6割以上の得点で合格。
教科書	『教育小六法』学陽書房 2022年（すでに持っているものがあれば、他の出版社のものでも可。ただし出版後3年以内のものに限る。）		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、常に、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	時間：時間割発表後に発表する。 前年度末時点での仮設定として、月曜日1、2時限目。 場所：教職課程推進室1（図書館3F） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 教育改革の影響力を考える。	レポート 予習	120
2	教育制度の目的	1. 教育基本法第1条、第2条 2. 教育制度を構成する三原理	レポート 予習	120
3	生涯にわたる学び	1. 教育基本法第3条、第12条:生涯学習と社会教育	レポート 予習	120
4	教育の機会均等	1. 教育基本法第4条、第5条；義務教育、高校授業料無償化、高等教育への補助制度	レポート 予習	120
5	地方教育行政	1. 教育基本法第16条 2. 地方教育行政法 3. 教育委員会制度改革	小テスト 予習	120
6	教職員	1. 教育基本法第9条 2. 教育職員免許法 3. 教育公務員特例法 4. 教員の給与と待遇	小テスト 予習	120
7	就学前教育	1. 教育基本法第11条 2. こども・子育て支援 3. 少子化対策	レポート 予習	120
8	後期中等教育・高等教育	1. 教育基本法第4条、第7条 2. 後期中等教育の整備と準義務化 3. 高等教育の質保証	レポート 予習	120
9	教育政策の計画化	1. 教育基本法第17条 2. 教育振興基本計画 3. 教育と財政	小テスト 予習	0
10	学校の経営	1. 教育基本法第6条、第9条、第13条 2. 学校の経営 3. 開かれた学校と地域社会 4. チーム学校	小テスト 予習	120
11	学級の経営	1. 教育基本法第5条、第6条 2. 学級経営 3. 学級経営と特別活動 4. 問題行動と生徒指導	小テスト 予習	120
12	教育課程の経営	1. 教育基本法第6条、第13条 2. 教育課程経営（カリキュラム・マネジメント） 3. PDCAサイクル	小テスト 予習	120
13	教育とリスク	1. 教育とリスク （特別の教科道徳について、価値観の学びについて全体討議を行う）	レポート 復習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	学校教育と人権	1. 児童生徒の法的地位論 2. 教育行政指導にみる公教育役割のゆらぎ	レポート	120
15	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ 2. 総まとめテスト	まとめテストでの復習	120

科目名	特別支援教育概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 1単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 1単位 選択	
担当教員	小林 徹			
開講期	後期			
授業概要	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。 1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援について理解する。 4. 障がい児等の個別の指導計画、支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実践について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2292（生活科学科）TP9106（食物栄養学科）			
達成目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児の個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援についてどの程度理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：（生活科学科）知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力 （食物栄養学科）知識・技能、社会的応用、衛生管理・指導			
受講資格	教職課程を履修する学生を中心とする		成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020			
参考書	授業内で紹介する。			
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。			
オフィスタイム	毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方、制度と仕組み	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	障がいとの出会いと子育て、保護者支援	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実態を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい	映像を通して発達障がい・知的障がい・情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい	映像を通して肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・障がいではない特別な教育的ニーズ	映像を通して病弱・重複障がい・障がいではない特別な教育的ニーズに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	他機関との連携	特別支援教育に関するさまざまな機関との連携、幼保小中高の接続について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	個別的教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	特別支援教育のこれまでとこれから	特別支援教育の歴史的変遷を学習した後、全体の学習内容を振り返り、教師として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	教職論	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/ 家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	山本 裕詞		
開講期	前期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 最初に、人間の成長に必要となる「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育機関である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。後半では、近年社会問題化している教育問題について、それに対して期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来的意義から批判的に検討します。なお、授業内容に応じて、グループディスカッション等、アクティブラーニングの手法を活用します。 各授業後半に実施する小テストや小レポートは、添削し、次回授業冒頭で個人へフィードバックします。 また、最終授業において、授業内容全体の総まとめを行います。 なお、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実態を反映した指導を行います。 実務経歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。 位置づけ・水準 TP9102		
達成目標	1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 単位認定の最低基準は、上記1)～4)の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	まとめ試験50%、授業末や課題として実施する小テスト・小レポート等の提出物等50%の割合で総合評価。
教科書	最新版の教育小六法を必ず用意すること（推奨図書『教育小六法2022年版』学陽書房）など。なお、授業中にプリント等を配布することがあるので、ファイリングしてノートと連動して活用できるようにしておくこと。		
参考書	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』2017年		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	時間は、時間割決定後に発表します。（前年度末仮設定；月曜日1、2時限） 場所：教職課程推進室1（図書館3F） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教師の在り方を考える(グループ・ディスカッション)	まとめの小レポート	90
2	学校教育の機能1	○学校教育の目的 (1) 学校の種類 (2) 学校の設置者 (3) 教育行政と学校管理	復習 小テスト	90
3	学校教育の機能2	○教職員とその職務 (1) 教職員の職務とその内容 (2) 事務職員の職務 (3) その他	復習 小テスト	90
4	教員の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 (1) 教職観と教員に求められる資質の関係 (2) 専門職としての教員 (三つの教職観についてのグループ・ディスカッション)	復習 小レポート	90
5	学校の組織と運営1	○校長および教頭、主任の職務と役割 (1) 校長 (2) 副校長、教頭 (3) 主任等	復習 小テスト	90
6	学校の組織と運営2	○学校の組織と運営 (1) 校務分掌による役割分担 (2) 新しい職による組織の変化	復習 小レポート	90
7	教諭の教育活動1	○学級担任の職務と教科指導等 (1) 学級担任の役割と学級経営 (2) 教科指導 (3) 養護教諭、栄養教諭の職務	復習 小テスト	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	教諭の教育活動 2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 (1) 道徳教育の実際 (2) 総合的な学習の時間	復習 小レポート	90
9	教諭の教育活動 3	○生徒理解にもとづく指導 (1) 生徒指導の意義 (2) 進路指導の意義 (教育相談と生徒指導の関係について、全体討議)	復習 小レポート	90
10	教員の服務	○教員の一日と服務規程 (1) 勤務と休暇 (2) 服務規律	復習 小テスト	90
11	教員の研修	○教員の研修とその体系 (1) 教員研修の種類 (2) 教員研修の内容 (3) 免許更新制度	復習 小テスト	90
12	現代における学校教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 (1) 同和教育 (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解 (3) 貧困と教育機会	復習 小レポート	90
13	現代における学校教育の課題 2	○いじめと不登校 (1) いじめの現状と自己の認識 (2) いじめ重大事態における公教育責任 (3) 専門職間の連携・協働 (いじめの4層構造理論をもとに、いじめをなくす方策を全体討議)	復習 小レポート	90
14	現代における学校教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 (1) 学習指導要領の歴史的変遷 (2) 新学習指導要領の目指すもの	復習 小レポート	90
15	授業のまとめ	○授業の総まとめ	復習 総まとめテストのチェック	120

科目名	進路指導論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 1単位 必修
担当教員	山本 裕詞		
開講期	後期		
授業概要	本授業では、キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について中央教育審議会答申などを通して学んでいく。また義務教育段階、中等教育段階における実際の進路指導・キャリア教育について、学習指導要領、調査研究教職者会議報告書、関連答申、都道府県教育委員会の資料等を考える材料として、アクティブラーニングを取り入れて学びを進める。なお、授業の後半で行う小テストや小レポートについては、添削した上で、次回授業冒頭でフィードバックする。また、最終回の授業で、授業全体のフィードバックを行う。 なお、実務家教員としての教員経験を活かした指導を行い、教育現場の実践が想定できる学びを展開する。 実務経歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。 位置づけ・水準 TP9202		
達成目標	①キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について理解できたか。 ②進路指導の歴史について理解し、中央教育審議会が示したキャリア教育の新たな方向性を把握することができたか。 ③各教育段階におけるキャリア教育推進のポイントとその実例を上げることができたか。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力		
受講資格	教職課程履修者で、2年生以上。	成績評価 方法	各回の授業で実施する小テスト・レポート（50％）、最終授業で実施する総まとめテスト（50％）の割合で、総合6割以上で合格。
教科書	キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」（平成16年1月） （入手方法や必要となる箇所に関しては、授業中に情報提供する）		
参考書	中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、文部科学省『生徒指導提要』このほか授業中に適宜紹介する。		
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、常に主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	時間：時間割発表後に発表します。前年度末の仮設定として、月曜日1、2時限。 場所：教職課程推進室 1 （図書館3F） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 自身が受けてきたキャリア教育（進路指導）の振り返りと経験の共有 3. キャリア教育（進路指導）の目的と目的達成の為に必要なこと	レポート 予習	120
2	キャリア教育の概要	1. キャリア教育が求められている背景 2. キャリア教育推進の経緯とキャリア教育の定義 3. 教育法規からみるキャリア教育の位置付け 4. キャリア教育の実践をめぐる課題	レポート 予習	120
3	キャリア教育と価値観の育成	1. 中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 2. キャリア発達とキャリア教育 3. 価値観の傾向	小テスト 予習	120
4	進路指導とキャリア教育（1）	1. 進路開拓に必要な育成すべき力 2. 進路指導とキャリア教育 3. 進学指導の指導計画と課題	レポート 予習	120
5	進路指導とキャリア教育（2）	1. 校内組織と指導体制 2. 実践を支える運営体制 3. 「チームとしての学校」と全体計画	小テスト 予習	120
6	就職指導と職場体験	1. 就職指導に関係する法令等 2. キャリア教育における職場体験の位置 3. コーチングによるキャリア形成支援	レポート 予習	120
7	若者の雇用をめぐる問題と働き方改革	1. ニート・フリーター、非正規雇用等 2. 格差社会 3. 働き方改革 （雇用をめぐる問題を念頭においた、望ましい進路指導の在り方について議論を深める）	レポート 予習	120
8	授業の総まとめ	授業の総まとめと理解度の確認 総まとめテスト	復習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間

科目名	教育相談論	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/ 家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	宇治 和子		
開講期	後期		
授業概要	教育相談は、児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力をはぐくみ、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの理論や技術）を、実践的に身に着けていきます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として相談実務経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（位置付け・水準 TP9201）。		
達成目標	本授業は、以下3点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリング・マインド等）を理解する。 ・教育相談の進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を、具体的にイメージできる。 なおこの科目は、本学人間生活学科DPの「問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験、創造的思考力」に、また食物栄養学科DPの「社会的応用」「倫理・責任」「衛生管理・指導」に関連しています。		
受講資格	人間生活科学科 2年生 「教職課程」受講者 食物栄養学科 2年生 「教職課程」受講者	成績評価 方法	積極的な授業参加（10％）、授業内課題やレポート提出（3回：90％）により評価します。
教科書	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
オフィスタイム	授業開始前・終了後・月曜3限・4限：宇治研究室（８３６）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する ・「ここに残るあの先生…」を振り返るワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
2	学校における教育相談の定義	・学校内で行われる教育相談について概要を説明する ・人の気持ちを理解するワーク1を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
3	学校における教育相談の歴史	・学校内で行われる教育相談の歴史的背景を説明する ・人の気持ちを理解するワーク2を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
4	学校における教育相談の種類	・教育相談を行うにあたっての、校内体制の整備、組織的な取組みの必要性を説明する ・人の気持ちを理解するワーク3を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
5	教育相談の技法1	・カウンセリングマインドについて説明したのちに、体験ワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
6	教育相談の技法2	・カウンセリングの基本的な理論について説明する ・人間観と基本的態度について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
7	教育相談の技法3	・心理療法の代表的な理論について説明したのちに、体験ワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
8	教育相談を組み立てる1	・インテーク面接の基本について説明する ・相談ロールプレイ1、情報整理シートの記入を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
9	教育相談を組み立てる2	・ジェノグラムの描き方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
10	教育相談を組み立てる3	・エコマップの描き方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
11	教育相談を組み立てる4	・行動観察について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
12	教育相談を組み立てる5	・心理検査の見方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	教育相談を組み立てる 6	・ 復習と相談ロールプレイ 2 を行う ・ 子ども及び保護者に対する支援計画を含む面接相談記録を作成する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
14	教育相談にあがってくる問題 1	・ 子どもと教育者、暴力をめぐる問題について、事例をあげながら説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
15	教育相談にあがってくる問題 2	・ いじめや不登校、性非行など、具体的な事例をもとに説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60

科目名	生徒指導論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員	山本 裕詞			
開講期	後期			
授業概要	生徒指導の機能と意味を把握した上で、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、さらに、いじめや不登校、非行等の問題行動の予防と対策に重点化する近年の動向について理解を深めていく。各授業の後半で行う小テストや小レポートについては、添削した後、次回授業冒頭にてフィードバックする。また、最終回の授業において、授業全体をフィードバックする。なお、授業内容に応じてアクティブラーニングの手法を取り入れる。また、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実践が想定できる指導を行う。 実務経歴：中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。 位置づけ・水準 TP9206			
達成目標	【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点 ①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間となるのを支援することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。 ②生徒指導では、生徒個々の自己実現を支援すべく、集団としての生徒指導と個別の教育相談活動を連動させる必要があることが理解できたか。 ③生徒指導は、学校内の教職員の協力体制があつてこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっていることを理解できたか。 ④生徒指導は、子どもたちの健全育成プランと連動するので、その推進には様々な関係者との連携が不可欠であることが理解できたか。 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力			
受講資格	教職課程履修者。 3学年以上。	成績評価 方法	各授業回ごとに実施する確認小テスト・レポートで50％、最終回に実施する総まとめテストで50％の割合で評価し、総合評価6割以上で合格とします。	
教科書	・文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』 ・毎回の授業において、その日のテーマに即したレジュメや資料を配布するので、それらをしっかりファイルにして第2の教科書として所持していること。			
参考書	授業中にその都度紹介する。 尚、『青少年白書』、『子ども年鑑』などは重要文献である。近年の刊行のものがよい。			
学生への要望	授業に際しては、 ①レポートは必ず指定の日までに出す。 ②指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。 ③配布された資料はファイリングして、教科書として使用できるようにすること。			
オフィスタイム	時間：時間割発表後に発表する。（前年度末における仮設定：月曜日1、2時限） 場所：教職課程推進室1（図書館3F） その他、授業・会議のない日ならいつでも来室可能。原則、アポを以下のメールでとること。 y.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jp			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入 本授業の構成・計画について理解する 「生徒指導」の既存イメージを共有する	・本授業の目標と授業内容構成を理解する。 ・自分の学校体験の中にある「生徒指導」のイメージを確認し、発表を通して他者と共有する。 ・次回までの提出物として、レポート「思い出に残る先生」をまとめ提出する。	レポート 復習	120
2	生徒指導の意味と位置づけ	・前回提出したレポートについて数名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。その中で、良い教師が持つ指導力に焦点をあて、それを生徒指導と関連づけてみる。 ・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。	レポート 予習	120
3	生徒指導と教師の姿	生徒指導の観点から教師の在り方を考える。 1 手本としての教師 教師の権力性を確認した後に、「教育のパラドックス」と生徒指導の観点から教師に必要な姿勢を洞察する。 2 教師の自己開示 上記1の具体的内容として、教師の自己開示の必要性和方法を考える。	レポート 予習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	生徒指導の組織体制	多角的な観点から、生徒指導の組織体制について、理解を深める。 1. 生徒指導の校内組織と生徒指導年間計画 2. チームとしての学校 3. 初期対応力とアセスメントの力	小テスト 予習	120
5	自立を促す生徒指導の手法	子どもに自立を促す生徒指導の手法を理解する。 1. コーチングとティーチング 2. 構成的グループ・エンカウンター 3. 感情のコントロールとマネージメントなど	小テスト 予習	120
6	少年非行問題	少年非行について、その問題性と対峙方法について 1. 少年非行の推移と現代的非行の特徴 2. 非行の具体的様相と非行モデル化 3. 非行からの立ち直り 4. 少年事件処理手続きの流れと教師の役割	レポート 予習	120
7	いじめ問題と対策	いじめの現状理解と最新のいじめ理論から、具体的対策について理解を深める。 1. いじめの現状 2. いじめの理論 3. いじめ防止対策推進法と生徒指導体制	レポート 予習	120
8	生徒指導と教育相談	生徒指導と教育相談の関係を整理し、指導の両輪としての性格を理解する。 1. 相談体制 2. カウンセリング・マインド 3. 校則と教育相談	小テスト 予習	120
9	『生徒指導提要』（文科省）を読み解き、活用する。	・文科省『生徒指導提要』を手掛かりにして児童生徒の問題行動の実態、それへの対応（予防、即時解決、事後指導、そして健全育成）のあり方を体系的に学ぶ。 ・個別指導と集団指導の手法を学ぶ ・進路指導、教育相談、家庭・学校・地域・関係機関との連携協力の在り方を学ぶ 他に、国立教育政策研究所生徒指導センターの『生徒指導資料』や、月刊誌『生徒指導』『教職課程』（生徒指導の特集号）を活用して校内整備や他機関との連携についての知識を深める。	小テスト 予習	120
10	子どもの規範意識とその芽生え	子どもの自立性・主体性と規範意識の関係を探究的に理解する。（グループ討議による仮説と検証） 1. 規範意識を育むこと 2. 公共性や奉仕の精神が育まれる条件	レポート 予習	120
11	「抱え込み」から開かれた「連携」へ	学校への期待の変化と危機管理責任の観点から、生徒指導の効果的な連携の在り方を学ぶ 1. 児童生徒の法的地位と学校への期待 2. 生徒指導と危機管理 3. 多様な対象への対応を可能にする組織連携	小テスト 予習	120
12	多様な子どもたちと権利を守る諸法	多様な子どもの状況を知り、それに対する子どもの人権の観点から、生徒指導の在り方を考える。 1. 特別支援教育 2. 貧困状態におかれた子ども 3. 性的マイノリティー	小テスト 予習	120
13	不登校問題と教育機会確保法	不登校の現状と対応の基本的考え方を理解した上で、教育機会確保法の持つ不登校へのインパクトを考える。 1. 不登校の定義と現状 2. 不登校の子どもへの支援 3. 不登校のケース会議と教育支援シート 4. 教育機会確保法の内容と、それが不登校に対して持つ意味	レポート 予習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	生徒指導とキャリア教育	生徒指導とキャリア教育の関係を理解する。 1. キャリア教育の必要性 2. 進路指導とキャリア教育 3. 職場体験活動 4. 高校中退と高等学校卒業程度認定試験	レポート 予習	120
15	授業のまとめ	授業の総まとめを行う中で、授業全体の理解度を確認する。総まとめテスト。	復習	120

科目名	組織のコミュニケーション	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 1単位 選択
担当教員	近内 直美,廣野 正子		
開講期	前期		
授業概要	人間の尊厳とは何かを考え、自立支援の方法を学ぶ。また、対人援助に必要な人間関係を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学ぶ。 最終授業で課題やレポートなど全体に対するフィードバックを行います。 講義で得た学びを実習で得た学びと結びつける発表や事例検を行い、双方向性の授業を行う。 第1回～8回を近内、9回～15回を廣野が担当する。 〈授業担当者〉 近内 直美 地域包括支援センター、社会福祉法人に勤務していた経験を活かし、実践に即した授業を行う。 実務経験：郡山中央地域包括支援センター、社会福祉法人 笑風会 廣野 正子 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護概論の授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2301		
達成目標	1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。 2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。 単位認定の最低基準は：「内容の8割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	課題50％、演習（参加の姿勢や発表）50％
教科書	最新 介護福祉士養成講座1『人間の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	「人間」の理解に努め、人権を尊重する理論を実践に結び付けることができるように意識しながら学んでください。		
オフィスタイム	近内 直美：水曜日Ⅰ・Ⅱ限、創学館4階No.6研究室 廣野正子：月曜日Ⅰ限、火曜日Ⅴ限、創学館4階No.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 人間関係とコミュニケーション 人間と人間関係① 近内	授業の目的、進め方等 ・人間らしさのはじまり	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	15
2	人間関係とコミュニケーション 人間と人間関係② 近内	・自分と他者の理解 （自己覚知、ラポール、自己開示等）	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
3	人間関係とコミュニケーション 人間と人間関係③ 近内	・発達心理学からみた人間関係	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
4	人間関係とコミュニケーション 人間と人間関係④ 近内	・社会心理学からみた人間関係 （コミュニケーションの意義、目的、特徴、過程及びコミュニケーションを促す環境等）	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
5	人間関係とコミュニケーション 人間と人間関係⑤ 近内	・人間関係とストレス	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	人間関係とコミュニケーション 対人関係におけるコミュニケーション① 近内	・コミュニケーションの概念	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
7	人間関係とコミュニケーション 対人関係におけるコミュニケーション② 近内	・コミュニケーションの基本構造	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
8	人間関係とコミュニケーション 対人関係におけるコミュニケーション③ 近内	・コミュニケーションの手段 (物理的、心理的距離の理解、環境の整備、言語的・非言語的コミュニケーション等)	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
9	人間関係とコミュニケーション 対人関係とコミュニケーション① 廣野	・対人援助の基本となるコミュニケーション	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
10	人間関係とコミュニケーション 対人関係とコミュニケーション② 廣野	・対人援助における基本的態度 (ポライトネス、アサーティブ等)	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
11	人間関係とコミュニケーション 対人関係とコミュニケーション③ 廣野	・援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
12	人間関係とコミュニケーション 組織におけるコミュニケーション① 廣野	・組織の条件とコミュニケーションの特徴	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
13	人間関係とコミュニケーション 組織におけるコミュニケーション② 廣野	・組織における情報の流れ (組織におけるコミュニケーションの特徴等)	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
14	人間関係とコミュニケーション 組織におけるコミュニケーション③ 廣野	・組織において求められるコミュニケーションについて考える	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
15	人間関係とコミュニケーション 組織におけるコミュニケーション② 廣野	・課題のフィードバック ・まとめ	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	45

科目名	チームマネジメント	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 1単位 選択
担当教員	近内 直美		
開講期	後期		
授業概要	介護実践をマネジメントするために必要な「①組織の運営と管理」「②人材の育成や活用」、それらに必要な「③リーダーシップとフォロワーシップ」など、チームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につけることを目指します。 最終授業で課題やレポートなど全体に対するフィードバックを行います。 講義で得た学びを実習で得た学びと結びつける発表や事例検を行い、双方向性の授業を行う。 〈授業担当者〉 近内 直美 地域包括支援センター、社会福祉法人に勤務していた経験を活かし、実践に即した授業を行う。 実務経験：郡山中央地域包括支援センター、社会福祉法人 笑風会 位置づけ・水準 DW2302		
達成目標	①組織の運営と管理 ・福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる。 ・実習経験を事例に、ケアを展開するために必要なチームの構成や役割について説明できる。 ②人材の育成や活用 ・チームでケアを展開するために必要な、様々な実践力について理解できる。 ・実践力を高めるために必要な、人材育成・開発のしくみ（OJT、OFF-JT 及び SD、SV）・方法について理解できる。 ・介護福祉士の多様なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。 ③リーダーシップとフォロワーシップ ・チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。 ・様々な介護サービスの事例を活用し、業務課題の発見と解決の過程をイメージできる。 単位認定の最低基準は：「内容の8割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 学生	成績評価 方法	課題 5 0 %、演習（参加の姿勢や発表） 5 0 %
教科書	最新 介護福祉士養成講座1『人間の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	チームマネジメントの学習を通して、アドミニストレーションの知識や技術をキャリアデザインに活用できるよう学んでください。		
オフィスタイム	近内 直美：水曜日Ⅰ・Ⅱ限、創学館4階 No6研究室、		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 福祉の理念について	授業の目的、進め方等 人間の尊厳と人権・福祉の理念等の振り返り	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	15
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義①	ヒューマンサービスとしての介護サービス	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
3	介護実践におけるチームマネジメントの意義②	介護現場で求められるチームマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
4	介護実践におけるチームマネジメントの意義③	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
5	ケアを展開するためのチームマネジメント①	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
6	ケアを展開するためのチームマネジメント②	チームでケアを展開するためのマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。 ・課題を行う。	90
7	ケアを展開するためのチームマネジメント③	チームの力を最大化するためのマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
8	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント①	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント②	介護福祉職としてのキャリアデザイン	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
10	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント③	介護福祉職のキャリア支援・開発	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
11	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント④	自己研鑽に必要な姿勢	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
12	組織の目標達成のためのチーム マネジメント①	介護サービスを支える組織の構造	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
13	組織の目標達成のためのチーム マネジメント②	介護サービスを支える組織の機能と役割	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
14	組織の目標達成のためのチーム マネジメント③	介護サービスを支える組織の管理	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。 ・課題を行う。	30
15	まとめ 課題のフィードバック	チームマネジメントを振り返り学んだことをまとめる 課題について全体へのフィードバック	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30

科目名	高齢者福祉	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	後期			
授業概要	高齢者・高齢社会についての基本的知識およびおよび高齢者福祉の変遷と概念について学ぶ。 高齢者に関連する諸制度を学ぶ。 課題に対するフィードバック方法 ・課題・レポートを返却し、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2161			
達成目標	【達成目標】 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する 高齢期における生活課題を踏まえて、適切な支援の在り方を理解する 【単位認定の最低基準】 高齢者の特性及び関連施策の7割が理解できていること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任 【履修カルテ評価項目】 ①高齢者の生活実態についてどの程度理解できたか。 ②要介護高齢者を支える介護サービスについてどの程度理解できたか。 ③高齢者福祉施設の種類と役割についてどの程度理解できたか。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70％、課題30％	
教科書	最新 社会福祉士養成講座2『高齢者福祉』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集			
参考書	授業の中で適宜紹介します			
学生への要望	日頃から、高齢者に関連する新聞記事等を読んでください。			
オフィスタイム	水曜日の1時限目 ・金曜日の4時限目 創学館4階 No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 高齢者の定義と特性	・ 授業概要の説明 ・ 高齢者の定義と特性 高齢者の社会的理解 高齢者の身体的理解 高齢者の精神的理解	・ 自己の高齢者観をまとめる ・ 高齢者の特性を調べる	30
2	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境①	・ 高齢者の生活実態 経済および就業、健康および要介護の状況 社会参加、生活環境	・ 自分の地域の高齢化の状況を調べる	30
3	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境②	・ 高齢者を取り巻く社会環境 高齢者世帯の特徴、家族介護者の状況 家族介護の多様化	・ 現代の高齢者世帯の特徴を調べる	60
4	高齢者福祉の歴史と理念	・ 高齢者観の変遷 ・ 高齢者福祉の発展過程 ・ 高齢者福祉の理念	・ 高齢者福祉の発展に影響を与えた社会情勢の変化について調べる	60
5	介護保険制度（1）	・ 介護保険制度の概要 枠組み、財政 保険者と被保険者、保険料 要介護認定の仕組みとプロセス 保険給付、介護保険事業計画	・ 自分の住む地域の介護保険料を調べ、近隣の市町村との比較をまとめる	60
6	介護保険制度（2）	・ 地域支援事業 地域支援事業の内容 地域包括支援センター ・ 介護保険サービスの体系 居宅サービス 介護予防サービス	・ 自分の住む地域の取り組みを調べる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	介護保険制度（3）	・ 介護保険サービスの体系 施設サービス 地域密着型サービス 住宅改修	・ 自分の住む地域の地域密着型サービスの整備状況を調べる	60
8	高齢者に対する関連諸制度（1）	・ 高齢者保健福祉の法体系 ・ 老人福祉法	・ 老人福祉法に関する具体的なサービス項目を確認する	70
9	高齢者に対する関連諸制度（2）	・ 高齢者医療確保法 ・ 高齢者虐待の実態と高齢者虐待防止法	・ 虐待の事例を調べる	0
10	高齢者に対する関連諸制度（3）	・ バリアフリー法 ・ 高齢者住まい法 ・ 高齢者雇用安定法	・ 高齢者支援における住まいの確保の意義について自分の考えをまとめる	60
11	高齢者に対する関連諸制度（4）	・ 育児・介護休業法 ・ 市町村独自の高齢者支援	・ 自分の住む地域で活用できる社会資源を調べる	60
12	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割	・ 関係機関の役割 ・ 関連する専門職等の役割	・ 高齢者と家族等の支援における専門職の役割をまとめる	50
13	高齢者と家族等に対する支援の実際（1）	・ 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割	・ 地域ケア会議について調べる	60
14	高齢者と家族等に対する支援の実際（2）	・ 高齢者と家族等に対する支援の実際 ・ 事例を参考としたグループワーク	・ テキスト事例3を読み、自分の考えをまとめる	60
15	まとめ	・ 今後の高齢者福祉についてグループワークを行い、福祉専門職の関わり方について各自の考えを発表する。	・ テーマについて考えをまとめる	60

科目名	児童・家庭福祉	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択	
担当教員	近内 直美			
開講期	後期			
授業概要	子どもの権利を理解し、子ども家庭福祉の理念、実施体制、サービスの現状と課題について学ぶ。また、子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境の変化と、子ども家庭福祉の具体的なニーズについて知り、社会的課題と支援について考えを深める。 児童・家庭が抱える課題について、発表や意見交換を行うなど、双方向性の授業を実施する。 最終授業で課題やレポートについて、全体に対するフィードバックを行います。 地域包括支援センターの社会福祉士として勤務していた経験を活かし、子どもや家庭、社会の多様な課題について実践力の向上を意識した授業を行います。 実務経験：郡山中央地域包括支援センター 位置づけ・水準 DW2362			
達成目標	①児童が権利主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する ④児童や家庭福祉領域における支援のしくみと方法、社会福祉士の役割について理解する ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援の在り方を理解する 単位認定の最低基準は：「内容の8割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科学生	成績評価 方法	課題80％、演習20％。	
教科書	最新 社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4F、No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉とは何か	・講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。 ・子どもの権利 ・子どもの生命と発達 ・子どもと家庭・地域 ・子ども家庭福祉とは (児童福祉法・児童の定義・家庭の定義) 社会福祉についての概念を知り、子どもや家庭における課題やニーズについてグループワークを行う 2回目以降、適宜グループワークや発表を行う	・児童福祉の科目で学ぶことを振り返る	30
2	子ども家庭福祉の歴史	・慈善・恩恵から権利保障へ ・子どもの権利擁護の変遷 ・子どもの家庭福祉と現代社会	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
3	子ども家庭を取り巻く現代社会	・子ども家庭を取り巻く社会環境 ・現代社会における課題と子育て・子育てへの影響（社会の変容と現代社会における課題と子育て・子育てへの影響と労働環境・地域と家庭・子育て環境の変化、子どもたちの生活変化）	・テキストで予習を行う ・課題を行う（子どもの権利について）	30
4	子ども家庭福祉の支援の基盤 1	・子ども家庭福祉の法体系 ・子ども家庭福祉の実施体制(行政、関連機関、児童手当法等各種手当について) ・子ども家庭福祉にかかわる関係機関・施設と利用方式	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
5	子ども家庭福祉の支援の基盤 2	・子ども家庭福祉の財源と費用負担 ・子ども家庭福祉の人材と専門職 ・子ども家庭福祉の計画推進	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
6	子どもの福祉課題と支援 1	・子ども・子育て支援 ・母子保健	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
7	子どもの福祉課題と支援 2	・保育 ・要保護児童等と在宅支援 ・児童虐待にかかわる支援	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	子どもの福祉課題と支援 3	・社会的養護 ・ひとり親家庭への支援 ・ドメスティックバイオレンスと女性支援	・テキストで予習を行う ・課題を行う	30
9	子どもの福祉課題と支援 4	・スクールソーシャルワーク ・いじめ ・非行少年 ・若者支援	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
10	子どもの福祉課題と支援 5	・障害のある子どもへの支援 ・ソーシャルアクション	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
11	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 1	・子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク ・子ども家庭福祉の支援の端緒と調査 ・子ども家庭福祉におけるアセスメント	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
12	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 2	・子ども家庭福祉における支援過程展開と連携 ・子ども・子育て支援にかかわる実践 ・母子家庭や医療との協働による実践 ・保育における実践	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
13	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 3	・児童虐待にかかわる実践その 1 ・児童虐待にかかわる実践その 2 ・社会的養護にかかわる実践	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
14	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 4	・ひとり親支援にかかわる実践 ・女性福祉にかかわる実践 ・教育との協働にかかわる実践	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30
15	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 5 まとめ	・若者の自立支援にかかわる実践 ・障害児にかかわる実践 ・当事者参画とアドボカシーにかかわる実践 ・レポート等について全体にフィードバックを行う	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	30

科目名	障害者福祉	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	岡本 宏二			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。 〔授業全体の内容の概要〕 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。 〔授業全体の内容の概要〕 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。			
受講資格	生活科学科社会福祉専攻	成績評価 方法	出席状況・学習態度（５０）、定期試験等（５０）総合的に評価する	
教科書	特に指定しない			
参考書	障害者福祉論（ミネルヴァ書房） 新・現代障害者福祉論（法律文化社）			
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り、予習復習をすること			
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション・障害とは	法律にみる障害の定義、ＩＣＦによる障害のとらえ方、しょうがいの表記の仕方などを通して、障害とはどういうことか考える。		0
2	障害者福祉の基本的視点	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンなど障害者福祉の新しい視点について学習する。		0
3	障害者福祉のあゆみ	戦前から戦後にかけての障害者福祉、高度経済成長期以後の発展過程、障害者福祉の転換と国際的動向について学ぶ。		0
4	障害者福祉に関する制度や法律	障害者基本法・その改正の動向、身体者障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者健康福祉法等を学習する。		0
5	障害者の生活実態とニーズ	障害者の生活とニーズを理解し、暮らしや就労等の実情把握から現実の支援へとどうつなげていくかを学習する。		0
6	障害者総合支援法の概要	総合支援法の成立の背景や目的・理念について学び、給付や事業の全体像、サービスの実際やこれからの方向について学ぶ。		0
7	障害福祉サービスの利用プロセス	福祉サービス支給決定の流れ、介護給付や訓練等給付、利用者負担、障害支援区分、利用計画や支援者の連携等利用プロセスについて学習する。		0
8	相談支援	総合支援法における相談支援の概要や相談支援専門員の役割、相談支援と協議会の関係など、相談支援にかかわる実際について学習する。		0
9	就労支援	就労支援施策の全体像と雇用の促進について、障害者雇用促進法の概要や関係機関の役割を学び、障害者雇用推進の現状について学習する。		0
10	成年後見制度と 権利擁護	障害者虐待防止法、障害者の権利条約、差別解消法や成年後見制度、日常生活支援事業制度、苦情解決制度等の権利擁護に関する諸制度を学習する。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	障害者プランにおける専門職の役割	市町村計画、当事者参加、民間活動等を学び、ケアマネジメントの手法や障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。		0
12	障害者の文化スポーツ	障害者の社会参加、生活環境の改善及び文化やスポーツ、福祉レクリエーション活動などの地域交流について学習する。		0
13	障害者支援のニーズと対応	身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害等様々な障害について理解し、それぞれの特別な支援ニーズと対応について学ぶ。		0
14	事例研究	個別事例を通して、障害者支援の実際について学ぶ。		0
15	まとめ	障害者福祉の課題とこれからの方向について総合的に学ぶ。		0

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修
担当教員	近内 直美			
開講期	後期			
授業概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて学び、ソーシャルワークの概念やその基盤となる考え方とその形成過程や専門職の倫理の概念について学び、ソーシャルワークの基礎を修得する。 レポート等は、最後の授業で全体にフィードバックします。 適宜、自己学習で調べてきたことの発表や、事例などを通して意見交換を行うなど双方向性の授業を実施する。 実務経歴：社会福祉士として、地域包括支援センターに勤務 地域包括支援センターでの相談業務の経験を活かし、社会福祉士の役割、援助技術の必要性について授業を行う。 位置づけ・水準 DW2164			
達成目標	①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する 単位認定の最低基準は：内容の8割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、論理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科学生		成績評価 方法	試験 5 0 %、課題 5 0 %
教科書	最新 社会福祉士養成講座精神福祉士養成講座 11ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門] 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	ソーシャルワークの機能を理解し、実践に結び付けられるようにイメージしながら学びましょう。			
オフィスタイム	近内：水曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4F、No. 6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ 1	・オリエンテーション ・ソーシャルワークとは ・ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士	・対人援助に必要なとなる援助技術について知る ・社会福祉士の役割について理解する	30
2	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ 2	・社会福祉士法 ・精神保健福祉士法	・各専門職の制度創設の経緯と定義及び義務について理解する	30
3	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ 3	・社会福祉士および精神保健福祉士の専門性	・各専門職の専門性について理解する	30
4	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ 4	・社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー	・コンピテンシーについて理解する	30
5	ソーシャルワークの概念 1	・ソーシャルワークの定義	・ソーシャルワークの定義について理解する	30
6	ソーシャルワークの概念 2	・ソーシャルワークの構成要素	・ソーシャルワークを構成する要素とその意味を理解する	30
7	ソーシャルワークの基盤となる考え方 1	・ソーシャルワークの原理（社会正義、人権尊重、集団的責任、多様性の尊重）	・ソーシャルワークの原理とされている言葉の意味を理解する	30
8	ソーシャルワークの基盤となる考え方 2	・ソーシャルワークの理念（当事者主権、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション）	・ソーシャルワークの理念とは何かを理解する	30
9	ソーシャルワークの形成過程 1	・ソーシャルワークの源流と基礎確立期（セツルメント運動）	・ソーシャルワーク創設の歴史を理解する	30
10	ソーシャルワークの形成過程 2	・ソーシャルワークの発展期	・ソーシャルワークの発展について、社会の変化とともに理解する	30
11	ソーシャルワークの形成過程 3	・ソーシャルワークの展開期と統合化（医学モデルから社会モデルへ）	・ジェネラリスト・ソーシャルワークへの変化について理解する	30
12	ソーシャルワークの形成過程 4	・日本におけるソーシャルワークの形成過程	・日本における社会事業の歴史を理解する	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	ソーシャルワークの倫理 1	・ 専門職倫理の概念とソーシャルワーカーの倫理綱領について	・ 専門職の意義について理解する	30
14	ソーシャルワークの倫理 2	・ 社会福祉士および精神保健福祉士の倫理綱領 ・ 倫理的ジレンマ	・ 倫理綱領から「専門性とは」を理解する	40
15	まとめ・達成度の確認	・ レポート等についてのフィードバック ・ 確認のテスト実施	・ 倫理的ジレンマとはどのようなことが調べる	40

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	島野 光正			
開講期	前期			
授業概要	1年次で学んだ、社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法等についてや、ソーシャルワークの概念やその基盤となる考え方、専門職倫理の概念等を基に今日的な総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点およびミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について事例等を用いながら学びます。 毎回短いレポートの提出を求めます。学んだことの確認やテーマについての意見を記入し、内容によっては次の講義の際に共有し意見交換等も行います。 実務経歴：社会福祉士として、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、スクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーなどのソーシャルワーク業務の経験を活かしソーシャルワーカーとしての大事な視点、多職種連携の意義等について事例等を基に講義を行います。 位置づけ・水準 DW2265			
達成目標	①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。 単位認定の最低基準は：内容の8割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、論理的・社会的責任			
受講資格	社会福祉専攻 2年	成績評価 方法	試験70%、レポート30%	
教科書	最新 社会福祉士養成講座 精神福祉士養成講座 「11ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門] 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	テキストは事前に読んで講義に臨んで下さい。またソーシャルワークの機能を理解し、実践に結び付けられるようにイメージしながら学びましょう。			
オフィスタイム	火曜日Ⅰ・Ⅲ時限 創学館4F、No.3研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ソーシャルワークに係わる専門職の概念と範囲1	・ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 ・ソーシャルワーカーが専門職であるために必要な要件とは何か ・社会福祉士の職域と役割について ・職能団体の役割について	・ソーシャルワーカーがどんな分野で働いているのか調べてみる ・なぜ様々な分野で働いているのか考える。	30
2	ソーシャルワークに係わる専門職の概念と範囲2	・多様な組織・機関・団体における専門職 ・諸外国の動向	・ソーシャルワークの実践を担うさまざまな職種と職場についてテキストを読んで、様々な分野で働くソーシャルワーカーに共通するものは何か考える。	30
3	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク1	・ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象	・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象について考える。	30
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク2	・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 ・事例を元にソーシャルワークの展開について考える ・事例を元にワーク (1)	・人と環境の交互作用について考える。	30
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク3	・事例を元にワーク (2) ・地域アセスメントについて	・前回の事例を元に振り返りと「人と環境との交互作用」について考える。	30
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク4	・個別事例から地域の課題発見へ ・ミクロ・メゾ・マクロレベルでの展開まとめ	・個別事例と地域の課題について考える。 ・アウトリーチについて調べる。	30
7	ソーシャルワークの基盤となる考え方 1	・ソーシャルワークの原理 (社会正義、人権尊重、集団的責任、多様性の尊重)	・ソーシャルワークの原理とされている言葉の意味を理解する	30
8	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容1	・総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 ・多様化・複雑化する生活課題の社会的な背景について	・今日的な社会問題と背景について調べる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容2	・総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 ・ソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点とは ・ジェネラリスト・ソーシャルワークとは	・ソーシャルワークの歴史的発展について振り返る（1年次に学んだことの再確認） ・実践の統合化からジェネラリスト・ソーシャルワークへ	30
10	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容3	・ジェネラリストの視点に基づくソーシャルワークの特徴	・ソーシャルワークのグローバル定義の振り返りとその内容について再確認する。	30
11	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容4	・ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容 ・多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制の構築	・地域共生社会の実現の推進のための政策について調べる ・社会福祉法における地域生活課題について調べる	30
12	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容5	・ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ賦活的な支援の意義と内容 ・社会資源となる人や組織等との協働体制 ・ソーシャルサポートネットワーク	・社会資源とは何か調べ考える	40
13	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容6	・多職種連携およびチームアプローチの意義と内容 ・多職種連携およびチームアプローチの意義 ・機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働	・多職種・多機関と連携する意義について理解する。 ・連携のためのソーシャルワーカーの機能と役割について理解する。	30
14	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容7	・事例を元に多機関・多職種の連携について ・チームアプローチの意義について	・テキストの事例について事前に内容を確認し、多機関・多職種の連携の意義について考える。	40
15	ソーシャルワークの基盤と専門職まとめ	・「ソーシャルワークの基盤と専門職」講義のまとめ ・ソーシャルワーカーを目指す学生のみなさんへ	・1年次・2年次の講義の振り返り ・様々な場面で働くソーシャルワーカーの共通な基盤について考える	40

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択
担当教員	島野 光正		
開講期	後期		
授業概要	今日、地域共生社会の実現を推進する観点から、ソーシャルワークの機能やソーシャルワーカーの国家資格である社会福祉士や精神保健福祉士といった専門職への社会的な期待が高まっている。本科目ではソーシャルワーク実践の基盤となる人と環境の交互作用に関する諸理論やソーシャルワークの過程についてや実践モデル、ソーシャルワークの面接、記録、ミクロ・メゾ・マクロレベルでのソーシャルワークの展開なども学ぶ。他の様々なカリキュラムでの学びを元にソーシャルワークの展開について、この後のソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕、ソーシャルワーク演習〔共通・社会専門〕、ソーシャルワーク実習指導、ソーシャルワーク実習につながる大事な科目となる。講義中心であるが、講師の実務経験を活かした事例なども踏まえ実践と理論が結びついた講義を行う。 【実務経歴】 地域包括支援センターでの社会福祉士、及び在宅医療・介護連携支援センターでのソーシャルワークの経験を活かし実践と今日的なソーシャルワークの展開に結びつく授業を行う。 【実務経験】 児童養護施設児童指導員、星ヶ丘在宅介護支援センターソーシャルワーカー、片平・喜久田地域包括支援センター（管理者・社会福祉士・主任介護支援専門員）、郡山市在宅医療・介護連携支援センター（所長・社会福祉士） 位置づけ・水準 DW2367		
達成目標	①人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 ③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ④コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 ・ディプロマポリシーとの関係 論理的思考・問題解決力、倫理的、社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力 ・単位認定の最低基準は上記の①～⑤の内容について8割を理解していること		
受講資格	原則「ソーシャルワークの基盤と専門職」〔共通・社会専門〕を履修済みであること。	成績評価 方法	定期試験(80%)及び課題、レポート（20%）により評価する
教科書	最新・社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕（中央法規出版）		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提に進めます。		
オフィスタイム	金曜日Ⅲ・Ⅳ限 創学館4階 No.3研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク	◎講義の概要の説明 ◎ソーシャルワーカーが学ぶ理論 ○社会福祉援助活動の概念と定義 ○相談援助の対象を動とらえるか。	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	ソーシャルワークの過程（1）	○ケースの発見とエンゲージメント（インテーク） ・ケースの発見 ・エンゲージメント（インテーク）	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	ソーシャルワークの過程（2）	○アセスメント ・アセスメントの意義と目的 ・アセスメントの方法 ・アセスメントの留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	ソーシャルワークの過程（3）	○プランニング ・プランニングの意義と目的 ・プランニングのプロセスと方法 ・プランニングにおける留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	ソーシャルワークの過程（4）	○支援の実施とモニタリング ・支援の実施 ・モニタリング ・効果測定	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	ソーシャルワークの過程（5）	○支援の終結と結果評価、アフターケア ・支援の終結 ・支援の結果評価 ・アフターケア	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	○ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 ○ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	ソーシャルワークの面接	○面接の意義と目的 ○面接の方法と実際	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	ソーシャルワークの記録	○記録の意義と目的 ○記録の内容 ○記録のフォーマット	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	ケアマネジメント（ケースマネジメント）	○ケアマネジメント（ケースマネジメント）の原則 ○ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義と方法	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	グループを活用した支援	○グループワークの意義と目的 ○グループワークの展開過程 ○グループワークとセルフヘルプグループ	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	コミュニティワーク	○コミュニティワークの意義と目的 ○コミュニティワークの展開 ○コミュニティワークの理論的系譜とモデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	ソーシャルアドミニストレーション	○ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 ○組織介入・組織改善の実践モデル ・組織運営における財源の確保	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	ソーシャルアクション	○ソーシャルアクションの概念とその意義 ○コミュニティ・オーガナイズング	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	スーパービジョンとコンサルテーション まとめ	○スーパービジョンの意義、目的、方法 ○コンサルテーションの意義、目的、方法 ○まとめ	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択	
担当教員	近内 直美,島野 光正			
開講期	前期			
授業概要	・総合的かつ包括的な支援の展開をイメージし、援助関係の形成について学ぶ。また、関係機関や他職種との連携による実践的かつ効果的なソーシャルワークの展開を学び、課題解決の理論と方法を理解する。 ・事例や専門用語の理解を深めるため、意見交換や発表等双方向性の授業を行う。 レポートに対するフィードバック方法：最終授業で全体に対してフィードバックを行う。 近内が第1回～8回、島野が9回から15回を担当する。 近内：地域包括支援センターでの経験を活かし、理論が実践で活用できるよう授業を進める。 実務経験：郡山中央地域包括支援センター 島野：地域包括支援センターでの社会福祉士、及び在宅医療・介護連携支援センターでのソーシャルワークの経験を活かし実践と今日的なソーシャルワークの展開に結びつく授業を行う。 実務経験：片平・喜久田地域包括支援センター（管理者・社会福祉士・主任介護支援専門員）、郡山市在宅医療・介護連携支援センター（所長・社会福祉士） 位置づけ・水準 DW2367			
達成目標	①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 ②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 ③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 ④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。 ・ディプロマポリシーとの関係 論理的思考・問題解決力、倫理的、社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力 ・単位認定の最低基準は以下の①～③の内容について8割を理解していること ①ソーシャルワーク専門職として、社会福祉士が果たすべき役割としての援助技術の必要性とあり方を理解できたか。 ②社会福祉相談援助の理念、概念、範囲を理解できたか。 ③社会福祉援助技術の体系と主な援助技術の方法及び内容を理解できたか。			
受講資格	生活科学科学生		成績評価 方法	・試験60％ ・レポート40％
教科書	最新・社会福祉士養成講座 6 「ソーシャルワークの理論と方法」〔社会専門〕（中央法規）			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・ソーシャルワークの機能を理解し、実践できるようにしてください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4F、No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際① 近内	総合的かつ包括的な支援の考え方（生活課題・地域福祉課題への対応、分野・領域を横断する支援）	・テキスト p.10のアクティブラーニングを予習する	30
2	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際② 近内	家族支援の実際 ・家族が抱える複合的な生活課題への支援を理解する	・テキスト p.24のアクティブラーニングに取り組む	30
3	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際③ 近内	地域支援の実際 ・地域支援とは何か。 事例：地域が抱える課題、他機関協働	・事例により、地域支援について確認しておく	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際④ 近内	地域支援の実際 ・地域支援とは何か。 事例：地域住民との協働、地域アセスメント	・テキストを参考に地域支援に必要な知識についてまとめる	30
5	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際⑤ 近内	非常時や災害時支援の実際 ・事例についてディスカッションを行う 非常時や災害時の生活課題を知り、支援の目的や方法をアウトリーチの視点を持ち理解する	・テキストp.73 表1-11に目を通しておく ・事例1～5を読んでおく	30
6	ソーシャルワークにおける援助関係の実際① 近内	援助関係形成の意義と概念 ・ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係 ・社会福祉士の倫理とは	・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、社会福祉士の倫理綱領を確認する	40
7	ソーシャルワークにおける援助関係の実際② 近内	援助関係の形成方法と留意点 ・自己覚知と他者理解、面接の意義や目的、面接場面と構造、面接技法、スーパービジョン	テキストを読みわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	40
8	ソーシャルワークにおける援助関係の実際③ 近内	援助関係の形成方法と留意点 ・コミュニケーションとラポールの形成、エンパワメント、ストレングス ・クライアントシステム（家族・友人・地域住民）との援助関係の形成	テキストを読みわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	40
9	ネットワークの形成 島野	ネットワーキングやコーディネーションの意義、目的、方法など	テキストを読みわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	30
10	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 島野	社会資源の活用・調整 ソーシャルワーク実践と社会資源、社会資源開発のさまざまな方法（ソーシャルアクション）	事例を読み社会資源の活用について調べるわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	30
11	カンファレンス 島野	会議の種類と方法、重層的支援（ミクロ・メゾ・マクロ）における会議についての意義や目的、方法、留意点	テキストを読みわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	30
12	事例分析、事例検討、事例研究 島野	事例分析、事例検討、事例研究の意義・目的・方法・留意点	テキストを読みわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	30
13	ソーシャルワークに関連する技法① 島野	ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューションの意義、目的、方法など	テキストを読みわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	30
14	ソーシャルワークに関連する技法② 島野	ファシリテーション、プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点について ソーシャル・マーケティングの概念、プロセス	テキストを読みわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	60
15	まとめの振り返り 達成状況の確認 島野	・レポート等についてのフィードバック ・確認テスト実施	テキストを読みわからない文言を調べておく。 授業内容をまとめる。	30

科目名	医学概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	大西 弘太郎			
開講期	前期			
授業概要	高齢者の健康管理に必要な医学知識を概説する。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 位置づけ・水準 HW2358			
達成目標	単位認定の最低基準：高齢者の健康にかんする基礎的知識が習得されていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理観・社会的責任。			
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	小テスト (20%) レポート (80%)	
教科書	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論 中央法規			
参考書	特になし			
学生への要望	双方向の授業を期待します。 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。			
オフィスタイム	臨床医学研究室 火曜日 13:00～17:00。 木曜日 13:00～14:30。 金曜日 08:30～17:00。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	高齢者の健康管理	主な死因と人口動態 高齢者の様々な死因 高齢者の感染症	寿命，人口動態，高齢者の疾患・死因・感染症などについて予習・復習をしましょう。	120
2	栄養と代謝、糖尿病の諸問題	栄養と代謝。 糖尿病の定義・分類・症状・徴候・合併症・治療・予防。	糖尿病について予習・復習をしましょう。	120
3	消化管	消化管の構造と機能。 ヘリコバクターピロリ感染。 炎症性腸疾患。	消化管の疾患について予習・復習をしましょう。	120
4	肝臓	主なウイルス性肝炎。 慢性肝炎。 肝細胞がん。 脂肪肝。	肝疾患について予習・復習をしましょう。	120
5	循環器総論、心不全	循環器総論。 心不全。	循環器総論、心不全について予習・復習をしましょう。	120
6	高血圧症、動脈硬化、虚血性心疾患、不整脈	高血圧症。 動脈硬化。 虚血性心疾患。 不整脈。 心臓突然死。	高血圧症、動脈硬化、虚血性心疾患、不整脈などについて予習・復習をしましょう。	120
7	泌尿器、男性生殖器	泌尿器疾患(腎炎，ネフローゼ症候群，慢性腎臓病，透析)。 男性生殖器の疾患(前立腺肥大症，前立腺がん)。	泌尿器疾患、男性生殖器の疾患について予習・復習をしましょう。	120
8	神経疾患、脳血管障害	神経疾患。 脳血管障害。	神経疾患、脳血管障害について予習・復習をしましょう。	120
9	認知症	認知症。 アルツハイマー型認知症。 レビー小体型認知症。 血管性認知症。	認知症について予習・復習をしましょう。	120
10	呼吸器	慢性閉塞性肺疾患(COPD)。 肺結核。 肺炎。 誤嚥性肺炎。 ワクチン。	慢性閉塞性肺疾患、肺結核、肺炎、誤嚥性肺炎、ワクチンなどについて予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	血液	貧血。 白血病。 悪性リンパ腫。	貧血，白血病，悪性リンパ腫などについて 予習・復習をしましょう。	120
12	運動器	ロコモティブシンドローム。 サルコペニア。 フレイル。 骨粗鬆症。 骨折。 転倒。	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症など について予習・復習をしましょう。	120
13	感染症	主な感染症。	主な感染症について予習・復習をしまし ょう。	120
14	免疫	アレルギー性疾患。 膠原病。 免疫不全症。 後天性免疫不全症候群(AIDS)。	アレルギー性疾患，膠原病，免疫不全症， 後天性免疫不全症候群(AIDS)などについて 予習・復習をしましょう。	120
15	褥瘡	褥瘡の定義，診断，治療，予防。	褥瘡について予習・復習をしましょう。	120

科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修
担当教員	島野 光正		
開講期	前期		
授業概要	本科目では基本的な地域福祉における理論や体系について深め、地域福祉の理念と内容について理解する。あわせて地域社会で発生する問題に向き合うために包括的支援体制の考え方を学ぶとともに福祉行政と福祉計画を理解する。特に本科目では地域社会の変化と地域生活課題、包括的支援体制、地域福祉ガバナンスと多機関協働、地域福祉の基本的考え方について学んでいく。 毎回短いレポートの提出を求めます。講義のまとめやテーマについて意見を記入し、内容によっては次回の講義でとりあげ、意見交換や共有をします。 実務経歴：社会福祉士として、在宅介護支援センター、地域包括支援センター、スクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーなどのソーシャルワーク業務の経験を活かしソーシャルワーカーとしての大事な視点、多職種連携の意義等について事例等を基に講義を行います。 水準・位置づけ DW2369		
達成目標	①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 ④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 ⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 単位認定の最低基準は、：内容の8割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科社会福祉専攻	成績評価 方法	試験70点 レポート30点
教科書	最新・社会福祉士養成講座 「6 地域福祉と包括的支援体制」（中央法規）		
参考書	適宜指示する		
学生への要望	地域共生社会の実現の推進に向けて様々な施策がすすめられています。国や市町村の施策や取り組み等随時調べ、地域の課題について興味関心をもって授業に臨んでください。テキストは事前に読んでおくことを前提に講義をすすめます。		
オフィスタイム	金曜日Ⅲ・Ⅳ限 創学館 4階N0.3研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題1	・地域社会の概念と理論 ・地域社会の変化	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題2	・多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ ・地域福祉と社会的孤立	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制1	・地域包括ケアシステム	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。地域包括ケアシステムに関する自分の住んでいる市町村の取組等について調べる。	60
4	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制2	・生活困窮者自立支援の考え方	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。自身が住んでいる市町村の生活者困窮者の相談窓口について調べる。	60
5	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制3	・包括的支援体制とは	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制4	・地域共生社会の構築とは ・地域共生社会の実現に向けた各種施策	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	地域福祉ガバナンスと多機関協働1	・地域福祉ガバナンス	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	地域福祉ガバナンスと多機関協働2	・多機関協働を促進する仕組み	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	地域福祉ガバナンスと多機関協働3	・多職種連携	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	地域福祉ガバナンスと多機関協働4	・福祉以外の分野との機関協働の実際	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	地域福祉の基本的考え方1	・地域福祉の概念と理論	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	地域福祉の基本的考え方2	・ 地域福祉の歴史	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	地域福祉の基本的考え方3	・ 地域福祉の動向	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	地域福祉の基本的考え方4	・ 地域福祉の主体	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	地域福祉の基本的考え方5	・ 地域福祉の主体と福祉教育 ・ 前期まとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択	
担当教員	島野 光正			
開講期	後期			
授業概要	本科目では「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」を元に地域を基盤としたソーシャルワークの展開や災害時における支援体制を学ぶとともに、福祉行政と福祉計画を理解する。特に本科目では地域を基盤としたソーシャルワークの展開、災害時における総合的かつ包括的な支援体制、福祉計画の意義と種類、福祉行財政システムについて学んでいく。 実務経験：在宅介護支援センターソーシャルワーカー、地域包括支援センター（管理者・社会福祉士・主任介護支援専門員）、在宅医療・介護連携支援センター（所長・社会福祉士） 水準・位置づけ DW2370			
達成目標	①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 ④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 ⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 単位認定の最低基準は、：内容の8割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科 2年	成績評価 方法	試験70点、レポート30点	
教科書	最新 社会福祉士養成講座 「6 地域福祉と包括的支援体制」（中央法規）			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	毎回講義終了時にレポートの提出を求めます。内容によっては講義の際にフィードバックし、受講者で意見交換等を行います。			
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	地域を基盤としたソーシャルワークの展開	地域を基盤としたソーシャルワークの展開（1） ・地域を基盤としたソーシャルワークの方法 ・住民の主体形成に向けたアプローチ	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	地域を基盤としたソーシャルワークの展開	地域を基盤としたソーシャルワークの展開（2） ・具体的な展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	災害時における総合的かつ包括的な支援体制	非常時や災害時における法制度	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	災害時における総合的かつ包括的な支援体制	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	福祉計画の意義と種類、策定と運用	福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	福祉計画の意義と種類、策定と運用	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。自身の住んでいる地域の福祉計画について調べる。	60
7	福祉計画の意義と種類、策定と運用	福祉計画の策定過程と方法	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	福祉計画の意義と種類、策定と運用	福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	福祉計画の意義と種類、策定と運用	福祉計画における評価	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	福祉行政システム	国の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	福祉行政システム	都道府県の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	福祉行政システム	市町村の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	福祉行政システム	国と地方の関係	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	福祉行政システム	福祉行政の組織および専門職の役割	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	福祉行政システム	福祉における財源 まとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	福祉サービスの組織と経営		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内 直美			
開講期	前期			
授業概要	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割を理解し、組織の運営と経営に係る基礎的な理論や実際、及び福祉人材のマネジメント等について学ぶ。 発表やグループワークによる双方向性の授業を適宜行う。 レポートについて、最終授業でコメントや質疑応答によりフィードバックします。 社会福祉法人での管理業務や相談員育成の経験を生かし、実践に役立つ知識を生かした授業を行います。 実務経歴：社会福祉法人笑風会 事業部長として勤務 位置づけ・水準 HW2462			
達成目標	①ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する ②社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解する ③福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する ④福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて理解する 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること。」 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科学生		成績評価 方法	試験50%、課題50%
教科書	最新 社会福祉士養成講座 1 福祉サービスの組織と経営 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育教育学校連盟編集 中央法規出版			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	社会福祉施設や団体の概要とその運営について必要な理念や理論を理解してください。 また、人事管理、運営管理の必要性と理論について理解してください これらについて幅広い視点を持ち、テキスト以外の書物も活用し、知識を吸収してください			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ・Ⅱ限 創学館4F、NO. 6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の進め方と概要について 自主学習を行った内容の発表や、福祉・医療に関する組織の運営や経営についての意見交換等を行う双方向型の授業を2回目以降適時行う。	「福祉サービスの組織と経営」についての概要をテキストで確認する	30
2	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割①	福祉サービスを提供する組織 ・福祉サービスを提供する組織の概要（種類、その設立から特性、役割等）	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
3	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割②	福祉サービスの沿革と概要 ・福祉サービスの歴史 ・社会福祉基礎構造改革 ・社会福祉法人制度改革 ・公益法人制度改革とその推進	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
4	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割③	組織間連携と促進 ・組織間連携とは何か ・基礎となる理論 ・組織間連携の意義 ・組織間連携(地域連携を含む) マネジメントの要素	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
5	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①	組織運営に関する基礎理論 ・社会福祉分野における組織の特徴と特異性 ・組織に関する基礎理論と組織による意思決定 ・組織における3要素 ・コンフリクトへの対応（問題解決の施行と手順を考える） ・モチベーションと組織の活性化	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
6	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論②	集団の力学に関する基礎理論 ・集団とは何か ・集団力学（グループダイナミクス） ・チーム機能とチームアプローチ	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論③	リーダーシップに関する基礎理論 ・リーダーシップとは（機能と役割とは） ・代表的なリーダーシップ理論 ・フォロワーシップ理論 ・福祉サービスにおけるリーダーシップ/フォロワーシップ	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
8	福祉サービス提供組織の経営と実際①	経営体制 ・社会福祉法人の経営体制（理事会・評議会等の役割、経営戦略や事後湯計画、マーケティング等）	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
9	福祉サービス提供組織の経営と実際②	福祉サービスの提供組織のコンプライアンスとガバナンス ・コンプライアンス（社会的ルールの遵守、説明責任の遂行） ・ガバナンス（業務管理体制、内部管理体制の整備、権限委譲と責任のルール化）	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
10	福祉サービス提供組織の経営と実際③	適切な福祉サービスの経営管理 ・福祉経営の特質（品質とマネジメントシステム） ・福祉経営の理念と戦略、マーケティング（PDCAとSDCA管理サイクル） ・権利擁護と苦情解決体制、リスクマネジメント ・福祉サービスの質の向上と評価、サービスマネジメント	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
11	福祉サービス提供組織の経営と実際④	情報管理 ・福祉サービスの経営と運営の情報 ・福祉改革と情報の担う役割の拡大と福祉サービスの情報 ・福祉サービスの情報と管理、運用 （個人情報保護法、公益情報保護法、情報公開、パブリックリレーションズ）	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
12	福祉サービス提供組織の経営と実際⑤	会計管理と財務管理 ・財務管理、会計管理とは ・福祉サービスの財源 ・社会福祉法人の財務諸表財務諸表 財務諸表の理解と財務規律の強化、自主財源や寄付金と各種制度に基づく報酬について、資金調達とファンドレイジング、資金運用と利益管理について	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
13	福祉人材のマネジメント①	福祉人材のマネジメント ・福祉人材のマネジメントの基本（ ・人材確保と採用、配置と異動 ・報酬システム ・人材の評価(目標管理制度と人事考課・評価システム)	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
14	福祉人材のマネジメント②	福祉人材の育成 ・福祉人材育成の必要性 ・経営組織と人材育成（OJT,OFF-JT、SDS、スーパービジョン体制） ・キャリアパスの構築とキャリアアップ支援（職能別研修と階層別研修） ・働きやすい労働環境の整備 労働管理と労使関係管理（労働3法及び労働関係法令） 働きやすい労働環境の整備（メンタルヘルス対策、ハラスメント対策）	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30
15	まとめ 達成状況の確認	・レポートのフィードバックと授業の振り返り ・確認テスト実施	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	30

科目名	貧困に対する支援	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	後期			
授業概要	公的扶助は、現代社会が生み出す貧困・低所得者問題に対応する制度的な取り組みを指し、社会保障・社会福祉制度の最後のセーフティネットと位置付けられている。そこで、公的扶助の概念や意義と、生活保護制度や低所得者対策のしくみとその動向を学ぶとともに、貧困・低所得者に対する相談援助活動の実践を事例を通じて理解し、実践活動に役立てられるようにする。 課題に対するフィードバック方法 課題を返却し、コメントによるフィードバックを行う 位置づけ・水準 HW2363			
達成目標	【達成目標】 ①公的扶助の概念や意義は理解できたか。 ②生活保護制度や低所得者対策のしくみ、その動向を理解できたか。 ③貧困・低所得者に対する相談援助活動の実践を理解できたか。 【単位認定の最低基準】生活保護制度の実施体制と仕組みが7割理解できている。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】知識・理解、論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70％、課題30％。	
教科書	最新社会福祉士養成講座 4 「貧困に対する支援」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	生活保護を取り巻く社会の状況に関心を持ってください。 予習・復習を心掛けて下さい。			
オフィスタイム	木曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4F、No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 公的扶助の概念（1）	授業の概略の説明 国家試験の出題実績について解説 公的扶助の概念と範囲	・テキストで低所得者支援の概略を確認する	40
2	公的扶助の概念（2） 貧困の概念	公的扶助の意義と役割 貧困の概念について調べた内容を発表し、ディスカッションを行う	・貧困の概念について調べる	30
3	貧困状態にある人の生活実態と これを取り巻く社会環境	貧困状態にある人の生活実態 貧困状態にある人を取り巻く社会環境	・「家庭の生活実態及び生活意識に関する調査」を閲覧し、テキストで取り上げていない項目について調べる	60
4	貧困の歴史	貧困状態にある人に対する福祉の理念 貧困観の変遷 貧困に対する制度の発展過程	・時代によって変化した貧困の概念を調べる	60
5	生活保護制度（1）	生活保護制度の原理・原則 保護の種類と内容および方法	・生活保護制度の原理・原則を調べる	60
6	生活保護制度（2）	被保護者の権利および義務について理解する	・現在の生活保護基準額を調べる	60
7	生活保護の動向	保護率、被保護人員及び被保護世帯の動向について学ぶ 保護の開始、廃止の動向	・生活保護制度を利用している被保護世帯の動向について調べる	60
8	低所得者に対する法制度（1）	生活困窮者自立支援法に基づく各事業の概要を学ぶ	・生活困窮者の抱える複合的な課題について調べる	60
9	低所得者に対する法制度（2）	生活福祉資金貸付制度 低所得者対策	・自分の住む地域の低所得者対策を調べる	40
10	ホームレス対策	ホームレスの生活実態とホームレス自立支援法	・自分の住む地域のホームレスの実態やどのような対策が取られているかを調べる。	50
11	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割（1）	公私の役割関係 国、都道府県、市町村の役割	・自分の住む地域の貧困対策の実施体制について調べる	50
12	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割（2）	福祉事務所の役割 自立相談支援機関の役割	・自分の住む市町村の福祉事務所の業務を調べる	50
13	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割（3）	関係機関の役割 関連する専門職の役割	・貧困状態にある子どもが学校等で発見された場合、どのような支援が行われているか調べる	40
14	貧困に対する支援の実践（1）	貧困に対する支援と社会福祉士の役割を学ぶ テキストの事例についてディスカッションを行う	・テキストの事例を予習する	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	貧困に対する支援の実際（2）	支援に必要とされる視点と基本姿勢 生活保護における相談援助活動の枠組み	・事例を読み、社会福祉士の支援の視点を考える	30

科目名	権利擁護を支える法制度	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択	
担当教員	鈴木 康元			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する 〔授業全体の内容の概要〕 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する 〔授業全体の内容の概要〕 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解			
受講資格	人間生活学科福祉コース 3 年	成績評価 方法	ペーパーテスト(80%)と出席状況(20%)	
教科書	その都度指定する 配付資料			
参考書	その都度指定する 配付資料			
学生への要望	積極的に授業に臨むこと			
オフィスタイム	授業開始前：創学館 2 階教務部非常勤講師室 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	1 高齢者・障害者の人権と権利擁護	高齢者・障害者の人権と権利擁護	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	2 意思能力とは何か（民法の理解を含む）	意思能力とは何か（民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	3 相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	4 相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	5 成年後見制度とは何か（基本理解）	成年後見制度とは何か（基本理解）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	6 成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	7 日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	8 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	9 権利擁護活動の実際	権利擁護活動の実際	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	10 刑事司法、少年法の基本理解	刑事司法、少年法の基本理解	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	11 更生保護制度の概要（その必要性）	更生保護制度の概要（その必要性）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	12 更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	13 更生保護制度における関連機関・団体との連携	更生保護制度における関連機関・団体との連携	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	14 医療観察制度の概要	医療観察制度の概要	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	15 更生保護における近年の動向と課題	更生保護における近年の動向と課題	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間

科目名	刑事司法と福祉	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択	
担当教員	鈴木 康元			
開講期	後期			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 刑事司法とは何かを把握したうえで更生保護制度について理解する。 刑事司法と福祉としての更生保護制度の関連について理解する。 [授業全体の内容の概要] 刑法、刑事訴訟法の基本知識を教え、更生保護制度について理解してもらう。 刑法、刑事訴訟法の概要を教え、更生法制度の実態も理解してもらう。 ○実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。 ○実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。 位置づけ・水準 DW2375			
達成目標	[授業修了時の達成課題（到達目標）] 刑事司法、更生保護制度の概要の理解			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	ペーパーテスト(80%)と出席状況(20%)	
教科書	その都度指定する			
参考書	その都度指定する			
学生への要望				
オフィスタイム	授業前後、非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	刑事司法と福祉	ソーシャルワーカーがかかわる異議		0
2	社会と犯罪	犯罪とは何か、日本の犯罪の特徴		0
3	犯罪原因論と対策	犯罪原因論の意義と犯罪対策		0
4	刑罰とは何か	刑罰制度の歴史、現行の種類		0
5	刑事司法	刑事手続の概要、犯罪の成立要件		0
6	少年司法	少年保護手続の流れ		0
7	施設内処遇①成人	矯正処遇の現状と支援のあり方		0
8	施設内処遇②少年	少年に対する施設内処遇の特徴と支援のあり方		0
9	更生保護の理念と概要	更生保護の意義と制度の内容		0
10	更生保護の実践	保護観察、仮釈放、関係機関のネットワーク		0
11	医療観察制度	医療観察制度の概要と社会復帰調整官の役割		0
12	高齢者・障害者による犯罪	犯罪のあった高齢者・障害者への支援の実践と課題		0
13	アディクションを抱える人と刑事司法	アディクションの意義と刑事司法における対応		0
14	犯罪被害者等支援	犯罪被害者支援の制度と実践		0
15	コミュニティと刑事司法	刑事司法と市民参加、対話の重要性		0

科目名	ソーシャルワーク演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択
担当教員	島野 光正,近内 直美		
開講期	前期		
授業概要	本学科は「ソーシャルワーク実習」を行うための準備として位置づけられ、これまでの様々なカリキュラムで学習したソーシャルワークの専門性を構成する価値・知識・技術を総合的・包括的に用いる能力（コンピテンシー）を獲得できるように、事例を元に個人やグループでの演習を通じて体系的に学習します。 授業担当回数 島野：第 1回～第16回 近内：第17回～第30回 近内直美 地域包括支援センターでの社会福祉士の経験を活かし、実践に結びつく授業を行う。 実務経験：地域包括支援センター（所長・社会福祉士） 島野光正 地域包括支援センターでの社会福祉士、及び在宅医療・介護連携支援センターでのソーシャルワークの経験を活かし事例に基づいた実践と今日的なソーシャルワークの展開に結びつく授業を行う。 実務経験：地域包括支援センター（管理者・社会福祉士・主任介護支援専門員）、在宅医療・介護連携支援センター（所長・社会福祉士） 位置づけ・水準 DW2376		
達成目標	①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 ④ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。 <ソーシャルワーク実習前に行うこと> 個別指導並びに集団指導を通して、実技指導 単位認定の最低基準：内容の8割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	演習への参加70％、課題30％
教科書	最新 社会福祉士養成講座13 ソーシャルワーク演習〔共通科目〕 中央法規		
参考書	「事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク」川村隆彦著・中央法規		
学生への要望	本科目は講義だけではなく、学生の演習への参加がポイントです。学んだ知識をソーシャルワーカーの価値を基盤にどのように実践し、クライアントや社会のウェルビーイングを実現していくのか、そのために何を学習する必要があるのか考えながら参加して下さい。		
オフィスタイム	火曜日Ⅳ限・水曜日4限 創学館4階 No.3研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ソーシャルワーク演習の意義と目的	・社会福祉士・精神保健福祉士・ソーシャルワーカーの業務と役割 ・ソーシャルワーク演習とは	事前にテキストを読み、分からない文言があれば調べる。講義のまとめ。	30
2	ソーシャルワーク演習の意義と目的2	・ソーシャルワーク演習を通じて学ぶこと ・ソーシャルワーク演習の目標 ・ソーシャルワーク演習のねらい	テキストを読み、分からない言葉があれば調べる。 「ソーシャルワークの基盤と専門職」のテキストの再確認	30
3	人と環境の交互作用1	・演習のねらいと演習 ・人間理解の視点～生活モデル	事前にテキストを読み、分からない語句は調べる。事例について考える。	30
4	人と環境の交互作用2	・演習のねらいと演習 ・社会システムの視点から人と環境の交互作用を理解する ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルによる理解	事前にテキストを読み、分からない語句は調べる。事例について考える。	30
5	人と環境の相互作用3	自己理解と他者理解 ・演習	事前にテキストを読み、分からない語句は調べる。事例について考える。	30
6	人と環境の交互作用4	援助者としての自己の理解 ・演習のねらいと演習	事前に教科書を読み、演習について考えてくる。	30
7	ソーシャルワークの対象、機能と役割	ソーシャルワークの対象 ・演習のねらいとポイント ・演習	事前にテキストを読み、演習課題について考えてくる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	ソーシャルワークの対象、機能と役割2	ソーシャルワークの価値基準および倫理、理念 ・演習のねらいとポイント ・演習課題1—個人的な価値観と専門職としての価値観 ・演習課題2—ソーシャルワークにおける倫理	事前にテキストを読み、課題について考えてみる。	30
9	ソーシャルワークの対象、機能と役割3	ソーシャルワークの価値基準および倫理、理念 ・演習のねらいとポイント ・演習課題3—倫理的ジレンマ ・演習課題4—ソーシャルワークの理念、原理・原則	事前にテキストを読み、演習課題について考える。	30
10	コミュニケーション技術と面接技術	コミュニケーション技術 ・演習のねらいとポイント ・ソーシャルワークにおけるクライアントとの基本的なかわりの特質	事前にテキストを読んで演習について考える。	30
11	コミュニケーション技術と面接技術2	コミュニケーション技術 ・演習のねらいとポイント ・ソーシャルワークにおけるコミュニケーション	前回の復習と事前にテキストを読んでおく。	30
12	コミュニケーション技術と面接技術3	面接技術1 ・演習のねらいとポイント ・面接の構造化	テキスト（pp.12～16）のコンピテンシーについて再度確認しておく。	30
13	コミュニケーションと面接技術4	面接技術2 ・演習のねらいとポイント ・面接場所（環境）	事前にテキストを読んでおく。	30
14	コミュニケーション技術と面接技術5	面接技術3 ・演習のねらいとポイント ・面接技術—言語的表現（バーバルコミュニケーション）	演習内容の振り返り	30
15	コミュニケーション技術と面接技術	面接技術4 ・演習のねらいとポイント ・面接技術—言語的表現（バーバルコミュニケーション） ・ツールの活用について ・まとめ	演習課題の振り返り。	30
16	コミュニケーション技術と面接技術	・コミュニケーション技術と面接技術のまとめ	前半の講義、演習内容の振り返り。	30
17	ソーシャルワークの展開過程と関連技法	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）1 ・演習のねらいとポイント ・事例による演習	テキストの事例を読んで課題を考える。	30
18	ソーシャルワークの展開過程と関連技法	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）2 ・事例による演習 ・まとめ	演習の振り返り	30
19	ソーシャルワークの展開過程と関連技法	アセスメント1 ・演習のねらいとポイント ・事例を元に演習	事前にテキストを読んで課題について考えておく。	30
20	ソーシャルワークの展開過程と関連技法	アセスメント2 ・事例による演習 ・解説とまとめ	事例に振り返り	30
21	ソーシャルワークの展開過程と関連技法	プランニング ・演習のねらいとポイント ・事例による演習	事前にテキストを読んでおく。	30
22	ソーシャルワークの展開過程と関連技法	プランニング2 ・事例による演習 ・解説とまとめ	事例の振り返り	30
23	ソーシャルワークの展開過程と関連技法	支援の実施とモニタリング ・演習のねらいとポイント ・事例を元に演習	事前にテキストを読み込んでおく。	30
24	ソーシャルワークの展開過程と関連技法	支援の実施とモニタリング2 ・事例を元に演習 ・解説とまとめ	事例の振り返り。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	ソーシャルワークの展開過程と 関連技法	支援の終結と結果評価、アフターケア ・ 演習のねらいとポイント ・ 事例を元に演習	事前にテキストを読み込んでおく。	30
26	ソーシャルワークの展開過程と 関連技法	支援の終結と結果評価、アフターケア2 ・ 事例を元に演習 ・ 解説とまとめ	・ 演習の振り返り	30
27	ソーシャルワーク実習後の演習	事例検討、事例研究1 ・ 事例検討と事例研究の違い ・ 演習のねらいとポイント ・ 事例を元に演習	事前にテキストを読み込んでおく	30
28	ソーシャルワーク実習後の演習	事例検討、事例研究2 ・ 事例検討 ・ 事例研究 ・ 振り返りとまとめ	演習の振り返り。	30
29	ソーシャルワーク実習後の演習	スーパービジョン1 ・ 演習のねらいとポイント ・ 演習	事前にテキストを読み込んでおく。実習中 のスーパービジョンを振り返る。	30
30	ソーシャルワーク実習後の演習	スーパービジョン2 ・ 演習 ・ 解説とまとめ	演習の振り返り。実習中のスーパービジョ ンを振り返る。	30

科目名	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択
担当教員	島野 光正		
開講期	後期		
授業概要	本科目はこれまでの様々な科目で学習したソーシャルワークの専門性を構成する価値・知識・技術を総合的・包括的に用いる能力（コンピテンシー）を獲得できるように、事例を元に個人やグループでの演習を通じて体系的に学習します。また地域共生社会の実現を目指し、利用者や地域住民、他の専門職・他機関と協働する力の獲得と発揮に向けて、様々な事例を活用し学びます。そしてソーシャルワーク専門職には社会的に求められている役割や機能がありますが、それらも事例を通じて学び、前期で学んだことをさらに深めていきます。 授業担当回数　島野：第 1回～第16回 近内：第17回～第30回 近内直美 地域包括支援センターでの社会福祉士の経験を活かし、実践に結びつく授業を行う。 実務経験：地域包括支援センター（所長・社会福祉士） 島野光正 地域包括支援センターでの社会福祉士、及び在宅医療・介護連携支援センターでのソーシャルワークの経験を活かし事例に基づいた実践と今日的なソーシャルワークの展開に結びつく授業を行う。 実務経験：地域包括支援センター（管理者・社会福祉士・主任介護支援専門員）、在宅医療・介護連携支援センター（所長・社会福祉士） 位置づけ・水準　DW2377		
達成目標	①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 ②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 ③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 ⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 ⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 ⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 個別指導並びに集団指導を通して、実技指導 単位認定の最低基準：内容の8割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科社会福祉専攻	成績評価 方法	演習への参加70％、課題30％
教科書	最新　社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習〔社会専門〕　中央法規		
参考書	「事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク」川村隆彦著・中央法規 他適宜指示する		
学生への要望	本科目は講義だけではなく、学生の演習への参加がポイントです。前期で学んだことを振り返り、さらに深め学んだ知識をソーシャルワーカーの価値を基盤にどのように実践し、クライアントや社会のウェルビーイングを実現していくのか、そのために何を学習する必要があるのか考えながら参加して下さい。		
オフィスタイム	火曜日Ⅳ限・水曜日4限 創学館4階　No.3研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ソーシャルワーク演習の意義と目的（1）	社会福祉士養成における演習の意義と目的 ・社会福祉士養成における演習の意義と目的 ・「地域を基盤としたソーシャルワーク」の展開	事前にテキストを読み、分からない文言があれば調べる。テキスト「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習〔共通科目〕」で学んだことの再確認。	30
2	ソーシャルワーク演習の意義と目的（2）	社会福祉士養成における演習の意義と目的 ・「ソーシャルワーク演習（専門）」のねらい	テキストを読み、分からない文言があれば調べる。 「ソーシャルワークの基盤と専門職」のテキストの再確認 ・模擬的体験学習とはどのような意味と意義があるか考えて調べる。	30
3	ソーシャルワーク演習の意義と目的（3）	ソーシャルワーク演習〔社会専門〕の目標 ・コンピテンシーを基盤とした教育・学習 ・コンピテンシーを修得することの意義 ・社会福祉士として修得したいコンピテンシー	事前にテキストを読み、分からない文言は調べる。 テキスト「ソーシャルワークのコンピテンシー」について読み込んでくる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	ソーシャルワーク演習の意義と目的（４）	ソーシャルワーク演習〔社会専門〕の目標 ・「専門性の核」となるもの	事前にテキストを読み、分からない文言は調べる。講義の振り返りとまとめ。	30
5	ソーシャルワーク演習の意義と目的（５）	ソーシャルワーク演習〔社会専門〕の内容 ・アクティブ・ラーニングを目指した事例演習 ・実践力の習得のために（１）	事前にテキストを読み込んでくる。	30
6	ソーシャルワーク演習の意義と目的（６）	ソーシャルワーク演習〔社会専門〕の内容 ・実践力の習得のために（２）	事前にテキストを読み込んでおく。授業のまとめと復習。	30
7	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（１）	演習のねらいと事例の基本情報 ・演習のねらい（１） ・事例から何を学ぶのか	事前にテキストを読み、演習課題について考えてくる。演習後のまとめと振り返り。	30
8	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（２）	演習のねらいと事例の基本情報 ・演習のねらい（２） ・事例の展開と社会福祉士のアクション（活動）	演習後のまとめと振り返り。	30
9	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（３）	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク） ・事例の課題認識（１） ・演習課題 ・ミニレクチャー	事前にテキストの事例を読み込んでくる。演習後のまとめと振り返り。	30
10	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（４）	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク） ・事例の課題認識（２） ・演習課題 ・ミニレクチャー	事前にテキストの事例を読み込んでくる、演習後のまとめと振り返り。	30
11	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（５）	アセスメント ・事例の課題認識 ・事例の読み込み	事前にテキストの事例を読み込んでくる。アセスメントに必要な知識について考える。振り返りとまとめ。	30
12	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（６）	アセスメント ・事例の課題認識 ・事例の読み込み（２） ・演習課題（１）	事例の読み込みと課題の検討。振り返りとまとめ。	30
13	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（７）	アセスメント ・事例の課題認識 ・演習課題（２）	事例の読み込み。演習内容の振り返りとまとめ。	30
14	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（８）	アセスメント ・演習課題（３） ・ミニレクチャー ・アセスメントまとめ	演習の振り返りとまとめ。	30
15	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（９）	プランニング ・事例の課題認識（１）	事前にテキストの事例の読み込みとプランニングについて考えて見る。	30
16	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（１０）	プランニング ・演習の課題認識（２）	事例の読み込みと課題の検討。演習の振り返りとまとめ。	30
17	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（１１）	プランニング ・演習課題（１）	課題について考える。演習の振り返りとまとめ。	30
18	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（１２）	プランニング ・演習課題（２）	テキストの事例を読んで課題を考える。演習の振り返りとまとめ。	30
19	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（１３）	アセスメント ・演習課題（２）	テキストの事例を読んで課題を考える。演習後は振り返りとまとめ。	30
20	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（１４）	アセスメント ・ミニレクチャー ・アセスメントまとめ	テキストの事例を読んで課題を考える。演習後は振り返りとまとめ。	30
21	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（１５）	支援の実施とモニタリング ・事例の課題認識（１）	事前に事例について読み込んでくる。演習の振り返りとまとめ。	30
22	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）（１６）	支援の実施とモニタリング ・事例の課題認識（２） ・演習課題（１）	テキストの事例を読んで課題を考える。演習後は振り返りとまとめ。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	ソーシャルワークの展開過程と 社会福祉士のアクション（活動）（17）	支援の実施とモニタリング ・演習課題（2）	テキストの事例を読んで課題を考える。演習後は振り返りとまとめ。	30
24	ソーシャルワークの展開過程と 社会福祉士のアクション（活動）（18）	支援の実施とモニタリング ・ミニレクチャー ・支援の実施とモニタリングまとめ	演習後の振り返りとまとめ。アセスメントからプランニング、支援の実施までの流れを再度振り返りソーシャルワーカーの立ち位置についてまとめる。	30
25	ソーシャルワークの展開過程と 社会福祉士のアクション（活動）（19）	支援の終結と結果評価、アフターケア ・事例の課題認識 ・演習課題（1）	テキストの事例を読んで課題を考える。演習後は振り返りとまとめを行う。	30
26	ソーシャルワークの展開過程と 社会福祉士のアクション（活動）（20）	支援の終結と結果評価、アフターケア ・演習課題（2） ・ミニレクチャー ・支援の終結と結果評価、アフターケアまとめ	演習後の振り返りとまとめ。	30
27	ソーシャルワークの展開過程と 社会福祉士のアクション（活動）（21）	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー ・ソーシャルワークの展開過程とソーシャルワークのコンピテンシー ・演習課題（1）	ソーシャルワークのコンピテンシーについて調べてくる。演習課題について考えてくる。	30
28	ソーシャルワークの展開過程と 社会福祉士のアクション（活動）（22）	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー ・演習課題（2）	演習後の振り返りとまとめ	30
29	ソーシャルワークの展開過程と 社会福祉士のアクション（活動）（23）	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー ・ミニレクチャー（1）	演習の振り返りとまとめ。	30
30	ソーシャルワークの展開過程と 社会福祉士のアクション（活動）（24）	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー ・ミニレクチャー（2） ・前期のまとめ	ソーシャルワークの展開過程においてどのようなコンピテンシーが発揮され、必要とされたのか振り返りまとめる。自分自身が十分に理解したこと、十分ではないところについて考える。学びを実践に結びつけるには何が必要かを考える。	30

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 1単位 選択
担当教員	近内 直美,島野 光正,熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	授業の概要：ソーシャルワーク実習の意義について理解し、社会福祉士としての役割や倫理を学び、専門職が必要とする知識や技術の必要性を理解し、活用できるようにする。 授業の目的・ねらい：実習分野と施設・事業者・機関基本的の機能や役割を学ぶ。また、実習先の相談援助で必要とされる知識と技術が活用できるよう施設等における社会福祉士の機能と役割を学ぶ。 授業の担当：近内が第1回～第3回、第6回～8回、島野が第4回～第5回、第12回～第15回、熊田・近内と島野の3名で9～10回を行う。 ・グループワークや実習先施設についての発表を行う等双方向性の授業を適宜行う。 近内が地域包括支援センターでの相談業務の経験を活かし、社会福祉士の役割や専門性、社会福祉士の働く機関の実際について授業を行う。 実務経験 地域包括支援センターへ社会福祉士として勤務、相談業務にあたる。 島野が地域包括支援センターでの相談援助の経験、及び在宅医療・介護連携支援センターでのソーシャルワークの経験を活かし実習機関におけるソーシャルワークの展開及びソーシャルワークの根底にある倫理と価値について授業を行う。 実務経験：地域包括支援センターでの社会福祉士、在宅医療・介護連携支援センターでのソーシャルワーカーとしての業務を行う。 課題に対するフィードバックの方法 ・レポート・課題を添削・返却し、コメントによるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2379			
達成目標	①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 ④実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 単位認定の最低基準：実習前に、実習を行う分野・利用者について7割が理解できている。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科 社会福祉士課程履修登録者		成績評価 方法	課題50%、演習50%
教科書	8最新 社会福祉士養成講座「ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習」 (社会専門) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規			
参考書	適宜紹介します			
学生への要望	ソーシャルワーク専門職養成における実習および実習指導の意義を理解してください。			
オフィスタイム	熊田 火曜日Ⅰ・Ⅱ時限 近内 水曜日Ⅰ・Ⅱ時限 島野 木曜日Ⅰ・Ⅱ時限	創学館4F、No.6研究室 創学館4F、No.6研究室 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 近内	・ 授業概要の説明 ・ 社会福祉士の役割・資格・働く領域 ・ 講義－演習－実習の循環	・ 社会福祉士が働く場を調べる ・ 社会福祉士の専門性について予習する	30
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造（1） 近内	・ 実習及び実習指導の意義と目的 ・ 実習におけるスーパービジョン	・ テキストの「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導」の目的および教育内容を読んでおく	30
3	ソーシャルワーク実習の目的と構造（2） 近内	・ 実習における教育評価 ・ 実習の構造	・ 相談援助実習ガイドラインに目を通しておく	30
4	ソーシャルワーク実習の目的と構造（3） 島野	・ 実習におけるリスクマネジメント ・ 日本社会福祉士会の倫理綱領 ・ 社会福祉士の行動規範	・ 実習に関連したリスクについて調べ、文章にまとめておく	30
5	ソーシャルワーク実習の目的と構造（4） 島野	・ ソーシャルワークの知識・技術の理解	・ テキストで授業内容を確認する ・ 授業の内容を整理する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	実習先決定後の事前学習① 近内	・ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解 ・実習決定後の学習の内容及方法 ・実習先機関・施設、地域の理解	・テキスト p.75 ソーシャルワーク実習施設・機関一覧に目を通しておく	30
7	実習先決定後の事前学習② 近内	・実習決定後の学習の内容及方法 ・実習先機関・施設、地域の理解 ・発表	・実習施設・機関について情報収集を行う ・利用者の特徴を調べる ・発表内容をまとめる	30
8	実習先決定後の事前学習③ 近内	・実習先機関・施設で関わる他の専門職や業務に関する理解 ・発表	・発表内容をまとめる	90
9	実習計画書の作成① 熊田・近内・島野	・実習目標と課題の設定 ・実習個人調書・実習計画書の作成	・自己の実習目標を立てる ・ガイドラインを参考に実習計画書を作成する	90
10	実習計画書の作成② 熊田・近内・島野	・実習計画書の作成と提出 (実習種別によるグループディスカッション)	・指導内容を実習計画書に反映させる	60
11	事前訪問・事前打ち合わせ 近内	・事前訪問/事前打ち合わせの意義と内容	・テキストで事前訪問、事前打ち合わせで扱われる内容を確認する	30
12	実習中の学習 島野	・実習スーパービジョン ・実習中の評価 ・実習中に直面する悩み ・実習中に起こり得る問題（プライバシーの保護と守秘義務の理解）	・テキストで授業内容を確認する ・授業の内容を整理する	30
13	実習中の学習 島野	・利用者やその関係者、施設・事業者等との人間関係の形成 ・多職種連携及びチームアプローチ	・社会福祉士が連携する専門職とその役割を調べる	60
14	実習の実際 島野	・利用者との援助関係の形成と権利擁護活動 ・他職種との連携と円滑なコミュニケーションの形成 ・実習前確認事項の振り返り	・実習生個人調書の作成 ・事前訪問する際の質問項目等を作成する	60
15	実習後の学習 まとめ 島野	・実習後に行う評価 ・事後学習の目的と方法 ・レポートについてのフィードバック	・実習を行うにあたり、ソーシャルワーカーとして実習の目的、意義を復習する ・スーパービジョンの受け方を復習する	45

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 1単位 選択	
担当教員	近内 直美			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ・相談援助実習の意義や目的を理解し、社会福祉士の倫理や価値、知識、技術を実践に活用できる。 ・実習体験を通して、大学の講義で学んだソーシャルワークの価値・知識・技術がどのように現場実践で活かされているのかを振り返り、行動の根拠を学ぶ。 〔授業全体の内容の概要〕 ・体験した相談援助実習からソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術がどのように現場実践で展開されているか抽出を行いながら発表や意見交換を行う。 ・他の学生の実習体験も学びながら、それぞれ違う施設であっても共通の価値や技術を元に社会福祉士が業務を行っていることを学ぶ。 ・また実習体験を振り返りながら、あらためて実習計画を立て直し、職場・職種・ソーシャルワーク実習の三段階実習の形に組み立て直す。 ・上記を通じて社会福祉士としての必要な価値・知識・技術について体験的に理解することを目指す。 授業担当：近内が第1回～第4回、島野が第9回～15回、熊田・近内・島野の3名で第2回～第3回を行う ・近内が地域包括支援センターでの相談業務の経験を活かし、社会福祉士の役割や専門性についてスーパービジョンを意識した授業を行う。 実務経験：郡山中央地域包括支援センター 島野が地域包括支援センターでの相談援助業務、及び在宅医療・介護連携支援センターでのソーシャルワークの経験を活かし社会福祉士としての専門的な知識と技術、価値を意識した実践についての授業を行う。 実務経験：片平・喜久田地域包括支援センター（社会福祉士・主任介護支援専門員）、郡山市在宅医療・介護連携支援センター所長・社会福祉士 課題に対するフィードバックの方法：レポートについて、最終授業にコメントによるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2380			
達成目標	【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づき専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 ④実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 単位認定の最低基準：実習先の相談援助で必要とされる知識と技術の活用方法について7割は理解している。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	社会福祉士課程履修登録者		成績評価 方法	演習(20点)とレポート(80点)による100点
教科書	8最新社会福祉士養成講座 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[社会専門] 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	自己の相談援助実習の振り返りがしっかりとできていること。			
オフィスタイム	熊田 木曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4F No.6研究室 近内 水曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4F No.6研究室 島野 金曜日Ⅰ・Ⅱ時限 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	実習後の学習 近内	・実習後に行う評価 ・自己評価、他者評価	相談援助実習の評価項目について自己評価を行う	40
2	実習成果の報告① 近内・島野	・現場体験学習や見学学習等実習の振り返りと発表（スーパービジョンを受けての学びも含む）。 ・ディスカッション	相談援助実習Ⅰ・Ⅱの報告書をまとめる 実習日誌の提出	50
3	実習成果の報告② 近内・島野	・現場体験学習や見学学習等実習の振り返りと発表（スーパービジョンを受けての学びも含む）。 ・ディスカッション	相談援助実習Ⅰ・Ⅱの報告書をまとめる 実習日誌の提出	50
4	実習先施設他職種の役割 近内	・実習先施設における他職種の役割と実際 ・ディスカッション	実習先施設他職種の種類と担っている役割や機能をまとめる	50
5	実習施設・機関が地域社会の中で果たす役割の理解 近内	・域社会の中で果たす役割を学ぶ意義 ・ディスカッション	項目について自己の実習体験をまとめる 他者の発表から学んだことをまとめる	50

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	実習施設・機関が持つ地域社会への役割 近内	・実習施設・機関が地域社会の中で果たす具体的な地域社会への働きかけ ・ディスカッション	項目について自己の実習体験をまとめる 他者の発表から学んだことをまとめる	60
7	地域における社会資源の活用・調整・開発① 近内	・実習先施設による地域における社会資源の活用・調整・開発 ・ディスカッション	項目について自己の実習体験をまとめる 他者の発表から学んだことをまとめる	30
8	地域における社会資源の活用・調整・開発② 近内	・地域課題と地域における社会資源の活用・調整・開発を行う意義 ・ディスカッション	項目について自己の実習体験をまとめる 他者の発表から学んだことをまとめる	30
9	社会福祉士の役割 島野	・実習先施設や機関における社会福祉士の役割 ・ディスカッション	項目について自己の実習体験をまとめる 他者の発表から学んだことをまとめる	30
10	施設における社会福祉士の役割を学ぶ 島野	・実習先施設における社会福祉士の価値規範と倫理・知識・技術に関する実際について ・ディスカッション	実習で迷った経験や指導者の対応から学んだことをまとめる。	60
11	施設における守秘義務について 島野	・個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 ・ディスカッション	各自の実習先施設における相談員の役割をまとめる	50
12	施設虐待について 島野	実習先で関わる他職種の専門性や業務に関しての理解について ・ディスカッション	守秘義務。プライバシーの保護についてまとめる	60
13	実習の記録作成の理解 島野	・実習記録の記録内容及び記録方法 ・記録の意義	虐待防止法のポイントをまとめる	40
14	社会福祉士に求められる価値・知識・技術を振り返る① 島野	・リスクマネジメントとは ・リスクマネジメントを事例から学ぶ ・ディスカッション	虐待事例をまとめ、虐待が発生する理由、予防、対応等をまとめる	40
15	社会福祉士に求められる価値・知識・技術を振り返る② 島野	・施設における相談員の支援を事例から学ぶ ・ディスカッション ・レポートのコメント等フィードバックを行う	リスクマネジメントの意味をまとめる	60

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 3単位 選択	
担当教員	近内 直美,島野 光正			
開講期	前期			
授業概要	・現場体験を通して、社会福祉専門職の基盤となる価値や倫理を学び、ソーシャルワークに係る知識や技術を実践で活用できるよう基礎的な能力を修得する。 ・指導者との質疑応答を通じて社会福祉援助に必要な資質・能力・技術を習得する。 ・実習期間中は、1週間に1回以上、巡回教員が巡回を実施し、実習内容についての報告、質疑応答及びスーパービジョンなどを行い、双方向性の巡回指導を行う。 課題に対するフィードバックの方法 ・実習日誌、実習報告書を添削・返却し、コメントによるフィードバックを行う。 ・近内が地域包括支援センターでの相談業務の経験を活かし、実践力を養う授業を行う。 実務経験：郡山中央地域地域包括支援センター ・島野が地域包括支援センター及び在宅医療・介護連携支援センターでのソーシャルワークの経験を活かし、倫理と価値に基づいたソーシャルワーク実践について理解し実践できる力を養う。 実務経験：地域包括支援センター社会福祉士、在宅医療・介護連携支援センター所長・社会福祉士 位置づけ・水準 DW2382			
達成目標	①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 ④実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 単位認定の最低基準：実習計画の7割が達成できている。さらに、実習先の評価で1（達成できなかった）がないこと。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科 社会福祉士課程履修者		成績評価 方法	実習施設の評価60％ 巡回時の面談10％、実習日誌・実習報告書30％
教科書	最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 中央法規			
参考書	特になし			
学生への要望	・実習には明確な目的を持って臨むこと。 ・十分な事前学習の上で実習に臨むこと。			
オフィスタイム	・近内 月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限 創学館4階 No.6研究室 ・島野 月曜日Ⅰ・Ⅱ時限 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	現場実習	・社会福祉士の役割・資格・働く領域について見学や体験する ・社会福祉士の職業倫理や組織の中での役割について知る	・オリエンテーション時に必要な書類等を確認する	20
2	現場実習	・実習施設・事業・機関の目的と機能を理解する ・施設における社会福祉士の役割や業務の内容について学	・講義の内容をまとめる	50
3	現場実習	・実習施設・事業・機関の概要を理解する ・利用者や関係機関等とのコミュニケーション、ネゴシエーションについて 理解 する	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
4	現場実習	・利用者の概況を理解しその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成について知る	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
5	現場実習	・社会福祉士の価値規範と倫理・知識及び技術について理解する ・職員の職種、役割を理解する	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
6	現場実習	・関係機関、関係施設などとの連携や関連施設見学などを行い他職種の専門性や業務について理解する ・施設の管理運営の実際について学ぶ	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
7	現場実習	・実習計画書の現場での再検討と具体的な内容を考える ・実習におけるプライバシーの保護と守秘義務等を理解する	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	現場実習	・現場が抱えている課題について、実習生としての課題意識を深める	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
9	現場実習	・現場が抱えている課題や方向性、実習生としての課題意識を深める	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
10	現場実習 巡回指導 近内・島野	・実習生、実習担当教員、実習先指導者と3者により、実習計画の進捗状況、実習中の評価など確認、協議する ・巡回教員の助言及びスーパービジョンを受ける	・実習を振り返り質問等を整理しておく。 助言内容をまとめる	60
11	現場実習	・実地調査への同行訪問により利用者や地域の課題を理解し、支援計画や評価について学ぶ	・同行訪問を通し、学んだことをまとめる	60
12	現場実習	・カンファレンス等へ同席し多職種連携やチームアプローチの実践を理解する	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
13	現場実習	・施設に関連する法制度や社会資源の活用や調整、開発、アウトリーチやネットワーキング、ソーシャルアクション等について学ぶ	・実習施設種別に関連する法制度を調べる	70
14	現場実習	・実習施設が地域に果たす役割を知り、地域住民への働きかけの取り組みについて説明を受け、コーディネーション、ファシリテーション、プレゼンテーションについて学ぶ	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
15	現場実習	・実習体験や実習記録を踏まえた課題整理と実習総括のレポートの作成 ・達成課題について評価する	・次回の実習の課題を明確にする	90

科目名	介護福祉概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	廣野 正子			
開講期	前期			
授業概要	介護福祉概論では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援などに関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。 実務経歴：特別養護老人ホームにおいて介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2103			
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 ①介護の意義を理解し、介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉えることができるか。 ② 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できたか。 ③地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。 単位認定の最低基準：介護福祉の意義と倫理について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	筆記試験 70% 課題30%	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護の基本Ⅰ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	介護を実践する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。			
オフィスタイム	・火曜日 V時限 ・水曜日 I時限 創学館 4 階 No.2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	介護の基本Ⅰの学び方 シラバスの説明 介護福祉士・社会福祉士としての実践 DVD「福祉の現場から」	DVDを参考に、将来像についてまとめる	30
2	介護福祉を取り巻く状況	介護の成り立ち 1) 介護の成り立ち	「介護」に対してのイメージについてまとめる	30
3	介護福祉を取り巻く状況	介護の成り立ち 2) 介護福祉を取り巻く状況	演習1-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
4	介護福祉の歴史	演習1-1について発表、グループディスカッション 介護福祉の歴史 1) 老人福祉法の制定にいたるまでの社会福祉政策 2) 1970年代一介護サービスの量的拡充	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉の歴史	1970年代の家庭における介護（認知症高齢者）の実際 『恍惚の人』を鑑賞	『恍惚の人』から家庭における介護について考察する	30
6	介護福祉の歴史	介護福祉の歴史 3) 1980年代一介護サービスの質的向上 4) 1990年代一今日の介護実践における基本的な概念	授業の中で指示されたことをまとめる	60
7	介護福祉の歴史	介護福祉の歴史 5) 2000年以降一今日の介護サービスの基本的枠組み p45身体拘束を考える（DVD）	授業の中で指示されたことをまとめる	30
8	介護福祉の基本理念	介護福祉の基本理念 1) 介護福祉の理念 2) 尊厳を支える介護	授業の中で指示されたことをまとめる	60
9	介護福祉の基本理念	介護福祉の基本理念 3) 自立を支える介護	授業の中で指示されたことをまとめる	60
10	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法 1) 社会福祉士及び介護福祉士法 2) 社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	授業の中で指示されたことをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割 1) 地域包括ケアシステム 2) 介護予防	授業の中で指示されたことをまとめる	30
12	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割 3) 医療的ケア 4) 人生の最終段階の支援 5) 災害時の支援	授業の中で指示されたことをまとめる	30
13	介護福祉士の役割と機能	演習2-1について発表 事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】	授業の中で指示されたことをまとめる	30
14	介護福祉士の役割と機能	事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】 本人、家族の視点から考える	授業の中で指示されたことをまとめる	30
15	総括	1. 心身の状況に応じた介護を考える 2. 介護福祉士の義務規定	授業の中で指示されたことをまとめる	60

科目名	介護の基本Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	廣野 正子			
開講期	後期			
授業概要	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援などに関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。 実務経歴：特別養護老人ホームにおいて介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2104			
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 ①介護福祉の理念を基に介護福祉士の倫理が必要な理由を理解する。 ②エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援について理解する。 ③自立支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できたか。 単位認定の最低基準：介護福祉の倫理と自立支援について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	筆記試験 70％ 課題30％	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護の基本Ⅰ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	介護を実践する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。			
オフィスタイム	・火曜日 V限 ・水曜日 I限 創学館 4 階 No2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	通所介護の実習報告 1	介護実習Ⅰ-1から通所介護からの気づきを発表する グループワークにて考察を深める	授業の中で指示されたことをまとめる	30
2	通所介護の実習報告2	介護実習Ⅰ-1から通所介護からの気づきを発表する グループワークにて考察を深める	授業の中で指示されたことをまとめる	30
3	介護福祉士の役割と機能	3. 介護福祉士養成に求められる役割とその養成 p 94 4. 介護福祉士を支える団体 p 107	授業の中で指示されたことをまとめる	30
4	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理 1) 介護実践における倫理 介護施設で虐待 (DVD)	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理 1) 介護実践における倫理	授業の中で指示されたことをまとめる	30
6	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理 2) 倫理的判断が必要な事例	授業の中で指示されたことをまとめる	60
7	介護福祉士の倫理	日本介護福祉士会の倫理綱領 1) 介護福祉士に求められる職業倫理	演習3-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
8	自立に向けた介護福祉のあり方	演習3-1について発表、グループディスカッション 介護福祉における自立支援 1) 自立支援の考え方 2) 利用者理解の視点 3) 意思決定支援	演習4-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
9	自立に向けた介護福祉のあり方	演習4-1について発表、グループディスカッション 4) 生活意欲と活動 5) 就労支援 6) 自立と生活支援	授業の中で指示されたことをまとめる	60
10	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援とリハビリテーション 1) リハビリテーションとは 2) リハビリテーションの実際	演習4-3、4-4に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	自立に向けた介護福祉のあり方	3) リハビリテーションを考えるうえで障害の理解と評価 演習4-3、4-4について発表、グループディスカッション	授業の中で指示されたことをまとめる	30
12	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援と介護予防 1) 介護予防の概要 2) 介護予防の種類と展開	授業の中で指示されたことをまとめる	30
13	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援と介護予防 3) 高齢者の身体特徴と介護予防 4) 介護予防の実際	演習4-5に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
14	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援と介護予防 5) 自立支援と介護予防 6) 介護予防における介護福祉士の役割	授業の中で指示されたことをまとめる	30
15	介護の基本Ⅰ（まとめ）	介護の基本Ⅰの全体について総括	授業の中で指示されたことをまとめる	60

科目名	介護の基本Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	廣野 正子			
開講期	前期			
授業概要	介護の基本Ⅱでは、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、さらに介護実践における安全の確保とリスクマネジメントに関わる知識を理論的に学ぶ。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、さらに最終授業で全体のフィードバックを行います。また、個々に演習課題に取り組み他者の発表をもとに再度、課題への多様な取り組みや方策を検討する。 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2205			
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 ①介護を必要とする人の理解とその方々の生活を支える社会のシステムを把握できるようにする。 ②介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。 ③介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。 単位認定の最低基準：介護従事者自身の健康管理について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻		成績評価 方法	試験70％ 課題レポート30%
教科書	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅱ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	介護の一つひとつの行為には、根拠があります。行為が行われる意義を常に認識してください。			
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限 創学館4階 No.1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 介護福祉士を必要とする人の理解	介護の基本Ⅱ概略説明（評価方法） 私たちの生活の理解	演習1-1私たちの生活の理解	60
2	介護福祉士を必要とする人の理解	演習1-1について発表、グループディスカッション 介護福祉を必要とする人たちの暮らし 1）介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解する 2）介護福祉を必要とする高齢者の暮らし	授業の中で指示されたことをまとめる	30
3	介護福祉士を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人たちの暮らし 3）介護福祉を必要とする障害者の暮らし 4）個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点	演習1-2介護福祉を必要とする人たちの暮らし	60
4	介護福祉士を必要とする人の理解	演習1-2について発表、グループディスカッション 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 1）「その人らしさ」とは何か 2）「その人らしさ」の背景 3）「その人らしさ」の介護福祉における活用	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉士を必要とする人の理解	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 4）「生活ニーズ」の理解 5）個々の生活ニーズにどこまでこたえられるか	授業の中で指示されたことをまとめる	30
6	介護福祉士を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援 1）生活のしづらさについて考える 2）家族介護者への支援	授業の中で指示されたことをまとめる	30
7	介護福祉士を必要とする人の理解	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは 1）高齢者のためのフォーマルサービスの概要 2）障害者のためのフォーマルサービスの概要	授業の中で指示されたことをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは 1) 費用負担による区分 2) フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係 3) インフォーマルサービスの種類・提供者 4) 介護福祉士に求められる支援の視点	授業の中で指示されたことをまとめる	30
9	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	演習2-2について発表、グループディスカッション 地域連携 1) 地域連携の意義と目的 2) 地域連携にかかわる機関の理解 3) 利用者を取り巻く地域連携の実際	演習2-2生活を支えるインフォーマルサービス（視点サービス）とは	60
10	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	介護における安全の確保 1) 介護福祉士の責務と安全の確保 2) 介護の場におけるセーフティマネジメント	授業の中で指示されたことをまとめる	30
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護における安全の確保 3) 安全を重要視する組織風土の醸成 4) 利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供を第一に考える	授業の中で指示されたことをまとめる	30
12	介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクマネジメントとは何か 1) 尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント 2) ルールや約束事を守ることの重要性 3) 福祉サービスに求められる安全・安心	授業の中で指示されたことをまとめる	30
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクマネジメントとは何か 4) 事故防止のための対策 5) 終わりに	授業の中で指示されたことをまとめる	30
14	介護における安全の確保とリスクマネジメント	演習3-1について発表、グループディスカッション 感染症対策 1) 介護福祉職に必要な感染に関する知識 2) 安全な薬物療法を支える視点・連携 3) 終わりに	演習3-1身体拘束の廃止について	60
15	介護における安全の確保とリスクマネジメント	前期授業の補足と介護の基本Ⅱの総括	演習3-2感染予防のための観察ポイント	60

科目名	介護の基本Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	廣野 正子			
開講期	後期			
授業概要	介護の基本Ⅲでは、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護実践における多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、さらに最終授業で全体のフィードバックを行います。また、個々に演習課題に取り組み他者の発表をもとに再度、課題への多様な取り組みや方策を検討する。 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもちに介護実践の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2205			
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしぐみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 ①多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。 ②介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。 ③介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。 単位認定の最低基準：介護従事者自身の健康管理について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	試験60％ 課題レポート40％	
教科書	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅱ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	介護の一つひとつの行為には、根拠があります。行為が行われる意義を常に認識してください。			
オフィスタイム	・火曜日 V限 ・水曜日 I時限 創学館 4 階 No2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	協働する多職種の機能と役割	協働する多職種の機能と役割 1) 多職種連携・協働とは 2) 多職種連携・協働を要請する社会の働き 3) なぜ、多職種連携・協働が必要なのか	授業の中で指示されたことをまとめる	30
2	協働する多職種の機能と役割	協働する多職種の機能と役割 4) 多職種連携・協働を阻むもの 5) 多職種連携・協働の効果	演習4-1多職種連携・協働と社会の動きについて	60
3	協働する多職種の機能と役割	演習4-1について発表、グループディスカッション 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 1) 介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意味 2) 多職種連携・協働のためのチームづくり 3) 多様な視点と受容を必要とする協働 4) 課題解決に対する多職種のかかわり	授業の中で指示されたことをまとめる	30
4	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働に求められる基本的な能力 5) 多職種協働を成功させるための介護技術と知識 6) 多職種協働とホスピタリティの視点 7) 多職種協働に求められるコミュニケーション能力	演習4-2チームに備わっているべき要素について	60
5	協働する多職種の機能と役割	演習4-2について発表、グループディスカッション 保健・医療・福祉職の役割と機能 1) 社会福祉士・精神保険福祉士・介護支援専門員・医師・歯科医師・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士	授業の中で指示されたことをまとめる	30
6	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能 2) 言語聴覚士・管理栄養士・栄養士・歯科衛生士 公認心理師・薬剤師・サービス提供責任者・まとめ	授業の中で指示されたことをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働の実際 1) 専門職連携実践とは何か 2) 多職種における地域での連携・協働 3) 特別養護老人ホームの連携の実態調査から 4) 自立支援介護における多職種連携の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
8	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 1) 健康の意義と目的 2) 働く人の健康や生活を守る法制度 3) 介護労働の特性と健康問題 4) 介護に従事する人の健康問題	授業の中で指示されたことをまとめる	30
9	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 5) 健康に働くための健康管理	授業の中で指示されたことをまとめる	30
10	介護従事者の安全	こころの健康管理 1) 介護従事者にとってのこころの健康問題 2) ストレスとこころの健康	授業の中で指示されたことをまとめる	30
11	介護従事者の安全	こころの健康管理 3) こころの病気 4) 職場で取り組むこころの健康管理	演習5-1ストレスの影響とこころの健康を よりよく保つための対処法について	60
12	介護従事者の安全	演習5-1について発表、グループディスカッション 身体の健康管理 1) 介護従事者の身体 の健康障害の現状	演習5-2腰痛予防のための注意点	60
13	介護従事者の安全	演習5-2について発表、グループディスカッション 労働環境の整備 1) 労働環境について学ぶ意義 2) 労働条件がかかわる労働環境 3) 介護従事者の労働災害 4) 熱中症と労働環境 5) 事例で考えるけがと労働環境の関係	授業の中で指示されたことをまとめる	30
14	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの意義 1) アロマセラピーと健康	授業の中で指示されたことをまとめる	30
15	介護従事者の心身の健康管理 介護の基本Ⅱ（まとめ）	アロマセラピーの活用 後期授業の補足と介護の基本Ⅱの総括	授業の中で指示されたことをまとめる	60

科目名	介護福祉総論Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択	
担当教員	廣野 正子			
開講期	前期			
授業概要	介護福祉総論Ⅰでは、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2206			
達成目標	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を総合的に修得した成果として国家試験への合格率を確かなものにする。 ①対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を理解する。 ②介護の基本として、介護を実践する様々な場面に必要とされる介護の知識・技術を修得する。 ③介護の実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。 単位認定の最低基準：介護福祉士国家試験の過去問題について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	課題30% 定期試験70%	
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	授業での学びをもとに介護福祉士国家試験関係知識について、積極的に身に付けられるように自学・自習に励むこと。			
オフィスタイム	・火曜日 V時限 ・水曜日 I時限 創学館 4 階 No.2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	「介護福祉総論Ⅰ」の学び方（評価方法）	人間の尊厳と介護について授業の中で指示されたことを調べてくる	30
2	人間の尊厳と介護	人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
3	人間関係とコミュニケーション	人間関係の形成、介護におけるコミュニケーションの基本	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
4	社会における介護	生活と福祉、社会保障制度における介護	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
5	社会における介護	介護保険制度と障害者自立支援制度における介護 介護実践に関連する諸制度	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
6	介護と身体のしくみ	こころとからだのしくみの理解 身支度に関連したこころとからだのしくみ 移動・食事に関連したこころとからだのしくみ	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
7	介護と身体のしくみ	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 排泄・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 終末期のこころとからだのしくみ	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
8	発達と老化の理解	人間の成長と発達の基礎的理解 老年期の発達と成熟 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
9	認知症の介護	認知症を取り巻く状況 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
10	認知症の介護	認知症介護への多職種連携と協働 家族への支援	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
11	障害の理解	障害の基礎的理解	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
12	障害の理解	障害者介護への多職種連携と協働 家族への支援	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	介護と医療的ケア	喀痰吸引、経管栄養の基礎知識と介護実践	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
14	授業理解	これまでの要点の確認と補足 国家試験に準ずる内容で試験	授業内容から自身の理解を確認し不明な専門用語などは調べる。	60
15	総括	授業の補足と確認 前回の試験について解釈	授業内容から自身の理解を確認し不明な専門用語などは調べる。	60

科目名	介護福祉総論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	介護の基本Ⅲでは、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2206		
達成目標	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を総合的に修得した成果として国家試験への合格率を確かなものにする。 ①対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を理解でる。 ②介護の基本として、介護を実践する様々な場面に必要とされる介護の知識・技術を修得する。 ③介護の実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。 単位認定の最低基準：介護福祉士国家試験の過去問題について7割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	課題30% 定期試験70%
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	授業での学びをもとに介護福祉士国家試験関係知識について、積極的に身に付けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイム	・火曜日 V時限 ・水曜日 I時限 創学館 4 階 No.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	「介護の基本Ⅲ」の学び方（評価方法）	人間の尊厳と介護について授業の中で指示されたことを調べてくる	30
2	介護の基本	社会福祉士及び介護福祉士法 日本介護福祉士会倫理綱領 介護の基本的視点	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
3	介護の基本	国際生活機能分類（ICF） 介護におけるリスクマネジメント 介護従事者の安全管理	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
4	介護におけるコミュニケーション	介護場面における利用者・家族・チームのコミュニケーション	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
5	自立に向けた生活支援技術	生活支援の理解 自立支援における居住環境の整備 自立支援における移動・身じたくの介護	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
6	自立に向けた生活支援技術	自立支援における食事・入浴、清潔保持の介護 自立支援における排泄に介護	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
7	自立に向けた生活支援技術	自立支援における家事の介護 休息・睡眠の介護	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
8	自立に向けた生活支援技術	人生の最終段階における介護 福祉用具の意義と活用	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
9	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開 介護過程とチームアプローチ	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
10	介護における総合的な課題	人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケアの事例を通して理解する	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
11	介護における総合的な課題	人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケアの事例を通して理解する	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
12	介護の基本の総理解1	3領域の要点を説明する 人間と社会、こころとからだのしくみ、医療的ケアの3領域の試験	介護福祉士国家試験の過去問題で不明な点を調べて覚える	60
13	介護の基本の総理解2	2領域の要点を説明する 介護、総合事例問題の2領域の試験	介護福祉士国家試験の過去問題で不明な点を調べて覚える	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	介護の基本の総理解3	人間と社会、こころからだのしくみ、医療的ケアの3領域の 国家試験過去問題の解説	介護福祉士国家試験の過去問題で不明な点 を調べて覚える	60
15	介護の基本の総理解4	介護、総合事例問題の2領域の国家試験過去問題の解説	介護福祉士国家試験の過去問題で不明な点 を調べて覚える	60

科目名	コミュニケーション技術A	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	和田 由紀子			
開講期	前期			
授業概要	介護や福祉の現場で必要とされるより良き人間関係形成のためのコミュニケーションの大切さや、福祉における基本的な個人の尊重の理念を理解し、専門職に求められる実践的技術の修得を目指します。社会福祉法人に勤務した経験をもとに、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や心の動きを解説し、実践的なコミュニケーション技術を指導をします。 授業は、双方向型対話形式を活用しながら進めていきますので、自発的で活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたことなどを大いに語り合い、理解を深めてください。 最終授業で、全体に対するフィードバックを行います。 位置づけ・水準：DU2109 担当教員の実務経験経歴：介護老人福祉施設で、介護福祉士・社会福祉士として勤務、主に福祉関係者を対象とした各種研修会での講師			
達成目標	福祉職は、利用者を理解して信頼関係を形成し、利用者家族や他職種との協働・連携をおこなって行きます。それらをのスムーズな遂行のために、3つの目標を掲げます。 ①高齢や障がいのため聴覚や視覚、言語能力が低下していたり、認知症などでうまくコミュニケーションを取れない方を対象にする介護現場で、介護者に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 ②支援を必要とする人の理解と、援助的コミュニケーションの基本と技術を学び、支援者としてのコミュニケーション能力を身につける。 ③利用者だけではなく、家族とのコミュニケーション、職員同士のコミュニケーションの重要性と、その専門的考え方を学ぶ。 単位認定の最低基準：上記の内容について7割を理解していること。			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻1年生	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80％） 受講態度、発表内容、レポート（20％）	
教科書	介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」			
参考書	「よくある場面から学ぶコミュニケーション技術」中央法規 一瞬でいい関係を築くコミュニケーション大百科 かんき出版 対人援助の現場で使える言葉〈以外〉で使える技術便利帳 翔泳社			
学生への要望	この授業では、理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきます。学生は、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使して、グループワークやディスカッションに積極的に参加・発言してください。			
オフィスタイム	水曜日 10：30-12：30 教務部非常動控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、評価方法、国家試験について説明します。	この授業で学ぶことについて、概要をつかみ、興味を持った内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	福祉の現場におけるコミュニケーションとは その目的と意義	利用者の尊厳を守る支援者の在り方、支援が必要な人と支援者の関係、支援が必要な人との関係づくりの必要性について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60
3	福祉の現場におけるコミュニケーションとは2	共感的理解と意思決定支援 バイステックの7原則について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60
4	コミュニケーションの基本技術1	傾聴、受容、共感、対人距離 について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60
5	コミュニケーションの基本技術2	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60
6	接遇のマナー	言葉使い、敬語、接遇のマナーについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60
7	コミュニケーション技術	集団における技術、コミュニケーション障がいについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60
8	特性に応じたコミュニケーション1	身体障がい者の理解とコミュニケーション 視覚障がいの方、聴覚障がいの方とのコミュニケーションについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60
9	特性に応じたコミュニケーション2	発達障がい者の理解とコミュニケーション方法、精神障がいの理解とコミュニケーション方法について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60
10	特性に応じたコミュニケーション3	認知症の理解とコミュニケーション1 認知症を理解し、利用者の状況に応じたコミュニケーションの方法を学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使用したテキストのページを復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	特性に応じたコミュニケーション4	認知症の理解とコミュニケーション2 具体的アプローチ方法として、バリデーション、ユマニチュードについて学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
12	特性に応じたコミュニケーション5	高次脳機能障がい理解とコミュニケーションの在り方や支援の工夫について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
13	家族とのコミュニケーション	家族の気持ちの理解、家族関係のとらえ方と介護ストレスの理解、家族の意向の確認と意向表出の支援について学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
14	チームにおけるコミュニケーション	連職種連携の必要性、報告、記録、個人情報の保護とチーム内での情報共有についてを学びます。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60
15	まとめと補足	補足説明　まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードを重点に、授業で使ったテキストのページを復習する。	60

科目名	コミュニケーション技術B	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 1単位 選択	
担当教員	佐藤 邦子,富山 里美,加藤 三保子			
開講期	前期			
授業概要	<点字> 視覚障害者の文字である「点字」の基礎を習得する。 視覚障害者の状況について理解する。 <手話> 聴覚障害者のくらしや歴史・特性を学び、日常生活に必要な手話表現技術を習得し、手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。 介護を必要とする聴覚障害者にあったコミュニケーション方法を学ぶ。			
達成目標	<点字> 視覚障害者の文字である「点字」の基礎を習得する。 視覚障害者の状況について理解する。 <手話> ①聴覚障害者の文化や歴史を学ぶ ②手話を学び、手話で会話する楽しさを学ぶ ③手話の学習を通して福祉の心を学ぶ			
受講資格	生活科学科福祉コース 4年生	成績評価 方法	<点字・手話> 実技及び試験で評価します 学期末テスト：90点 授業中の態度：10点	
教科書	<点字> 「初めての点訳第3版」 <手話> 手話入門講座テキスト「手話を学ぼう」			
参考書	<点字・手話>特に指定しない			
学生への要望	<点字> 休まずに出席し、点字に関心を持ってほしい <手話> 積極的な学習意欲 私語厳禁			
オフィスタイム	<点字>木曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後 <手話>水曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	<点字>視覚障害者の状況、点字の歴史と概要 <手話>DVD鑑賞 第1講座	<点字> 授業の進め方、概要について話します 視覚障害の状況と点字の概要について話します <手話> 講義：聴覚障害者とのコミュニケーション方法 DVD鑑賞後感想文を書く 伝えあってみましょう	<点字> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 <手話> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	<点字>点字の仮名遣い <手話>第2講座	<点字> 点字の仮名遣いについて説明と実技を行います <手話> 名前を紹介しましょう 指文字学習	<点字> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 <手話> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	<点字>数字・アルファベット <手話>第3講座 第4講座	<点字> 点字の数字・アルファベットの仕組みについて説明し、実技を行います <手話> 家族を紹介しましょう 数字を覚えましょう	<点字> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 <手話> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	<点字>分かち書き <手話>復習 第5講座	<点字> 点字の文の仕組みや書き方について説明し、実技を行います <手話> 第2～4講座 趣味について話しましょう 講義：ろう者の趣味について (テキスト囲み)	<点字> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 <手話> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	<点字>分かち書き <手話>第6講座、第7講座	<点字> 前回に引き続き、点字の文の仕組みについて学びます <手話> 講義：ろう者の仕事について（テキスト囲み） 住所を紹介しましょう	<点字> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 <手話> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	<点字>点字の文を読む、点字で文を書く <手話>第8講座、第9講座	<点字> 点字で文を書く練習をします また、実際の点字表示を読んでみます <手話> 時勢について話しましょう	<点字> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 <手話> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	<点字>まとめ <手話>第10講座	<点字> まとめと試験に向けて確認を行います <手話> 会話してみましょ～旅行について～ 名前・家族・誕生日	<点字> 授業内容のまとめをおこなう。 <手話> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	<手話>第11講座 復習	<手話> 会話してみましょ～医療について～ 趣味・仕事・住所	<手話> 授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	生活支援技術A	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択		
担当教員	廣野 正子,達 乃介				
開講期	前期				
授業概要	生活支援とはなにかを理解し、生活での「動く」ことは生きることの基本であり、暮らしを支えるために不可欠な移動や移乗の動きを支援する技術を体験的に学ぶ。また、身じたくの意義・目的を理解するとともに、利用者の状態や状況に応じて安全で自立・自律を尊重した、満足の得られる身じたくの介護について学ぶ。基本的な技術を実践するなかで、身体状況に合わせた方法をその都度ディスカッションしながら方法の検討を通して身につける。 また、課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、実技試験の結果を個々にフィードバックを行います。 <授業担当者> 第1回～第16回：廣野担当 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームの相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として従事。 第17回～第30回：達担当 <実務経験>社会福祉法人での介護職員としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 <実務経歴>社会福祉法人に介護福祉士として勤務（介護福祉士・管理職） 【履修カルテの評価項目】 ①対象者の機能など状態に合わせ能力を活用・発揮し自立支援するための方法が実践できたか ②移動の介護は日常生活を送るうえで基本となる動作を支える介護であることが理解できたか ③身じたくに関する生活習慣と装う楽しみのための知識と技術を理解できたか 位置づけ・水準 DW2111				
	達成目標	「移動」「身じたく」における生活支援技術の根拠と、知識・技術の基礎から応用まで学び、現場での実践で活用できる能力を身につける。また、利用者の心身状態を理解し、どのような状態であっても尊厳と自律・自立を考慮した、個別に対応できる能力を修得する。 ①「移動」の意義と目的について理解し、基本的な「移動」支援技術を修得し実践できる。 ②「身じたく」の意義と目的について理解し、基本的な「身じたく」支援技術を修得し実践できる。 ③身体機能、こころの状態に合わせたコミュニケーションを活用して支援することができる。 単位認定の最低基準：生活支援の意義とその技術について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力			
	受講資格	生活科学科社会福祉専攻		成績評価 方法	実技50% 定期試験50%
	教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
	参考書	授業の中で、随時紹介			
学生への要望	自学・自習に励み技術については確実に身につけ、介護実習で実践できるようにしておくこと。				
オフィスタイム	廣野：火曜日 V時限 ・水曜日 I時限 創学館 4 階No.1 研究室				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方 廣野	①授業概要の説明及び留意点 ②生活支援の考え方 ③ライフサイクルと生活の豊かさ 演習1-1	学生自身の生活文化、生活の中での自己決定、生きがいについて発表できるようにまとめる	30
2	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方 廣野	④生活支援のポイント ⑤根拠のもとづく生活支援技術 ⑥利用者主体の生活支援技術の実践 ⑦生活支援とチームアプローチ 演習1-2	一日の日常生活で移動場面、移動回数、移動時間をチェックしまとめる。	30
3	自立支援を支える移動の介護（基本とボディメカニクス） 廣野	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護についてボディメカニクスを活用した介助を学ぶ。 ①自立した移動 ②移動・移乗の基本的理解	体位変換の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
4	自立に向けた移動介護（体位変換） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作（寝返り）の介助 ③体位変換の理解	起居動作（寝返り）、姿勢保持の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	60
5	自立に向けた移動の介護（起居動作） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作（寝返り、起き上がり）の介助	起居動作の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	自立に向けた移動の介護（起居動作） 廣野	①本人への説明・同意・準備・実施・評価 ②起居動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）の介助	起居動作の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
7	自立に向けた移動の介護（体位の保持） 廣野	①安楽な姿勢・体位を保持する介助	安楽な姿勢・体位保持の介助ができるように練習する。	30
8	自立に向けた移動の介護（体位の保持） 廣野	②安楽な姿勢・体位を保持する介助	安楽な姿勢・体位保持の介助ができるように練習する。	30
9	自立に向けた移動の介護（歩行介助） 廣野	①歩行の介助	歩行介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
10	自立に向けた移動の介護（歩行介助） 廣野	②歩行の介助	歩行介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	60
11	自立に向けた移乗の介護（ベッドから車いすへの介助） 廣野	①車いす（移乗）の介助	ベッドから車いす介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
12	自立に向けた移動の介護（車いすの介助） 廣野	②車いす（移動）の介助	ベッドから車いす介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
13	自立に向けた移動・移乗介護 廣野	①移動・移乗のための道具・用具	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
14	自立に向けた移動・移乗の介護 廣野	②移動・移乗のための道具・用具 ③移動介助における多職種との連携	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
15	自立に向けた身じたくの介護 達	①身じたく（整容、口腔ケアを含む）を整えることの意義と目的について学ぶ。 ②ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
16	自立に向けた身じたくの介護 達	①ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。 ②整容の介助「洗顔」	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
17	移動の介護（まとめ） 廣野	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。	30
18	移動の介護（まとめ） 廣野	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。	30
19	自立に向けた身じたくの介護 達	整容の介助 「整髪・爪の切り・髭剃り」	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
20	自立に向けた身じたくの介護 達	①整容の介助「爪切り・耳の清潔・化粧」 ②口腔ケア DVD『歯周病』	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
21	自立に向けた身じたくの介護 達	①口腔ケアの意義及び目的 ②ICFの視点から見た口腔ケアのアセスメント	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
22	自立に向けた身じたくの介護 達	①口腔ケアの方法、口腔ケア用具の紹介 ②歯ブラシによるケア法、口腔清拭法	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
23	自立に向けた身じたくの介護 達	①義歯の清掃 ②障害に応じた口腔ケア（片麻痺、認知症） ③口腔ケアの介助の実際	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
24	自立に向けた身じたくの介護 達	整容に関する練習問題 まとめ	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
25	自立に向けた身じたくの介護 達	①衣類、寝具の管理 ②衣服着用の目的 ③衣類の種類と選択の視点	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
26	自立に向けた身じたくの介護 達	①ICFの視点から見た衣服着脱 ②衣類の着脱介助の実際	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	自立に向けた身じたくの介護 達	衣類の着脱介助の実際（和式、前あき、かぶり）	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
28	自立に向けた身じたくの介護 達	衣類の着脱介助の実際（和式、前あき、かぶり）	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
29	自立に向けた身じたくの介護 達	実技テストに向けた練習	実技テストで指摘されたことを踏まえて、復習する。	30
30	自立に向けた身じたくの介護 達	実技テスト（個別にフィードバック） 身じたくについて復習（練習問題）	国家試験過去問について復習する。	30

科目名	生活支援技術B	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①食事は生活の満足度に大きな影響を与えることを理解し、利用者の健康維持、楽しみを支える支援に関する技術を身につける。 ②排泄に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法について身につける。 ③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 < 授業担当 > 第1回～第14回 ：藤田担当 第15回～第30回：達 担当 < 藤田 > 実務経験：看護師として総合病院に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 < 達 > 実務経験：社会福祉法人での介護職員としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人に介護福祉士として勤務（介護福祉士・管理職） 課題へのフィードバック ・適宜、確認テスト（実技やペーパー）を実施し、解説して振り返りを行う。 位置づけ・水準 DW2112		
達成目標	【到達目標】 ①「食事」や「排泄」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が理解できる。 ②介護福祉士国家試験に必要な知識の習得。 単位認定の最低基準：食事」や「排泄」に関する知識と技術及び利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力と個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法を8割身につける。 ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、倫理的思考・問題解決能力、倫理的・社会的責任 【履修カルテの評価項目】 ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「食事」「排泄」に関する生活支援技術の基礎を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	試験(筆記・実技) 90%、レポート10%
教科書	介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 プリント配布		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと		
オフィスタイム	藤田：月・木曜日 3時限 創学館4階 No.2研究室 達 ：授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・自立に向けた食事の介助 藤田	1. 授業概要の説明 2. 自立した食事とは ・ ・ 内容についてまとめる	シラバスの内容説明。今回の内容について復習する。	30
2	食事に関する介護の役割 藤田	3. 自立した食事の一連の流れ 4. 食事の介助を行うにあたって	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。口腔体操発表準備	30
3	自立に向けた介護 藤田	食事の介助を行うにあたって ・口腔体操発表 ・食事で使用する自助具	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	自立に向けた食事の介護 藤田	・自助具の体験 ・その他の自助具について調べる	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。パソコン持参	30
5	自立に向けた食事の介護 藤田	・その他の自助具について調べて発表する	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	自立に向けた食事の介護 藤田	利用者の状況に応じた食事介助について 食事形態について	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	自立に向けた食事の介護 藤田	安全な食事介助の技法： (1) 座位やベッド上での姿勢のとり方 (2) 一部介助が必要な利用者 (3) ベッド上で行う食事介助	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
8	自立に向けた食事の介護 藤田	安全な食事介助の技法： (1) 座位やベッド上での姿勢のとり方 (2) 一部介助が必要な利用者 (3) ベッド上で行う食事介助	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
9	自立に向けた食事の介護 藤田	1. 介護食を使った食事介助 2. 片麻痺のある人・視覚障害のある人の食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	自立に向けた食事の介護 藤田	3. 誤嚥予防のための支援	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
11	自立に向けた食事の介護 藤田	食事介助の実技試験	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	自立に向けた食事の介護 藤田	食事介助の実技試験と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	食事の介助における他職種との連携 藤田	1. 食事介助における他職種連携の必要性 2. 他職種の役割と介護職との連携	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	自立に向けた食事の介護のまとめ 藤田	国家試験対策と解説（ペーパーテスト）	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
15	排泄の意義と目的 達	①授業内容に関する説明。 ②排泄の意義・目的 ③排泄のメカニズム	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
16	排泄の意義と目的 達	①自立に向けた排泄介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
17	自立に向けた排泄の介護 達	ICFの視点から、排泄介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
18	自立に向けた排泄の介護 達	ICFの視点から、排泄介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学び、アセスメントシートを作成する。	アセスメントシートを完成させる。	60
19	自立に向けた排泄の介護 達	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
20	自立に向けた排泄の介護 達	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
21	自立に向けた排泄の介護 達	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
22	自立に向けた排泄の介護 達	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
23	自立に向けた排泄の介護 達	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
24	自立に向けた排泄の介護 達	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。 実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
25	自立に向けた排泄の介護 達	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツや便器を使った陰部洗浄に仕方について学ぶ。 その他の排泄に関するさまざまな介助方法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
26	自立に向けた排泄の介護 達	介助を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
27	自立に向けた排泄の介護 達	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	自立に向けた排泄の介護 達	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
29	補足及び確認 達	「排泄」に関する授業の補足及び国家試験対策	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
30	補足及び確認 達	「排泄」に関する授業の補足及び国家試験対策	今回の内容を復習する。	60

科目名	生活支援技術C	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子,藤田 京子,達 乃介		
開講期	前期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を演習を通して体験し習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 ②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。 ③緊急時の対応を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〈授業担当〉 藤田担当：第1回～16回 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 廣野担当：第17回～30回 実務経験：社会福祉法人での介護職員と相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人に介護福祉士として介護業務と生活相談員として勤務 達担当：第17回～30回 実務経験：社会福祉法人での介護職員としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人に介護福祉士として勤務（介護福祉士・管理職） 課題に対するフィードバック 1適宜、確認テスト（ペーパーや実技）を実施し、解説をして振り返る。 位置づけ・水準 DW2213		
達成目標	〔授業終了時の到達目標〕 ①「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。 ②個人のプライバシー保持と利用者の尊厳を守る援助法について学ぶ。 ③終末期におけるチームケアの実践について理解する。 ④緊急時の対応を理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する。 単位認定の最低基準：個人のプライバシー保持と利用者の尊厳を守る援助法について7割理解できる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任 【履修カルテの評価項目】 ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」に関する生活支援技術の基礎と実践の根拠について説明できる。 ②対象者のアセスメントを基に「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を習得する。 ③人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	試験（筆記・実技）70％ レポート30％
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で取り組むこと 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	廣野：創学館No.2研究室 火曜日 V限・水曜日Ⅰ限 藤田：創学館No.2研究室 月・水曜日 IV限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 人生の最終段階における介護 藤田	授業の内容等についての説明 演習：人生の最終段階の意義について 映像等を用いて考察する	今回実施した内容の概要と感想を記載し提出する。	30
2	人生の最終段階における介護 藤田	演習：人生の最終段階の意義について 映像等を用いて考察する	今回実施した内容の概要と感想を記載し提出する。各家庭の宗派や埋葬について調べる。	30
3	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の意義と介護の役割	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
4	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の意義と介護の役割 映像による考察	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階におけるアセスメントの視点	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
6	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階におけるアセスメントの視点	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
7	人生の最終段階における介護 藤田	演習 ①終末期患者の意思決定を支える 患者の排泄行動に対する思いに沿った事例について考察する	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
8	人生の最終段階における介護 藤田	演習 ①人生の最終段階における意思決定のあり方についてまとめる ②人生の最終段階におけるアセスメントの視点についてまとめる	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。 グリーフケアの必要性についてまとめる。	30
9	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階における介護 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階における介護技術 ①死を迎える人の介護 ②死を迎えた人の介護 ③亡くなった後の介護 演習	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の介護における多職種の役割と協働	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	人生の最終段階における介護 藤田	①人生の最終段階における多職種の必要性 ②他の職種の役割（かわり方）	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	緊急時の介護 藤田	①想定される事故と予防の視点 ②応急手当とは	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	緊急時の介護 藤田	応急処置・緊急時の対応の実際	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
15	人生の最終段階における介護及び緊急時の介護 藤田	全体的な授業の補足及び確認	これまでのの内容を見直し、定期テストに向け学習する。	30
16	人生の最終段階における介護及び緊急時の介護 藤田	全体的な授業の補足及び確認	これまでのの内容を見直し、定期テストに向け学習する。	60
17	清潔保持の意義と目的 廣野・達	①授業内容に関する説明。 ②清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。	今回実施した内容を復習する。	30
18	清潔保持の意義と目的 廣野・達	①清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。 ②ICFの視点から、入浴介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30
19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30
20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
22	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
23	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
24	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
25	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
26	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として全身清拭について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
28	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として全身清拭について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
29	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。	30
30	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野・達	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。	60

科目名	生活支援技術D	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。 ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。 ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 [授業全体の内容の概要] ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。 ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、生活支援技術の授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 課題に対するフィードバック ・演習等を通し適宜解説する。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2214		
達成目標	[授業終了時の到達目標] ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。 ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。 ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 単位認定の最低基準： ・健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について7割理解する。 ・住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて7割理解する。 ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力 [履修カルテの評価項目] ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。 ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻の学生	成績評価 方法	試験（筆記・実技）60％、レポート40％
教科書	中央法規出版 「生活支援技術」		
参考書	授業の中で随時、紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・木曜日 3限目 創学館No.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	休息・睡眠時の介護	①ガイダンス・授業内容の説明 ②休息・睡眠とは	シラバスを確認する。今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	休息・睡眠時の介護	睡眠を阻害する因子 室内環境の調整	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	休息・睡眠時の介護	安眠が得られるための環境づくりと、ベッドメイキングについて学ぶ	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	60
4	休息・睡眠時の介護	休息・睡眠の介護 ベットメイキング実技テスト	実技テストの向けて練習をする。	60
5	休息・睡眠時の介護	休息・睡眠の介護 ベットメイキング実技テスト	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	休息・睡眠時の介護	睡眠の介護に関して、安楽な姿勢について学ぶ（実習室）	演習を実施しての感想をまとめる。	30
7	休息・睡眠時の介護	睡眠の介護に関して、安楽な姿勢について学ぶ（実習室）	演習を実施しての感想をまとめる。次回の内容を教科書で確認する。	30
8	居住環境の整備	①多職種連携 ②これまでの授業内容に関する補足と確認	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	居住環境の整備	住まいの役割と機能 加齢と生活空間について	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	60
10	居住環境の整備	快適な室内環境について教科書を参照し考察する	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	60
11	居住環境の整備	安全に暮らすための生活環境 高齢者・障がい者の住まいについてまとめる レポートにて提出	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	居住環境の整備	居住環境の整備における他職種の役割と協働 高齢者の住まいの課題を考察する（映像）	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	居住環境の整備	高齢者の住まいの課題を考察する（GW）	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	居住環境の整備	高齢者の住まいの課題を考察しパワーポイントで発表する レポート課題とし、加点の対象となる	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容に関する補足と確認。	今回の内容を確認する。	60

科目名	介護過程Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①介護過程とは何か、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する。 ②介護過程の理解 介護過程の展開（アセスメント・介護計画・介護計画の実施・評価）を学ぶ。 [事業全体の内容の概要] 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。 実務経験：医療現場での勤務経験をいかし介護過程の展開の必要性を指導する。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 課題に対するフィードバック ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う ・事例についてのアセスメントを実施後、内容を解説していく。 位置づけ・水準 DW2115		
達成目標	<授業終了時の到達目標> ①介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する。 ②介護過程の理解 介護過程の展開（アセスメント・介護計画・実施・評価）のプロセスと留意点を理解する。 単位認定の最低基準：介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を8割理解する。 介護過程の展開（アセスメント・介護計画・実施・評価）のプロセスと留意点を7割理解する。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力 [履修カルテの評価項目] 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できたか		
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	筆記試験80％、課題20％
教科書	新・介護福祉士養成講座 9『介護過程』 中央法規		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	実習を行う上でも重要な科目なので、介護過程の展開の基本的視点を確実に修得する。グループワークや講義に主体的に臨むこと。		
オフィスタイム	月・木曜日 3限目 創学館No.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	自己紹介・ガイダンス	・自己紹介・授業内容の説明	シラバスの内容を確認する。	30
2	介護過程の意義と基礎的理解	・介護過程のとは ・介護過程の全体像	今回の内容について見直しを行う。次回の内容についてはテキストで確認する。	30
3	生活支援における介護過程の必要性	・生活支援における介護過程の意義 ・演習（考える介護のイメージ）	今回の内容について復習する。 演習を仕上げる。	60
4	生活支援における介護過程の必要性	・演習（考える介護のイメージ） ・介護過程と事例検討	今回の内容について復習する。	30
5	介護過程の展開	・介護過程の目的と構成 ・介護過程の全体像を再認識し展開において諸科目の知識の統合や関連性を理解する。	今回の内容について復習する。	30
6	介護過程の理解	・アセスメント（情報収集）コミュニケーション技術	今回の内容について復習する。	30
7	介護過程の理解	・アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）	今回の内容について復習する。	30
8	介護過程の理解	・アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） ・課題の明確化	今回の内容について復習する。	30
9	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。	30
10	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。	30
11	介護過程の理解	演習・相手の望む旅行計画の作成	旅行計画を作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	介護過程の理解	・相手の望む旅行計画の発表 ・介護計画の立案と留意点	今回の内容について復習する。	30
13	介護過程の理解	・介護の実施 ・実施の際の留意点	今回の内容について復習する。	30
14	介護過程の理解	・評価 ・評価における留意点 ・評価を踏まえた介護計画の修正	今回の内容について復習する。	30
15	総括・まとめ	介護過程の展開について総復習を行う	今回の内容について復習する。	60

科目名	介護過程Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	利用者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、介護実習の課題である介護過程の展開の様式に記載をすることで理解を深める。また、課題解決の思考課程を修得する学習とする。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。 ＜授業担当者＞ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームの相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として従事。 位置づけ・水準 DW2116		
達成目標	目標は介護過程実習Ⅰ－Ⅱで介護過程の各様式に情報を整理して記載できるようにする。さらにアセスメント力を身に付ける。 単位認定の基準は：「アセスメント表への記載について9割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	定期試験60％、課題40％
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成 「介護過程」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	・介護実習Ⅰ－Ⅱに向けて、介護過程の展開方法を確実に実践できるように理解してください。 ・グループワークや発表を中心に行うため、積極的に参加してください。		
オフィスタイム	創学館4F No.2研究室 火曜日V限、水曜日1限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護過程の基本確認	介護過程Ⅰの振り返りと介護過程Ⅱの進め方について理解する	・介護過程Ⅰを振り返るとともに、介護過程Ⅱで行う授業概要を理解する	15
2	介護過程の実践的展開1	フェイスシート、アセスメント表の項目意義について振り返る 演習：青島さんの事例紹介 映像から情報を収集する。	フェイスシート、アセスメント表の項目についての情報を整理する	60
3	介護過程の実践的展開2	事例からフェイスシート、アセスメン表記載する	アセスメント項目について発表でできるように整理する	60
4	介護過程の実践的展開3	アセスメント内容について発表し、情報の共有を行う 青島さんの映像を再確認する	アセスメント表を完成させる	30
5	介護過程の実践的展開4	ICFモデルを活用した情報の整理を行う	ICFモデルの様式を完成させる	30
6	介護過程の実践的展開5	ICFモデルの確認 個別援助計画書・実施評価表・意義を振り返る アセスメント視点の明確化、生活課題の作成①	授業中に指示されたところまで作成する	30
7	介護過程の実践的展開6	アセスメント視点の明確化、生活課題の作成②	予測される生活課題を発表できるように整理する	60
8	介護過程の実践的展開7	予測される生活課題を発表する。	他者の発表をもとに修正する。	30
9	介護過程の実践的展開8	介護計画書の作成	介護計画を発表できるように整理する。	30
10	介護過程の実践的展開9	介護計画書の発表	授業のポイントや留意点を振り返る	30
11	介護過程の実践的展開10	実施評価表記載の留意点を振り返る 計画に適した評価について個別に指摘	授業のポイントや留意点を振り返る	30
12	介護過程の実践的展開11	事例：Bの紹介	事例について情報の整理をする。	30
13	介護過程の実践的展開12	事例からフェイスシート、アセスメントシートに記載する。		45
14	介護過程の実践的展開13	アセスメントシートの確認		45
15	まとめ	介護過程の実践的展開のまとめ	実習に向けて実践できるように確認する	45

科目名	介護過程Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	介護過程Ⅰ・Ⅱで修得した、アセスメントする能力、アセスメントに基づき介護計画を作成する能力、根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力、実践を評価し、改善する能力などの実践能力の向上とともに、チームで働くための実践能力を身につける。 介護過程とチームアプローチとして、介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する。チームの一員としての役割を自覚し、協働する能力、他の職種・機関などと連携する能力を身につける。 適宜、講義や演習の中で、発表し他者の意見を聞き、論じることができるよう双方向性の授業を行う。 <藤田> 実務経験：医療現場での実務経験をもとに介護過程の実践について授業を行う。 実務経歴：医療機関において看護師として勤務。 課題へのフィードバック 1. 随時、他の学生や教員によるフィードバックを行う。 2. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2217			
達成目標	介護過程とチームアプローチとして、介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する。 単位認定の最低基準：他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性やチームとして介護過程を展開することの意義や方法を8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	課題演習70％ レポート提出30％	
教科書	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座テキスト 「介護過程」			
参考書	授業の中で、随時紹介			
学生への要望	自学・自習に励み発表では疑問、質問に対しての応答と他者の発表には積極的に質問を発言できるようにする。			
オフィスタイム	藤田：月・木曜日Ⅲ時限 創学館No2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・介護過程とケアマネジメントの関係性	①授業の概要について説明 ②ケアマネジメントについて	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
2	介護過程とケアマネジメントの関係性	ケアマネジメントの流れ	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
3	介護過程とケアマネジメントの関係性	ケアプランと個別援助計画	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
4	介護過程とケアマネジメントの関係性	チームとして介護過程を展開する意義 ケアカンファレンスの意義	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
5	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	チームアプローチの意義 ①チームアプローチの必要性 ②チームにおける介護福祉職の役割	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
6	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	チームアプローチの意義 ③専門職の視点	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
7	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	チームアプローチの実際	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
8	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	介護福祉士の仕事の魅力	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
9	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60
10	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
12	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
13	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
14	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
15	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
16	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
17	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
18	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
19	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
20	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
21	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
22	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
23	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
24	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
25	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
26	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
27	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
28	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
29	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	事例検討	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60
30	総括	今までの振り返りを行う	授業の中で指示されたことについてまとめる。	60

科目名	介護過程Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 1単位 選択	
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	個別の事例を通して、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開について理解する。介護実習Ⅱでの介護過程の展開を基に、フェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成とパワーポイントにまとめ発表する。発表に対して毎回のディスカッションを通して不足している情報や伝わる文章表現などを検討し各自の介護過程の展開をまとめる。 実務経験：医療現場での勤務経験を活かし、介護過程の展開方法について指導する。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 課題へのフィードバック ・発表後、他の学生や教員よりフィードバックを行う。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置付け・水準 DW2218			
達成目標	事例に基づいて、さまざまな利用者の生活と介護過程の展開方法が理解できている。 単位認定の最低基準 ①対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開について8割理解する ②事例報告や事例研究を通して、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うとともに、チームアプローチの重要性を8割理解する ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決能力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻の学生	成績評価 方法	課題70％、発表30％	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護過程」			
参考書	特になし			
学生への要望	介護過程の授業の総まとめとして、介護実習Ⅱの介護過程レポートを確実にまとめてください。			
オフィスタイム	藤田：月曜日・木曜日 3時限 創学館4階 No2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	介護実習Ⅱ及び介護過程記録をまとめる。	30
2	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
3	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
4	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
5	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
6	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
7	発表1-①	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
8	発表1-②	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	発表1-③	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
10	発表1-④	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
11	発表2-①	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
12	発表2-②	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
13	発表2-③	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
14	発表2-④	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
15	まとめ	・介護過程の展開についてのまとめを行う	提出用パワーポイントの作成	60

科目名	介護総合演習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択	
担当教員	廣野 正子,藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	介護総合演習では、介護実習Ⅰ-1で必要になる生活支援技術や介護の基本など各領域で学ぶ知識と技術の統合により、介護実習での学びを深化させ、介護の専門職としての態度を形成する。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 位置づけ・水準 DW2119			
達成目標	介護実習Ⅰ－1の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う。 ①個々の学生の持つ関心や疑問・不安などに焦点をあて、自信を持って実習に臨めるようになる。 ②介護実習の事前に実習施設についての理解を深める。 ③コミュニケーションについて各領域で学んだ知識と技術を統合し実践できるようになる。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況に合わせたコミュニケーションについて8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	レポート50%課題 演習50%	
教科書	なし			
参考書	光成館『介護福祉総合演習』			
学生への要望	・自信を持って実習に臨めるように、場面に応じたスキルを確実に身につけること。			
オフィスタime	廣野：創学館No.1 研究室 水曜日 Ⅰ・Ⅱ限 藤田：家政学館4階 被服学研究室 月・水曜日 Ⅳ限			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	実習の意義と目的 廣野	①介護実習の意義と目的を理解する。 ②介護実習に臨むにあたり、目標をもつことの大切さを理解する。 ③介護実習では、個別ケアの視点をもつことを理解する。 ④「実習前→実習中→実習後」という介護実習の流れと、それぞれの時期における学習のポイントを理解する。	介護実習の意義を理解し、介護実習の目標について考えまとめる。	30
2	介護のコミュニケーション1 廣野	①介護コミュニケーションの意義 演習：あなたのコミュニケーションスタイルは？ その後、グループディスカッションを行う。	コミュニケーションの意義を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。	30
3	介護のコミュニケーション2 廣野	①介護職に求められる効果的なコミュニケーション ②高齢者への声掛けと傾聴 演習：SOLERの体験後、グループディスカッションを行う。	コミュニケーションの傾聴を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。	30
4	介護のコミュニケーション3 廣野	①自己開示と対人関係 ②共感と高齢者による感情表現 ③演習：共感の体験後、グループディスカッションを行う。	自己開示と共感について友人、家族間などで意識して会話をしてみる。	30
5	実習生個人票 廣野	①実習生個人票についての説明と作成 ②「誓約書」	実習生個人調査の下書きをしてくる。	30
6	実習計画書の作成1 廣野	①実習Ⅰ-1の目的を理解する。 ②実習計画書についての説明と作成	実習計画書を作成してくる。	30
7	実習計画書の作成2 廣野	①実習計画書について発表	実習施設について調べてくる。	30
8	多様なニーズと介護サービス 藤田	①実習施設や事業の概要について理解する。	施設の理解（事前資料）を熟読して、理解でない用語について質問できるようにまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	施設の理解 藤田	①特別養護老人ホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ②介護老人保健施設のサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ③通所介護、グループホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ④実習Ⅰ－１で学ぶべきポイントを理解する。	本日の授業内容から、学生自身の興味のある施設種別を選択し、またその理由も明確にする。	30
10	介護実習記録 藤田	①記録の意義と目的 ②観察記録の方法 ③実習記録の基礎知識 ④介護実習日誌（冊子）	実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。	30
11	介護実習記録の方法 藤田	①実習関連の記録の書き方 ②実習記録を書く時の注意点	指摘された点に留意して再度、実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。	30
12	介護福祉士の職業倫理 藤田	①介護福祉士としての専門職に求められる福祉の理念と職業倫理について理解する。 ②実習に関わるコミュニケーションの方法 ③実習生としてのマナー、接遇	授業の中で指示されたことについて、まとめる。	30
13	実習前オリエンテーション1 藤田	①実習施設の確認 ②実習についての心構え、注意点の確認 ③実習施設への礼状の書き方	実習施設について調べてくる。	30
14	実習前オリエンテーション2 藤田	①先輩による体験談 ②質疑応答	本日の体験談から学んだこと、疑問に感じたことなどまとめる。	30
15	実習前オリエンテーション3 藤田	①実習事前訪問の留意点と確認事項（健康管理含む） ②実習Ⅰ－１の評価内容 ③個人情報の取り扱い 授業全体の総括	事前訪問の準備について書き出し、同施設になる学生間で連携すること。	30

科目名	介護総合演習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択	
担当教員	廣野 正子			
開講期	後期			
授業概要	介護実習Ⅰ－Ⅱの教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。 廣野 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 位置づけ・水準 DW2120			
達成目標	介護実習Ⅰ-2の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う ①介護実習Ⅰ－Ⅰを振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて自己の課題を明確にする。 ②実習施設の役割と機能を理解し、対象者とその家族の生活ニーズを考える。 ③対象者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解できる。 単位認定の最低基準：対象者・家族のニーズに対する自立支援の必要性について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：理論的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	試験70％、課題30％	
教科書	随時プリントを配布する			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	実習の実践に必要な知識や、実習生としてのマナーを修得してほしい。			
オフィスタイム	廣野：火曜日Ⅴ限・水曜日Ⅰ限（創学館4階 No.2） 藤田：月・水曜日Ⅳ限（創学館4階 No.2）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅰ－Ⅰ 振り返り（1） 廣野	・介護実習関係書類の整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅰ－Ⅰを振り返り、報告できるようにまとめる。	30
2	介護実習Ⅰ－Ⅰ 振り返り（2） 廣野	・介護実習の自己評価	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
3	介護実習Ⅰ－Ⅰ 振り返り（3） 廣野・藤田	・介護実習報告会	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
4	介護実習Ⅰ－Ⅰ 振り返り（4） 廣野・藤田	・介護実習評価（施設）	施設評価と自己評価の相違を確認する。	30
5	介護実習Ⅰ-Ⅱの展開（1） 藤田	・介護実習Ⅰ-Ⅱが始まるまでの流れと事前学習の内容を理解する。 ・実習Ⅰ-Ⅱのねらい ・実習Ⅰ-Ⅱの介護事業所の理解	介護実習Ⅰ-Ⅰでの実習記録から良く書けている記録、そうでない記録をチェックする。	60
6	介護実習Ⅰ-Ⅱの展開（2） 藤田	・実習記録や日誌のまとめ方を学ぶ。	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
7	介護実習Ⅰ-Ⅱの展開（3） 藤田	・介護実習Ⅰ－Ⅱ日誌 ・プロセスレコードの説明	日常生活の一場面から、プロセスレコードを記録する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	介護実習Ⅰ-Ⅱの展開（４） 藤田	・プロセスレコードの実際と活用法	食事、整容、入浴での介護技術について実践できるように予習する。	60
9	演習（１） 藤田	・食事場面における介護技術の展開 ・整容場面における介護技術の展開 ・入浴場面における介護技術の展開	排泄、認知症の方への対応などについて配慮することをまとめる。	30
10	演習（２） 藤田	・排泄場面における介護技術の展開 ・認知症の方への介護技術の展開	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
11	介護実習Ⅰ-Ⅱの展開（５） 藤田	・介護実習Ⅰ-Ⅱの実習施設について調べたことを、発表する。	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
12	介護実習Ⅰ-Ⅱの展開（６） 廣野	・介護実習Ⅰ-Ⅰからの課題を明らかにし、実習目標を作成する。	実習目標を完成する。	30
13	事前訪問準備 廣野	・事前訪問について必要事項をまとめる。 ・介護過程の展開、誓約書、個人調書について	事前訪問で確認することをまとめる	60
14	実習前オリエンテーション 廣野	・実習先の概況、事前訪問の準備。	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
15	介護総合演習Ⅱの総括 廣野	・授業の補足と総括	介護実習Ⅰ-Ⅱの準備をする。	30

科目名	介護総合演習Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 1単位 選択	
担当教員	廣野 正子,藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	介護実習Ⅰ－１、介護実習Ⅰ－２を通して体験した、様々な利用者に対する介護技術、多様なサービス形態の意義を整理し、介護実習Ⅱに向けて知識や技術を統合していく。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。 【授業担当者】 廣野担当 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田担当 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 位置づけ・水準 DW2221			
達成目標	介護実習Ⅱの介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、専門職としての態度を養う。 ①これまでの実習体験を包括的に考察し、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させ自己の課題を明確化する。 ②実習施設について地域との関わりを含め事前に理解する。 ③本人主体の生活を継続するための介護過程を展開できるように計画が作成できる。 単位認定の最低基準：本人主体の生活を継続するための介護過程の展開について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	課題レポート70％ 演習30％	
教科書	なし			
参考書	光生館『介護福祉総合演習』			
学生への要望	・介護実習Ⅰ－２の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護実習Ⅱに向けた学生自身の課題を明確にもってほしい。			
オフィスタイム	廣野：創学館4階No.2研究室 火曜日Ⅴ限・水曜日Ⅰ限 藤田：創学館4階No.2研究室 月・水曜日Ⅳ限			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅰ-2振り返り① 廣野	・介護実習関係書類の整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅰ-2を振り返り、発表できるようにまとめる	30
2	介護実習Ⅰ-2振り返り② 廣野・藤田	・介護実習施設の評価	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
3	介護実習Ⅰ-2振り返り③ 廣野・藤田	・介護実習報告会	実習Ⅰ-2の実習日誌を振り返り、記録が良く書けているものなど考察する。	30
4	介護実習記録（実習日誌）① 藤田	・実習日誌の書き方 体験から考察までの記入方法 良く書けた記録、良く書けていない記録	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
5	介護実習記録（実習日誌）② 藤田	・実習日誌の書き方 体験から考察までの記入方法 良く書けた記録、良く書けていない記録	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
6	介護実習記録（プロセスレコード）① 藤田	・プロセスレコードの発表と振り返り	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
7	介護実習記録（プロセスレコード）② 藤田	・プロセスレコードの発表と振り返り	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
8	介護実習Ⅱ（ねらい） 藤田	・介護実習Ⅱのねらいを理解する ・介護実習Ⅱのモデル（目的や目標など）を具体的にイメージする	実習施設について調べてまとめる	60
9	介護実習Ⅱ（施設） 藤田	実習先の施設種別の特徴を理解する	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
10	介護実習Ⅱ（実習目標） 廣野	個別の実習目標を作成する 配布：[実習日誌・承諾書の写し]	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	グループディスカッション 廣野	・利用者理解・自己理解の演習介護実習における学び（KJ法）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
12	グループディスカッション 廣野	・利用者理解・自己理解の演習介護実習における学び（KJ法）を発表	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
13	介護実習Ⅱ（課題） 廣野	・介護過程の展開の進め方（1-2の体験を振り返り） ・実習目標達成のための方策	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
14	実習前指導② 廣野	・実習事前訪問の準備 ・介護実習Ⅱ関係書類の作成準備（個人調書、誓約書、健康診断書、健康チェック表など）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
15	実習前指導③ 藤田	・介護実習Ⅱの展開（まとめ）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

科目名	介護総合演習Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	これまでの介護実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にし専門職としての考察を通し、介護観を構築する。 また、事例を通してディスカッションを繰り返し、各自の介護に対する考えを確立していく。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW222		
達成目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行い、介護観を構築する。 ①介護実習で学んだ介護福祉士としての知識・技術の確認から自己の課題を明らかにする。 ②介護実習で展開された介護実践について、客観的な視点からの研究を通し実践研究の意義とその方法を理解する。 ③介護実践事例に対しての様々な意見に対して考察を深化させ「介護観」を構築する。 単位認定の最低基準：実習を振り返り自己の課題を明確にするとともに、介護観の意義を8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻 介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	レポート課題70％ 演習課題30％
教科書	なし		
参考書	日総研 「介護の誇り」、ワニブックス「最強の介護職、最幸の介護術」		
学生への要望	実習のみならず、これまで学内・学外で学んできた介護福祉に関する学びのまとめとして取り組んでほしい。		
オフィスタイム	・火曜日 V時限 ・水曜日 I時限 創学館 4 階No.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅱ振り返り1	・介護日誌等の書類整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅱで使用した記録物を整理する	30
2	介護実習Ⅱ振り返り2	・介護実習Ⅱの報告会	介護実習Ⅱの振り返りをまとめる	30
3	介護実習Ⅱ振り返り3	・介護実習施設の評価	プロセスレコードについて発表できるように準備する	30
4	介護実習Ⅱ振り返り4	・プロセスレコードの発表とディスカッション	プロセスレコードからわかったことをまとめる。	30
5	介護観1	・介護観とはなにか	授業の中で指示された箇所を要約する	60
6	介護観2	「介護のプロとして護るべきもの」についてディスカッション	介護観についてその意義を調べる	60
7	介護観3	「対人援助の専門職としての誇り」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
8	介護観4	「認知症の人々の心に寄り添う」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
9	介護観5	「命に寄り添う使命」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
10	介護観6	「誇り高き介護を創るために」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
11	介護観7	「最強の介護職、最幸の介護術」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
12	介護観8	「最強の介護職、最幸の介護術」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
13	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30
14	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30
15	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30

科目名	介護実習Ⅰ－1	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子,藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	介護を必要とする対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。さらに、介護を必要とする個人を理解するため、対象者や家族とのコミュニケーションを実践し、対象者の状況に応じた適切な生活支援技術を学ぶ。 介護実習Ⅰ－1は通所施設での実習となる。 実習時間の構成は、1日8時間で10日間、計80時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。 廣野 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準 DW2123		
達成目標	介護を必要とする人の理解と、コミュニケーションの意義を理解できる。 ①学内で学んだ講義、演習からのコミュニケーション技術の実践にて対象者との関わりを深める。 ②介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 ③対象者、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況に合わせたコミュニケーションについて8割理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	実習施設の評価80％、巡回時の面談・実習日誌20％
教科書	なし		
参考書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習。・介護実習実習施設からの提示される資料		
学生への要望	各自の目標を明確にして、実習の臨んでほしい		
オフィスタイム	廣野：創学館4階No.2研修室 火曜日 V限・水曜日 I限 藤田：創学館4階No.2研修室 月・木曜日 IV限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護事業所実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	90
2	学外介護事業所実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	90
3	学外介護事業所実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護事業所実習	多職種協働の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護事業所実習	多職種協働の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護事業所実習	多職種協働の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護事業所実習	多職種協働の実践④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り①	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
29	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り②	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
30	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り③	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

科目名	介護実習Ⅰ－2	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。 介護実習Ⅰ－2は老人保健施設やグループホームなどの福祉施設での実習となる 実習時間の構成は、1日8時間で23日間、計184時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準 DW2124		
達成目標	様々な場面で展開される介護を実践し、介護福祉士の役割を理解することができる。 ①介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ②介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 ③介護を必要とする対象者の理解のためアセスメント能力を身につける。☑ 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況を適切にアセスメントすることについて8割理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習		
参考書	実習施設で配布される資料☑		
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい		
オフィスタイム	廣野：創学館4階 No.2研究室 火曜日Ⅴ限・水曜日Ⅰ時限 藤田：創学館4階 No.2研究室 月・水曜日Ⅳ時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	生活支援技術の実践① 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	生活支援技術の実践② 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	生活支援技術の実践③ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	生活支援技術の実践④ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑤ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑥ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ① 生活相談員、介護支援専門員、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ② 医師、看護師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ③ 栄養士、調理師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ④ 理学療法士、作業療法士、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ⑤ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ⑥ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑦ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑧ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑨ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑩ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑪ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑫ 基本的な生活支援技術を実践	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践① フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
25	学外介護施設実習	介護過程の実践② フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
26	学外介護施設実習	介護過程の実践③ フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
27	学外介護施設実習	介護過程の実践④ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
28	学外介護施設実習	介護過程の実践⑤ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
29	学外介護施設実習	介護過程の実践⑥ アセスメント表1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
30	学外介護施設実習	介護過程の実践⑦ アセスメント表1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
31	学外介護施設実習	介護過程の実践⑧ アセスメント表1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
32	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	介護過程の実践⑨ アセスメント表 1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
35	学外介護施設実習	介護過程の実践⑩ アセスメント表 1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
36	学外介護施設実習	介護過程の実践⑪ アセスメント表 1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
37	学外介護施設実習	介護過程の実践⑫ アセスメント表 1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
38	学外介護施設実習	介護過程の実践⑬ アセスメント表 1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
39	学外介護施設実習	介護過程の実践⑭ アセスメント表 1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
40	学外介護施設実習	介護過程の実践⑮ アセスメント表 1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
41	学外介護施設実習	介護過程の実践⑯ アセスメント表 1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
42	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
43	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
44	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
45	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
46	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
47	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
48	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
49	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
50	学外介護施設実習	介護過程の実践⑰ アセスメント表 2 の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
51	学外介護施設実習	介護過程の実践⑱ アセスメント表 2 の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
52	学外介護施設実習	介護過程の実践⑲ アセスメント表 2 の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
53	学外介護施設実習	介護過程の実践⑳ アセスメント表 2 の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
54	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
55	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
56	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
57	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
58	学外介護施設実習	行事、レクリエーションに参加し、企画・実施・評価の過程を学ぶ。可能であれば、企画し、実施する	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
59	学外介護施設実習	生活支援技術の実践 施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な多職種の役割を学ぶことで、生活支援のチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	60

科目名	介護実習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子,藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	介護過程の展開を通して対象者の生活を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。また、専門職としての基本的技術を身につける。 介護実習Ⅱは特別養護老人ホームのなどの福祉施設（入所）での実習となる。 実習時間の構成は、1日8時間で24日間、計192時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準 DW2225		
達成目標	対象者を主体とする生活と自立支援の介護過程の展開を実践できる。 ①対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 ②各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 単位認定の最低基準：対象者のニーズを適切にアセスメントし、介護過程を展開することについて8割以上理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	実習施設の評価80％、巡回時の面談・日誌の記録20％
教科書	なし		
参考書	新・介護福祉士養成講座介護総合演習。・介護実習実習施設で配布される資料		
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい		
オフィスタイム	廣野：創学館4階 No.2研修室 ・火曜日Ⅴ限、水曜日Ⅰ限 藤田：創学館4階 No.2研修室 ・月・水曜日Ⅳ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
29	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
30	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
31	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
32	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
35	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
36	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
38	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
39	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
40	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
41	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
42	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
43	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、 医療的ケアの実践に役立てる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
44	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、 医療的ケアの実践に役立てる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
45	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
46	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
47	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、 医療的ケアの実践に役立てる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
48	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、 医療的ケアの実践に役立てる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
49	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、 援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
50	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、 援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
51	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、 援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
52	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、 援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
53	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
54	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
55	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
56	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
57	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
58	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
59	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

科目名	老化の理解	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	諏訪 雅貴			
開講期	前期			
授業概要	成長・発達の観点から老化を理解し、老人に関する心理や身体機能の変化とその特徴に関する基本的知識を解説します。 試験問題は返却して解答例を公開するので、復習に活用してください。 位置づけ・水準 HW2122			
達成目標	発達と老化についての関心を高め、探求する態度と能力を育てるとともに、老化に伴う生体の生理的变化や高齢者の健康と生活の質（QOL）について理解する。60点以上で単位を認定する。 デプロマポリシーとの関連 専門知識の修得と理解、論理的思考と問題解決力を養う			
受講資格	家政学部 生活科学科 社会福祉専攻		成績評価 方法	期末試験（100点満点）で評価する。
教科書	最新 介護福祉養成講座 1 2 発達と老化の理解 第2版 中央法規			
参考書	介護福祉士国家試験の過去問集など			
学生への要望	実際に高齢者に接することを念頭に置いて受講して下さい。			
オフィスタイム	月曜日3・5限 水曜日1・2限 木曜日1・2限 場所 家政学館3階 生理学・食品衛生学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 人間の成長と発達の基礎的知識 人間の発達段階と発達課題（1）	この講義の概要について説明する 成長・発達の考え方・原則・影響する要因、および発達理論について概説する	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
2	人間の発達段階と発達課題（2）	発達段階と発達課題、身体機能・心理的機能・社会的機能の発達について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
3	老年期の特徴と発達課題（1）	老年期の定義、老年期の発達課題について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
4	老年期の特徴と発達課題（2）	老年期をめぐる今日の課題について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
5	老化にともなうところからの変化と生活（1）	老化にともなう身体的な変化と生活への影響	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
6	老化にともなうところからの変化と生活（2）	老化にともなう心理的な変化と生活への影響について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
7	老化にともなうところからの変化と生活（3）	老化にともなう社会的な変化と生活への影響について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
8	高齢者と健康（1）	健康長寿に向けての健康について、高齢者の症状・疾患の特徴について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	高齢者と健康 (2)	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 骨格系・筋系と脳・神経系について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
10	高齢者と健康 (3)	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 皮膚・感覚器系、循環器系、呼吸器系について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
11	高齢者と健康 (4)	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 骨格系・筋系と脳・神経系について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
12	高齢者と健康 (5)	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 消化器系、腎・泌尿器系、内分泌・代謝系について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
13	高齢者と健康 (6)	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 歯・口腔疾患、悪性新生物（がん）、感染症について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
14	高齢者と健康 (7)	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 精神疾患、その他の疾患について	授業前に教科書に目を通しておくこと。 授業後は、配布したプリントの問題を行うこと。次週、授業の中で答え合わせを行う。	30
15	高齢者と健康 (8) まとめ	保健医療職との連携について 本講義全体のまとめ	授業前に教科書に目を通しておくこと。授業後は、授業中に行った演習問題を解きなおし、知識の定着を図ること。	30

科目名	認知症の理解A	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	茂木 光代			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 認知症を取り巻く歴史的背景や施策について学ぶ。また、看護師としての医療機関での勤務経験を活かし、認知層の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらにより引き起こされる日常生活への影響について理解する。 認知症の人を正しく理解し、適切な支援のあり方について学ぶ （授業全体の内容の概要） 認知症を取り巻く社会的な問題について学ぶ。また、認知用を引き起こす代表的な疾患を理解するとともに認知症症状の生活面への影響と適切な支援のあり方について学ぶ。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 課題に対するフィードバック：最終授業で全体に対するフードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2128			
達成目標	授業終了時の到達目標 ①認知症の原因疾患と生活上の影響を理解する ②認知症が引き起こす症状とその背景について理解する ③認知症の人に対するより良い対応のし方を理解する 単位認定の最低基準：認知症を引き起こす代表的な疾患と日常生活への影響について7割理解する ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・問題発見・問題解決力・基本的支援技術			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	筆記試験 90％ レポート 10％	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座 1 3 「認知症の理解」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	自学・自習に励むこと			
オフィスタイム	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	認知症の人の生きる世界	①ガイダンス・授業内容の説明 ②認知症の人の生きる世界について理解を深める（ビデオ使用）	シラバスを把握する。ビデオの感想を書き次回提出する。	30
2	認知症の基礎的理解	①認知症の人を取り巻く課題 ②認知症の定義と進行による症状	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
3	認知症の基礎的理解	①脳のしくみ ②認知症の病理的理解	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
4	認知症の基礎的理解	①認知症と区別すべき症状 老化と認知症、うつとアパシー	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
5	認知症の基礎的理解	①認知症の人の心理的理解 不安・うつ・喪失感	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
6	認知症の症状・診断・治療・予防	①認知症の症状（中核症状）の理解 中核症状と生活障害	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
7	認知症の症状・診断・治療・予防	①BPSDの理解 BPSDの主な症状とBPSDを引き起こす要因	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
8	認知症の症状・診断・治療・予防	①認知症の検査・診断 ②認知症の表か・尺度	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
9	認知症の原因疾患の理解	①認知症の原因疾患と症状 生活障害の理解 ・アルツハイマー型認知症 ・血管性認知症	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
10	認知症の原因疾患の理解	①認知症の原因疾患と症状 生活障害の理解 ・レビー小体型認知症 ・前頭側頭型認知症	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
11	認知症の原因疾患の理解	①治療可能な認知症 ・正常圧水頭症 ・慢性硬膜下血腫	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
12	認知症の原因疾患の理解	①若年性認知症	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
13	認知症の治療	①認知症の治療法	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	認知症の予防	①認知症の予防法	今回の授業内容の復習と次回の授業内容の予習を行う。	30
15	補足及びまとめ	授業全体の振り返りを行う	授業全体の振り返りを行う	30

科目名	認知症の理解B	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	茂木 光代			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 認知症機能障害が及ぼす日常生活への影響について理解する。また、看護師としての医療機関での勤務経験を活かし、認知症の人の心理状態を理解した上で、その人を中心としたアセスメント法及び支援法について学ぶ。地域のサポート体制、チームアプローチについて理解する。 〔授業全体の内容の概要〕 認知機能障害が及ぼす日常生活への影響を理解する。また、認知症の人が自分らしく生きていけるように認知症本人を中心としたアセスメント及び支援法について学ぶ。 実務経験：看護師として医療機関に勤務 課題に対するフィードバック：最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水DW2129			
達成目標	〔授業修了時の到達目標〕 ①認知機能障害が及ぼす日常生活への影響が理解できる。 ②認知症の人の特性理解した上で、その人を中心としてアセスメント及び支援法を考察することができる。 ③地域のサポート体制、チームアプローチについて理解できる 単位認定の最低基準：認知症の人主体の支援法について7割理解する。 ディプロマポリシーとの関係：知識・問題発見・問題解決力・基本的支援技術			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	筆記試験 90％ レポート 10％	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座 1 3 「認知症の理解」 プリント配布			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	自学・自習にはげむこと			
オフィスタイム	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	認知症ケアの歴史	①ガイダンス・授業内容の説明 ②認知症の人を取り巻く社会状況	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
2	認知症ケアの歴史	①認知症ケアの理念と視点	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
3	認知症ケアの歴史	①認知症当事者緒の思いとサポート法	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
4	認知症ケアの歴史	①パーソンセンタードケア	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
5	認知症ケアの実際	①ユマニチュード 不安・うつ・喪失感	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
6	認知症ケアの実際	①認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
7	認知症ケアの実際	①認知症の人とのコミュニケーション	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
8	認知症ケアの実際	①認知症の人に対する日常的なケア	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
9	認知症ケアの実際	①認知症の人に対する日常的なケア	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
10	認知症ケアの実際	①認知症に人へのさまざまなアプローチ ・ユマニチュード ・バリデーション	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	認知症ケアの実際	①認知症の人の終末期医療と介護	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
12	認知症ケアの実際	①認知症の人に接した環境づくり	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
13	介護者支援	①家族への支援	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
14	介護支援	①認知症の人の地域生活支援	シラバスの確認と今回の授業内容の復習を行う。次回の授業内容の予習を行う。	30
15	授業全体の補足及び振り返り	①他職種連携と協働 ②授業全体の振り返りを行う	授業全体の振り返りを行う	30

科目名	障害の理解	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択	
担当教員	茂木 光代			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目標・ねらい〕 障害の医学的側面からの基礎知識を学ぶとともに 看護師としての医療機関での勤務経験を活かし、障害を持つ人の心理的理解や日常生活への影響を理解し自立に向けての支援の在り方について学ぶ。 〔授業全体の内容の概要〕 障害者福祉の基本理念を学ぶとともに障害別による基礎的理解と障害の特性に応じた支援のあり方について学ぶ。さらに障害のある人の地域生活を支えるさまざまな社会資源・関係機関との連携、関係職種とのチームアプローチ、家庭支援のあり方について学ぶ。 実務経験：看護師として医療機関に勤務 〈課題へのフィードバック〉 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			
達成目標	①障害別による障害の特性と生活に及ぼす影響を理解し、どのような支援が必要と考えられる力を身に着ける。 ②障害福祉分野の制度や専門職の役割等について説明できる。 単位認定の最低基準：心身の障害の理解と適切な支援について8割理解していること <ディプロマポリシーとの関係> 知識・問題発見・問題解決力・基本的支援技術			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	筆記試験 90％ 出席状況 10％	
教科書	介護福祉士養成講座 1 4 「障害の理解」中央法規出版			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	自学・自習に励むこと			
オフィスタイム	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、障害の概念	①障がいのとらえ方 ②ICIDHからICFへの返還	医学モデルと社会モデルをせつめいできるようにする ICFを説明できるように復習する	30
2	障害者の概念	①障害者の定義	身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児について説明できるようにする。	30
3	障害者福祉の基本理念	①ノーマライゼーション ②リハビリテーション ③インクルージョン	本日の基本理念について復習し、理解を深める。	30
4	障害者福祉の基本理念	①エンパワメント ②ストレングス ③アドボカシー	本日の基本理念について復習し、理解を深める。	30
5	障害者福祉の基本理念	①国際障害者年 ②障害者権利条約	本日の基本理念について復習し、理解を深める。	30
6	障害者福祉に関連する制度	①障害者総合支援法 ②障害者差別解消法 ③障害者虐待防止法	障害者福祉に関連する制度について復習し、理解を深める	30
7	障害者福祉に関連する制度	①障害者の就労支援 ②成年後見制度	障害者福祉に関連する制度について復習し、理解を深める	30
8	障害者福祉制度と介護保険制度	①障害者福祉制度と介護保険制度の違い ②障害福祉サービスと介護保険サービスの併用	障害者福祉に関連する制度について復習し、理解を深める	30
9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	①障がいのある人の心理 ②肢体不自由者 ③視覚障害・聴覚障害・重複障害	本日の身体的障害について医学的な理解と支援について復習する	30
10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	①内部障害	本日の身体的障害について医学的な理解と支援について復習する	30
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	①内部障害 ②重症心身障害	本日の身体的障害について医学的な理解と支援について復習する	30
12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	①知的障害 ②精神障害 ③高次脳機能障害	本日の身体的障害について医学的な理解と支援について復習する	30
13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	①発達障害 ②難病	本日の身体的障害について医学的な理解と支援について復習する	30
14	連携と協働	①地域のサポート体制 ②チームアプローチ	連携と協働の意義と他職種の役割について復習する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	家族への支援	①家族への支援とは ②家族の介護力の表かと介護負担の軽減 ③授業全体の振り返り	家族支援の意義と介護負担の軽減について 復習する	30

科目名	こころのしくみと機能	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	宇治 和子			
開講期	前期			
授業概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問です。心理学の歴史や理論、基本的な考え方などを幅広く学ぶことにより、支援対象者がその行動を取った理由、不安の原因、発言の背景など、より深い人間理解が可能となります。この授業は、介護福祉士・社会福祉士の資格必修科目に位置づけられ、臨床心理士・公認心理師であり、福祉行政の現場で心理職として多職種と連携しながら実務をした経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（位置付け・水準 DW2231）。			
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・心理学的視点や基礎理論に基づいて、人間理解ができるようになる。 ・人間の発達段階や発達課題から見た問題の捉え方ができるようになる。 なおこの科目は、本学DPの「論理的思考・問題解決力」「倫理的・社会的責任」に関連しています。			
受講資格	介護福祉士の資格取得を目指す者（必修） 社会福祉士の資格取得を目指す者（必修）	成績評価 方法	積極的な授業参加（10％）、授業内課題やレポート（3回：90％）により評価します。	
教科書	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
オフィスタイム	授業開始前・終了後・月曜3限・4限：宇治研究室（836）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する ・心理学とはなにかについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	心理学史	・心理学の大まかな歴史的流れを説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	学習心理学	・学習心理学の考え方をを使って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	認知心理学	・認知心理学の考え方をを使って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	社会心理学	・社会心理学の考え方をを使って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	感情心理学	・感情心理学の考え方をを使って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	人格心理学	・人格心理学の考え方をを使って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	発達心理学	・発達心理学の考え方をを使って実験し、その分析から人の行動を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	臨床心理学の世界	・臨床心理学の大まかな歴史的流れを説明する ・共感・傾聴・人に寄り添う態度について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	人間の発達段階と課題 1	・胎生期/乳幼児の発達段階と課題 ・愛着について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
11	人間の発達段階と課題 2	・幼児期/児童期の発達段階と課題 ・様々な障害について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	人間の発達段階と課題 3	・思春期/青年期の発達段階と課題 ・アイデンティティ形成について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	人間の発達段階と課題 4	・成人期の発達段階と課題 ・結婚・子育てについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	人間の発達段階と課題 5	・中年期/老年期の発達段階と課題 ・老いや死と向き合う過程について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	認知症の世界	・脳の機能と役割について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

科目名	医療的ケアⅠ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〔授業全体の内容の概要〕 ①医療的ケアに関連する制度②安全な療養生活 ③清潔保持と感染予防 ④健康状態の把握 ⑤高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論 ⑥「たん吸引」実施手順 ⑦高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑧「経管栄養」実施手順を理解する 実務経験：総合病院での勤務経験を活かし、喀痰吸引や経管栄養等について安全にケアが提供できるような授業を実施する。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 課題に対するフィードバック 適宜、項目ごとに確認テストを実施し、修得状況を確認していく。 前期終了時には、喀痰吸引についての確認テストを実施し、後期の1回目で解説を行う。 位置づけ・水準 DW2332		
達成目標	目標は ①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する。 ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する。 ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。 ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する。 単位認定の最低基準：医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を8割理解する。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科福祉コース	成績評価 方法	期末試験80%、小テスト20%
教科書	中央法規出版「医療的ケア」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 。 前回の授業内容等については小テスト等で確認を行うため復習を行う。 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・木曜日 3時限目 創学館No.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	医療的ケア実施の基礎	①ガイダンス ②医療的ケアとは ③医行為について ③喀痰吸引制度	シラバスの内容を確認し、今回の内容について見直しを行う。	20
2	医療的ケア実施の基礎	①医療的ケアと喀痰吸引等の背景 ②その他の制度	今回の内容について見直しを行う。	30
3	安全な療養生活	①たんの吸引や経管栄養の安全な実施 ②救急蘇生法(生活支援技術での復習を兼ね、救急蘇生法については学生がまとめて発表する。質疑応答も含む)	発表用パワーポイントを作成する。 配布資料の準備 (2分割、白黒可)	60
4	安全な療養生活	救急蘇生法発表(生活支援技術での復習を兼ね、救急蘇生法については学生がまとめて発表する。質疑応答も含む)	今回の内容について見直しを行う。	30
5	清潔保持と感染予防	①感染予防 ②介護職の感染予防 ③療養環境の清潔、消毒法	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	清潔保持と感染予防	①消毒と滅菌 手指消毒や滅菌手袋の着用方法について演習する。 ②介護施設等において注意が必要な感染症をまとめる。	今回の内容を見直すとともに、感染症についての発表資料を作成する。	60
7	健康状態の把握	①感染症について発表する ②身体・精神の健康 ③健康状態を知る視点 お互いのバイタルサインを測定し体感する。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
8	健康状態の把握	急変状態について	今回の内容を見直すとともに、確認テストに備えた学習を行う。	60
9	医療的ケアの基礎知識	前回までのまとめと確認テスト	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
10	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①呼吸のしくみとはたらき ②いつもと違う呼吸状態	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
11	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①喀痰吸引とは ②人工呼吸器と吸引（DVD使用）	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
12	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①子どもの吸引について ②吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
13	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①呼吸器系の感染と予防 ②たん吸引により生じる危険、事後の安全確認	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
14	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①急変・事故発生時の対応と事前対策 ②呼吸器系についてのまとめ	今回までの内容を見直すとともに、次回の確認テストに向け、教科書や配布プリントを見直し試験に向けた学習を行う。	60
15	前期総括	1～13講義までの確認テスト及び解説	試験の内容を見直す。	60
16	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の実施手順を映像等で確認する	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
17	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 演習：喀痰吸引の器具や器材を使用し清潔保持等について考える ②喀痰吸引の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
18	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
19	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点 喀痰吸引で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
20	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引に伴うケア ②報告及び記録 ③口腔ケア	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
21	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の実施手順の流れ、ポイントと留意点のまとめ	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
22	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①消化器系のしくみとはたらき ②消化・吸収と、よくある消化器の症状 ③経管栄養法とは	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
23	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①注入する内容に関する知識 ②経管栄養実施上の留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
24	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①子どもの経管栄養について ②経管栄養に関する感染と予防 ③経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 ②急変・事故発生時の対応と事前対策	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
26	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	経管栄養の種類としくみまとめと確認テスト	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
27	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①経管形容で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 ②経管栄養の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
28	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	経管栄養の技術と留意点 経管栄養で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
29	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①経管栄養の技術と留意点 ②経管栄養に必要なケア ③経管栄養のまとめ	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
30	統括	喀痰吸引や経管栄養についてのまとめ 確認テスト及び解説	今回の内容を見直すとともに、定期テストに向けて教科書や配布プリントで学習する。	60

科目名	こころとからだのしくみA	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〔授業全体の内容の概要〕 生活支援（移動・身じたく・食事）に必要な基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、医療的な視点を踏まえて授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 課題に対するフィードバック ・各単元ごとに確認テストを実施し、解説することでフィードバックする。 ・最終授業で全体的なフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2134			
達成目標	〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 ①人体の構造と働きを理解する ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について理解する ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 単位認定の最低基準：①人体の構造と働きを8割理解する ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について8割理解する ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力 〔履修カルテの評価項目〕 ①人体の構造と働きを理解できたか ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患による影響を理解できたか ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する			
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	期末試験80％、小テスト20％	
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・木曜日 3限目 創学館No.2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	こころのしくみの理解	①ガイダンス・授業内容の説明 ②健康の定義	シラバスを確認する。今回の内容を復習する。	30
2	こころのしくみの理解	①人間の欲求とは ②自己実現と尊厳	今回の内容を復習する。	30
3	こころのしくみの理解	こころのしくみ ①こころとは何か ②脳のしくみ ・学習・記憶・思考のしくみ ・認知・適応のしくみ こころのしくみについての演習問題を実施する	今回の内容を復習する。	30
4	からだのしくみの理解	からだのしくみ からだの部位の役割	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
5	からだのしくみの理解	からだのしくみ からだの部位の役割	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
6	からだのしくみの理解	からだのしくみ からだの部位の役割	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	からだのしくみの理解	からだのしくみ からだの部位の役割	今回までの内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。	60
8	移動に関連したところとからだのしくみ	前回までの確認テスト 移動のしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 変化の気づきと対応	移動に関しての内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。	60
10	身じたくに関連したところとからだのしくみ	移動に関連したところとからだの確認テスト 身じたくのしくみ ①身じたくにを整えることの意義・目的 ②身じたくに関連したところとからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	身じたくに関連したところとからだのしくみ	身じたくに関連したところとからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
12	身じたくに関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 変化の気づきと対応 演習：機能低下や障害が及ぼす整容行為への影響を学ぶ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
13	食事に関連したところとからだのしくみ	身じたくに関連したところとからだのしくみの確認テスト 食事に関連したところのしくみ ①食事に関連したところのしくみ ②食事に関連したからだのしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	食事に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響 変化の気づきと対応	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
15	総括	食事に関連したところとからだのしくみの確認テスト これまでの授業内容の補足及び確認	今回の復習を行い、定期テストに向けた学習を行う。	60

科目名	こころとからだのしくみB	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を学び生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〔授業全体の内容の概要〕 生活支援技術（入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階）を安全に、適切に行う上での根拠となる人体の構造や機能について学ぶ 〔履修カルテの評価項目〕 ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解できたか ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解できたか ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階について、安全に介助できるための根拠を理解できたか ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解できたか 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、医療的な視点をふまえて授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 課題に対するフィードバック ・各項目毎に確認テストを実施しフィードバックする。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2135		
達成目標	〔授業修了時に到達目標〕 ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解する ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解する ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階について、安全に介助できるための根拠を理解する ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 単位認定の最低基準：①「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」「人生の最終段階」について、老化や疾患による影響について8割理解する ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20%
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・木曜日 3限目 創学館No.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	入浴・清潔保持に関連したところ とからだのしくみ	①ガイダンス・授業内容の説明 ②なぜ入浴・清潔保持を行うのか ③清潔がもたらす効果	シラバスを確認する。今回の内容を復習する。	30
2	入浴・清潔保持に関連したところ とからだのしくみ	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ ①皮膚の構造としくみ ②発汗のしくみ ③皮膚の汚れのしくみ ④陰部の清潔	今回の内容を復習する。	30
3	入浴・清潔保持に関連したところ とからだのしくみ	精神機能や心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 入浴・清潔保持における観察のポイント ①変化の気づきと対応	今回の内容を復習する。	30
4	入浴・清潔保持に関連したところ とからだのしくみ	入浴・清潔保持における観察のポイント ②心身の状態に応じた入浴・清潔の方法 ③入浴・清潔保持における医療職との連携	入浴・清潔保持に関した内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また、次の項目を教科書で確認する。	60
5	排泄に関連したところとからだ のしくみ	入浴・清潔保持に関する演習問題 入浴・清潔保持に関する確認テストおよび要点を復習 排泄のしくみ	今回の内容を復習し、次の項目を教科書で確認する。	30
6	排泄に関連したところとからだ のしくみ	排泄に関連したからだのしくみ	今回の内容を復習し、次の項目を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	排泄に関連したところとからだのしくみ	排泄に関連した「からだ」のしくみ 人工肛門 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
8	排泄に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響として、 ①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	排泄に関連したところとからだのしくみ	①変化の気づきと対応 ②排泄における医療職との連携 演習課題	排泄の内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。次回の項目を教科書で確認する。	60
10	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	排泄に関するところとからだのしくみの確認テストと要点の復習 睡眠に関連したところとからだのしくみ ①休息・睡眠のしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	①睡眠に影響を及ぼす心身の機能低下 ②睡眠障害 ③変化の気づきと医療職との連携 ①睡眠での観察ポイントと連携のポイント 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
12	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	休息・睡眠に関するところとからだのしくみの確認テストと要点の復習 人生の最終段階に関する「死」のとりえ方 終末期	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
13	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	「死」に対するところの理解 終末期から危篤状態、死後のからだの理解	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	医療職との連携のポイントについて学ぶ 演習課題	休息・睡眠と人生の最終段階に関連した内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。	60
15	総括	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみについての確認テストと復讐 これまでの授業内容の補足及び確認	これまでの内容を振り返る。	60

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修
担当教員	田辺 真弓		
開講期	後期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、人間と被服、それを取り巻く環境との関連性を幅広く学ぶ。近年、衣生活は大きく様変わりしており、繊維産業の技術革新による高付加価値製品の開発が行われる一方、海外への工場移転、輸入繊維製品の増加とアパレル市場の価格競争の激化、衣服廃棄量の増大と地球環境への影響等が大きな問題となっている。 衣生活を営む上で必要とされる衣服の的確な選択と購入、快適な着方、清潔な管理などの基本的知識を得るとともに、衣生活に関わる諸問題に対処できる能力を養い、消費者としての視点から持続可能な社会への取り組みへの理解を深める。 また、家庭教育における衣生活の課題を把握し、指導者としての視点を養うとともに、衣生活分野における教科指導に役立てることができるよう、衣生活全般における基礎知識を修得する。さらに、介護を必要とする人に対しての衣生活の援助に役立つ知識を習得する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。 位置づけ・水準 DS2141		
達成目標	①衣生活の専門知識を修得し、それらを活用できる。 ②現代の衣生活をめぐる諸課題を発見分析し、解決する能力を身につけている。 ③自己の専門知識を社会のために活かし、社会的責任を果たすことができる。 ④地域社会における衣生活に関する諸問題に新たな発想で取り組むことができる。 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。 ディプロマポリシーとの関係：１）知識、理解 ２）課題探求力・問題解決力 4）総合的な学習経験、創造的思考力		
受講資格	上記対象学生及び教職履修、介護福祉士履修学生は必修	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題レポート・期末筆記試験により確認と評価を行う。 ①課題レポート 2回 20点 ②期末筆記試験 80点 60点以上で合格点とする。
教科書	『消費者の視点からの衣生活概論』 菅井清美・諸岡晴美編著 株式会社井上書院 2013年 ISBN978-4-7530-2323-3 C3077		
参考書	授業で紹介する。		
学生への要望	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。衣生活全般に関心をもつとともに、新聞雑誌等の衣生活関連記事に目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。		
オフィスタイム	教務部非常勤講師控室 月曜日（IV時限）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 生活文化博物館見学・服飾解説	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。図書館1階の生活文化博物館を見学し、当館に展示されている装束、ならびに時代背景についての仮説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。	生活文化博物館見学の感想をまとめ、提出する（1回目レポート）。	60
2	衣服の始まりと変遷	着衣の始まり、着衣に対する意識の変化、流行のプロセス、流行の心理について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
3	身のまわりの衣服と衣服材料	身のまわりの繊維製品と衣服の分類、織物・編物・糸、天然繊維・化学繊維などの衣服材料について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
4	衣服の選択―色彩とファッション	衣服を構成する色彩とデザイン、ファッション商品に求められる性能について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
5	体型に合わせた衣服の購入	体型と衣服、衣服のサイズ表示、適切なサイズの選択について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
6	衣服を快適に着用するために	寒暑から身を守る着方、動きやすい衣服と衣服圧などの被服衛生について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
7	衣服の清潔な管理（1）	衣服の汚れと洗たく、衣料取り扱い絵表示などの衣服管理について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
8	衣服の清潔な管理（2）	家庭洗たくと商業洗たく、洗たく以外の手入れなどの衣服管理について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
9	環境に配慮した衣生活（1）	衣服の廃棄とリサイクルについて学び、持続可能な社会について考える。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：衣服の破棄とリサイクルについて自分の考えをまとめ、提出する（2回目レポート）。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	環境に配慮した衣生活（2）	洗たくに由来する環境問題、ドライクリーニング溶剤による環境汚染問題について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
11	進化する衣服性能と技術（1）	繊維を作る技術の進歩や加工剤の開発によって登場した高性能衣服素材について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
12	進化する衣服性能と技術（2）	高度な機能性を追求した衣服アイテムの例として、スポーツウェアの変遷からみる技術開発について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
13	乳幼児・高齢者・障がいのある人の衣服	年齢や身体機能に合わせた衣服、ユニバーサルデザイン服について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
14	省エネ・災害への対応を考えた衣服	節電対策の衣服（クールビズ・ウォームビズ）、身体防護のための衣服について学ぶ。	予習：教科書の該当箇所に目を通す。 復習：本日の講義内容についてまとめる。	60
15	授業のまとめと期末筆記試験	授業のまとめを行い、望ましい衣生活のあり方を考える。 期末筆記試験を実施する。	本日の講義内容についてまとめる。	60

科目名	被服管理学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	大泉 由美		
開講期	後期		
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。 また、私立高等学校での家庭科教員としての勤務経験を活かし、衣生活分野における学校教育での意味と重要性、指導上の留意点などを踏まえながら理解を図るとともに、ディスカッションや市場調査も取り入れ、主体的な学びとして探究心を養いながら教員養成の一助として資質向上に資する。 ・ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。 ・位置づけ・水準 HL2232		
達成目標	①被服の役割を理解するとともに快適な衣生活が営める。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③家庭科教育における衣生活分野の学びの重要性を理解し、快適な衣生活のための被服管理の方法について理解している。 ・単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考		
受講資格	教職履修学生は必修	成績評価 方法	①課題レポート/課題への取り組み：30点 ②グループワーク、プレゼンテーションへの取り組み：30点 ③期末レポート：40点
教科書	配布プリント		
参考書	『被服管理学』朝倉書店、「衣服管理の科学」片山倫子編（建帛社、平成14年）、「改訂衣生活論 装いを科学する」（アイ・ケイ・コーポレーション2008）		
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもって見つめるとともに、課題を把握し探究心をもって取り組んでください。		
オフィスタイム	水曜日Ⅰ・Ⅱ限（家政学館4階 被服学研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。	本日の講義内容をまとめ、衣生活における問題点をピックアップする。	30
2	衣服の起源と変遷	・人類にとって「衣・食・住」は生命維持のための三大要素であるが、衣生活の始まりとその役割について考察する。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	60
3	心地よく「着て装う」	・なぜ、着るのか、被服を着る目的やTPOに合った着方について考えるとともに、着こなし、個性を生かすとは、どういうことだろうか、考えるとともにディスカッションを行う。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 自分の考えをまとめるとともに、ディスカッションの内容についてまとめる。 ワークシートの整理	60
4	購入方法に関する事例研究	・被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。 ・各個人の被服購入経験の失敗事例を発表し、グループごとに検討する。 ・事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。 ・衣料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	60
5	安全で健康的な衣生活のために ～ユニバーサルデザイン～	・失敗事例の中から、衣服の安全性の問題について考えるとともに健康的な衣生活のために留意すべき点について、グループごとにまとめ発表する。 ・防止・予防方法を確認する。またユニバーサルデザインについても理解を深める。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	60
6	被服の汚れ	・着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶとともに汚れの種類について考え、分類し理解を深め合う。 ・汚れが人体と繊維に及ぼす影響を考える。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	被服の洗浄（実験） ～家庭洗濯とドライクリーニング～	・洗浄によって取り除くために用いられる洗浄剤、特に界面活性剤の働きについて理解を深めるとともに、家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。 ・失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	60
8	洗剤の科学	・洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史的変遷を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	60
9	しみ抜きと漂白（実験）	・しみは、衣服に付着すると美観を損なうだけでなく、長期間放置しておくと虫害やばい害をこうむり繊維が損傷する。 ・しみ抜きの原理と方法について理解を深める。また黄ばみ、黒ずみなどの対応としての漂白について理解する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	60
10	被服の手入れ(実験)	・洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史的変遷を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。次回発表する。	60
11	仕上げ剤の種類と特徴	・洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。 ①漂白剤：種類と特徴、漂白のメカニズム、使用方法、蛍光増白との違い、しみぬきの原理と方法 ②柔軟剤：種類と特徴、効果・機能（柔軟効果、静電気防止、香りなど）の変化、使用方法 ③洗濯糊：種類と特徴、使用方法	配布資料を参考としながら、講義内容をまとめ、理解を深める。 各自市場調査をおこなう結果についてまとめ、発表用とする。	60
12	被服の保管	・保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。	配布資料を参考としながら、各自市場調査をおこない結果についてまとめ、次回発表用とする。	60
13	衣生活の課題を把握と快適な被服の管理	・自分自身の衣類がどの程度あるのか、管理方法に課題はなかったか、計画的購入のあり方と死蔵品の把握とその対応はどうすべきか。 ・また、日頃の被服の保管方法や手入れ等における課題をあげて望ましい被服管理のあり方についてディスカッションし、自分の考えをまとめる。 ・期末レポートの課題を提示する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自分自身の被服管理の現状について見つめるとともに課題を捉えディスカッションする。期末レポート対応。	90
14	被服管理の事例研究	・衣類の望ましい管理について学ぶ。 ・自分の家庭生活における課題を各自が発表し、問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい被服管理についてまとめる。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。前時でまとめた内容を各自が発表し、課題を共有し合うとともに望ましい被服管理のあり方についてまとめる。期末レポート対応。	90
15	総括・まとめ	・本講義のまとめを行う。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。確認テスト	60

科目名	衣造形学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	瀬谷 真理子			
開講期	前期			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 立体構成（洋裁）学を基に、衣服の成り立ちについての理解を深める。また、パターンの活用方法を習得することにより、体型と構成の関連性を理解し、着心地の良い作品を作る。製作実習により衣生活の重要性を学ぶとともに快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、介護福祉士養成に向け、支援の必要な方への生活支援技術の習得につながるよう高等学校で家庭科教育に携わってきた教科指導での実務経験を生かし、基礎的技術の習得のために作品製作（基礎縫い・ブラウス・アウターパンツ）をとおして実践力向上に向けて理解を深め、基本から応用までの技術修得を目指す。 また、ワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、資質を育むため選択製作実習を取り入れ主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2233			
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに立体構成（洋裁）とは何かを理解できる。 ②衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。 ③基本的な洋裁技術を修得するとともに、介護に携わる支援者としての実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	上記対象学生、介護福祉士資格取得希望の学生	成績評価 方法	①授業への意欲・態度 20％、②課題：部分作品（パターン、袖、衿等）20％、③完成作品（基礎縫い、ブラウス製作、選択製作）50％、④課題（レポート等）10％とし、①から④までの総合評価により60％以上を合格とする。	
教科書	自作テキスト配布。			
参考書	文部科学省後援：全国高等学校家庭科被服製作技術検定指導要項、「ファッション造形基礎」「パターン・裁断・縫い方の基礎の基礎」文化出版局、文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座「ブラウス・ワンピース」文化出版局			
学生への要望	1. 主体的・意欲的に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。			
オフィスタイム	家政学館 4 F 被服学研究室。月曜Ⅱ、Ⅲ限目			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	オリエンテーション 1) 被服製作に必要な実習用具について理解する。 2) 衣生活における製作の意味を考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する	20
2	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示 2) 体型と立体構成について 3) 被服製作の基本	シラバスを確認し演習内容を理解する ワークシートの整理	30
3	被服製作における基本	1) 洋裁の基礎知識 2) 基本的技術の確認と定着 3) 基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
4	被服製作における基本	1) 洋裁の基礎知識 2) 基本的技術の確認と定着 3) 基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
5	被服製作	1) パターンの記号を学ぶ 2) パターンの利用の仕方と指導上の留意点を学ぶ	ワークシートの整理	30
6	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する	30
7	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
8	ブラウス製作②ー基本を学ぶー	1) 本縫い 2) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。 b、ロックミシン c、端ミシン 3) 接着芯の理解と取り扱いを学ぶ	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ブラウス製作③	ロックミシンの必要な個所を確認する。ロックミシンの使い方を学ぶ。ロックミシンを活用して縫いしろ始末を行う。※安全面に留意して、布地の扱いに配慮しながらロックミシンをかける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
10	ブラウス製作④	身頃本縫い まち針の打ち方、髷のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
11	ブラウス製作⑤	身頃本縫い まち針の打ち方、髷のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。ポケットを作り、身ごろにポケットをつける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
12	ブラウス製作⑥	表衿と裏衿の特徴を理解し、確認を行い、衿づくりを実施する。角衿の場合のきれいな角の出し方について、実技により学ぶ。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する 衿について提出できるように準備する	30
13	ブラウス製作⑦	デザインを生かした技法について学び、実践する。身ごろのヨークと肩、後ろ身ごろにタック寄せ、ギャザー寄せ等の手法を理解して身ごろの構成を考えながら製作する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
14	ブラウス製作⑧	衿と身ごろとの関係を理解して、きれいにつけて仕上げるための方法について学ぶ。待ち針の役割を理解し、待ち針の打ち方を実践できるようにする。バランスを考えながら身ごろに衿がつけられるようにする。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
15	ブラウス製作⑨	バイアステープの役割について学び、衿付け縫い代始末の方法として扱い方を理解する。衿付け縫い代の始末をする。切り込みの必要性について理解し、きれいな仕上げに向けて実践する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
16	ブラウス製作⑩	袖付けを行う。左右の確認と身ごろとの関係に留意して立体的に仕上げることの構成上のポイントを学び、袖をつける。袖下脇縫いを行う。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
17	ブラウス製作⑪	見返しと裾の始末を行い、仕上げを行う。 ミシンによるボタンホール製の、ボタン穴の開け方を学ぶ。ボタンのつけ方を学ぶ。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
18	ブラウス製作⑫ー相互評価ー	1) 仕上げ 2) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 3) 自己評価票を作成して提出	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
19	選択製作ーアウターパンツ①	1) 製作計画の作成 2) デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
20	選択製作ーアウターパンツ②	1) 製作計画の作成 2) デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
21	選択製作ーアウターパンツ③	1) 製作計画の作成 2) 裁断	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
22	選択製作ーアウターパンツ④	縫い代始末、しるしつけ	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	0
23	選択製作ーアウターパンツ⑤	1) 縫い代始末、しるしつけ 2) ポケット付け	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	0
24	選択製作ーアウターパンツ⑥	脇縫い、また下縫い、また上縫い	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
25	選択製作ーアウターパンツ⑦	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
26	選択製作ーアウターパンツ⑧	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
27	選択製作ーアウターパンツ⑨	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
28	選択製作ーアウターパンツ⑩	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
29	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

科目名	衣造形学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	瀬谷 真理子			
開講期	後期			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 快適な衣生活を創造し実践できるよう生活空間の中での衣生活を見つめ、実習を通し、より良い衣生活の創成をするために必要なものとは何か考えていくとともに知識と技術の修得を目指す。更に、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のため、実践力を高めながら、基本から応用までの技術修得を目指す。製作に関する自作テキストを使用し確認、返却の際にフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] 伝統的な和裁技法にそって、大裁女物単衣長着（浴衣）の製作を行う。実習を通して和服について理解を深め、確実な基本的技術の修得を目指す。 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、資質を育むため主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HU2233			
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに平面構成（和裁）について理解できる。 ②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。 ③基本的な和裁技術の修得と伝統文化としての和服について、理解を深めながら実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力			
受講資格	上記対象学生。教職履修者	成績評価 方法	①授業に取り組む姿勢10% ②途中課題（袖、肩当）10% ③完成作品（浴衣）60% ④課題（レポート、テスト）20% ①から④の総合評価60%以上で合格となる。	
教科書	被服構成実習（平面構成）担当者作成の独自のテキスト			
参考書	授業内で随時紹介。			
学生への要望	1．遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2．実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3．製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進度を揃え完成できるように心掛けること。			
オフィスタイム	家政学館 4 F 被服学研究室。月曜Ⅱ限、Ⅲ限目			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	演習内容と留意事項	1) 生活の中の衣生活について基本的理念を学ぶ。 2) 平面構成（和服）について 3) 実習計画の提示 4) 必要材料・用具について説明 5) 平面構成とは何かを理解させ、和服の変遷を学ぶ	シラバスを確認し演習の内容を理解する	30
2	基礎的技法を学ぶ	和服となる反物について理解し、扱いについて学ぶ。和裁に使われる基本的技法について、理解させ、既習内容の整理と確認、技術を習得する。	縫い方の名称を確認する。実践して定着に結び付ける。	30
3	大裁女物単衣長着製作	1) 沿革 2) 各部名称及び寸法について 3) 仕立て上がり寸法の決め方 ※日本の民族衣装である着物について、理解を深める	和服について理解を深める。特有の部分名称を理解する。ワークシートをまとめる。	30
4	大裁女物単衣長着製作	各部名称及び寸法について、自分のサイズを確認して割り出す。仕立て上がり寸法の決め方について理解し、用布見積もりの仕方を理解して実践する。	寸法票の作成と仕立て上がり寸法から用布見積もりを実際に算出して、ワークシートに記入する。添削を受ける。	30
5	大裁女物単衣長着製作	仕立て上がり寸法の決め方について理解し、用布見積もりを縮尺の方眼紙で実施して理解する。	用布見積もりを実際に算出して、方眼紙で作成する。提出して添削指導を受ける。ワークシートをまとめる。	30
6	大裁女物単衣長着製作	キズや染むらの確認と布地の表裏、糸印つけにより、確認しやすく裁断準備をする。一反から着物ができる日本人の知恵を知り、裁断方法を修得する。	テキストで確認する。	30
7	大裁女物単衣長着製作	柄合わせを説明し、縦・横模様、柄物などの裁ち方練習を行い、裁ち方、柄合わせ方法を学ぶ。裁ち切り寸法の確認をし積もる。袖4枚、身頃4枚、裁ち切り衤2枚、残り布の確認。寸法、枚数確認後、必ず担当教員の指示を受けて裁断する。	テキストで確認し、まとめる。提出し、確認を受ける。裁ち方をプリントで事前確認し、イメージをつかむ。	30
8	大裁女物単衣長着製作	柄合わせによる前衤、うち袖、後ろ身ごろに糸印をつける。和裁の印付けの基本としてへの使い方を学び、印付け準備を行う。	テキストで確認し、まとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	大裁女物単衣長着製作（袖）	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。 授業後は、縫い方を再確認する。	30
10	大裁女物単衣長着製作（袖完成及び提出）	1) 袖の印つけ a、袖下袋縫いの中縫い。 b、本縫い。 c、丸みの整え方。 d、形の整え方。 e、袖口の三つ折りぐけ。 f、袖幅の決め方（同じ袖を作らないよう注意）。袖の形態を学ぶ。	袋縫い、丸み整え方法を事前に確認する。 授業後は、縫い方を再確認する。	30
11	大裁女物単衣長着製作（背縫い、袖）	1) 身頃背縫い 柄合わせを確認し、衿肩明きを確認後各自の寸法に合わせて切る。後ろ身頃の背を二度縫いする。 2) 袖の柄合わせ 背縫いの衿肩明きを右手に持ち手前にきせをかけてコテ（アイロン）を掛け、表にして身頃と袖の柄合わせをし、袖の身頃側に糸印をする。着物の柄合わせ方法を学ぶ。 ※着物の柄あわせ方法を学び、美しい着物製作を目指す。	縫い方をテキストで確認して実施。	30
12	大裁女物単衣長着製作（身ごろ）	印付けの仕方を確認して、身ごろの印付けの順序、仕立て上がり寸法の確認を行い、後ろ身ごろの印付けを行う。和服の特徴でもある衿肩明きの理解を深め、印付けと扱いを学ぶ。	テキストで確認する。	30
13	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	1) 身頃のくりこし 和服独自の仕立て方法を学ぶ。 2) 身頃の印つけ 身丈、肩幅、袖付け、身ハツ口、後ろ幅の印をつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
14	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	肩当て、居敷当作り 折り伏せ縫い方法を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
15	大裁女物単衣長着製作（身頃印付け、肩当て、居敷当て）	身ごろに肩当てをつける。居敷当を身ごろに縫い付けて仕上げる。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
16	大裁女物単衣長着製作（衿印付け及びつけ）	衿の印付けを行う。身ごろとの関係を理解して仕立て上がり寸法の確認を行い、製作準備をする。上前衿の確認と前身ごろとのつながりを理解する。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
17	大裁女物単衣長着製作（衿印付け及びつけ）	衿付け準備として、衿下を三つ折りぐけする。前身ごろを確認して衿付け準備をする。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
18	大裁女物単衣長着製作（衿つけ）	衿付けを行い、縫いしろを耳ぐけで仕上げる。※和服の仕上げに欠かせない、きせの手法を丁寧に行うことで仕上がりが美しくなることを理解する。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
19	大裁女物単衣長着製作（衿の印付け）	衿の印付け、かけ衿の印付け、共付の手法を学び、縫い付ける。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
20	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿付けの準備として、待ち針の役割が大きいことを学ぶ。待ち針の打ち方を理解して実践する。釣り合いを教員に確認してもらう。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
21	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿を縫い付ける。三つ衿芯の役割を理解し、三つ衿芯を縫いつける。衿を整える。衿先の始末の手法を学ぶ。理解して実践する。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
22	大裁女物単衣長着製作（衿付け）	衿を出来上がりに整えて折り、釣り合いを丁寧に確認する。本ぐけの準備としてしつけが大切であることを理解し、バランスよく待ち針を打ち、しつけをする。本ぐけの手法を確認してくける。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
23	大裁女物単衣長着製作（脇縫い）	身ごろを整え、脇縫いの準備を行う。印の確認を行い、仕立て上がり寸法を確認して待ち針を打ち、脇縫いを行う。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
24	大裁女物単衣長着製作（脇始末）	脇始末。脇の縫い代に基礎縫い通りに耳ぐけし、脇の始末を学ぶ。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
25	大裁女物単衣長着製作（裾）	裾の始末を行う。裾を整え三つ折りする。裾のつま先角の作り方として額縁仕立てを理解して実践する。 2) 袖つけ a、左右の袖確認後つける。 b、袖の縫い代と肩当ての始末。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	大裁女物単衣長着製作（裾）	裾の始末を行う。裾を整え三つ折りぐけを行う。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
27	大裁女物単衣長着製作（袖付け）	左右の袖を確認後、袖付けの仕方を理解して待ち針を打ち、縫いつける。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
28	大裁女物単衣長着製作（袖付け）	袖の縫い代の始末を身ごろに響かないように準備をして、耳ぐけを行い、仕上げる。	和服の仕立て方法を事前確認する。	30
29	着装実習及び評価	1) 着装実習 着装方法を学び、美しい装いとは何かを学ぶ。お互いに着付けすることを通して、美しい装いについて考える。また、和服の成り立ちの意味を発表する。 2) 評価 a、仕上げ。 b、畳み方を学ぶ。 c、評価票を作成する。 ※評価方法を学び、教育者として指導できるようにする。	着装方法を事前に確認する。ワークシートをまとめる。自己評価を行い、自己評価票の作成をする。着装実習後、相互評価を行う。	30
30	着装実習及び評価	授業内容の全体を振り返り、和服製作についての理解を深め授業のまとめを行う。確認テストの実施（本だたみ、ペーパーテスト）	テキストの整理とワークシート内の点検、自己評価票と作品の最後の仕上げと提出準備を行う。	30

科目名	食生活概論	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	郡司 尚子			
開講期	後期			
授業概要	日本の食の歴史について学び、現在の食の多様性、食形態、問題点などをについて学び、食と健康、日本の食文化の変遷と現状について学ぶ。さらに、望ましい食生活とは、何かについても考えていく。 【課題に対するフィードバックの方法】 各分野毎に課題レポートを実施し、全員で答え合わせを行い、不足点を教員が補う。テストは回収し、不足点があれば追記し、翌週に返却する。 【位置づけ・水準】 HL2134			
達成目標	日本の食生活の変遷を知り、現在の「食」の問題点や「食」の大切さを理解する。 「食」の大切さを理解することで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につける。 【履修カルテの評価項目】 ①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。 ②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。 ③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。 【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80％を理解していること。 【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】 ①知識・理解 ②倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部 生活科学科 1 年	成績評価 方法	①課題レポートおよび発表 50％ ②筆記試験(授業内) 50％	
教科書	必要に応じて印刷し配布する。			
参考書	なし			
学生への要望	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 2. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 3. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。			
オフィスタイム	水曜日4時限および木曜日4時限目のNo.2 食品学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の目的・ガイダンス	授業の進め方や評価方法、事前事後学習の必要性などについて、シラバスに沿って説明を行う。 その後、人と「食」の関りとして、「食」の大切さについて考える。	自己の食生活を振り返り、食の大切さについて考えてみる。	30
2	食生活の変遷と現在の食生活の問題	食物の歴史的变化、食物連鎖について学んだ後、食品を分類する方法（生活様式による分類、起源による分類、食品成分表による分類、栄養成分の類似性による分類など）について学ぶ。日本人がどのような食生活を送ってきたかについて説明する。日本人の現在の食生活の問題点について学ぶ。	各人の食生活を振り返り、自身の食生活の問題点について考え、改善点も含め次週迄まとめてくる。	60
3	自分の食生活について考える	食事バランスガイドについて説明し、各人の普段の食生活について振り返り、自身の食生活の問題点について考える。	食料と環境問題について、自分なりに調べて予習しておく。	60
4	食料と環境問題	食料生産と食料自給率、地産地消や食品廃棄問題などについて説明を行い、それぞれの現在の状況、問題点を交えながら学ぶ。 授業を受けて感じた食の問題点について、自己の考える改善案についてまとめて提出する。	次週から食品表示について学ぶため、各人普段購入している食品のパッケージを集めて、表示についてもよく見ておく。	60
5	食品表示について①	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。 なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	各人が普段購入しているパッケージや店頭などで食品のパッケージになされている表示についてよく見て、学んだ内容がどのように表示されているかなどについてよく観察する。	60
6	食品表示について②	食物アレルギーの表示制度について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。 特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	各人が普段購入しているパッケージや店頭などで食品のパッケージになされている表示についてよく見て、学んだ内容がどのように表示されているかなどについてよく観察する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	食品表示について③	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	各人が普段購入しているパッケージや店頭などで食品のパッケージになされている表示についてよく見て、学んだ内容がどの様に表示されているかなどについてよく観察する。また、その中で学んだことがよく表示されているパッケージについて所定の用紙でレポートを作成する。	60
8	食品表示について④	3回にわたって学んだ食品表示の知識を活かし、食品表示に関するレポートをまとめ、各人で発表してもらう。また発表後レポートを提出する。	食品表示についてまとめた課題レポートを実施する。不明な点があればまとめて次週質問する。	60
9	食の安全、食品の保存法について	食品の保存に大きく影響する微生物とのかかわりについて学び、食品の保存が環境により影響を受けることを理解する。 水分活性について学び、水分活性のコントロールと微生物の繁殖への影響を理解する。	食品の保存に関わる水分の関りについて復習する。	60
10	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。	食べ物のおいしさの基本理念についてしっかりと復習しておく。次週から行うライフステージ別の食の特徴と役割について文献などを通じて予習しておく。	60
11	ライフステージにおける食の特徴と役割①	妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の食の特徴と役割について理解する。	ライフステージ別の食の特徴と役割について文献などを通じて予習しておく。	60
12	ライフステージにおける食の特徴と役割②	壮年期、中年期、老年期の食の特徴と役割について理解する。	西洋料理や中国料理などの特徴について予習しておく。	60
13	世界の食文化	日本以外の国の食文化(西洋料理、中国料理など)について、簡単に特徴や習慣などを説明し理解する。	筆記試験に向けて、本授業で学んだことについて、しっかりと復習し、要点をまとめておく。	60
14	食空間の在り方①	食は食べるだけでなく、食環境(空間や内装デザイン、テーブルコーディネートなど)も欠かせない要素であるため、食環境についても学び、よりよい食生活のあり方について考える。	筆記試験に向けて、本授業で学んだことについて、しっかりと復習し、要点をまとめておく。	60
15	食空間の在り方② まとめ	前週に引き続き、食環境(空間や内装デザイン、テーブルコーディネートなど)も欠かせない要素であるため、食環境についても学び、よりよい食生活のあり方について考える。 本授業のまとめとして、筆記試験を行い、その解答について解説を行う。	食環境について復習をする。また試験で間違った点があれば、その点を重点的に復習しておく。	60

科目名	食品栄養学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	郡司 尚子			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的、ねらい〕 ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とされる栄養素(糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル)の基礎を学び、日常生活を送るうえで気を付けるべきことを知ることを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 栄養素の基本的知識と共に、栄養摂取時の過剰症、欠乏症などについても学ぶ。食物の代謝(体内での分解・合成)や各栄養素を豊富に含む食品などについても学ぶ。 〔課題(試験やレポート等のフィードバック)〕 レポートの提出後、コメントしてフィードバックを行います。 〔位置づけ・水準〕 DS2244			
達成目標	〔達成目標〕 食品に関わる「栄養」「栄養の欠乏症、過剰症」「食物の代謝」などを理解することで、食品や食材を購入する際や献立作成、調理時に、用途に合わせた食品を用いることができる技術を養えることを達成目標とする。 〔単位認定の最低基準〕 内容の6割を理解していること。 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕 1)知識・理解 2)問題解決力			
受講資格	家政学部 人間生活学科	成績評価 方法	定期試験の結果(60%) 発表・レポート(40%)	
教科書	栄養の基本がわかる図解事典 成美堂出版 監修：中村丁次 1,540円 (2020.4.1発行)			
参考書	八訂食品成分表2022 (女子栄養大学出版部)			
学生への要望	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。			
オフィスタイム	水曜日の4コマ、金曜日の2コマ(No.2食品学研究室)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康・栄養の新事情	シラバスで本授業のガイダンスを行う。 最新データから見る、健康・栄養の現状について説明する。 また、授業最終日の課題発表について説明を行う。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
2	栄養の概念	栄養素・栄養について、栄養素の種類と働き、食事摂取基準、バランス献立の基本型、栄養と病気のかかわりなどについて説明する。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
3	活動と栄養 ～身体活動とエネルギー～	エネルギー出納、基礎代謝、摂取エネルギー、スポーツと栄養について説明する。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
4	栄養素の基礎知識 【炭水化物】	炭水化物の特徴・生理作用・過剰・炭水化物を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
5	栄養素の基礎知識 【脂質】	脂質の特徴・生理作用・過剰、不足・脂質を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。また、脂肪酸の種類についても学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
6	栄養素の基礎知識 【たんぱく質】	たんぱく質の特徴・種類・生理作用・過剰、不足・たんぱく質を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。また、アミノ酸についても学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
7	栄養素の基礎知識 【ビタミン①】	脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンの違い、脂溶性ビタミンの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・脂溶性ビタミンを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
8	栄養素の基礎知識 【ビタミン②】	水溶性ビタミンの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・水溶性ビタミンを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
9	栄養素の基礎知識 【ミネラル①】	多量元素ミネラルと微量元素ミネラルの違い、多量元素ミネラルの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・多量元素ミネラルを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
10	栄養素の基礎知識 【ミネラル②】	微量元素ミネラルの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・微量元素ミネラルを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	機能性成分について	食品が持つ機能性について、保健機能食品について説明後、健康を守る注目の成分(フラボノイド、ポリフェノール、オリゴ糖、乳酸菌など)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
12	代謝のしくみ	食欲の仕組みを理解し、食物が体内でどのように消化、吸収、代謝、排せつされていくかを学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
13	病状別の栄養①	食べる食品の種類、食べ方などによって引き起こされる疾病(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症、サルコペニアなど)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
14	病状別の栄養②	食べる食品の種類、食べ方などによって引き起こされる疾病(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症、サルコペニアなど)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
15	まとめ	本授業で学んだものの中から、特に自分で興味を持ったことについて、一人5分程度でパワーポイントを使用して発表する。発表原稿をプリントして提出する。	講義内容の振り返りとテスト内容の確認を行う。	60

科目名	調理学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	瀬谷 真理子,大泉 由美			
開講期	前期			
授業概要	支援の必要な高齢者等がおいしく楽しめる介護食をつくるための基礎的な調理知識と技術を学習するとともに家庭において豊かな食生活を営めるよう基礎的な調理知識と技術を学習する。前半は一般的なスローフードに配慮したレシピでの調理を経験し、基礎的技術を修得する。後半は、日常食や行事食及び状態別献立として子どもや高齢者、成人向けの献立等、食材や調理方法の工夫により演習する。調理内容は、スローフード視点を大切にしながら選択した代表的な料理（日本料理・西洋料理・中国料理）の中から学び実践力を高める。実践的な演習を通じて、調理学の基本的な知識や技術修得とともに食材の栄養価や色・形・味・香などの調理による変化とその理由を五感で理解する。さらに、自宅での実践により応用力を身につけ、科学的視点を踏まえながら探究的視野でレポート作成を実施する。提出後のレポートを添削・返却し、フィードバックを行う。 さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な指導により基本から応用までの力を養う。 実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2336			
達成目標	①高齢者や介護を必要とする方をはじめ状態別献立を考慮し、それぞれの調理方法を習得し、実践できる。 ②日本料理、西洋料理、中国料理の代表的献立から料理の基本を理解し、実践できる。 ③日常的な献立から行事食までの調理について、基礎的な知識技術を習得し、生活支援技術の一つとして実践力を高める。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	介護福祉士資格希望者は必修		成績評価 方法	①授業態度：20％、②実技：40％、③レポート：40％ 以上の ①から③を総合評価して60％以上で合格とする。
教科書	「基礎から学ぶ調理実習」オーム社 プリント配布			
参考書	「フードデザイン」教育図書、家庭科教育振興会 全国高等学校家庭科技術検定実施要項			
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学実習の一環と考え、積極的に取り組むこと。 また、豊かな食生活は家族団楽を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。			
オフィスタイム	被服学研究室 月曜日 II、III限目			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／食材の下ごしらえ・切り方など（瀬谷・大泉）	シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	ガイダンス（1） 実習室・調理器具について・授業の進め方や評価方法（瀬谷・大泉）	調理実習室の使い方、調理器具の使い方、洗い方、手入れ等について基本を学ぶ。使用していく教科書を用いて、調理の基本、調理実習時の衛生管理について理解させる。食することの意味について考え、ディスカッションする。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。ワークシートの作成を行う。	30
3	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①（ミルクゼリー：介護食）（瀬谷・大泉）	【文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
4	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①（ミルクゼリー：介護食）（瀬谷・大泉）	【文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
5	日本料理① 旬の食材を使った調理（瀬谷・大泉）	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】 ①たけのこの下ごしらえと部位別調理 ②炊き込み飯の種類と作り方 ③だしの取り方 ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	日本料理① 旬の食材を使った調理（瀬谷・大泉）	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】 ①たけのこの下ごしらえと部位別調理 ②炊き込み飯の種類と作り方 ③だしの取り方 ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
7	西洋料理② （ブラマンジェ：介護食）（瀬谷・大泉）	【コンソメジュリアン、グラタン、グリーンサラダ、ブラマンジェ】 代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
8	西洋料理② （ブラマンジェ：介護食）（瀬谷・大泉）	【コンソメジュリアン、グラタン、グリーンサラダ、ブラマンジェ】 代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
9	日本料理② （そばろ・フルーツ羹：介護食）（瀬谷・大泉）	【そばろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】 日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そばろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
10	日本料理② （そばろ・フルーツ羹：介護食）（瀬谷・大泉）	【そばろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】 日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そばろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
11	中国料理① （瀬谷・大泉）	【什錦炒飯、焼売、 黄瓜】 日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の特徴を知る ②炒め物の要領、食材の扱い ③蒸し器の扱い方 ④和え物の要領	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
12	中国料理① （瀬谷・大泉）	【什錦炒飯、焼売、 黄瓜】 日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の特徴を知る ②炒め物の要領、食材の扱い ③蒸し器の扱い方 ④和え物の要領	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
13	中国料理② （とろみのあるスープ：介護食）（瀬谷・大泉）	【古老肉、涼拌三絲、黄花湯】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②薄焼き卵のつくり方、はるさまの扱い方を学ぶ ③和え物の要領について ④とろみのあるスープ（湯）について	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	中国料理② （とろみのあるスープ：介護食）（瀬谷・大泉）	【古老肉、涼拌三絲、黄花湯】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②薄焼き卵のつくり方、はるさまの扱い方を学ぶ ③和え物の要領について ④とろみのあるスープ（湯）について	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
15	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～（しんじょ、わらびもち、そばろあん：介護食）（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそばろあんかけ、わらびもち】 ①炊き込みご飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょの扱い ③かぼちゃの扱いとそばろあんのつくり方 ④わらび粉の扱いとわらびもちのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
16	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～（しんじょ、わらびもち、そばろあん：介護食）（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそばろあんかけ、わらびもち】 ①炊き込みご飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょの扱い ③かぼちゃの扱いとそばろあんのつくり方 ④わらび粉の扱いとわらびもちのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
17	状態別献立② ～子供向け洋風献立～（二色ゼリー：介護食）（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、鶏肉のハンガリー煮、トマトカップサラダ（スタッフドトマト、二色ゼリー）】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
18	状態別献立② ～子供向け洋風献立～（二色ゼリー：介護食）（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、鶏肉のハンガリー煮、トマトカップサラダ（スタッフドトマト、二色ゼリー）】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
19	状態別献立③ ～成人向け和風献立～（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁、白玉だんご】 ①基本的な煮物のつくり方 ②菜飯の葉の扱い方 ③ホイル焼きの要領 ④味噌汁の基本 ⑤白玉粉の扱い方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	状態別献立③ ～成人向け和風献立～（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁、白玉だんご】 ①基本的な煮物のつくり方 ②菜飯の葉の扱い方 ③ホイル焼きの要領 ④味噌汁の基本 ⑤白玉粉の扱い方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
21	中国料理③（とろみのあるスープ：介護食）（瀬谷・大泉）	【青椒肉絲、粟米湯、奶豆腐、凉拌海蜇】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の基本と特徴を学ぶ ②寒天の扱い方 ③とろみのあるスープ（湯）の応用について ④くらげの扱いを理解する	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
22	中国料理③（とろみのあるスープ：介護食）（瀬谷・大泉）	【青椒肉絲、粟米湯、奶豆腐、凉拌海蜇】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の基本と特徴を学ぶ ②寒天の扱い方 ③とろみのあるスープ（湯）の応用について ④くらげの扱いを理解する	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
23	弁当料理（瀬谷・大泉）	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
24	弁当料理（瀬谷・大泉）	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
25	行事食① 誕生日の献立（ひき肉料理：介護食）（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
26	行事食① 誕生日の献立（ひき肉料理：介護食）（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	行事食② 夏の日のおもてなしランチ（寒天：介護食）（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に来客のおもてなしを考えた調理の実践を行う。【巻き寿司・茶巾寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
28	行事食② 夏の日のおもてなしランチ（寒天：介護食）（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に来客のおもてなしを考えた調理の実践を行う。【巻き寿司・茶巾寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
29	行事食③ 敬老の日の献立（茶わん蒸し：介護食）（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぶら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
30	行事食③ 敬老の日の献立（茶わん蒸し：介護食）（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぶら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

科目名	調理学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	瀬谷 真理子,大泉 由美			
開講期	前期			
授業概要	調理の基本的な知識と技術を修得するために、家庭科教育における調理実習の献立をふまえ、代表的な料理（日本料理、西洋料理、中国料理）を演習することにより、教科指導において必要な実践力を高める。下ごしらえから盛り付けまでの流れを計画し、一人一人が個別に実践することにより、着実な技術を身につけていく。演習を通じて、調理学の基本的な知識と技術を修得するとともに食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解しながら探究的な視野を大切にレポートを作成する。また、人々の暮らしにおける食生活を意識した状態別献立を取り入れ、日常食や行事食等、伝統的な食文化も大切にしながら調理における技術としての実践力を高め、自宅での実践により、調理に関する応用力を身につける。レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 また、高等学校の家庭科や中学校の家庭科において、教える立場からの指導方法を含めながら実践することにより、基本的知識と技術の定着を図り、家庭科教員としての資質を身につける。さらに福島県高等学校の家庭科教育における実務経験を生かしながら実践的な教科指導に向けた応用力を養う。 実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2336			
達成目標	中学・高校の家庭科教員としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。 ①野菜・果物、魚・肉などの食材に適した調理技術を修得し、指導することができる。 ②和洋中華料理の基本を修得し指導できるとともに、調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。 ③日常的な献立から状態別献立、行事食までの調理について、基礎的な知識技術を習得し、実践できる。 単位認定の最低基準は、上記の①～③の総合評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力 位置付け・水準 HU2336			
受講資格	上記対象学生、教職履修者は必修		成績評価 方法	①授業態度：20％、②実技：40％、③レポート：40％とし、①から③の総合評価により60％以上で合格とする。
教科書	「基礎から学ぶ調理実習」オーム社 プリント配布			
参考書	「フードデザイン」教育図書、家庭科教育振興会 全国高等学校家庭科技術検定実施要項			
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え、積極的に取り組むこと。 また、豊かな食生活は家族団欒を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。			
オフィスタイム	被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／食材の下ごしらえ・切り方など（瀬谷・大泉）	シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	ガイダンス（1） 実習室・調理器具について・授業の進め方や評価方法（瀬谷・大泉）	調理実習室の使い方、調理器具の使い方、洗い方、手入れ等について基本を学ぶ。使用していく教科書を用いて、調理の基本、調理実習時の衛生管理について理解させる。食することの意味について考え、ディスカッションする。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。ワークシートの作成を行う。	30
3	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①（瀬谷・大泉）	【文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
4	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①（瀬谷・大泉）	【文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	日本料理① 旬の食材を使った調理（瀬谷・大泉）	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】 ①たけのこの下ごしらえと部位別調理 ②炊き込み飯の種類と作り方 ③だしの取り方 ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
6	日本料理① 旬の食材を使った調理（瀬谷・大泉）	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】 ①たけのこの下ごしらえと部位別調理 ②炊き込み飯の種類と作り方 ③だしの取り方 ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
7	西洋料理② 西洋料理の基本（瀬谷・大泉）	【コンソメジュリアン、グラタン、グリーンサラダ、ブラマンジェ】 代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
8	西洋料理② 西洋料理の基本（瀬谷・大泉）	【コンソメジュリアン、グラタン、グリーンサラダ、ブラマンジェ】 代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
9	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本（瀬谷・大泉）	【そばろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】 日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そばろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
10	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本（瀬谷・大泉）	【そばろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】 日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そばろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
11	中国料理①（瀬谷・大泉）	【什錦炒飯、焼売、 黄瓜】 日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の特徴を知る ②炒め物の要領、食材の扱い ③蒸し器の扱い方 ④和え物の要領	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
12	中国料理①（瀬谷・大泉）	【什錦炒飯、焼売、 黄瓜】 日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の特徴を知る ②炒め物の要領、食材の扱い ③蒸し器の扱い方 ④和え物の要領	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	中国料理②（瀬谷・大泉）	【古老肉、涼拌三絲、黄花湯】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②薄焼き卵のつくり方、はるさまの扱い方を学ぶ ③和え物の要領について ④とろみのあるスープ（湯）について	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
14	中国料理②（瀬谷・大泉）	【古老肉、涼拌三絲、黄花湯】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②薄焼き卵のつくり方、はるさまの扱い方を学ぶ ③和え物の要領について ④とろみのあるスープ（湯）について	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
15	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
16	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～（しんじょ、わらびもち、そぼろあん：介護食）（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ、わらびもち】 ①炊き込みご飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょの扱い ③かぼちゃの扱いとそぼろあんのつくり方 ④わらび粉の扱いとわらびもちのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
17	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～（しんじょ、わらびもち、そぼろあん：介護食）（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ、わらびもち】 ①炊き込みご飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょの扱い ③かぼちゃの扱いとそぼろあんのつくり方 ④わらび粉の扱いとわらびもちのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
18	状態別献立② ～子供向け洋風献立～（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【チキンピラフ、鶏肉のハンガリー煮、トマトカップサラダ（スタッフドトマト、二色ゼリー） ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	状態別献立③ ～成人向け和風献立～（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁、白玉だんご】 ①基本的な煮物のつくり方 ②菜飯の葉の扱い方 ③ホイル焼きの要領 ④味噌汁の基本 ⑤白玉粉の扱い方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
20	状態別献立③ ～成人向け和風献立～（瀬谷・大泉）	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁、白玉だんご】 ①基本的な煮物のつくり方 ②菜飯の葉の扱い方 ③ホイル焼きの要領 ④味噌汁の基本 ⑤白玉粉の扱い方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
21	中国料理③（瀬谷・大泉）	【青椒肉絲、粟米湯、奶豆腐、凉拌海蜇】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の基本と特徴を学ぶ ②寒天の扱い方 ③とろみのあるスープ（湯）の応用について ④くらげの扱いを理解する	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
22	中国料理③（瀬谷・大泉）	【青椒肉絲、粟米湯、奶豆腐、凉拌海蜇】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の基本と特徴を学ぶ ②寒天の扱い方 ③とろみのあるスープ（湯）の応用について ④くらげの扱いを理解する	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
23	弁当料理（瀬谷・大泉）	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
24	弁当料理（瀬谷・大泉）	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
25	行事食① 誕生日の献立（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
26	行事食① 誕生日の献立（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	行事食② 夏の日のおもてなし ランチ（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に来客のおもてなしを考えた調理の実践を行う。【巻き寿司・茶巾寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
28	行事食② 夏の日のおもてなし ランチ（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に来客のおもてなしを考えた調理の実践を行う。【巻き寿司・茶巾寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
29	行事食③ 敬老の日の献立（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
30	行事食③ 敬老の日の献立（瀬谷・大泉）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

科目名	住生活概論	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	前期			
授業概要	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2145			
達成目標	広い視野で物事を捉え、住生活に関わる基礎的知識を総合的に理解する。さらに社会及び家庭生活における諸問題について考察し、学んだ知識や技術を活用して問題解決を図ることができる。単位認定の最低基準は以下の①～④について7割達成していること。 ①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。 ②家族と間取りとの関連について考察する。 ③UD住宅の在り方について理解する。 ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。 知識・理解、論理的思考力、問題解決力、倫理観社会的責任			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	①定期試験 7 0 % ②提出図面 3 0 %	
教科書	私たちの住居学ーサステナブル社会の住まいと暮らしー (株式会社オーム社) 編著者：山根芳一			
参考書	「住宅の計画学入門」鹿島出版会 「ダ イニング キッチンはどうして誕生した」技報堂出版			
学生への要望	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。			
オフィスタイム	No.1住居学研究室 月曜日Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00） 木曜Ⅰ時限（8：50～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明する。また、私たちの住生活を取りまく問題について考える。	新聞等に目を通し、日頃から住生活における問題に目を向ける。	60
2	サステナブル社会の住まい	サステナブルな社会の必要性ついて理解し、様々な住生活の諸問題について考える。	住まいづくり・住まい方に望まれる姿勢について、自分の考えをまとめておく。	60
3	家族と住まいの変遷	現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。	住まいの変遷と平面構成の変化を確認する。	60
4	住まいの維持管理	住まいの寿命と維持管理について理解し、住宅の老朽化を防ぎ長持ちさせる住まい方を考える。	住まいの維持管理ついて考え、住まい方を考察する。	60
5	住まいに必要な環境調整	住まいの温熱環境やアレルギーとシックハウスの要因について理解し、健康で快適な住まいを創造する。	快適な住環境について考察し、まとめる。	60
6	住生活と住まいの変遷	日本の風土的特徴を踏まえながら、気候風土と住まいの形態及び地域性と住まいについて確認する。	日本の気候風土、地域性についてまとめる。	60
7	子育て家族・シングルの住まい	子どもの成長発達と住環境、シングルのための住まいについて考察し、内在する問題について考える。	子育て家族とシングルの住まいについて考察する。	60
8	高齢者と住環境	高齢者の身体的特徴を踏まえながら、住居内での事故を防止するための手すりや段差解消の方法について学ぶ。また、現代社会における基礎的問題として、介護保険制度について理解し、高齢者の自立促進及び介護者の負担軽減を目的とした居住環境整備について考える。	介護保険制度を踏まえながら、住居内の事故防止のための方策についてまとめる。	60
9	住宅設計製図の基礎	模範住宅の図面から、設計に用いる開口部などの記号について説明します。次に、設計製図における線の引き方の基礎を学びます。	設計製図における線の引き方を練習する。	60
10	線の引き方、製図文字の練習	前授業に引き続き、線の引き方と、製図文字を練習する。次にダイヤモンドリング作成について説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、ダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180
12	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、引き続きダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成した後、住宅図面トレースについて説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	60
13	住宅図面のトレース1	模範住宅の図面をトレースすることにより、設計図の描き方の基礎を学ぶ。本授業では、平面・配置図を完成させることを目的とする。	平面図・配置図をトレースする。	180
14	住宅図面のトレース 2	前授業に引き続き、2階平面図、立面図を完成させる。	2階平面図と立面図のトレースを完成させる。	180
15	住宅図面のトレース 3	前授業に引き続き、トレースを完成させることにより、図面を読む基礎的知識を習得する。	製図記号等の基礎的知識を理解し、トレースを完成させる。	180

科目名	家庭電気・機械	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修
担当教員	石原 正道		
開講期	後期		
授業概要	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができる。これらの機器は便利ではあるが、一方で使い方を誤ると危険でもある。本講義では、機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理・構造・注意点を学ぶ。 フィードバックとしてリフレクションペーパー（理解度確認ペーパー）の返却・課題内容の説明等を行う。 位置づけ・水準 DS2346		
達成目標	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：「知識・理解」		
受講資格	なし。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2 回・リフレクションペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、リフレクションペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚（表裏記入可）のみに限る。成績評価の観点は、1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。
教科書	適宜資料を提示する。		
参考書	・池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996) ・小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002) ・横田 俊昭, ふつり学, 共立出版 (1993)		
学生への要望	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。		
オフィスタイム	水曜日 14:30-16:00, 家政学館4階 情報処理教育研究室 金曜日 14:30-16:00, 家政学館4階 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	講義の目的・内容・成績評価の方法・資格との関係などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。	本時の復習として冪乗の計算および比例・反比例の変数間の関係を確認すること。	15
2	基礎物理	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原理解を学ぶ。状態の記述に必要な位置・速度・加速度の概念を復習したのち、運動の記述に必要な力や、保存則と関係する運動量・角運動量の基礎事項を学ぶ。	本時の予習として冪乗の計算および比例・反比例の変数間の関係を確認しておくこと。また本時の復習として力・運動量・角運動量の定義を調べておくこと。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
3	基礎物理および機械の構成要素	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原理解を学ぶ。モーメント・仕事・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則の基礎事項を学ぶ。これらの基礎事項を学んだのちに、機械の構成要素(道具やリンク機構)を学ぶ。本時では様々な道具を実際に触ることで道具への理解を深めることとする。またノギスやマイクロメーターを用いて様々な物体の長さ・厚さ・深さを測り、道具の使用方法を学ぶ。	本時の予習として力・運動量・角運動量の定義を確認しておくこと。本時の復習として各保存則とリンク機構について確認しておくこと。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
4	機械の構成要素	機械の構成要素としてベルト・チェーン・歯車・軸などを学ぶ。また回転とモーメントの関係や仕事の原理とシーソーやギアなどの機構の関係を学ぶ。	本時の復習として、配布されている資料と授業内容をもとに機械の構成要素について整理すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	熱力学基礎	人間は有限温度中で生活し、実生活では熱を扱う機会が多い。そのため機器でも熱を扱うものが多い。ここでは熱や温度とは何かを復習し、動作原理を理解するための基礎となる理想気体の状態方程式を理解することとする。また熱に関する基本的な法則である熱力学第一法則・第二法則についても概略を学ぶ。	本時の復習として熱力学の第一法則および第二法則の内容を確認すること。また日常現象に熱力学の法則がどのように関連しているか確認すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
6	熱を利用した機器	燃焼に関係する器具や機関について学ぶ。バーナーやヒーターといった気体や液体燃料を利用する燃焼器具、内燃機関と外燃機関の違い、内燃機関であるエンジンの基本動作などについて学ぶ。	本時の復習として、本時で扱った器具や機関の仕組みを整理すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
7	ヒートポンプ	実生活では温度を適切に調整することが必要な場合がある。ここでは熱力学の観点からヒートポンプの原理を理解し、ヒートポンプの特徴を学ぶ。とくに効率の観点からヒートポンプの優位性を理解し、ヒートポンプの利用例を知ることとする。	本時の復習として、ヒートポンプのサイクルにおける各過程での熱の出入り及び温度の高低を再確認すること。またヒートポンプの特徴を再確認すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
8	冷蔵庫	現代の家庭では、冷蔵庫は必須の電気機器である。冷蔵庫はヒートポンプを応用した冷蔵庫のほか、様々なタイプの冷蔵庫があることを学ぶ。また、それぞれの冷蔵庫の冷却原理について学び、どのような特徴があり、どのような場所で使用されているのか学ぶ。	復習として、冷却方法を整理すること。また電気冷蔵庫の冷却方法とヒートポンプのサイクルにおける過程を対応をまとめてみる。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
9	課題 1	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120
10	電磁気の基礎と電気の伝達	日常機器の殆どは電気を利用して動作する。このため日常機器の動作を理解するには電磁気の基本的な性質を理解しておく必要がある。ここでは電気・磁気・電磁波などの電磁気の基礎的な概念や性質を学ぶ。また電気を伝達する上での注意事項を学ぶ。	本時の復習として、電気と磁気の関係や電磁気学における各種法則について整理すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
11	電力生成と蓄電	電気のエネルギーは便利なエネルギー形態である。しかし現在の技術では、多くの電気によるエネルギーを蓄えておくことは容易でない。このため、必要に応じて他のエネルギーを電気のエネルギー(電力)に変換する必要がある。電力は発電所で作られていると考えがちであるが、家庭でも電力を生成することがある。電気を利用した機器を理解するため、ここでは電力の生成方法や蓄電方法について学ぶ。	本時の予習として、本授業の前半で学んだエネルギー保存則を確認しておくこと。本時の復習として、電力生成を電磁気学の基本法則で説明できるよう、電力生成の原理を確認すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
12	電磁気を利用した調理システム	家庭における電磁気を利用した器具に調理器がある。ここでは電気あるいは磁気を利用した調理器である、電磁調理器(IH)・電気炊飯器・電子レンジの動作原理を学ぶ。動作原理を知ること、これらの機器の危険な面も理解することとする。	本時の復習として、誘導加熱と誘電加熱の原理を確認すること。また両加熱方法の違いを確認すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
13	電気を利用した発光システム	現代社会において灯りは必須のものである。ここでは光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多い、Light Emitting Diode(LED)の仕組みを学ぶ。それぞれの製品の特徴を掴み、適切な使用ができるよう理解をはかる。本時では圧電素子や電子レンジを利用して蛍光灯を光らせる簡易実験を行い、蛍光灯の発光原理を理解する。また本簡易実験により、前回の授業で学んだ電子レンジの加熱原理を確認する。	本時の復習として、発光原理とエネルギーの利用効率について整理すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	ディスプレイと情報の記録	液晶等が実用化されたことで、ディスプレイの厚さは極めて薄くなり取り扱いが簡単になった。ここでは広く用いられている液晶などの原理を学び、どのような機器に用いられているか学ぶ。また、これまで情報を記録するには紙媒体が使用されてきたが、コンピュータの普及に伴い、情報を電子媒体に記録されることが増えてきている。ここでは情報の記録方法について、機械と磁気の観点から学ぶことにする。	本時の復習として、本時で説明したデータ保存用の機器の実物を、Webなどで確認すること。またその際に示されている接頭辞を確認すること（接頭辞は本授業当初の説明事項である）。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
15	課題2	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120

科目名	建築計画Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	後期			
授業概要	建築計画に必要な基礎的知識を養うために、住宅や各種建築物における室や相互のつながり、規模、基本的な計画の留意点を学ぶ。また、生活上のさまざまな要求を満たし、快適で便利な空間を計画するために、各種建築物の役割や建築物が造られる過程における建築計画の果たす役割や進め方について学ぶ。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DA2101			
達成目標	建築物の構想や基本的な方針などを踏まえ、建築設計に活かす基礎的能力を養う。単位認定の最低基準は、下記①～④の7割達成していること。 単位認定の基準は以下のとおりである。 ①細部計画・各部計画の要点を把握する。 ②独立住宅における諸室の機能的つながりと計画上の要点について理解する。 ③集合住宅の様々なタイプの特徴およびその長所・短所を理解する。 ④各種建築物の計画上の留意点を把握する。 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「倫理観社会的責任」「創造的思考力」			
受講資格	生活科学科 建築デザイン専攻	成績評価 方法	①期末試験50％ ②確認テスト30％ ③レポート提出20％	
教科書	『やさしい建築計画』深水浩著,学芸出版社			
参考書	『設計に活かす建築計画』内藤和彦他著,学芸出版社 『第3版コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会編,丸善株式会社			
学生への要望	建築物に興味関心を持ち、実際に足を運んで観察するよう心掛けること。			
オフィスタイム	家政学館4階 生活科学研究室 月Ⅰ・Ⅱ時限（8：30～12：00） 水Ⅰ時限（8：30～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、住宅の分類	これからの授業のすすめ方について説明する。 住宅の分類及びそれぞれの長所短所について説明し、住宅の建築設計における位置づけ（重要性）について、家族問題や社会問題、歴史的背景と関連させて講義する。	住宅の分類と長所短所について整理し、歴史的背景や諸問題について考察する。	60
2	住宅のゾーニングについて	住宅におけるゾーニング及び動線の意味とテクニック、事例を説明する。また、収納の面積や最小限住宅の事例を話し、空間利用の魅力や手法について講義する。	住宅におけるゾーニングおよび動線計画について事例をもとに考察する。	60
3	住宅における各室の設計ポイント	寝室や老人室、居間、台所等の各室における基礎的面積、家具配置、出入りの注意点について説明する。	住宅設計の留意点について理解する。	60
4	住宅の事例研究 1	住宅展示場を見学し、各諸室のつながりや構造、材料、収納、インテリア等について近年の動向を把握する。	住宅の各諸室のつながりについて近年の動向を調べる。	60
5	住宅の設計手法、プランニング演習	食寝分離、公私室型、ダイニングキッチン、続き間等の設計の手法、その理論を解説する。これらの知識から、小住宅のプランニングをし、エスキスのテクニックを学ぶ。	住宅の設計手法を理解する。	60
6	集合住宅の歴史、分類	わが国とヨーロッパの集合住宅を比較し、わが国の特質を明らかにする。また、近年の動向を郡山市を例として解説し、集合住宅の分類を高さ及びアクセス方法の両面から講義する。	集合住宅の分類について理解し、長所と短所を整理する。	60
7	集合住宅の住戸計画	鉄筋コンクリートや鉄骨造における経済的スパン及びスパンに住戸を収めるという考え方について説明する。さらに一住戸をプランニング演習する。	集合住宅の住戸計画について理解する。	60
8	集合住宅の事例	わが国における戦前からの集合住宅の事例、海外の事例を説明する。このことにより、多彩な計画法を学ぶ。	集合住宅の事例をもとに様々な計画法について理解を深める。	60
9	学校建築の計画	小学校の運営方式や所要諸室について、配置計画上の要点をふまえながら、近年の多様な教育プログラムに対応できる空間構成について考える。	学校建築の留意点についてまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	幼稚園・保育所の計画	幼稚園・保育所における所要諸室とその機能的つながりをふまえながら、幼児や乳児の人体スケールに配慮した各部の計画について学ぶ。	所要諸室の必要性と人体スケールについて理解する。	60
11	図書館の計画	一般的な地域図書館における必要諸室とそのゾーニング及び機能的つながりについて考える。 また、図書館に関する基本用語を理解し、閲覧室の座席レイアウトおよび書架の配置と収納能力について学ぶ。	ゾーニングと機能的つながりについて事例をもとに考察する。	60
12	美術館の計画	一般的な美術館における、必要諸室とそのゾーニング及び機能的つながりについて考える。 また、美術館に関する基本用語や来館者の巡回形式、展示室の採光・照明計画について学ぶ。	美術館計画の留意点について理解し、事例をもとに考察する。	60
13	建築物の事例研究Ⅰ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。	180
14	建築物の事例研究Ⅱ (プレゼンテーション)	建築学生として必ず把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。	180
15	建築物の事例研究Ⅲ (プレゼンテーション)	建築学生として把握しておかなければならない、建築物の代表的な事例を提示する。提示した事例を学生が研究し、設計者、設計趣旨、時代背景、感想等について発表することでプレゼンテーション能力を培う。また、終了後討議し、建築を見る力を養う。	有名建築家の作品を事例として設計趣旨、時代背景等をまとめ、パワーポイントを作成する。	180

科目名	建築計画Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	前期			
授業概要	建築計画Ⅰの授業で習得した建築計画の基本手法に基づき、大規模建築物における建築計画の特徴、最低限知っておかなければならない計画手法を理解することを目的とします。ここでは、建築計画Ⅰに引き続き、劇場・事務所・病院・商業施設等について学びます。 第6回、第14回の課題は授業内で講評して返却し、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
達成目標	①各種施設に必要な設計計画上の重要な要素を理解できたか。 ②スケール感を身につけ、各種施設に必要な大きさや長さなどを理解することができたか。 ③計画上のポイントを大学校舎や商業施設などの実際の建物で確認し、問題点を抽出することができたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。 ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	家政学部生活科学科2年	成績評価 方法	定期試験80％、提出課題20％	
教科書	図説やさしい建築計画 学芸出版社			
参考書	コンパクト建築設計資料集成 日本建築学会			
学生への要望	本授業は、建築設計製図Ⅱの課題で取りあげる建物について学修するため、両者を関連づけて受講すること。 また、空き時間や休日を利用して授業内で取り上げた各種施設に実際に訪れることを強く勧める。 講義で得た知識と建物の実際の状況（計画）を照らし合わせてみることで、問題点や改善点を把握すること。			
オフィスタイム	月曜日9：10～10：30 水曜日14：40～16：00 本館4F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	建築計画を学ぶ重要性和住まいには精神面と物理面それぞれの役割があることを理解します。	建築計画Ⅰで学修した内容を見返し、章末問題に取り組んで、住宅や学校などの基本的な計画とスケールを習得します。	60
2	劇場の計画1	劇場の構成やゾーニング、分類を学修し、具体的な実例を基に劇場設計の基本を学びます。	身近な劇場を訪れ、建築計画や空間の特徴を感じ取ります。授業で学修した内容を復習し、ノート等でまとめ直します。	30
3	劇場の計画2	劇場計画に関する重要事項を整理し、巡回形式や採光・照明計画などを学修します。また、優れた劇場の実例から、設計意図や特徴を読み取ります。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
4	事務所の計画1	事務所を計画する際の基本的な事項について学び、人体モジュールにそった配置計画ができるよう学修します。	事務所の基本事項について復習します。	30
5	事務所の計画2	コアプランや机の配置計画など、事務所特有の計画留意事項を学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
6	計ってみよう1	大学内の講堂・図書館などを用いて、これまで学修した建築計画に沿った設計が行われているのか、実際に見て、計測することで判断し、改善点を考察します。	授業で使用した資料を見返し、大学施設を建築計画の視点から評価します。	30
7	ホテルの計画1	ホテルの構成やゾーニング、種類を学修し、具体的な実例を基にホテル設計の基本を学びます。	ホテルの基本事項について復習します。	30
8	ホテルの計画2	ホテルの構成やゾーニング、種類を学修し、具体的な実例を基にホテル設計の基本を学びます。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
9	病院・診療所の計画	病院や診療料所の構成や配置計画を学修し、使用者動線を加味した平面計画を行い病院ならではの計画上の留意事項を学びます。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
10	商業建築の計画	商業建築を計画する際の基本的な事項について学修し、人体モジュールにそった配置計画ができるよう学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
11	高齢者福祉施設の計画	高齢者福祉施設に関連する施設の種類や形態を学修し、高齢者に配慮した設計計画を行えるよう、バリアフリーやユニバーサルデザインについて学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	駐車場や各種施設	駐車場・駐輪場の計画を概要とスポーツ施設やコミュニティー施設、庁舎や空港など、特別な形態・機能を持つ建物について学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
13	高齢者・障がい者に配慮した建築計画	ノーマライゼーションの普及と展開の変遷を理解し、高齢者・障がい者に配慮した建築計画の要点を学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
14	計ってみよう2	大学内の教室・駐車場・駐輪場などを用いて、これまで学修した建築計画に沿った設計が行われているのか、実際に見て、計測することで判断し、改善点を考察します。	授業で使用した資料を見返し、大学施設を建築計画の視点から評価します。	30
15	まとめと建築士試験対策	建築計画Ⅱで学んだ内容について復習し、建築を設計する上で基本となるプランニングの重要性を再確認します。 また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築計画Ⅱの試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	授業で配布する建築士試験対策問題に取り組み、定期試験の学修に繋がります。	90

科目名	建築史	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員	長田 城治		
開講期	前期		
授業概要	本授業は、日本ならびに世界の建築の歴史を原始から近代まで概観するものです。 過去の名建築を様式や歴史から学ぶのではなく、名建築を正しく評価する力を身につけることを目的とします。そのためには、単に意匠や平面の遷り変わりという歴史的な変遷だけでなく、その建築が、誰が、どのように、何のために造りだされたのか、なぜその形や意匠が選ばれ、何を表現しようとしたのかなど、建築の背景にある事実を考えることが大切です。 本授業は、建築の歴史を学ぶことで建築に対する視野を広げると共に、建築を考える上での基礎的なスキルを身につけることを目標とします。 また、実際の歴史的建造物を見学し、授業内で学修したことを確認し、自身の視点で建物を評価する能力を養います。 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、発表課題については、第11回と第15回の授業内で改善点などを示します。 位置づけ・水準：DA2203		
達成目標	①日本建築と西洋建築の時代ごとの特徴的な建物について年代順に時系列で捉えることが出来たか。 ②建物の変化の要因を当時の時代背景や社会構造などと共に理解することができたか。 ③建築の見方を学修し、自身の基準で建物を評価することが出来るようになったか。 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解し、代表的な建物とその建築様式の年代を把握すること。 ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部生活科学科2年	成績評価 方法	①授業中に出题する小課題（20％） ②見学会レポート（30％） ③プレゼン（50％） を総合して評価する。レポートおよびプレゼン発表の条件・評価基準を出題時に説明するので、十分理解の上で提出すること。
教科書	特になし 必要に応じてプリントを配布		
参考書	『カラー版図説建築の歴史』西田雅嗣他著、学芸出版社		
学生への要望	授業で紹介した建築を現地に赴いて見学し、その空間を体験することをすすめると共に、足を運ぶ積極性を求めます。現地で感じた自身の感性に基づき、建物の評価を行う習慣を身につけましょう。 また、授業後は授業内で取り上げた時代を代表する建物について自身で調べ、日本および西洋の代表的な建築物を時系列に沿ってノートなどにまとめてください。		
オフィスタイム	月曜日14:40～16:00 木曜日9:10～10:30 本館4F No.2 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	建築史を学ぶ意義について述べます。	授業内容の復習 日本の古い建築を調べる	60
2	原始住居と環濠集落	原始時代の住居についてユカとドマに注目して住生活の特徴を学びます。	授業テキストで復習	60
3	古代住居とその変容	貴族の住宅である寝殿造と平安京から当時の住宅様式を学び、公私の空間の捉え方や住まい方における現代との相違を考えます。	授業テキストで復習	60
4	中世住居のオモテとオク	中世に初めて導入されたオモテとオクの考え方について、座敷飾りや書院造の定型化と考え合わせて学習します。	授業テキストで復習	60
5	近世住居と地域色	書院造と相反する数寄屋造の建物について、当時の「数寄」という感性と共に理解します。また、庶民住宅である民家や町家の特徴とその地域色について、気候・風土だけでなく、当時の社会背景を踏まえて学びます。	授業テキストで復習	60
6	社寺建築のウチとソト	神社建築と寺院建築の違いを理解し、内部空間と外部空間に分けて、様式の特徴と様式が導入された背景を学習します。	授業テキストで復習	60
7	政務の空間、遊びの空間	日本独自の建築である城郭と茶室について、形成された理由や進化の過程を利用者の使い方の視点から学びます。	授業テキストで復習	60
8	近代建築の発展にみる和風と洋風	日本における近代建築の特徴を各種代表的な建物を基に学習します。また、近代和風住宅やモダニズム建築などを工業化の視点から学びます。	授業テキストで復習	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	歴史的建造物見学	歴史的建造物を実際に見学して建物の特徴を把握し、地域や年代・設計者などの背景を考察してレポートを提出します。	見学会レポート作成	120
10	古代（エジプト・ギリシャ）建築の普遍性	エジプト建築の特徴と後世への影響について解説します。ギリシャ建築のオーダーやバルテノンの黄金比・曲線の多用・バランス等の普遍的な美について学びます。また、アゴラの計画から西洋人の都市における公空間の考え方について学びます。	授業テキストで復習	60
11	古代（ローマ）建築、中世（ビザンチン）建築とキリスト教	ローマ建築の規模・構造およびギリシャ建築との比較やキリスト教建築との関連も同時に学習します。ビザンチン建築の特徴を、東西ローマ帝国の成り立ちやカトリック、ギリシャ正教と関連付けて解説します。また、第9回で提出した課題のフィードバックを行います。	授業テキストで復習	60
12	中世（ロマネスク・ゴシック）建築の構造美	ロマネスク建築とゴシック建築の特徴を両者を比較しながら解説します。また、この頃から国の特徴や国民性が建築形態に影響してきたことを学習します。 【プレゼン課題発表】	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成	120
13	近世（ルネサンス・バロック・ロココ）建築と絶対王政	近代建築の特徴といえる機能主義の考え方、ワグナーの建築哲学等を理解します。さらに、機能主義に反発して起こった建築運動、いわゆる反機能主義の建築について学びます。	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成	120
14	稀代の建築家とポストモダニズム	コルビジェ・ミース・ライトなど近代建築の巨匠と称された建築家の作品を解説します。その時代背景や構造、材料等の特徴を学びます。また、ポストモダニズムの時代に至った背景や特徴等を学び、現在の建築の位置づけについて考えます。	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成	120
15	プレゼン発表と建築士試験対策	広く建築に関心を持つことを目的に、課題の趣旨を理解して、学生それぞれが興味のある建築についてスライドを用いて解説・発表し、その場で課題点などを解説し、評価します。 また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築史の試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	プレゼンテーション作成 国家試験対策問題	150

科目名	インテリアデザイン	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	後期			
授業概要	インテリアデザインに必要な専門知識及びその関連知識として「インテリアデザイン史・論」「インテリア計画・インテリアデザイン基礎」「インテリア材料・構造生産」「インテリア装備・装飾」の4領域について学ぶ。また、学んだ知識を活かしてインテリアをデザインし、CGで表現する技術と創造力を養う。課題・プレゼンテーション後、コメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 DA2104			
達成目標	インテリアデザイナーの役割や求められる資質について理解し、インテリアデザインに必要な専門知識や技術、プレゼンテーション能力を養う。単位認定の最低基準は、下記①～⑤の7割達成していること。 ①日本及び西洋のデザイン史について理解し、主要な家具・調度品、様式の特徴を把握する。 ②インテリアエレメントの種類や特徴を理解する。 ③インテリアの材料及び構造について理解し、それらの特徴を把握する。 ④人体の寸法、物の大きさ等、スケール感を身に付ける。 ⑤インテリアの表現技法を習得する。 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「倫理観社会的責任」「創造的思考力」			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻 建築デザイン専攻	成績評価 方法	①提出作品30％ ②レポート・小テスト20％ ③期末試験50％	
教科書	日本インテリア設計士協会テキスト インテリア産業協会テキスト			
参考書	インテリア関連書籍をその都度提示する。			
学生への要望	授業目標を理解し、授業に臨むこと。			
オフィスタイム	生活科学研究室 月曜日Ⅰ時限（8：50～12：00） 木曜日Ⅰ時限（8：50～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	これからの授業の進め方やインテリアデザインに必要な専門知識や技術について説明する。	インテリアデザインに必要な専門知識や技術について理解する。	40
2	インテリアデザイン史Ⅰ	西洋のインテリアと家具の歴史を学ぶ。	西洋のインテリアの歴史と家具の変遷について整理して理解する。	40
3	インテリアデザイン史Ⅱ	日本の住宅とインテリア、家具の歴史を学ぶ。	日本の住宅の変遷と家具の歴史について整理して理解する。	40
4	インテリアデザイン基礎	形と空間構成・色彩・インテリアの表現技法を学ぶ。	インテリアデザインの基礎として表現技法について理解する。	40
5	インテリア計画	人間の生理や心理をふまえた視点から計画するための知識を養う。	インテリア計画の知識について理解を深める。	40
6	インテリア材料	材料の持つ特質を知り、快適で安らぎのある空間について考察する。	インテリアの材料の特質を整理する。	40
7	インテリア構造・生産	インテリアの構法、室内構造と各部の名称等について学ぶ。	インテリアの室内構造について理解を深める。	40
8	室内装備・装飾Ⅰ	カーペット・壁と天井の仕上げ・ウインドウトリートメントについて学ぶ。	室内装備・装飾について事例をもとに理解を深める。	40
9	室内装備・装飾Ⅱ	台所・洗面・浴室等の設備機器等について学ぶ。	室内の設備機器について理解する。	40
10	室内パースⅠ	インテリア関連の各資格に対応したパースの書き方を理解する。与条件を十分に理解し、課題の主旨に応じた室内パースを描く。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	90
11	室内パースⅡ	前授業に引き続き、室内パースを製作する。描き方のプロセス・テクニックを十分に理解し、室内パースを制作する。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	90
12	室内パースⅢ	前授業に引き続き、室内パースを製作する。描き方のプロセス・テクニックを十分理解し、室内パースを完成させる。	室内パースの書き方を理解しパースを製作する。	90
13	インテリアデザイン	室内空間をC A Dを使用して3 Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3 Dで表現する技術を習得する。	C A Dを使用した表現技術を習得する。	90
14	インテリアデザイン	前授業に引き続き、室内空間をC A Dを使用して3 Dで表現する。イメージスケールをもとに、理想の空間を3 Dで表現する技術を習得する。	理想の室内空間を表現する。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	プレゼンテーション	製作した作品のプレゼンテーションを行う。 学生間でそれぞれ評価し合い、ディスカッションを行う。	ディスカッションを通して、作品を評価する。	60

科目名	地域防災計画	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	後期			
授業概要	地域特性を考慮した地域防災計画の策定は、防災計画上重要な位置づけにある。建築物の構造体としての安全性とともに、災害時の安全かつ速やかな避難計画は、地域防災計画との関係が大きい。福島県においても過去の大規模災害の経験を基に、地震、風水害、雪害等自然災害に対処する地域防災計画が策定されている。授業では建築防災計画および地域防災計画について解説し、地域特性を考慮した総合的な防災計画の必要性を理解することを目的とする。 レポートは返却せず、コメントによるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HA2404			
達成目標	【履修カルテ】 ①自然災害の種類と特性を理解できたか。 ②地域防災計画策定に必要な項目を明確にすることができるか。 ③福島県の防災計画に留意する項目を明確にすることができるか。 単位認定最低基準：「授業内容の8割を理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的責任」			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	小テスト50%、レポート提出30%、プレゼンテーション20%	
教科書	雪と建築（技報堂出版）			
参考書	防災基本計画（中央防災会議）			
学生への要望	建築物単体での防災対策とともに、地域や都市という広域的な防災対策についても身近に感ずるよう心がけて欲しい。また、地震、風水害、雪害等、福島県の地域特性を理解し、これらの対策の現状を認識して欲しい。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～14:00 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、防災計画の概要	防災計画の概念について説明し、科目の導入とする。	授業内容をテキストで復習	45
2	防災基本計画の構成	防災基本計画の構成を解説し、災害の種類を把握するとともに、その特徴について理解を深めさせる。	授業内容をテキストで復習	45
3	自然災害の対策1	自然災害の種別毎の対策について解説する。当回では震災対策、火山災害対策における災害発生概要・災害対策の現状について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
4	自然災害の対策2	当回では、風水災害対策、雪害対策における災害発生概要・災害対策の現状について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
5	日本の気候	日本の気候からくる気象災害について解説する。ここでは、日本の気候の特徴と自然災害の関係について理解させる。	レポート準備	60
6	地域防災計画の特徴	防災基本計画と地域防災計画の特徴について解説する。特に地域防災計画の基本的な考え方、防災理念が理解できるように解説する。	授業内容をテキストで復習	45
7	防災上の地域特性1	防災上の福島県の地域特性について解説する。特に福島県の災害履歴を把握する。	授業内容をテキストで復習	45
8	防災上の地域特性2	当回では福島県の地域特性について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
9	地域防災計画	福島県地域防災計画の特徴を解説し、今後考慮すべき課題について考察する。	レポート準備	60
10	雪害	福島県の雪害に関する状況を解説し、雪害という現象を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
11	雪氷防災計画	地域防災計画上の雪氷防災計画について解説し、雪氷防災計画策定の重要性を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
12	避難計画1	災害時における避難計画の概要を解説し、建築物での避難計画を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
13	避難計画2	災害時における避難計画を住区、地区、地域の観点から解説し、さらに複合災害時の避難行動について理解させる。	プレゼン準備	90
14	都市計画・地域計画上の防災対策	都市・地域の防災システムならびに都市構造の防災ポテンシャルについて解説し、中領域での防災対策について理解させる。	プレゼン準備	90
15	総まとめ	地域防災計画上の理念を総括する。	授業内容をテキストで復習	45

科目名	家族建築学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	前期			
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、人間にとって家族とは何か、家族の機能、家族の変化等を中心に考える。 特に、家族内における高齢者、子ども、人権尊重を主題とし、福祉社会における家族のあり方を様々な視点から学ぶことを目的とする。なお、教職（家庭・栄養）を目指す人にとっては必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。 レポートはコメントによるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HA2405			
達成目標	単位認定の最低基準：①家族の機能について様々な視点から考察できること。 ②家族の時代的変遷について考察できること。 ③高齢者や子どもと家族全体との関わり方の変化について考察できること。 ④授業内容の8割を理解していること ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	人間生活学科4年生、食物栄養学科 4年生 文化学専攻科 1年生	成績評価 方法	レポート60％、プレゼンテーション20％、授業中の提出物20％	
教科書	適宜プリント及び資料配付			
参考書	その都度紹介します			
学生への要望	授業中に各自の意見を書いて提出することを数回求めます。その日のテーマをよく考え、私語を控えましょう。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業の進め方について説明する。これまで学んだ建築学の専門科目からの視点とは異なり、生活者としての視点から建築を捉え、建築に与える家族関係等の影響について考察する。その上で、建築家としての使命や自分自身の方向性について考える。	授業内容を復習	45
2	家族の意味	家族の意味について、これまで学んだ家政学を基盤とした上で「家族と法」の視点から考察する。	授業内容を復習	45
3	現代の家族生活	今日、われわれが経験している現代の家族生活を旧来の家族生活と比較し、特質づけている点について考察することから、現代の家族生活の意義について理解を深める。	授業内容を復習	45
4	夫婦と親子	夫婦について婚姻の成立と効果、親子関係の発生とその効果について「家族と法」の視点から考察し、住生活における位置づけについて理解する。	授業内容を復習	45
5	親族扶養について	親族関係の意義と扶養の意味について理解する。それに基づき社会福祉的観点から、建築に求められている空間の創造または空間構成について考察し、これまで学んだ住宅の設計概念と結びつけて理解する。	授業内容を復習	45
6	家族についての総括	家族関係の視点からグループワークを行い、プレゼンテーションする。	レポート準備	60
7	家族と住空間	家族関係からの視点で住空間を創造する手法について学ぶ。コアシステムやスケルトンインフィルの概念を理解し、住宅の空間構成を考える。	授業内容を復習	45
8	家族関係からみた平面構成	様々な家族関係を事例に、住宅の平面構成と心理面へ与える影響について追及する。	授業内容を復習	45
9	平均寿命100歳時代に向けた住宅のあり方	平均寿命100歳時代を見据え、家族形態の変容に対応できる住宅の形態について、その可能性や問題点について考え、討論する。	授業内容を復習	45
10	屋根型の理解	建築物の外観は屋根によって決まる、と言っても過言ではない。その屋根型の基本を復讐し、球や半球等にかける屋根について検討し屋根方の違いによる空間について理解する。	授業内容を復習	45
11	段差の敷地に建つ住宅	段差のある敷地に建つ住宅とバリアフリーの関係について考え、討論する。	レポート準備	60
12	ふくしまの家	福島らしい家とは何か。気候風土や嗜好性をどう捉えるかを学ぶ。流行と風土性、建築家のエゴについて考える。	授業内容を復習	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	都市・街並みの創造 1	これまで学んだ次世代に向けた住宅形態と、街並の創造について考察する。	授業内容を復習	45
14	都市・街並みの創造 2	前授業に引き続き、街並みの創造について考察し、討論する。	レポート準備	60
15	自分自身の建築の方向性と卒業設計	建築とは人間のための空間創造である。住宅は建築並びに生活者の原点である。戦後、わが国の建築家たちは快適性ばかりを追求してきたが、東日本大震災を契機に、この姿勢に疑問符が投げかけられている。本授業では、形態を主に住宅を捉えてきたが、自分自身の建築の方向性を建築家としてのポリシーと形態（デザイン）との両面模索することを最終の授業の目的とする。さらに、自分の方向性と卒業設計とを関連付けて卒業設計のテーマを発表する。	授業内容を復習	45

科目名	建築環境工学Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	前期			
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、工学的視点から自然現象を捉え理解する。健康で快適な室内環境を形成するために、空気・湿気・温熱環境等の側面から考える力を養い、課題解決に向けて自己の専門知識と技術に活かす能力を身に付ける。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DA2321			
達成目標	快適な室内環境を形成するための原理を理解し、工学的視点より環境について考察する。 単位認定の最低基準は、下記①～③の7割達成していること。 ①空気環境について、通風と換気の目的と換気システムについて理解し、活かすことができる。 ②湿気環境について、結露発生のメカニズムとその防止法を理解し、問題解決力を養う。 湿り空気線図を読み取る。 ③居住者の温かさ、寒さを表す温熱環境について考察し、快適な温熱環境について理解する。 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」「倫理観社会的責任」			
受講資格	生活科学科 建築デザインコース	成績評価 方法	①期末試験 7 0 % ②確認テスト 3 0 %	
教科書	やさしい建築環境：学芸出版社			
参考書	その都度提示する。			
学生への要望	快適な室内環境を形成するために、授業で学んだことを建築計画に活かすこと。			
オフィスタイム	家政学館4F 生活科学研究室 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00） 木曜Ⅰ時限（8：50～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業についての説明及び室内環境の概略を説明する。	室内環境を決定づける要因について理解する。	60
2	温熱要素について	気温・湿度・風速・放射熱など、体感に影響を与える要因について学ぶ。	温熱要因について理解を深める。	60
3	温熱感覚の指標	有効温度・修正有効温度・不快指数等を計算し、室内の快適性を評価する。	温熱感覚の指標について理解する。	60
4	伝熱理論 1	壁体の熱の伝わり方と主要建築材料の熱伝導率について理解する。	熱の伝わり方について理解する。	60
5	伝熱理論 2	熱伝導抵抗・熱貫流率・熱貫流抵抗・熱貫流量の求め方を理解する。	熱伝導抵抗・熱貫流率・熱貫流抵抗・熱貫流量の求め方を復習する。	60
6	住宅と結露	結露現象について理解し、空気線図の読み取り方を学ぶ。また、表面結露と内部結露の防止対策について理解する。	空気線図の読み取り方についてりかいを深める。	60
7	断熱について	中空層の断熱効果について理解し、断熱工法とその違いについて学ぶ。また、断熱性能と省エネルギーについて考察する。	模型を用いて行った断熱実験をレポートにまとめる。	60
8	外界気象について	気温や相対湿度の変動をクリモグラフとデグリーデーから読み取る。	クリモグラフとデグリーデーの読み取り方を復習する。	60
9	住まいと気候	わが国の気候（日本の風、気温、湿度等）と建築との関連について学ぶ。	日本の気候と建築との関連について整理する。	60
10	空気環境と空気汚染 1	換気と通風の目的とその重要性について理解します。また、換気量・換気回数・必要換気量の求め方を学ぶ。	換気と通風の目的を明確にし、その必要性について理解する。	60
11	空気環境と空気汚染 2	室内から発生する空気汚染物質とその許容量について学ぶ。	室内汚染物質の要因について理解する。	60
12	換気計画	換気方式による特徴と用途について学ぶ。	換気方式の違いについて整理する。	60
13	都市環境と地球環境 1	ヒートアイランド現象、ビル風、その他の都市環境問題について考察する。また、地球温暖化原因や地球温暖化防止のための建築的取り組みについて学ぶ。	地球環境の問題点について調べ、建築的取り組みを整理する。	120
14	都市環境と地球環境 2	環境問題と建築の取り組みについてディスカッションを行なう。	環境問題と建築的取り組みについて整理し、考察する。	120
15	まとめ	これまで学んだ視点から、健康で快適な住環境について考察・説明し、ペーパーテストを行う。またペーパーテストの解説も行う。	授業で学んだ内容についてまとめ、健康で快適な住環境について考察する。	120

科目名	建築環境工学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	後期			
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、工学的視点から自然現象を捉えます。 前期に学習した内容を基に、健康で快適な住居について、日射、光、色彩、音などの環境と建築の関係について学習し、考える力を養います。 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、授業内で実施する課題は、次回の授業で詳細に解説して返却します。 位置づけ・水準：DA2322			
達成目標	①建築と環境の関係について理解することができたか。 ②日射、光、色彩、音などの特性が理解できたか。 ③建築環境工学の基本的な事項を学習し、設計製図などの課題において自身の設計に役立てることができたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解すること。 ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考力・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	建築デザイン専攻	成績評価 方法	期末試験80％・授業内提出課題20％	
教科書	『図説やさしい建築環境』学芸出版社			
参考書	『建築環境工学』市ヶ谷出版社（第三版）			
学生への要望	授業で学んだことを建築計画に活かし、快適な室内環境形成に役立てて下さい。			
オフィスタイム	月曜日9：10～10：30 水曜日14：40～16：00 本館4F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業についての説明及び室内環境の概略を説明し、授業のねらいや達成目標を理解する。	建築環境工学Ⅰで学修した内容を見返し、要点を復習する。	30
2	太陽の位置	日本における太陽の動きを理解し、日照と建築との関連を確認する。	太陽位置図やその求め方を理解し、授業内課題を用いて復習する。	45
3	日照と日影	日影図の描き方を学び、終日日影や永久日影をCGを用いて学ぶ。	日影図や日影時間図を作成する。	60
4	日射について	日射の有効性と害及び日照計算、日照調節の方法について学ぶ。	日射の仕組みを復習し、授業内課題を復習する。	45
5	光環境について	測光量について学び、基礎的な照明計算の方法を習得する。	照明計算を解く。	60
6	明視環境について	明視条件やグレア、照度の基準を学ぶ。	自宅の照度を測定し、データをまとめる。	30
7	明視環境と採光について	自宅の照度データから住環境を評価し、発表する。採光、天空率、昼光率等の意味を理解する。	授業の要点を復習する。	30
8	照明について	人工照明の種類と建築における今後の照明の在り方を考える。各教室の照度を測定し、照明改善計画を作成する。	身の回りにある人工照明の種類を把握し、教室の照度を測定して、照明改善計画のプレゼンを作成する。	60
9	採光について	照明改善計画についてプレゼン発表を行う。採光、天空率、昼光率等の求め方を学修する。	照明改善計画のプレゼンを作成する。授業の要点を復習し、章末問題を解く。	120
10	色彩環境について	色彩の表し方について色の属性や表色系の種類を学ぶ。	授業の要点を復習する。	30
11	色彩計画について	色彩の人への効果を学習し、それを活かした建築計画を学ぶ。	授業の要点を復習する。	30
12	音環境について	音の性質やその単位について学ぶ。	授業の要点を復習する。	30
13	騒音と遮音について	騒音レベルや遮音の仕組みを学び、騒音を防止する設計方法を習得する。	授業の要点を復習する。	30
14	音響について	吸音や残響について学ぶ。	授業の要点を復習し、章末問題を解く。	120
15	まとめと建築士試験対策	これまで学んだ視点から、健康で快適な住環境を考察する。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築環境工学Ⅱの試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習する。	配布した資料を参考に、本授業で学修した内容を整理し、建築士対策問題を解き、理解を深める。	120

科目名	建築設備	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 必修
担当教員	藤田 延幸		
開講期	前期		
授業概要	授業の到達目標及びテーマ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。 [履修カルテの評価項目] ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について 授業の概要 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
達成目標	授業の到達目標及びテーマ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。 [履修カルテの評価項目] ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。 ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について 授業の概要 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。		
受講資格	人間生活学科建築デザインコース 4年生	成績評価 方法	定期試験により評価します。
教科書	「初学者の建築講座 建築設備（第二版）」著：大塚雅之 市ヶ谷出版社		
参考書	配付資料を使用します。		
学生への要望	積極的に授業に参加すること。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前：創学館 2 階教務部非常勤講師室、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の概要説明	授業の概要説明	授業内容を整理する。	30
2	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	給排水設備について	給排水設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	事務所ビルの給排水設備の計画について	事務所ビルの給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	事務所ビルの空調システムについて	事務所ビルの空調システムについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	住宅の電気設備計画について	住宅の電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	事務所ビルの電気設備計画について	事務所ビルの電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	防災設備について	防災設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	建築物のライフサイクルからL C EやL C C O 2について	建築物のライフサイクルからL C EやL C C O 2について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	太陽エネルギー利用について	太陽エネルギー利用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	建築法規Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	佐久間 保一			
開講期	後期			
授業概要	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。			
達成目標	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験	
教科書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
参考書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
学生への要望	建築士試験問題を解くこと。実生活の中で法律を意識すること。			
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築法規の成り立ち	これからの授業の進め方及び、建築法規を学ぶことの意義について、建築に携わる者の倫理面から講義します。次に基準法、政令、条例、告示等の法の成り立ち、及び法規上の接続詞や数量の読み方について解説します。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	建築法令集の活用法	建築関連法令集に、建築基準法、建築士法、都市計画法、建設業法、等の各法規及び各項目のインデックスを貼ります。このことにより法令集の概要及び成り立ちを理解します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	用語の定義1	建築で用いる用語（居室、新築、修繕、軒の高さ等）の定義について学びます。建築法規のみならず、実務においても基礎となる用語であることから、正しい理解が求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	用語の定義2	延焼の恐れのある部分、建築物の高さの定義、及び算出方法を学びます。このことから人間の生命を守る建築を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	敷地面積、建築面積、延面積の計算	敷地面積について、道路との関連について学びます。地下や軒の出がある場合の建築面積、延べ面積について、定義及び算出方法を学びます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	一般構造 1	単体規定のあらましについて解説します。次に換気的重要性及び定義について学びます。天井の高さの定義及び算出方法について学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	一般構造2	居室における採光の重要性について学びます。次に有効採光面積の定義、及び算出方法について居室の定義を復習しながら学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	一般構造3	防火に関する用語（耐火構造、準耐火構造）の他、防火地域や準防火地域等のついて等について学びます。それぞれの相違をよく理解することが必要です。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	用途地域1	集団規定のあらましについて解説します。次に都市計画地域、市街化区域、市街化調整区域、用途地域等、さらに用途制限の考え方について説明します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	用途地域2	引き続き用途地域による用途制限について学びます。法令集の用途制限に関する別表をよく理解することが求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建蔽率の定義及び計算	用途地域、建蔽率の定義、及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	容積率の定義及び計算	容積率の定義及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	高さ制限 1	建築物の高さを制限する道路斜線、隣地斜線、北側斜線について説明します。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	高さ制限2	引き続き道路斜線、隣地斜線北側斜線についての定義、及び計算方法について学びます。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	避難経路について	建築物における避難経路の確保のしかた及び二方向非難等の避難経路について解説します。このことから、人間の生命を守る建築物を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	建築法規Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	佐久間 保一			
開講期	前期			
授業概要	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。			
達成目標	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。☒			
受講資格	建築デザインコース☒	成績評価 方法	定期試験☒	
教科書	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」☒			
参考書	「初めての建築法規」学芸出版社 「建築関係法令集」☒			
学生への要望	建築士試験問題を解くこと☒			
オフィスタイム	授業開始前：創学館 2 階教務部非常勤講師室 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス 建築法規Ⅰの復習	授業の進め方の説明。建築法規Ⅰにおいて、理解が不十分であった項目を重点的に復習する。 最近の建築法令の動き。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	構造強度（木造）1	木造建築の構造強度に関する基準法、及び同施行令について理解する。☑ 柱や梁で構成された木造在来工法についても復習する。☑ ＊建築物の高さについて復習する。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造強度（木造）2	施行令40～45条の地震や風圧に耐える木造住宅の意味を理解し、軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	構造強度（木造）3	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法☑を学ぶ。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	構造強度（木造）4	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を☑学び、告示による建築端部の壁量計算方法を学ぶ。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	構造強度（木造）5 組石造	壁量計算の小テストにより、理解したことを確認する。施行令54条の組石造についての関連法規を学ぶ。☑ 併せて、組石造について理解する。☑	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	構造強度 補強コンクリートブロック造 鉄筋コンクリート造	施行令62条等の補強コンクリートブロック造についての☑関連法規を学ぶ。併せて、補強コンクリートブロック造について☑理解する。また、施行令72条等鉄筋コンクリートにおける関連法規を学ぶ。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	構造強度 鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造における、かぶり厚さ、柱の径等についてのポイントを学ぶ。併せて、鉄筋コンクリート造の構造について☑て学ぶ。☑	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	構造強度 荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力等の荷重と外力が、法規によってどのように記載されているか、その☑意味を理解する（（施行令84条～）☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	防火と内装制限	屋根や外壁、防火壁等の防火に関わる関連法規及び、室内の内装制限を受ける建物について学び、安心安全な建築☒設計について考える（施行令112条他）☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建築士法	建築士でなければ設計できない建築、建築士事務所の仕事について、建築士法に則りながら理解する。☒ 建築士の責務の重要性を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	都市計画法	都市計画法における、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、開発行為について学ぶ。また用途地域について☒復習し、建築基準法との関連を確認する。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	建設業法 ハートビル法 消防法、品格法等	建設業法、ハートビル法、消防法、品格法等の関連法規の概要を学び、建築がたくさんの法律によって規制されている☒ ことを理解する。福島県条例と地域の景観条例の説明。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	復習 1	建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	復習 2	前授業に引き続き、建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	建築構造Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修
担当教員	山形 敏明		
開講期	後期		
授業概要	建築物を形作る建築工法には多くの種類があり、それぞれの特徴を持っている。本授業では、建築構造のあらましと、「木構造」の軸組や仕上げの構成について理解することを目的としている。 課題は返却し、コメントになるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HA2211		
達成目標	【履修カルテ】 ①木構造の軸組が理解できているか。 ②木構造の内外仕上げ材の特性を理解できているか。 ③木構造の矩形図・各伏図の詳細について理解しているか。 単位認定最低基準：「授業内容の8割を理解し、設計製図に反映できていること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的」		
受講資格	建築デザイン専攻 1年 社会福祉専攻 1年	成績評価 方法	定期試験80％、課題提出20％
教科書	やさしい構造力学 学芸出版社		
参考書	適宜紹介する		
学生への要望	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20 、 14:30～16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築構造概論	建築物はどのような部分からなりたっているか理解させ、科目の導入とする	授業内容をテキストで復習	60
2	建築構造のなりたちと歴史的発達について	社会的変化や科学技術の進歩、発展等と合わせて理解させる	授業内容をテキストで復習	60
3	建築構造の分類、建築物にはたらく力	主体構造の材料・工法・形式別分類について把握させ、外力の種類・部材に生ずる各種の力について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
4	木構造の特徴と構造形式について	木構造の一般的な特徴を把握させ、現在用いられている構造形式とその特徴について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
5	木材の性質と接合方法	継手や仕口の種類と使用箇所、接合金物の種類、接合の注意点について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
6	基礎	基礎のあらまし、地業・基礎の形式について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
7	軸組 1	軸組のあらまし、土台・柱の配置、慣用的な断面寸法等を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
8	軸組 2	胴差・桁・梁・火打梁・筋かい・耐力壁・貫・間柱の配置、慣用的な断面寸法、接合方法等を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
9	小屋組	屋根の種類と小屋組・和小屋・洋小屋について把握し、小屋伏図が作成できるよう理解させる	授業内容をテキストで復習	60
10	床組、階段、開口部	各部詳細の把握と、納まりを理解させる	授業内容をテキストで復習	60
11	外部仕上げ	屋根・軒天井・庇・樋・外壁の形式と詳細について理解させる	授業内容をテキストで復習	60
12	内部仕上げ 1	内部仕上げのあらまし・床・内壁・天井について部座州の名称、働きについて理解させる	授業内容をテキストで復習	60
13	内部仕上げ 2	床の間・棚・書院・押入・縁側について各部の納まりと名称を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
14	木造枠組壁構法	枠組壁工法の特徴・構造材・主体構造の構成を理解させる	授業内容をテキストで復習	60
15	総まとめ	木構造について総括する	授業内容をテキストで復習	60

科目名	構造力学Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明,高橋 真里			
開講期	前期			
授業概要	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。定期的にノートチェックを行い、コメントによるフィードバックを行います。 位置付け・水準 HA2213			
達成目標	単位認定の最低基準：①力の釣り合いについて理解できていること。 ②各モデルの反力を求めることができこと。 ③M図、N図、Q図を正確に求めることができること。 ④授業内容を7割理解していること ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」、「論理的思考力、問題解決力」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザイン専攻 2年 社会福祉専攻 2年	成績評価 方法	定期試験80％、課題提出20％	
教科書	やさしい構造力学 学芸出版社			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20 、14:30～16:00 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス・力学概論	構造力学の授業計画についての説明。 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
2	力の基礎 1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
3	力の基礎 2 ・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
4	力の基礎 3 ・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
5	力の基礎 4 ・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をとまなう力の釣り合いの問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
7	反力 1 ・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。 反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
8	反力 2 ・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
9	反力 3 ・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
10	反力 4 ・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）について問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
12	単純梁に生じる力 1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
13	単純梁に生じる力 2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
14	片持ち梁に生じる力 1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
15	片持ち梁に生じる力 2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。まとめとして、力学Ⅰの分野における建築士国家試験の対応箇所と要点に関する解説する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間

科目名	構造力学Ⅰ 演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明,高橋 真里			
開講期	前期			
授業概要	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。構造力学Ⅰの講義で得た知識を、問題演習及び実験を通して定着させる。 課題提出後、フィードバックの時間を設けます。 位置づけ・水準 HA2214			
達成目標	単位認定の最低基準：①力の釣り合い式を用いて未知数を求めることができること。 ②各モデルの反力を求めることができること。 ③M図、N図、Q図を正確に図示することができること。 ④構造力学Ⅰの内容を8割活用できていること ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」、「論理的思考力、問題解決力」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザイン専攻 2年 社会福祉専攻 2年	成績評価 方法	課題提出80％、受講姿勢20％	
教科書	やさしい構造力学 学芸出版社			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	予習・復習により、多くの問題を解くこと。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス・力学概論	演習についての説明。 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。	授業で扱った問題の復習	60
2	力の基礎 1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。	授業で扱った問題の復習	60
3	力の基礎 2 ・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。	授業で扱った問題の復習	60
4	力の基礎 3 ・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。	授業で扱った問題の復習	60
5	力の基礎 4 ・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。	授業で扱った問題の復習	60
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をとまなう力の釣り合いの問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
7	反力 1 ・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。 反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
8	反力 2 ・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
9	反力 3 ・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
10	反力 4 ・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）について問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
12	単純梁に生じる力 1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。	授業で扱った問題の復習	60
13	単純梁に生じる力 2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
14	片持ち梁に生じる力 1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
15	片持ち梁に生じる力 2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60

科目名	構造力学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	後期			
授業概要	授業の概要 建構造力学Ⅰの授業・演習で習得した構造力学の基本的知識に基づき、トラスの解法、変形の計算法及び不静定構造の基礎的解法を解説する。また、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用していくのか、どのように応用、展開していくかを学んでいく。定期的にノートチェックを行い、コメントによるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HA2315			
達成目標	授業の到達目標 応力、断面に関する数量及び変形計算を理解すること。不静定構造の基礎的解法を理解することを達成目標とする。 単位認定最低基準：「内容の7割を理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」			
受講資格	建築デザイン専攻 2年 社会福祉専攻 2年	成績評価 方法	定期試験80％、受講姿勢20％	
教科書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
参考書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと			
オフィスタイム	木曜日Ⅳ限・Ⅴ限 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	概論として、本講座で扱う範囲について概略を説明し、科目の導入とする。また、建築構造設計と建築設計との位置づけと社会的役割について解説する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	トラスの解法 1	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を節点法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	トラスの解法 2	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を図解法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	トラスの解法 3	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を切断法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	断面に関する数量	図心について把握させ、断面 1 次モーメント・図心位置の求め方について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	断面 2 次モーメント	断面 2 次モーメントの公式を把握し、中立軸の位置、長方形断面と薄肉断面の断面 2 次モーメントを理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	断面係数	断面係数の求め方について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	軸応力度	引張応力度・圧縮応力度・ヤング係数について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	曲げ応力度とせん断応力度	曲げ応力度と曲げモーメントの関係、せん断応力度とせん断力の関係を把握させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	許容応力度と許容曲げモーメント	許容応力度と許容応力度設計法 の概念を把握し、許容曲げモーメントについて理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ	曲げモーメントと圧縮力のはたらく柱の応力状態を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	座屈	座屈の概念を把握し、座屈長さ・座屈荷重について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	たわみの求め方	代表的な梁のたわみ、たわみ角の計算式を整理し、片持ち梁・単純梁のたわみの求め方を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	不静定構造の基礎	不静定構造の概念を把握し、不静定構造の基礎的解法を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	塑性解析の基礎	弾性と塑性の概念を把握し、静定構造の崩壊と全塑性モーメント、不静定構造の崩壊と崩壊荷重、不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	構造力学Ⅱ 演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	後期			
授業概要	授業の概要 トラスの解法、変形の計算法及び不静定構造の基礎的解法を理解する。構造力学Ⅱの講義で得た知識を、問題演習及び実験を通して定着させる。課題はコメントによるフィードバックを行い、返却します。位置づけ・水準 HA2316			
達成目標	授業の到達目標 応力、断面に関する数量及び変形計算を理解すること。不静定構造の基礎的解法を理解することを達成目標とする。 単位認定最低基準：「内容の7割を理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」			
受講資格	建築デザイン専攻 2年 社会福祉専攻 2年	成績評価 方法	課題提出80％、受講姿勢20％	
教科書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
参考書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと			
オフィスタイム	木曜日Ⅳ限・Ⅴ限 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	概論として、本講座で扱う範囲について概略を説明し、科目の導入とする。また、建築構造設計と建築設計との位置づけと社会的役割について解説する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	トラスの解法 1	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を節点法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	トラスの解法 2	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を図解法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	トラスの解法 3	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を切断法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	断面に関する数量	図心について把握させ、断面1次モーメント・図心位置の求め方について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	断面2次モーメント	断面2次モーメントの公式を把握し、中立軸の位置、長方形断面と薄肉断面の断面2次モーメントを理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	断面係数	断面係数の求め方について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	軸応力度	引張応力度・圧縮応力度・ヤング係数について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	曲げ応力度とせん断応力度	曲げ応力度と曲げモーメントの関係、せん断応力度とせん断力の関係を把握させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	許容応力度と許容曲げモーメント	許容応力度と許容応力度設計法の概念を把握し、許容曲げモーメントについて理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ	曲げモーメントと圧縮力のはたらく柱の応力状態を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	座屈	座屈の概念を把握し、座屈長さ・座屈荷重について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	たわみの求め方	代表的な梁のたわみ、たわみ角の計算式を整理し、片持ち梁・単純梁のたわみの求め方を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	不静定構造の基礎	不静定構造の概念を把握し、不静定構造の基礎的解法を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	塑性解析の基礎	弾性と塑性の概念を把握し、静定構造の崩壊と全塑性モーメント、不静定構造の崩壊と崩壊荷重、不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	建築材料学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	後期			
授業概要	建築を理解する上で必要な材料の知識を身につけることを目標とします。建築物に一般的に使用されている材料の性質を分類し、木造、鉄筋コンクリート造、鋼構造等の構造部材の特徴、使用法について理解し、設計する上でどの材料を用いるべきか、授業を通して材料を選択する能力を養うことを目指します。これらの主要構造材に加え、外装材料や内装材料、屋根材料など建物の仕様に関わる材料特性を理解することを目標とします。 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、授業内の課題については、課題後の授業で解説します。			
達成目標	位置づけ：水準：DA2251 ①木材やコンクリート、鉄骨などの建築材料について基本的な性能を理解することができたか。 ②材種別に材料特性の長所や短所を把握することができたか。 ③建物の規模や形式、用途によって建築材料の使い分けが出来るようになったか。 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解し、木材・コンクリート・鉄の材料特性を理解していること。 ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	生活科学科2年	成績評価 方法	定期試験70％、授業内課題（小テスト、小レポートなど）30％	
教科書	『やさしい建築材料』学芸出版社			
参考書	授業内で適宜紹介する			
学生への要望	定期試験以外に授業内で実施するレポート提出を課すため、欠席がないように注意すること。双方向型授業を取り入れているため、授業内では積極的に発言し、授業に参加すること。また、住宅や商業施設などの身の周りの建物で使用する建築材料に注視するように心がけること。			
オフィスタイム	月曜日9:10～10:30 水曜日14:40～16:00 本館4F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築材料の概要	授業ガイダンス、建築材料学の意味について説明し、科目の導入とします。また、日本の建築における建築材料の変遷を学びます。	シラバスを確認し、本講義のねらいと達成目標を理解します。	30
2	木材の種類と特徴	日本建築と木材についての関わりを把握し、木材の種類・特徴について理解を深めます。	授業で配布した資料と教科書を参考に木材の種類と特徴について復習します。	60
3	木材の強度と構造	構造部材としての木材について、その強度および構造について理解します。また、木取り・規格・等級について解説します。	木材の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	120
4	木材と水分	木材と水分の関係を把握し、含水率や乾燥方法、腐朽について理解します。	授業で配布した資料と教科書を参考に木材と水分の関係性をまとめます。	60
5	木材の木取りや規格、等級	木取りの方法や意味を理解し、製材の規格の内容を把握します。また、木材の欠点について理解し、適切な木材の利用方法を学修します。	授業内で配布した木取りに関するプリントを用いて、適切に木材を利用する方法について復習します。	120
6	コンクリートの材料	コンクリートの歴史を把握し、コンクリートに利用する材料別の特性を理解します。	授業で配布した資料と教科書を参考にコンクリートの材料特性について復習します。	60
7	コンクリートの性質	コンクリートの用途、特徴について把握し、コンクリートの性質について理解します。	授業で配布した資料と教科書を参考にコンクリート性質や種類について復習します。	120
8	コンクリートの種類と調合設計	コンクリートの種類と調合設計について学習します。また、木材とコンクリートに関する小テストを実施し、それぞれの材料が持つ長所や短所を再確認します。	コンクリートの材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。また、小テストの結果を基に復習し、知識を定着させます。	60
9	鋼材の特徴と製鋼の工程	鋼材の歴史的背景、鉄と鋼の違い、鋼材の特徴と製鋼の工程について整理し、理解を深めます。	授業で配布した資料と教科書を参考に鋼材の種類と製作を工程について復習します。	60
10	鋼材の種類、性質と規格	鋼材の種類とその特徴、用途を整理し、建築の構造用に使われる鋼材の性質を明確に理解します。	鋼材の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	120
11	焼成品	タイル・煉瓦・瓦・衛生陶器のそれぞれの歴史、特徴、種類、形状について学習します。木造、鉄筋コンクリート造、鋼構造の材料に関する小テストを実施します。	小テストの結果を基に復習し、知識を定着させます。	60
12	左官の特徴と種類	左官の起源と定義、特徴と種類を理解します。また、左官の仕事に関する動画視聴し、どのような仕事なのかを理解します。	授業で視聴した動画に関する内容について、感想をまとめ、現代における左官の仕事を理解します。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	ガラスの特徴と種類、石材の特徴と分類	ガラス・石材の歴史、特徴、種類を把握し、その用途と施工法を学習します。また、銅材や修正品、ガラスに関する小テストを実施し、それぞれの材料が持つ長所や短所を再確認します。	ガラス・左官の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	60
14	部位別・性能別材料	防水・防火・耐火・断熱・防音・吸音材の要求性能を使用例を基に学習します。	設計製図で使用した二級建築士製図試験問題を確認し、授業で学修した材料がどのような部位に利用されているのかを把握します。	60
15	まとめと建築士試験対策	構造部材、外装材料、内装材料、屋根材料の材料特性を総まとめし、建築における材料学の位置付けの確認をします。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築材料学の試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	配布した資料を参考に、建築材料学で学修した内容を整理し、建築士対策問題を解き、理解を深めます。	120

科目名	建築施工	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	堀井 勝典			
開講期	前期			
授業概要	(1) 施工法の基礎的知識の理解 (2) 実際の建物（設計図・OHP・ビデオ）の紹介 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建築設計事務所社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建築設計事務所社長を務める。			
達成目標	(1) 施工法の基礎的知識の理解 (2) 実際の建物（設計図・OHP・ビデオ）の紹介			
受講資格	生活科学科建築デザインコース 3年	成績評価 方法	出席（50％） 試験（50％）	
教科書	建築施工教科書			
参考書	特に指定しないが、資料を配付する。			
学生への要望	とにかく授業に出ること			
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館 2 階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	序説	建築施工のあらまし、施工法の変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	契約と見積	建築の見積・契約等の流れについて	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	工事計画・管理	工事計画・管理等の説明	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	仮設工事	何も作らない工事としての認識	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基礎工事	土工事、山留工事、基礎工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	鉄筋コンクリート工事	コンクリートの性質、調合について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	鉄筋コンクリート工事	コンクリート工事の検査体制	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	鉄筋コンクリート工事	施工、各種コンクリート工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	鉄骨工事	工事作業、現場作業のあらまし	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	木工事	現場施工、各種工法の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その1）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その2）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	付帯設備工事	生活に必要な設備工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	まとめ	施工法のまとめ。補足説明。	授業内容、配付資料を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	統計学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	前期		
授業概要	製品は一定の規格を満たすよう生産される。しかし個々の製品は基準値からのずれを有する。これらのずれを管理し一定の品質で供給するには統計学の知識が必要となる。また実社会で生じる様々な問題の原因を探索し解決する際には多変量解析などの手法が有効である。本講義では統計学を理解するための数学に始まり、基本的な統計処理や多変量解析について学ぶ。 フィードバックとしてリフレクションペーパー（理解度確認ペーパー）の返却・課題内容の説明等を行う。 位置づけ・水準 DA2374		
達成目標	本講義では、実際に統計学の手法を適用できるようになることを目的とする。具体的な目標は（１）統計学で必要な数学を理解すること、（２）生産管理で用いられる統計学の考え方を理解すること、（３）統計処理ソフトを用いて基本的な仮説検定や適合度の検定を行うことができること、である。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」		
受講資格	情報処理科目を履修してあることが望ましい。	成績評価 方法	成績評価はレポートとリフレクションペーパーにより行う。レポートにより 成績の80%を評価し、リフレクションペーパーの提出により成績の20%を評価する。
教科書	テキストを PDF として Web 上で配信する(同PDFの印刷物を授業時に配布する)。		
参考書	・村上 征勝,工業統計学,朝倉書店 ・前野 昌弘,三國 彰,図解でわかる統計解析,日本実業出版社 ・涌井 良幸,涌井 貞美,図解でわかる多変量解析,日本実業出版社		
学生への要望	事前に配布資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。自ら参考書等にあたり、筆算による確認や統計処理を行ってみること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, 家政学館4階 情報処理教育研究室 水曜日 14:30-16:00, 家政学館4階 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本講義で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。また次回以降の講義に向けて、単位と次元について学ぶ。	本時の復習として、次元の有無によりデータの取り扱いにどのような影響があるか確認をすること。	20
2	統計数学基礎Ⅰ（指数関数・数列と極限・和と和の記号）	統計処理を理解するには、基礎的な数学を理解しておく必要がある。正規分布を理解する上で必要な指数関数と指数法則、および多数のデータを扱う上で必要な数列と和について学ぶ。	本時の復習として、指数法則の確認を行うこと。また一般項が明らかである数列を和の記号を用いて書き直してみること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
3	統計数学基礎Ⅱ（確率）	統計の基礎には確率概念がある。確率の概念を理解するために、まず場合の数（順列と組合せ）を学ぶ。次に確率変数と確率の考え方を理解する。	本時の復習として、順列と組み合わせの場合の数を階乗を用いて表し、具体例で成立していることを確認すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90
4	統計数学基礎Ⅲ	基本的な統計量として平均値や標準偏差がある。これまで学んだ確率変数や確率の概念を用い、平均値の計算方法を学ぶ。さらに統計処理で重要な分散と標準偏差を理解し、具体的な計算方法を学ぶ。	本時の復習として、統計ソフトウェアや表計算ソフトウェアを用い、具体的なデータの平均・分散・標準偏差を求めてみること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90
5	統計数学基礎Ⅳ（ベクトルと行列）	実際の統計処理ではデータをベクトルや行列により表現することが多い。統計処理を正しく行うためには、ベクトルや行列についての基礎事項を理解しておく必要がある。本時ではベクトルおよび行列の基礎事項について学ぶ。	本時の復習として、ベクトルの和とスカラー倍および行列の和と積について確認すること。さらに2行2列で行列の積の計算を行ってみること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	統計数学基礎Ⅴ(行列の演算・逆行列・固有ベクトル・固有値)	行列の形式で表現されたデータからの特徴量などを抽出するために、行列の対角化が行われることが多い。対角化を理解するためには固有値や固有ベクトルの理解が欠かせない。そこで本時では、行列の演算に必要な逆行列および固有ベクトルと固有値について、これらの量がどのような意味を有するのか学ぶ。	本時の復習として、固有値と固有ベクトルの定義を確認すること。さらに2行2列で行列で固有値と固有ベクトルを求めてみることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90
7	統計処理ソフト	現在の統計処理では大量のデータを扱うため、コンピュータを用いてデータ処理を行う。これらの統計処理を行うソフトウェアは多々あるが、本講義では近年用いられていることの多い統計処理ソフトRを採用し、統計処理ソフトの使い方を学ぶ。ここではデータ処理を行う上で必須である、データの読み込みや特定行の取り出しなどの基礎的な扱いを学ぶ。	本時で行った操作を再度行い、データの読み込みなどの操作をできるようにすること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
8	データの種類と統計量	データには定性的なものと定量的なものがある。これらの区別(尺度水準)について学ぶ。また多くのデータがある場合に、データの特徴を掴む方法として計算によって得られる数値を利用する方法がある。良く用いられる数値に最頻値・中央値・平均値などがあり、これらの量は要約統計量と呼ばれている。ここでは複数の要約統計量の特徴を学び、要約統計量を算出する方法を学ぶ。さらに統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータの要約統計量を算出する。	本時の復習として、尺度水準と要約統計量の整理を行うこと。また統計処理ソフトウェアを用いて、サンプルデータの要約統計量を再計算してみることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
9	不偏標準偏差・相関係数	中心極限定理から、統計学において正規分布は特別な意味をもつ。正規分布を特徴付ける平均値と標準偏差は、データからはデータの平均値と不偏標準偏差を計算することによって得られる。ここでは不偏標準偏差の意味とその算出方法を学ぶ。また分散を拡張した共分散を学び、さらに関係性の指標として重要な相関係数を学ぶ。また統計処理ソフトウェアを用いて、実際に相関係数を算出してみることとする。	本時の復習として、不変標準偏差および共分散の定義を確認すること。またサンプルデータから相関係数を再計算してみることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
10	ヒストグラム・散布図	数値データは直感的に分かりにくいことが多いため、グラフを作成することでデータの内容を捉えやすくなる。ここでは統計処理ソフトウェアを用いてヒストグラムおよび(対)散布図の作成方法について学ぶ。また作成した図の保存方法なども学ぶ。	本時の復習として、統計処理ソフトウェアによりヒストグラムおよび散布図を再描画してみることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
11	回帰	二つの変量間において関係があるかيناを知りたいことは多い。この関係を調べる際に用いられる方法が最小二乗法である。ここでは最小二乗法とはどのような考えに基づく方法であるのか、また使用する際の注意点はなにか学ぶ。さらに統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータに最小二乗法を適用し、回帰直線を求めることとする。	最小二乗法の考え方を復習し、統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータに最小二乗法を適用してみることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
12	検定	仮説検定は統計学の中でも中心的な位置を占める。ここでは検定の考え方を学び、帰無仮説や有意水準の概念を理解する。仮説検定では正規分布が重要な役割を担うため、正規分布の形状はどのように定まっていたか復習する。また実際のデータで正規分布に基づく仮説検定を行う際に行うべき正規性のチェック方法を学ぶ。また統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータが正規分布に従うか確認する。	本時の復習として、帰無仮説および有意水準の考え方を再確認すること。またサンプルデータで正規性の確認を行ってみることに。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	平均値の検定 (パラメトリック検定)	データを得た場合に二つの群での平均値が一致しているか否かが問題となることが多い。しかし例え同一の集団から得られるデータであっても、データから得られる平均値は一致しない。このため二つの群の平均値が一致しているのか検討する必要が生じる。ここでは平均値の検定のうちパラメトリックな検定をデータに適用し、平均値の検定の仕方を学ぶ。実際に統計処理ソフトウェアを用いて平均値の検定を行うこととする。	本時の復習として、授業で行った検定を、再度自分で行い結果を確認すること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
14	適合度の検定	理論と実験結果が一致しているか、あるいは二つの変量に相関があるかなどを知りたいことは多い。この際に用いられる方法が適合度の検定および独立性の検定である。ここでは適合度・独立性の検定の基礎的な考え方と、実際のデータへの適用の仕方を学ぶ。本時では、実際に統計処理ソフトウェアを用いて適合度の検定を行うこととする。	本時の復習として、適合度の検定の考え方を確認し、授業で行った検定を再度自分で行ってみること。 ※リフレクションペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
15	統計処理結果の記述方法	統計処理を行った場合、どのような処理を行ったか、その結果どうであったかを適切に記述しなければならない。適切な情報伝達ができるように、統計処理に伴う文章の記述の仕方について学ぶ。また本時においてレポート課題を課す。	授業内容に則し、課題を実施しレポートとしてまとめること。	300

科目名	人間環境学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化化学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	影山 志保			
開講期	後期			
授業概要	生命の維持には空気・水・食品の摂取が必須であることから、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。具体的な環境汚染例としては、ダイオキシン等の有機塩素系化合物や、水俣病の原因物質であるメチル水銀、そして発がん性マイコトキシンであるアフラトキシン、催奇形性でよく知られた医薬品のサリドマイドを事例として、毒性物質の作用機序について、栄養素の代謝などと比較して、学んでいく。[課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。[位置づけ・水準]DA2375			
達成目標	この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としており、内容の8割を理解していること。 [ディプロマポリシーとの関連] 知識・理解力、問題解決能力			
受講資格	特になし		成績評価 方法	①期末試験100点
教科書	印刷資料提供			
参考書	薬理学関係の書物			
学生への要望	健康生活に必須である生活環境と食品の問題点について学び、実生活中に生かしてもらいたい。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日の5コマ目、食品衛生学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	金属元素	食品汚染が問題となった公害として、水俣病・新潟水俣病（メチル水銀）、イタイイタイ病（カドミウム）、ヒ素ミルク事件（ヒ素）がある。環境問題の原点である水俣病の記録映像をまじえて、公害問題について学ぶ。	日本の公害問題にどのようなものがあるのか調べる。	60
2	食品と金属元素	栄養金属元素（K,Na,P,Cl）、毒性金属元素（Hg,As,Cd,pb）、重金属の生体内挙動、食品に含まれる金属とその量、TDI（耐用一日摂取量について学ぶ。	特に日本の環境問題の原点である水俣病と、特に毒性金属元素と人体影響について調べる。	60
3	有機塩素系芳香族化合物	農業の人体傷害である殺虫剤（DDT,BHC）、除草剤（PCP,2,4,5-T,CNP）、殺菌剤（クロルフェノール）とPCB、ダイオキシンで知られている有機塩素系芳香族化合物による人体傷害について学び、問題点について考える。	農業の中の有機塩素系芳香族化合物と人体障害性や問題点について調べる。	60
4	食品と有機塩素系芳香族化合物	化学物質の特徴、塩素化による化学変化、有機塩素系芳香族化合物の生体内挙動、多様な毒性、食品中に含有する有機塩素系化学物質とその量について学ぶ。	有機塩素系芳香族化合物の塩素化による化学変化、生体内挙動、毒性、食品中に含有する有機塩素系芳香族化合物の量について調べる。	60
5	大量使用による化合物汚染	人間生活で大量に使用されている化学物質の環境と人体への影響について、大気・水質・土壌汚染の具体的な事例から問題点を学ぶ。	生活の中で多用されている化学物質と環境影響について調べる。	60
6	免疫機構と食物アレルギー	免疫機構（免疫組織、T細胞、体液性免疫、細胞性免疫、樹状細胞）と食物アレルギーについて学ぶ。	食物アレルギーとヒトの免疫機構について調べる。	60
7	食品への健康影響	食品の空気酸化（果物の褐変、魚肉の黒ずみ、高度不飽和脂肪酸の過酸化、小麦の酸化と食品添加物の酸化防止剤）と野菜と土壌肥料（野菜栽培上の要素欠乏と過剰）について学ぶ。	食品の空気酸化について調べる。	60
8	水と調理1	上水道の役割と問題点、原水浄化法、塩素消毒による発ガン性化合物トリハロメタンについて学ぶ。	自分たちが日常使用している上水道の水源と水源とその地域の産業の問題、原水を塩素処理する時の問題点について調べる。	60
9	水と調理2	水道水の製造、トリハロメタンの発生機構と除去方法、生活排水と下水処理について学ぶ。	水道水の製造時に発生する発がん性化合物のトリハロメタンについて調べる。	60
10	サリドマイド1	サリドマイドベビーに関するスウェーデンの記録映像から、催奇形とその発現機構について詳細に学ぶ。	催奇形について調べる。	60
11	サリドマイド2	胎盤血管閉門に関する知識を身につけ、各種化学物質の催奇形性に関する資料を参考に妊娠と医薬品について考える。	妊娠期と医薬品について、投薬時の留意点やどんな問題があるのか調べる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	内分泌攪乱化学物質	ペプチドホルモンと低分子ホルモン（甲状腺ホルモン・ステロイドホルモン）、それらのホルモンの情報伝達方法、低分子ホルモンの類似物質である内分泌攪乱化学物質について学ぶ。	ホルモンの働き、内分泌かく乱がなぜ起こるのか調べる。	60
13	遺伝子操作作物と狂牛病	遺伝子操作作物（GMO）の実態と食品表示、GMOが生産したタンパク質が問題となる理由について学ぶ。また、狂牛病の病原物質である病原物質プリオンについて学ぶ。	遺伝子組み換え作物の現状、食品表示のルールを調べる。また、狂牛病について調べる。	60
14	生体と化学物質1（毒素）	毒素の作用機構、受容体での結合、毒素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。	毒素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。	60
15	生体と化学物質2（栄養素）	栄養素の作用機構、受容体での結合、栄養素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。	栄養素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。	60

科目名	人間環境学実験	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 1単位 選択	
担当教員	影山 志保			
開講期	前期			
授業概要	生命の維持には空気・水・食品の摂取が必須であることから、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。具体的な環境汚染例としては、ダイオキシン等の有機塩素系化合物や、水俣病の原因物質であるメチル水銀、そして発がん性マイコトキシンであるアフラトキシン、催奇形性でよく知られた医薬品のサリドマイドを事例として、毒性物質の作用機序について、栄養素の代謝などと比較して、学んでいく。[課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。[位置づけ・水準]DA2476			
達成目標	この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としており、内容の8割を理解していること。 [ディプロマポリシーとの関連] 知識・理解力、問題解決能力			
受講資格	特になし	成績評価 方法	①プレゼンテーション100点	
教科書	印刷資料提供			
参考書	薬理学関係の書物			
学生への要望	健康生活に必須である生活環境と食品の問題点について学び、実生活中に生かしてもらいたい。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日の5コマ目、食品衛生学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	実験のスケジュール、内容、心得についてオリエンテーションを実施する。	環境問題で自分が興味を持っている問題について調べてくる。	60
2	空中浮遊微生物①	空中浮遊微生物の講義と空中浮遊微生物を捕集する培地を作成する。	空中浮遊微生物とについて調べる。	60
3	空中浮遊微生物②	学内数か所の空中浮遊粒子と空中浮遊微生物の捕集を行う。	空中浮遊粒子について調べる。	60
4	空中浮遊微生物③	学内数か所の空中浮遊粒子と空中浮遊微生物の捕集を行う。また、家庭で捕集した空中浮遊微生物の培養を行う。空中浮遊粒子の計測値をパソコンに打ち込みデータ整理を行う。	空中浮遊粒子について調べる。	60
5	空中浮遊微生物④	家庭と学内で捕集した空中浮遊微生物の培養結果を計測、観察行う。	食品工場の空中浮遊微生物基準を調べる。	60
6	空中浮遊微生物⑤	培地上に生育したカビと細菌について顕微鏡観察のためのプレバート作成を行う。	単染色、グラム染色について調べる。	60
7	空中浮遊微生物⑥	顕微鏡観察	空中から多く分離される微生物について調べる。	60
8	空中浮遊微生物⑦	顕微鏡観察	微生物を顕微鏡で見たときの特徴について調べる。	60
9	空中浮遊微生物⑧	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
10	空中浮遊微生物⑨	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
11	空中浮遊微生物⑩	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
12	空中浮遊微生物⑪	プレゼンテーション	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
13	残留農薬実験①	残留農薬とは何か、講義を実施する。	残留農薬について調べる。	60
14	残留農薬実験②	グレープフルーツから残留農薬を抽出する。また、実験に使用する寒天培地の作成を行う。	食品添加物として残留農薬が使用されている食品について調べる。	60
15	残留農薬実験③	抽出した残留農薬を濃縮し、抗菌性、抗かび性試験を行う。	抗菌性、抗かび性試験について調べる。	60
16	残留農薬実験④	抗菌性・抗かび性試験の結果を計測し、グレープフルーツ上に付着している農薬の濃度を求める。	検量線について調べる。	60
17	残留農薬実験⑤	実験結果の考察を行う。	グレープフルーツの残留農薬基準について調べる。	60
18	残留農薬実験⑥	発表会の準備を行う。	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
19	合成着色料実験①	発表会の準備を行う。	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
20	合成着色料実験②	発表会を実施する。	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	合成着色料実験③	合成着色料についての講義	合成着色料について調べる。	60
22	合成着色料実験④	合成着色料の表示を確認し、食品から合成着色料を抽出する。	合成着色料の健康影響について調べる。	60
23	合成着色料実験⑤	抽出した合成着色料を濃縮する。合成着色料の標品を準備する。	薄層クロマトグラフィーについて調べる。	60
24	合成着色料実験⑥	標品と抽出物の薄層クロマトグラフィーを行う。	薄層クロマトグラフィーに用いる添加溶媒について調べる。	60
25	合成着色料実験⑦	薄層クロマトグラフィーの結果を計測し、計算値を求め評価を行う。	Rf値について調べる。	60
26	合成着色料実験⑧	得られた結果について考察を行う。	結果の解析について調べる。	60
27	合成着色料実験⑨	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
28	合成着色料実験⑩	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
29	合成着色料実験⑪	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60
30	合成着色料実験⑫	プレゼンテーション	プレゼンテーションに必要な情報を調べる。	60

科目名	色彩学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	松田 理香			
開講期	前期			
授業概要	色彩の基礎を学びます。物理的側面と心理的、生理的側面を概観しながら、日常生活における色彩の役割について学びます。色が見えるとはどういうことか、色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組みます。また色相やトーン体系を理解するために、色材を使っの混色演習や、配色カードを用いた課題に取り組むとともに、色覚弱者についても学びます。 提出作品や確認問題の答え合わせの際には解説やコメントなどによるフィードバックを行います。 DA2124			
達成目標	色彩に関する知識（検定試験3級程度）を身につけることを目標とします。 ・単位認定の最低基準：課題、確認問題などの提出（ルーブリック評価に基づいて判定します） ・ディプロマ・ポリシーとの関係：①知識・理解、②総合的な学習経験、創造的思考力			
受講資格	生活科学科 1 年生	成績評価 方法	確認問題(60点)、演習課題(40点)で総合的に評価しますが、講義内容の7割程度の理解を期待します。	
教科書	ありません。 各単元ごとに資料を配布します。			
参考書	○演習課題で使用する資料 （資料についてのガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します） ・日本色彩研究所監修 ①新基本色表シリーズ4 (PCCS) ②新配色カード199a ○参考書 ・色彩学概説（千々岩英彰著：東京大学出版） ・カラーマスターベーシック（NPO法人アデック出版局／色彩士検定参考書）他			
学生への要望	・日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。 ・演習課題で使用するハサミやカッター、のりなどは各自で準備してください。			
オフィスタイム	金曜日 Ⅰ・Ⅱコマ 場所：芸術館1階 No.2工芸室（研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 授業の目的や内容について説明する。 2. 色を見るときはということか、色の役割などについて考える。	ガイダンスで配布された資料をもとに生活の中にある色の役割を考える。	30
2	講義：色のなりたち（1）	1. 色を感じる経路 2. 光 3. 物体の色 4. 色を見るための光源 ※確認問題 1	色が見える仕組みや光とは何かについての理解を深める。	60
3	講義：色のなりたち（2）	5. 光がつくる自然の色 6. 目の構造と視細胞 ※確認問題 2・3	目の構造について資料や確認問題を参考に理解を深める。	60
4	講義：色の分類（1）	1. 有彩色と無彩色 2. 色の三属性	色の整理分類について理解を深める。	60
5	講義：色の分類（2）	3. トーン（トーンの位置とトーン名、イメージ等） 4. 色立体 5. PCCS色彩体系（日本色研配色体系）	色の表示方法について資料を参考に理解を深める。	60
6	講義：色の表示方法（1）	1. 表示方法の分類 ① 記号による表示 2. 表色系（マンセル、PCCS、オストワルト、XYZ等） ※確認問題 4－9	色の表示方法について資料を参考に理解を深める。PCCSによる色彩体系について理解を深める。	60
7	演習1：PCCSの色彩体系	〔演習課題〕 新配色カード199aを用いて以下の台紙に色紙を貼る作業を行う。 ①12色相環 ②PCCSトーン別色相環 ③PCCS色相・トーン一覧表	新配色カードを用いた台紙を完成させ、色の体系についての理解を深める。	120
8	講義：色の表示方法（2）	1. 表示方法の分類 ② 色名による表示 2. JIS標準色票と用途について ※確認問題 10・11	色の表示方法について資料を参考に、PCCSによる色彩体系も含めて理解を深める。JIS標準色票について理解を深める。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	講義：混色	1. 混色と等色 2. 三原色 3. 加法混色 4. 減法混色 5. 色材の混色 ※確認問題 12	混色について配布資料や確認問題を参考にして理解を深める	60
10	講義：色の知覚効果	1. 色の対比効果 2. 色の同化効果 3. 色の伝達効果 4. さまざまな色の見え方 ※確認問題 13～15	色の知覚効果について資料や確認問題をもとに理解を深める。	60
11	講義：色の心理効果 演習2：トーンとイメージの2色配色	1. 色の感情効果 2. 色のイメージと連想 3. 色の象徴性 ※確認問題 16 [演習課題] 新配色カード199aを用いて以下の台紙に色紙を貼る作業を行う。 ④色の心理効果	色の心理効果について資料や確認問題をもとに理解を深める。	60
12	講義：色彩調和 (1)	1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色	色彩調和について資料を参考に振り替える。特に、色の調和とは何かについて理解を深める。	120
13	講義：色彩調和 (2)	6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法 9. 秩序の原理による配色の形式 10. 配色とイメージ ※確認問題 17・18	色彩調和について資料を参考に振り替える。特に、配色とは何かについて理解を深める。	60
14	演習3：配色演習	[演習課題] 新配色カード199aを用いて配色演習を行う。 ⑤色相を基準にした配色 ⑥トーンを基準にした配色 ⑦配色技法	⑤～⑦の配色演習に取り組むことにより、配色についての理解を深める。	60
15	講義：色のユニバーサルデザイン まとめ	1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見えづらい例と改善例 【まとめ】 1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について	色のユニバーサルデザインについて配布資料を参考にして理解を深める。 これまでの資料や演習課題を振り返り、色彩の基礎について理解を深める。	30

科目名	福祉住環境	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	前期			
授業概要	現代社会における高齢者および障がい者の生活や住まいの問題、社会制度、福祉用具等について理解し、さまざまな側面から社会生活について考察する。医療や福祉、建築について体系的で幅広い知識と専門能力を身に付け、高齢者や障がい者に対して住みやすい住環境を提案する能力を養う。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DA2207			
達成目標	クライアントに適切な住宅改修プランを提示する能力と福祉用具や諸施策情報等についても助言できるような知識を身に付ける。単位認定の最低基準は下記①～④の7割達成していること。 ①高齢者及び障がい者の住まいにおける問題を発見する。 ②介護福祉制度について理解する。 ③さまざまな福祉用具の特徴を理解し活用することができる。 ④住宅改修に関わる知識や技術を理解する。 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」「倫理観社会的責任」			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻・建築デザイン専攻	成績評価 方法	①期末試験 80％ ②確認テスト 20％	
教科書	初めて学ぶ福祉住環境 第3版（市ヶ谷出版）			
参考書	その都度、提示する。			
学生への要望	予習・復習をして授業に臨むこと。			
オフィスタイム	家政学館4F 生活科学研究室生活科学研究室 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00） 木曜Ⅰ時限（8：50～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業内容の説明。 福祉住環境コーディネーターの役割について。 住環境整備の留意点。	住環境整備の留意点を整理する。	60
2	福祉住環境を取り巻く社会状況	総人口や世帯数、高齢化率の推移等を把握する。また、高齢者の家庭内事故や障がい者の住まいと生活について理解する。	福祉住環境整備の意義を理解する。	60
3	福祉住環境に関する諸制度	福祉や介護に関する法制度を理解する。高齢者や障がい者への住宅供給に関する法制度を学び、建設行政と福祉行政のおおまかな流れについて学ぶ。	高齢者・障がい者を取り巻く環境を理解する。	60
4	生活機能と基本動作の理解	代表的な生活行為を取り上げ、各生活行為を分節化することで見える化し、基本動作能力、住まいや道具などとの関係性を学ぶ。	生活行為を構成する基本動作を理解する。	60
5	福祉住環境整備の目標と考え方	福祉住環境整備のうち、ハード面に対するアプローチである福祉用具と住宅を対象として整備の在り方を学ぶ。	福祉用具と住宅改造の関係について理解する。	60
6	福祉用具の活用	福祉用具の定義をはじめ、福祉用具の選択や適応における基本姿勢について学ぶ。	福祉用具の種類や選択について理解する。	60
7	生活行為別にみた福祉用具	高齢者の疾患について学ぶ。 また、要介護状態の要因といわれる脳血管障害や廃用症候群、認知症などについて、よく理解する。	疾患別・障がい別に見た住環境整備について理解を深める。	60
8	在宅での福祉用具の活用	各用具の目的、構造、種類を学び、住宅改修と福祉用具を併用することでより快適な住環境を実現できることを理解する。	福祉用具の種類や選択について理解し、住環境整備との併用について考える。	60
9	相談援助と福祉住環境整備	相談援助の基本的な考え方を踏まえ、より実践的な福祉住環境整備相談の進め方について学ぶ。	住環境整備を実践につなげるための基本的考え方について理解を深める。	60
10	福祉住環境整備の技術と実践1	福祉用具を活用しながら体験学習を行い、住環境整備を実現するための知識を養う。	福祉用具を活用し、体験学習した内容についてレポートにまとめる。	90
11	福祉住環境整備の技術と実践2	段差解消の手法や建具や把手の種類、スペースの配慮など、住環境整備の基本技術を理解する。	住環境整備の基本技術と方策について理解する。	60
12	生活行為別に見た空間整備の手法	外出から就寝までに関わる住環境整備について学ぶ。動作別にどのような配慮が必要となるのか、住環境整備の視点から考察する。	動作別に住環境整備の配慮点について整理する。	60
13	障がいに配慮して計画された住まい	障がいに配慮して計画された住まいを事例として、障がいの程度および身体状況に応じて計画された住いの事例を学ぶ。	福祉用具の活用と住宅改修の可能性について理解を深める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	ライフステージに配慮した住まい	家族のライフステージに配慮し、軽微な変更で車椅子対応のバリアフリーを可能にする事例を学ぶ。	簡単な改修によりバリアフリー対応となる住まいについて考察する。	0
15	現代社会に望まれる住環境とは	これまでに学んだことを通して、住環境整備とその必要性についてディスカッション・説明を行った後、ペーパーテストを行う。また、ペーパーテストの解説も行う。	社会的問題と福祉住環境整備の必要性について考察する。	90

科目名	建築設計製図Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 4単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	後期			
授業概要	建築の設計には、たくさんの図面が必要です。本授業では図面の重要性を認識し、プランニングや模型制作を通して、建築設計における基礎的な製図の力や空間を考える能力を伸ばします。このことにより、立体感や創造力を身につけることを目的とします。 また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけます。 課題はコメントによるフィードバックを行い、学期末に返却します。 位置づけ・水準 DA2161			
達成目標	【履修カルテ】 ①製図用具の基本的取り扱いが習得できたか。 ②基礎的な図面表現を理解できたか。 ③住宅の基本モジュールを理解し、応用することができたか。 単位認定最低基準：「基礎的な図面と模型が作成できること、指導内容の7割を理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80％、授業への取り組み、意欲20％	
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社 その他、適宜プリントや参考図面を配布します。			
参考書	住宅雑誌等			
学生への要望	作品の提出期限を厳守してください。自宅や本学製図室で制作することを心がけてください。			
オフィスタイム	月曜日8：50～10：20 木曜日14:30～16:00 阿部：家政学館4F 生活科学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室 高橋：家政学館4F 生活科学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス 課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋※他の授業との関係から担当教員は最低2名以上で指導する。	ガイダンス（授業目標等） これからの授業のすすめ方、建築設計製図室や製図台の使用 方法やルール、製図用具の購入方法等について説明する。 また、設計図の種類やそれぞれの役割、図面制作にあたって必要な心構えについて述べる。図面には「正確・速さ・綺麗」が要求されることを理解する。 課題説明・模型製作	課題1作成	60
2	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・エスキスチェック・模型製作 平面を組み合わせて立体物を創造する。造形的視点を養い、今後の設計課題で模型を製作できるように建築模型材料と道具の使い方を学修する。	課題1作成	60
3	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック・模型製作	課題1作成	60
4	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック・模型製作	課題1作成	60
5	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック・模型製作	課題1作成	60
6	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック・模型製作	課題1作成	60
7	課題1 「平面の組み合わせ」 提出 担当：阿部・長田・高橋	提出・プレゼンテーション	課題1作成	60
8	課題1 「平面の組み合わせ」 担当：阿部・長田・高橋	プレゼンテーション	課題1作成	120
9	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・平面図兼配置図、立面図作成 木造住宅（S＝1/100）の平面図の描き方について説明する。 建築基準法等（隣地境界線、建物の高さ、材料等）の関連や耐力壁等の構造面についても理解する。	課題2作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成 木造住宅（S＝1/100）の平面図をトレースする。トレースすることにより、描きかたを理解する。	課題2作成	60
11	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	60
12	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	60
13	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	60
14	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	60
15	課題2 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題2作成	120
16	課題2 「木造住宅トレース」 提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図提出	課題2作成	120
17	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・平面図兼配置図、立面図作成 木造住宅（S＝1/100）の平面図の描き方について説明する。建築基準法等（隣地境界線、建物の高さ、材料等）の関連や耐力壁等の構造面についても理解する。	課題3作成	120
18	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	120
19	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	60
20	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	60
21	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	120
22	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	120
23	課題3 「自邸」 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図作成	課題3作成	120
24	課題3 「自邸」提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図兼配置図、立面図提出	課題3作成	120
25	課題4 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・読書・エスキス 文学作品を読み、文章から住宅に関わるキーワードを抽出して空間を創造する。文字情報から空間を読み解く力を養う。	課題4作成 読書	60
26	課題4 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	読書・エスキス	課題4作成 読書・エスキス	60
27	課題4 「空間創造演習 文学作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	読書・エスキス・平面図、立面図作成	課題4作成 読書・エスキス	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	課題4 「空間創造演習 文学 作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	読書・エスキス・平面図、立面図作成	課題4作成 読書・エスキス	120
29	課題4 「空間創造演習 文学 作品から空間をイメージする」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図作成	課題4作成 読書・エスキス・図面作成	120
30	課題4 「空間創造演習 文学 作品から空間をイメージする」 提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図提出	課題4作成 読書・エスキス・図面作成	120

科目名	建築設計製図Ⅱ	対象 単位数 必修	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 8単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 8単位 必修
担当教員	阿部 恵利子,長田 城治,高橋 真里		
開講期	通年		
授業概要	前期では、二級建築士程度の図面を時間内で設計し、完成させる能力を身につけることを目標とします。 後期では、一級建築士製図試験問題を通して、鉄筋コンクリート造の概要を理解することと、オリジナルの一級建築士設計製図問題程度の図面を作成する力を養います。次にCADの基本操作を学び、オリジナル設計をCADで仕上げることを目標とします。 また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけます。 課題はコメントによるフィードバックを行い、学年末に返却します。 位置づけ・水準 DA2262		
達成目標	【履修カルテ】 ①二級建築士製図試験内容程度の木構造、鉄筋コンクリート構造の図面を時間内に完成させることができたか。 ②一級建築士製図試験内容程度の鉄筋コンクリート構造の図面を時間内に完成させることができたか。 ③CADで基礎的な図面を仕上げることができたか。 単位認定最低基準：「各種構造を理解した図面が作成できること、指導内容の7割を達成していること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」		
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80%、授業への取り組み、意欲20%
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社『コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会、彰国社 その他プリントを配布		
参考書	住宅雑誌等		
学生への要望	空き時間に製図を描く練習をするように心がけて下さい。		
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 阿部：家政学館4F 生活科学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室 高橋：家政学館4F 生活科学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス 担当：阿部・長田	ガイダンス（前期授業目標等） これからの授業のすすめ方、課題への取り組み方について説明する。また、設計図の種類やそれぞれの役割、図面制作にあたって必要な心構えについて述べる。図面には「正確・速さ・綺麗」が要求されることを理解する。	課題1作成	60
2	課題1 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題1作成	60
3	課題1 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題1作成	60
4	課題1 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田	図面作成 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題1作成	60
5	課題1 「木造住宅トレース」 提出 担当：阿部・長田	図面作成 ・提出 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題1作成	120
6	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	課題説明・エスキスチェック 二級建築士試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。	課題2作成 エスキス	60
7	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	エスキスチェック 二級建築士試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。	課題2作成 エスキス	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	エスキスチェック 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。	課題2作成 エスキス	60
9	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	60
10	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	60
11	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	60
12	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	60
13	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	60
14	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	60
15	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	120
16	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	120
17	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成	課題2作成 作図	120
18	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」提出 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成・提出	課題2作成 作図	120
19	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田	課題説明・平面図、立面図、矩計図の作成 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120
20	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120
21	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120
22	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120
23	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：阿部・長田・伊藤	課題3作成	120
24	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120
25	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田	課題説明・平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。	課題4作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。	課題4作成	60
27	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。	課題4作成	120
28	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。	課題4作成	120
29	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。	課題4作成	120
30	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」提出 担当：阿部・長田	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。	課題4作成	120
31	授業ガイダンス・課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋 ※担当教員は最低2名以上で指導する。	ガイダンス（後期授業目標等）・課題説明 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題5作成	60
32	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題5作成	60
33	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題5作成	60
34	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。 担当：阿部・長田・伊藤	課題5作成	60
35	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題5作成	120
36	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題5作成	120
37	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題5作成	120
38	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。	課題5作成	120
39	課題6 「複合施設トレース」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法を習得する。	課題6作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
40	課題6 「複合施設トレース」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法を習得する。	課題6作成	120
41	課題6 「複合施設トレース」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法を習得する。	課題6作成	120
42	課題6 「複合施設トレース」 提出 担当：阿部・長田・高橋	図面作成・提出 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法を習得する。	課題6作成	120
43	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・資料収集 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	60
44	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集・エスキスチェック 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	60
45	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集・エスキスチェック 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	120
46	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	エスキス・図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	120
47	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	120
48	課題7 「複合施設オリジナル設計」提出 担当：阿部・長田・高橋	図面作成・提出 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	120
49	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	60
50	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	60
51	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	CADの操作方法 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	120
52	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成（CAD） Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	120
53	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成（CAD） Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	120
54	課題8 「デジタルデザイン演習」提出	図面作成（CAD）・提出 Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	120
55	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・エスキス 規模や用途、動線などの計画学的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 エスキス	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
56	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 エスキス	60
57	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・エスキス 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 エスキス	120
58	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 エスキス	120
59	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	プレゼンテーション 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 エスキス・模型製作	120
60	課題9 「造形創造演習」提出 担当：阿部・長田・高橋	提出・プレゼンテーション 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 模型製作	120

科目名	建築設計製図Ⅲ（「フィールドワーク」を含む。）	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 10単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 10単位 選択	
担当教員	山形 敏明,阿部 恵利子,高橋 真里			
開講期	通年			
授業概要	建築設計製図Ⅲでは、建築設計製図Ⅱで修得した時間内で設計をまとめる力を伸ばします。さらに、オリジナル設計を通して、手書きやCADでのプレゼンテーション（表現力）テクニックを身につけることを主目的とします。 また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけます。 課題はコメントによるフィードバックを行い、学年末に返却します。 位置づけ・水準 HA2323			
達成目標	【履修カルテ】 ①建築構造、計画、法規上の制限を満たしたオリジナル設計ができているか。 ②設計課題に基づいたオリジナル設計を期限内に完成することができたか。 ③プレゼンテーション用の図面を完成させることができたか。 単位認定最低基準：「法規内容が適切に反映され、精度を満たした図面が作成できること」 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的責任」「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース 3年	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80％、授業への取り組み（二級建築士試験対策問題を含む）20％。	
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社			
参考書	住宅雑誌、新建築など			
学生への要望	各種建築の見学や雑誌等で近年の建築を研究することを習慣づけてください。			
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 山形：本館3F No.1 住居学研究室 阿部・高橋：家政学館4F 生活科学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス・課題1 「RC造店舗併用住宅トレース」 担当：山形・阿部・高橋 ※担当教員は最低2名以上で指導する。	ガイダンス（前期授業目標等）・課題説明・図面作成	課題1作成 図面作成	60
2	課題1 「RC造店舗併用住宅トレース」提出 担当：山形・阿部・高橋	図面作成・提出	課題1作成 図面作成	90
3	課題2 「事務所トレース」 担当：山形・阿部・高橋	図面作成	課題2作成 図面作成	90
4	課題2 「事務所トレース」提出 担当：山形・阿部・高橋	図面作成・提出	課題2作成 図面作成	60
5	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・資料収集	90
6	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題1作成 エスキス・資料収集	90
7	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題1作成 エスキス・資料収集	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・資料収集	90
9	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・資料収集	90
10	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・資料収集	60
11	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・資料収集	90
12	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・資料収集	90
13	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・資料収集	60
14	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	60
15	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120
16	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120
17	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120
18	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120
19	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	150
21	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	150
22	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	90
23	課題3 「女性が考える理想住宅」提出 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション・提出	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	90
24	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
25	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
26	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
27	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
28	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
29	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
30	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
31	商業施設士2次試験対策講座 担当：山形・阿部・高橋	平面図、パース図面作成	商業施設士対策問題 パース図作成	120
32	商業施設士2次試験対策講座 担当：山形・阿部・高橋	平面図、パース図面作成	商業施設士対策問題 パース図作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
33	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
34	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
35	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
36	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
37	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
38	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
39	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
40	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
41	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
42	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
43	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
44	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
45	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」提出 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション・提出	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
46	授業ガイダンス・「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	ガイダンス（後期授業目標等）・課題説明・資料収集	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
47	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
48	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
49	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
50	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
51	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題	90
52	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 【二級建築士試験対策1】	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
53	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題	90
54	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック 【二級建築士試験対策2】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
55	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	60
56	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当:山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック 【二級建築士試験対策3】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
57	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	120
58	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 【二級建築士試験対策4】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	150
59	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	150
60	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 【二級建築士試験対策5】	課題5作成 資料収集・エスキス	90
61	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題5作成 資料収集・エスキス	90
62	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」提出 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション・提出	課題5作成 資料収集・エスキス	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
63	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成 二級建築士対策問題	90
64	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・図面作成 【二級建築士試験対策6】	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成	120
65	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・図面作成	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成 二級建築士対策問題	120
66	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・図面作成 【二級建築士試験対策7】	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成	150
67	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・図面作成	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成 二級建築士対策問題	150
68	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作 【二級建築士試験対策8】	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成	60
69	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
70	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
71	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
72	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
73	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
74	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
75	課題6 「美術館」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120

科目名	建築設計製図Ⅳ		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 10単位 必修
担当教員	山形 敏明,阿部 恵利子,高橋 真里, 長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築設計製図Ⅳ前期では、これまでに修得した構造、法規、計画等を踏まえた綿密な各種計画を基に、各自のオリジナリティを表現することを目的とします。後期では4年間の集大成として、卒業設計制作に取り組みます。 また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけます。 課題はコメントによるフィードバックを行い、学年末に返却します。 位置づけ・水準 HA242			
達成目標	【履修カルテ】 ①実施設計に結びつく程度の完成度でオリジナル設計ができたか。 ②適切なテーマ設定、計画で卒業設計に取り組むことができたか。 ③計画したスケジュールに沿って卒業設計を完成できたか。 単位認定最低基準：「指導内容の8割を理解しているともに、法規内容が適切に反映され、オリジナリティがあり卒業学年にふさわしい設計ができていること」 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的責任」「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース4年		成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80％、授業への取り組み（二級建築士試験対策問題を含む）20％。
教科書	『新しい建築製図』学芸出版社			
参考書	課題に対応した参考書を随時紹介します。			
学生への要望	プレゼンテーション能力を高めるよう心掛けてください。			
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 山形：本館3F No.1 住居学研究室 阿部・高橋：家政学館4F 生活科学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋 ※担当教員は最低2名以上で指導する。	ガイダンス（前期授業目標等）・課題説明・資料収集	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
2	課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
3	課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
4	課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
5	課題1「商品化住宅」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション	課題1作成 CAD図面・模型製作・パネル作成	90
6	課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題1作成 CAD図面・模型製作・パネル作成	90
7	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。	課題2作成 エスキス	60
8	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。	課題2作成 エスキス	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、 地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心に エスキスチェックを行う。	課題2作成 エスキス	90
10	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製 作	60
11	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製 作	90
12	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製 作	90
13	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製 作	60
14	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製 作	90
15	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製 作	90
16	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製 作	60
17	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
18	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
19	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
20	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
21	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
22	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル 作成	120
23	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル 作成	120
24	課題2「病院」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル 作成	120
25	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル 作成	120
26	課題3 「幼稚園・保育園・子 ども園」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	60
27	課題3 「幼稚園・保育園・子 ども園」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
29	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
30	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
31	商業施設士2次試験対策講座 担当：山形・阿部・高橋	平面図、パース図面作成	商業施設士対策問題 パース図作成	120
32	商業施設士2次試験対策講座 担当：山形・阿部・高橋	平面図、パース図面作成	商業施設士対策問題 パース図作成	120
33	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
34	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
35	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
36	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
37	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
38	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
39	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
40	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
41	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
42	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集	課題4作成 資料収集・エスキス	60
43	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集	課題4作成 資料収集・エスキス	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
44	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集	課題4作成 資料収集・エスキス	60
45	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集	課題4作成 資料収集・エスキス	60
46	授業ガイダンス・課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	ガイダンス（後期授業目標等）資料収集・エスキス	課題4作成 資料収集・エスキス	60
47	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス	課題4作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題	60
48	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス 【二級建築士試験対策1】	課題4作成 資料収集・エスキス	60
49	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作 二級建築士対策問題	60
50	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 【二級建築士試験対策2】	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
51	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	120
52	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 【二級建築士試験対策3】	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成	120
53	課題4「建築で地域活性化」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成	120
54	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成	120
55	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集	課題5作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題	60
56	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集 【二級建築士試験対策4】	課題5作成 資料収集・エスキス	60
57	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題	90
58	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 【二級建築士試験対策5】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
59	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 担当：山形・阿部・伊藤	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	150
60	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 【二級建築士試験対策6】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
61	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	中間提出・プレゼンテーション	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	120
62	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション 【二級建築士試験対策7】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	150
63	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題	90
64	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 【二級建築士試験対策8】	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
65	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作 担当：山形・阿部・伊藤	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
66	課題5「卒業設計」中間提出 担当：山形・阿部・高橋	中間提出・プレゼンテーション	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
67	課題5「卒業設計」中間提出 担当：山形・阿部・高橋	中間提出・プレゼンテーション	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
68	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
69	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
70	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
71	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
72	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
73	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
74	課題5「卒業設計」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
75	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120

科目名	工業概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員	鎌野 秀三			
開講期	後期			
授業概要	人間生活に果した工業の役割を、利便性や快適性等のプラスと公害等のマイナスの両面から捉えて、これからの工業技術者のあり方を学ぶ。さらに、建築分野における耐震偽装問題やコンピュータによる情報漏洩問題を通して、技術者としての法遵守の意義及び人間生活への貢献を考える。【課題とプレゼンテーションに対するフィードバックの方法】最終授業でフィードバックを行う。位置づけ・水準 DA2391			
達成目標	目標は①日本の発展に寄与した工業技術内容の習得、②技術者の使命と倫理観の醸成。単位認定の最低基準は、内容の8割を理解していること。 ちプロマ・ポリシーとの関係：知意識・理解、社会的責任			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	①学習への意欲20%、理解度30% ②課題並びにプレゼンテーションの総合評価50%	
教科書	プリント等配布			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	工業技術と人間生活に関心を持ち、予習して授業に臨むこと			
オフィスタイム				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	工業の歴史	産業革命以降、工業が人間生活や社会を一変させた歴史について学ぶ。	授業内容を復習	60
2	工業分野の変遷	産業革命以降の工業分野における変遷（蒸気機関車から電気、電子技術等へ）について学ぶ。	授業内容を復習	60
3	戦前の電気製品	日本の戦前における電気製品の導入と生活との関連について学ぶ。	授業内容を復習	60
4	戦後の電気製品	日本の戦後における電気製品の導入と生活との関連について学ぶ。	授業内容を復習	60
5	戦後の工業技術	日本の戦後における工業技術（自動車産業、土木・建築等）が、世界的な牽引的立場にあったことについて学ぶ。	授業内容を復習	60
6	工業と建築	工業の様々な分野の集大成として、建築が成立することについて学ぶ。	レポート準備	90
7	公害の歴史	日本における公害問題の歴史について学ぶ。	授業内容を復習	60
8	公害法の成立	日本における工業の発達と公害法の成立について学ぶ。	授業内容を復習	60
9	自然保護法の成立	日本における工業の発達と自然保護法の成立について学ぶ。	授業内容を復習	60
10	世界的視点からの公害	世界的視点から温暖化、オゾン層破壊、酸性雨等の問題と、それらへの取組みについて学ぶ。	授業内容を復習	60
11	耐震偽装問題Ⅰ	建築の偽装問題から、技術者の人間生活における安全・安心の提供と法遵守の意義について学ぶ。	授業内容を復習	60
12	耐震偽装問題Ⅱ	建築の偽装問題から、技術者が違法行為を起こした社会背景について学ぶ。	レポート準備	90
13	コンピュータの歴史	コンピュータの歴史と現在の情報化社会の問題について学ぶ。	授業内容を復習	60
14	プライバシー保護	コンピュータとプライバシー保護について学ぶ。	授業内容を復習	60
15	総括	これまでの授業を総括し、工業及び工業技術者とは何かを考える。	授業内容を復習	60

科目名	職業指導	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 選択
担当教員	長田 城治,山本 裕詞		
開講期	前期		
授業概要	職業指導とは、高校生が自己の将来の「進路・職業」を選択できるように援助する教育活動のことを示します。 高等学校において職業指導は、進路指導という名の基に実践され、生徒の進学や就職に関わる事項だけでなく、個々の人生設計や自己の在り方生き方を主体的に創造するための教育活動として重要な役割を担っています。 そのため同講義では、自分自身と職業への理解を促すキャリア教育を実践し、それらの指導力を身につけていくことを目標とします。 また、工業高等学校での教員の経験を活かして、工業高等学校ならではの進路傾向や業界の現状、進路指導の実践について解説します。 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、課題やレポートについては、授業内で講評し、改善点などを解説します。 位置づけ・水準：HA2327		
達成目標	①高等学校の進路指導について、地域の事例を把握することができたか。 ②生徒のキャリア発達を促す方策について具体的な例を挙げることができるか。 ③学生自身の人生設計を具体的にプランニングできたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解すること、および他者の職業指導のアドバイスを授業で得た知識を活かして実践できること。 ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	①プレゼンテーション（自己PR、業界研究など）50％ ②レポート 50％
教科書	特になし 必要に応じてプリントを配布します。		
参考書	特になし		
学生への要望	本授業は、アクティブラーニングの手法を用いて、学生の主体的な活動や意見交換をしながら行うため、遅刻・欠席がないよう注意すること。 事前学修：新聞やニュースなどで取り上げられた建設業界に関する記事を読み、最新の動向についても把握するように努めること。（1時間） 事後学修：授業内の課題やレポートにしっかりと取り組むこと。（1時間）		
オフィスタイム	長田：月曜日9:10～10:30、水曜日14:40～16:00、本館4F No.2 住居学研究室 山本：月曜日9:10～10:30、水曜日14：40～16：00、図書館3F No.1教職課程推進室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス(長田)	「職業指導」15回の授業の概要について講義し、本授業で何を学ぶかを理解する。また、工業高校とはどのような特色を持つ高校なのかを理解する。	工業高校の現状を把握するため、福島県近郊の工業系高校の所在と学校の特徴を把握する。	120
2	教職員の基本的な資質および職業指導から進路指導への転換(長田)	工業高校の教職員として必要な基本的な資質・能力を学ぶ。また、高等学校で実施された職業指導の実践内容を学習し、現在実施される進路指導に転換した歴史的背景を学ぶ。	授業で学修した内容を振り返り、教員の資質と進路指導の動向を時系列に理解する。	120
3	大学入試の現状と問題点(長田)	現在の大学入試の方法を学習し、これから変更となる入試制度の概略を理解する。	大学入試制度の要点を整理し、そのための学習方法を自身の経験則を基にまとめる。	120
4	自己理解(長田)	自身を理解し、自己PRやES（エントリーシート）を作成して発表する。	授業で指摘された内容を踏まえて、自己PRとESを改善する（レポート課題）。	120
5	高等学校学習指導要領工業編の内容と構成（長田・山本）	高等学校学習指導要領工業編の背景としての、中教審における産業教育観について、理解する。	予習として自身の職業感についてまとめておく。	120
6	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成1（長田・山本）	高等学校学習指導要領工業編の構成を理解した上で、研究調査対象とする各科目の割り当てを決める。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。（プレゼンの作成）	120
7	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資形成2（長田・山本）	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。（プレゼンの作成）	120
8	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成3（長田・山本）	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。（プレゼンの作成）	120
9	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成4（長田・山本）	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。（プレゼンの作成）	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成5 (長田・山本)	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。 (プレゼンの作成)	120
11	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成6 (長田・山本)	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	高等学校学習指導要領工業編の内容から見えてくる工業高校における職業指導の在り方について、レポートにまとめる。 (レポート課題)	120
12	就職指導慣行と新しい選考方法 (長田)	従来の就職活動で実施された選考の方法を学習する。	授業内で配布された資料を参考に、選考方法を復習する。	120
13	工業系高校の進路傾向とその業界研究1 (長田)	高等学校における進路の傾向を学び、どのような職種を選択し、その業界がどのような特徴を持つのかについて、特徴的な企業を例に出しながら講義を行う。	授業内で紹介した業界について、具体的な企業を自身で選択し、その特徴をまとめる。(プレゼンの作成)	120
14	工業系高校の進路傾向とその業界研究2 (長田)	全快の授業を参考に、自信が担当した職種や業種などについて、特徴的な企業を例に出しながらプレゼンする。	授業内で紹介した業界について、具体的な企業を自身で選択し、その特徴をまとめる。(プレゼンの作成)	120
15	職業指導の問題と今後の在り方 (長田)	少子化による生徒数の減少と情報化社会における職業の多様化に伴い、今後の職業指導に対するスキルは、多くの知識や経験が必要になるであろう。本講義では、これまでの授業内で得た知識を振り返り、今後どのようにして生徒指導、進路指導すべきか課題をまとめ、今後の方策を考える講義を行う。	本講義の達成授業と自身の現状を照らし合わせ、必要な能力が得られたのか理解する。	120

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	通年			
授業概要	これまでに学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、研究テーマを指導教員と相談の上決定し、自主的に実験・調査を行い、論文としてまとめる基礎力を修得する。レポートは添削・返却しコメントによるフィードバックを行います。 位置付け・水準 HL2351			
達成目標	単位認定の最低基準は、「卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了し、指導内容の7割を理解していること」。 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース3学年	成績評価 方法	毎週のレポート提出70%、予備調査、分析の進行状態30%	
教科書	適宜、資料配付			
参考書	適宜、紹介する。			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究に関する概論。 研究テーマの設定についての方向性を明確にする。	卒業研究を進める	60
2	テーマ設定に向けて（1）	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める	60
3	テーマ設定に向けて（2）	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める	60
4	研究テーマ決定	研究テーマの背景と目的を明確にし、卒研究テーマ（仮）を決定する。	卒業研究を進める	60
5	論文の書き方について（1）	卒業論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める	60
6	論文の書き方について（2）	卒業論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める	60
7	論文の書き方について（3）	梗概集等の論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める	60
8	既往論文の研究（1）	研究テーマにおける既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める	60
9	既往論文の研究（2）	継続して、既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める	60
10	既往論文の研究（3）	継続して、既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める	60
11	研究倫理について	研究倫理について、研究上の注意点について確認する。	卒業研究を進める	60
12	研究方法について（1）	研究テーマに沿って、既往研究の研究方法について研究する。	卒業研究を進める	60
13	研究方法について（2）	継続して、研究テーマに沿った既往研究の研究方法について研究する。	卒業研究を進める	60
14	研究方法について（3）	研究テーマにおける、研究方法を決定する。	卒業研究を進める	60
15	研究計画（1）	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。	卒業研究を進める	60
16	研究計画（2）	継続して、研究テーマに沿った研究計画を策定する。	卒業研究を進める	60
17	研究計画（3）	策定した研究計画の妥当性を検討する。	卒業研究を進める	60
18	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を開始する。	卒業研究を進める	60
19	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
20	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
22	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
23	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
24	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
25	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
26	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
27	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
28	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
29	プレゼンテーション	これまでの、実験及び調査研究結果について、プレゼンテーションを行い、討論する。	卒業研究を進める	60
30	実験及び調査研究の評価	卒業研究Ⅰ全般の、研究結果を評価し、改善等を加える。	卒業研究を進める	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修や体験、また専門的な知識・技術を基に自らの疑問を明らかにして、研究テーマを確定する。 課題・レポートの発表を元にグループディスカッションを行い、その都度口頭や添削によるフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの生活相談員として相談援助の実務経験をもとに社会福祉分野での研究・調査について授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DS2361			
達成目標	自らのテーマに対して、その答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得することができる。 1. 明確にしたい解決すべき現象・問題などを絞り込み、研究課題を決定する。 2. 研究目的を明らかにする。 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。 4. 研究計画にそってデータを収集する。 単位認定の最低基準：研究の意義と倫理について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%	
教科書	ありません。随時、印刷物の配布			
参考書	ゼミの中で随時紹介			
学生への要望	関係資料の情報の取り方、また先行研究等について素朴な疑問を大切にアセスメントを意識して主体的に発表すること。			
オフィスタイム	・火曜日 V時限 ・水曜日 I限 創学館 4階 No.2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の意義、進め方について学ぶ。 これまでの授業、体験から興味のあることについて発表する。	現在、興味のある事象やテーマについてその理由を含め具体的に発表できるように準備する。	60
2	テーマ設定に向けて（1）	研究テーマの設定についての方向性を明確にする。 各自、調べたことを発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
3	テーマ設定に向けて（2）	学生が関心を持っている研究内容についてディスカッション	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
4	論文の書き方（1）	卒業論文の書き方について解説する。 研究倫理教育（論文作成のきまり） ・社会福祉学会倫理規定のガイドライン（参考資料） ・引用文献 ・専門用語の定義のしかた 前回の授業で指示された内容について各自発表	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
5	論文の書き方（2）	文献の必要性 ・文献などの探し方 ・データの収集方法 ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
6	論文の書き方（3）	参考文献の活用法 ・参考文献の読み方 ・データのまとめ方 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
7	研究手法について（1）	量的研究 ・アンケート調査に関する基本的知識について 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
8	研究手法について（2）	量的研究 ・アンケート調査の方法について 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	研究手法について (3)	質的研究 ・面接調査に関する基本的知識 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
10	研究手法について (4)	質的研究 ・面接調査の方法について学ぶ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
11	テーマ設定に向けて (3)	研究テーマを決定する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
12	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
13	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
14	事前学習 (学外学習)	学外学習の見学先について、抱えている課題などについて確認する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
15	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦労されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
16	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦労されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
17	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦労されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
18	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦労されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
19	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
20	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
21	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
22	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
23	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
24	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
25	研究計画書の作成	テーマに関する、調査計画書を作成し討議する。修正箇所を明らかにする。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
26	研究計画書の作成	テーマに関する、調査計画書を作成し討議する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の作成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
28	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の作成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
29	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の完成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
30	調査の実施	調査を実施する	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	山本 裕詞			
開講期	通年			
授業概要	自らの課題意識をもとに調査研究を進め、論理実証的に結論を導き出し、卒業論文にまとめる。特に、卒業研究Ⅰは、自らの課題意識を明確化することを目的に、先行研究の収集、整理、批判を行う。具体的には、年度末までに自らの課題意識の研究上の位置づけを明らかにして、論文構成を試案する。学生は、個別指導の際に、自らの課題に対する調査研究結果を発表し、それに対する小職からの講評を受け、次回の個別指導までの課題内容をフィードバックする。すなわち、学習全体が広義のアクティブラーニングとなる。なお、研究の必要に応じて、小職の中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。 実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。発達障害者教育の教員としてはフリースクール飛翔中等部等で勤務。 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	1. 自らの課題意識を、先行研究との関係で位置付ける(課題意識の具体化)。 2. 論理実証的手法を用いて考察を深める(先行研究批判と論理実証性)。 3. 研究の作法を意識し、自律的研究能力の基礎を培う(研究倫理の意識化と遵守)。 4. 4年次の中間報告、最終報告を見通して、伝える技術を経験的に学ぶ(研究テーマの確定と論文構成)。 単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力			
受講資格	相談により担当となった学生	成績評価 方法	達成目標の達成度の総合的評価 内訳：1. 課題意識の具体化 20％ 2. 先行研究批評と論理実証性 30％ 3. 研究倫理の意識化と遵守 30％ 4. 研究テーマ確定と論文構成 20％	
教科書	特になし。			
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会 2002年			
学生への要望	主体的に取り組むこと。			
オフィスタイム	前期、後期とも時間割確定後に学生と相談して決定します。(時間割未決定時の仮設定 月曜1コマ、2コマ) 場所：教職課程推進室(山本研究室) そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の前に。テキスト批判入門 講座 1	デュエイ著『学校と社会』を教材にして、テキスト批判の方法を体験的に学ぶ。	発表用レポートの作成	180
2	研究の前に。テキスト批判入門 講座 2	デュエイ著『学校と社会』を教材にして、テキスト批判の方法を体験的に学ぶ。	発表用レポートの作成	180
3	研究の前に。テキスト批判入門 講座 3	デュエイ著『学校と社会』を教材にして、テキスト批判の方法を体験的に学ぶ。	発表用レポートの作成	180
4	仮テーマの設定と先行研究の抽出 1	仮の研究テーマを設定し、それに関する先行研究を調査収集する。また、収集した先行研究を対象にテキスト批評を行う。	発表用レポートの作成	180
5	仮テーマの設定と先行研究の抽出 2	仮の研究テーマを設定し、それに関する先行研究を調査収集する。また、収集した先行研究を対象にテキスト批評を行う。	発表用レポートの作成	180
6	仮テーマの設定と先行研究の抽出 3	仮の研究テーマを設定し、それに関する先行研究を調査収集する。また、収集した先行研究を対象にテキスト批評を行う。	発表用レポートの作成	180
7	興味関心・課題意識を言語化する 1	自らの興味関心・課題意識を言葉で表現することによって、既に理解できていることと、不鮮明なことを意識化する。	レポート発表とディスカッションの準備	180
8	興味関心・課題意識を言語化する 2	自らの興味関心・課題意識を言葉で表現することによって、既に理解できていることと、不鮮明なことを意識化する。	レポート発表とディスカッションの準備	180
9	テキスト批評 1	指定されたテキスト(先行研究)をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	レポート発表とディスカッションの準備	180
10	テキスト批評 2	指定されたテキスト(先行研究)をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	レポート発表とディスカッションの準備	180
11	テキスト批評 3	指定されたテキスト(先行研究)をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	レポート発表とディスカッションの準備	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	テキスト批評 4	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	レポート発表とディスカッションの準備	180
13	テキスト批評 5	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	レポート発表とディスカッションの準備	180
14	テキスト批評 6	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	レポート発表とディスカッションの準備	180
15	テキスト批評 7	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	レポート発表とディスカッションの準備	180
16	仮テーマの設定と先行研究の調査 1	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
17	仮テーマの設定と先行研究の調査 2	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
18	仮テーマの設定と先行研究の調査 3	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
19	仮テーマの設定と先行研究の調査 4	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
20	仮テーマの設定と先行研究の調査 5	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
21	仮テーマの設定と先行研究の調査 5	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
22	仮テーマの設定と先行研究の調査 5	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
23	仮テーマの設定と先行研究の調査 6	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
24	テーマの設定と先行研究の整理 1	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180
25	テーマの設定と先行研究の整理 2	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180
26	テーマの設定と先行研究の整理 3	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180
27	テーマの設定と先行研究の整理 4	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	論文構想 1	確定したテーマをもとに、論文の章立てを構想する。	論文構想	180
29	論文構想 2	確定したテーマをもとに、論文の章立てを構想する。	論文構想	180
30	論文構想 3	「はじめに」と「おわりに」の文章を作成し、発表する。	論文構想「はじめに」と「おわりに」の作成と発表準備	180

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	安田 純子			
開講期	通年			
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していきます。探究することのおもしろさを知って研究を進めます。 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	目標は、各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方や発表の仕方を学び、また、文章で表現できるように学んでいきます。 単位認定の最低基準は、関心や問題を見つけ、研究の進め方がある程度把握し、7割以上方向性が示せること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年	成績評価 方法	研究過程（態度・発表準備等）（60％）、研究論文等の中間のまとめ（40％）	
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）			
参考書	各自その都度必要な文献			
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。			
オフィスタイム	前期：月曜日と木曜日の13:00~16:30 後期：水曜日と金曜日の13:00~16:30 創学館No. 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す	テーマを見つける	30
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方	資料の探しかたになれる。	30
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し	テーマを見つける	30
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方	必要な資料の探し・集めをやる。	30
5	資料集め	資料を集める	資料を集める	300
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り	資料を読み取る	300
7	必要資料集め	再び不足資料を探す	不足資料を探す	60
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	90
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。	論文構想の大枠を考える。	60
10	論文構想②	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
11	論文構想③	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
12	論文構想④	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
13	パワーポイントと発表について	発表用パワーポイントと原稿の作成について	発表用パワーポイントの作成の練習	60
14	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションについて説明	プレゼンテーションのし方の確認練習	60
15	論文構想⑤	書ける論文について研究倫理等	書ける論文の骨組みを模索する。	30
16	論文の骨組み	論文の骨組みについて考える。	論文の骨組みを考える。	30
17	論文構想⑥	論文のテーマの見直し	論文のテーマをいろいろな角度から考える。	60
18	論文執筆①	論文の書き方	論文の書き方を復習する。	60
19	論文執筆②	論文執筆練習	本論文に向け執筆（練習）する。	240
20	論文執筆③	論文執筆練習	本論文に向け執筆（練習）する。	240
21	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
22	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
23	資料集め（参考文献）	参考文献の読み方	参考文献を読む。	60
24	本論文に向けての追加資料	本論文に向けて足りない資料など	本論文に足りない資料などを集め、読む。	60
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
28	論文のテーマ	論文のテーマの方向性についてのまとめと確認	論文のテーマの方向性を確認をする。	60
29	論文テーマ	論文テーマを確認する。	論文のテーマをしぼる。	120
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ	全体を見直し、テーマを再確認する。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	小林 徹			
開講期	通年			
授業概要	この卒業研究では、子どもの生活や成長に関わる種々の問題を扱う。具体的には、障がい児や支援の必要な子どもへの対応、虐待や家庭内暴力などの問題について、文献研究やフィールドワーク、アンケート調査等によって、理解を深める。3年次の卒業研究Ⅰでは、メンバー全員そろってのフィールドワークと文献購読を行い、4年次の卒業研究Ⅱでは、研究論文の執筆に向けた研究を行う。授業ではアクティブ・ラーニングを意識したメンバーによるグループディスカッションを行う。その後は研究倫理を十分に踏まえた研究論文の執筆を進めて、その都度、成果物についてフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2361			
達成目標	1. 自分の関心に基づき、メンバーとのディスカッションを経て、魅力ある研究テーマを設定できたか。 2. 積極的にフィールドワークや文献研究等に取り組むことができたか。 3. 卒業研究発表会等でメンバーと協力して準備し、積極的に発表できたか。 4. 年間を通して研究に真摯に取り組み、論文をまとめることができたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が実行できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科社会福祉専攻3年	成績評価 方法	平常点（研究態度、議論への参加）60％ 展示、発表、研究成果40％	
教科書	授業内で例示する。			
参考書	授業内で例示する。			
学生への要望	授業を休まず、予復習も怠らない、やる気のある学生の履修を希望する。			
オフィスタイム	毎週水曜日9：00～12：10、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	卒業研究の位置づけ、研究方法の指導、年間予定の確認	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
2	研究テーマの検討1	自分の研究テーマについて検討をする。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
3	研究テーマの検討2	自分の研究テーマについて検討をする。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
4	研究テーマの検討3	自分の研究テーマについて検討をする。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
5	研究テーマの決定1	自分の研究テーマを確定する。	事前：研究テーマの最終確認 事後：内容の振り返り	30
6	研究テーマの決定2	自分の研究テーマを確定する。	事前：研究テーマの最終確認 事後：内容の振り返り	30
7	研究方法の検討1	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。研究方法を検討し、資料や参考書を持ち寄る。	事前：研究方法の確認 事後：内容の振り返り	30
8	研究方法の検討2	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。研究方法を検討し、資料や参考書を持ち寄る。	事前：研究方法の確認 事後：内容の振り返り	30
9	文献研究・発表・討議 1	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
10	文献研究・発表・討議2	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
11	文献研究・発表・討議3	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
12	文献研究・発表・討議4	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
13	文献研究・発表・討議5	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
14	文献研究・発表・討議6	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
15	文献研究・発表・討議7	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
16	文献研究・発表・討議8	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	研究活動 1	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
18	研究活動 2	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
19	研究活動3	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
20	研究活動4	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
21	研究活動5	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
22	中間発表	卒研中間発表会に参加し、次年度のイメージを得る。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
23	研究活動6	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
24	研究活動7	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
25	研究活動8	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
26	研究活動9	ここまでの研究を振り返り、教員とメンバーとグループディスカッションを行う。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
27	卒業研究発表の練習	4年生の発表練習に参加し、協力する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
28	卒業研究発表会	卒業研究発表会に参加し、次年度のイメージを得る。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
29	研究まとめ 1	1 年間の研究の成果を整理し、次年度の準備をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
30	研究まとめ 2	1 年間の研究の成果を整理し、次年度の準備をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと1年間の反省	30

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	通年		
授業概要	2年次までに学んだ建築学と個々人の将来を見据えて、興味ある卒業研究テーマを決定する。また、統計処理の手法について学ぶ。課題発見及び問題解決に関わるレポート等に対して、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2361		
達成目標	単位認定の最低基準は以下に示す①～③について、7割達成していること。 ①研究方法やその進め方、各種分析の方法を把握し、論理的に物事を捉える能力を養う。 ②論文構成や文体を学ぶ。 ③興味あるテーマの社会的意義を考え、問題解決に向けた思考力を培う。 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力・問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験・創造的思考力」		
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	①自主性・積極性などの取り組む姿勢50％ ②研究報告・発表50％
教科書	資料を配布する。		
参考書	個々に指導・提示する。		
学生への要望	様々な論文を読み、積極的に調査をすすめること。また、建築に関わることに問題意識を持つこと。		
オフィスタイム	家政学館 4 階 生活科学研究室 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00） 木曜Ⅰ時限（8：30～10：20）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	今後のゼミの進め方	研究テーマ決定の際に研究の目的や、独自性、研究結果の仮設が重要であることについて解説する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
2	研究方法について	研究の目的によって、研究方法が多数あることを事例を踏まえて述べる。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
3	研究の時間配分	限られた時間の中で研究を達成する為に、研究に要する時間の配分について、各々が考えることを促す。また、この作業が社会に出てからの仕事にも重要であること述べる。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
4	章立てについて	予め論文の章立てをすることにより、全体を掌握することの重要性について述べる。	研究テーマに沿った章立てをすることで、研究の方向性を明確にする。	60
5	アンケート調査について	アンケート調査の質問方法について、事例を用いて説明する。質問方法によって回答を導くことの弊害等についても述べる。また、SD法の質問による統計処理について説明する。	アンケート調査の事例を整理する。	60
6	統計処理 1	統計処理の利点と弊害について述べる。続いてアンケート調査に必要な単純集計の手法について述べる。	統計処理の手法について理解を深める。	60
7	統計処理 2	クロス集計の手法と意義について述べる。	クロス集計の手法について理解を深める。	60
8	統計処理 3	SD法による調査における、相関関係、相関係数について説明する。	SD法による調査法について理解を深める。	60
9	統計処理 4	エクセルを用いて因子分析の意味と手法を学ぶ。	エクセルを用いた因子分析について理解を深める。	60
10	統計処理 5	例題を与えて因子分析の分析結果を読む学習を行う。	エクセルを用いた因子分析について理解を深める。	60
11	統計処理 6	エクセルを用いて主成分分析の意味と手法を学ぶ。	エクセルを用いた主成分分析について理解を深める。	60
12	統計処理 7	例題を与えて主成分分析の分析結果を読む学習を行う。	エクセルを用いた主成分分析について理解を深める。	60
13	研究テーマの模索 1	興味のある研究テーマについて考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	研究テーマの模索 2	引き続き、興味のある研究テーマについて考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
15	研究テーマの決定 1	個々に研究テーマを決定する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
16	先行研究の調査 1	研究の独自性が最も重要であることから、先行研究の調査が必要であることを述べ、先行研究に親しむことを促す。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
17	先行研究の調査 2	決定した研究テーマに関する先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
18	先行研究の調査 3	引き続き、先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
19	先行研究の調査 4	引き続き、先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
20	研究方法決定	テーマに対する有効性を検討し、研究方法を決定する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
21	論文構成の検討	論文全体の構成を考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にし、構成を考える。	60
22	論文の章立て	論文の章立てについて検討する。	構成と章立てを整理する。	60
23	研究テーマ発表	個々に研究テーマ・研究方法・章立てについて発表し、その有効性について討論する。	研究テーマについて先行研究等を踏まえてその有効性を検討する。	60
24	研究テーマの決定 2	前回のテーマに関して、改善点を検討する。以後、個人指導とする。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
25	研究計画と資料収集 1	研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
26	研究計画と資料収集 2	継続して、研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
27	調査研究と資料収集 3	研究計画の基づき、調査研究を開始する。また、テーマに沿った資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
28	調査研究と資料収集 4	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
29	調査研究と資料収集 5	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
30	研究経過報告	これまでの作業を振り返って、来年度の論文完成に向けての予定を立てる。	論文完成に向けて計画を立てる。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 卒業研究は、大学の学修の集大成として、総合的に学問を捉え、主体的に新たな発想力をもって物事の本質を見極め、学問への探究心を忘れず、専門分野での新たな知見を得られるような人材の育成を目指すことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 Ⅰ．研究テーマの設定 1、先行研究論文の収集。2、先行調査の分析。3、テーマの設定。Ⅱ．設定テーマを基に、関連書籍、論文などのデーター収集、解析、分析、経過発表、学生間の討論を行う。 コメント等によるフィードバックを行う。 さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験や社会教育に携わってきた実務経験を生かしながら実践的な指導を行います。 〔実務経歴〕福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2351		
達成目標	〔到達目標〕 ①論文調査方法を学び、研究倫理を踏まえ、自分にあった方法を理解する。 ②論文の構成を理解する。 ③論文の作成ができ、発表することができる。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考		
受講資格	特になし。	成績評価 方法	①卒研に取り組む姿勢30%、②報告会及び課題提出状況30%、③途中経過状況40%、①～③の総合評価60%以上で単位認定する。
教科書	論文課題に対応し提示。		
参考書	随時案内する。		
学生への要望	1．指定日に必ず出席すること。2．課題を次週までに終わらせる（場合により、話し合いで変更する）。 3．テーマの選定に努力を惜しまず積極的に望む。		
オフィスタイム	家政学館4F 被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1年間の内容と留意事項	課題を見つける	60
2	研究倫理について	研究倫理を学ぶ	研究倫理について、考えをまとめる	60
3	研究の方向性について	関心のある分野について、考えを深め研究の方向性を検討する	研究の方向性について整理し、まとめる。	60
4	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
5	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
6	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ	先行研究を整理する	60
7	テーマ設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ	先行研究を整理する	60
8	テーマ設定	第2回から第7回までに行った、先行研究分析から、最も興味関心を持ったテーマを取り上げ、書籍収集、先行研究収集等をし、プレゼンできるようにする。	資料作成	90
9	テーマ設定	前回に引き続き、先行研究分析から、最も興味関心を持ったテーマを取り上げ、書籍収集、先行研究収集等をし、プレゼンできるようにする。	資料作成	90
10	仮テーマにおける討論会	仮テーマをもとに調査をおこなった内容を発表する。討論会形式とする。	内容を記録	90
11	論文作成方法を学ぶ	文献調査による調査方法とは。	文献研究について関連研究を調べる	60
12	論文作成方法を学ぶ	調査方法を選定し、進め方を決定する。	論文作成についてまとめる	60
13	資料収集	調査方法が決定したのち、論文制作に必要な参考資料等の収集を行う。	授業内容を整理しまとめる	60
14	資料収集	資料等の収集を行う。	収集資料の整理	60
15	論文作成方法を学ぶ	調査方法を選定し、進め方を決定する。	論文作成についてまとめる	60
16	資料収集	調査方法が決定したのち、論文制作に必要な参考資料等の収集を行う。	授業内容を整理しまとめる	60
17	資料収集	資料等の収集を行う。	収集資料の整理	60
18	資料分析調査	収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。	収集資料の整理と分析	60
19	資料分析調査	第18回同様に、収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。	収集資料の整理と分析	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	資料分析調査	第19回までに行った調査分析から、論文タイトル（サブの有る場合は、サブタイトルも考える）、論文の章立てを考える。	論文の目次を考える	60
21	資料分析調査	第20回同様に論文タイトル、章立てを行い指導教員に確認を得る。	論文タイトルと目次を再検討する	60
22	調査及び資料収集	調査方法として、アンケートを希望（必要）とする場合は、アンケート項目の選定を行う。	アンケート方法を調べる	60
23	調査及び資料収集	アンケート内容項目の選定、確認が済み次第、アンケート調査に取り掛かる。	アンケート項目を考える	60
24	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意をはらい、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
25	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意をはらい、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
26	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意をはらい、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
27	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	60
28	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	90
29	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	90
30	論文制作	第29回において、はじめに（序）の添削をおこなった結果を受けて、再度提出した内容の確認をする。以降、春休みを使って資料収集及び論文の制作に取り組み卒業研究Ⅱに向けて準備を整えていく。	序文の作成及び添削後の修正	90

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修
担当教員	長田 城治		
開講期	通年		
授業概要	建築に関連する歴史的な建物や都市、人、インテリアなどに関するテーマで卒業研究を行います。 2年次までに学んだ建築に関する知識を活かし、ゼミ内で実施する各種学外調査活動に参加することで、自身が興味ある卒業研究テーマを決定します。 具体的な課題を通して、研究方法やその進め方、各種分析の方法を学修し、論文の書き方を習得します。 また、実地課題では現地調査を実施し、調査研究能力だけでなく、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ることが重要です。 研究の進捗状況や課題に関して、適宜フィードバックを行い、修正・改善点などを示します。 位置づけ・水準：DS2361		
達成目標	①各種調査活動に参加し、自身が興味を持つテーマを設定する。 ②先行研究を整理し、自身のテーマの新規性を把握する。 研究テーマにおいて、自身の研究が「対象」・「視点」・「方法」のうち、どの部分が新しいのかを把握して、研究目的を執筆すること。 ③研究倫理を理解し、論文の書き方を習得すること。 単位認定の最低基準は、上記の①と②を遂行し、③の内容の7割を理解していること。 ディプロマポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	提出課題80％、作業姿勢や対応20％
教科書	資料を配布する。		
参考書	個々に指導する。		
学生への要望	積極的に調査活動をすすめること。関連する様々な論文を読破し、建築に関する問題意識を持つこと。		
オフィスタイム	通年：月曜日 9：10～10：30 木曜日 9：10～10：30 本館4F No.2 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業論文作成のための手引き1	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。（研究倫理教育） 1.論文とレポート・報告の違いについて 2.論文に必要な新規性を有すには 対象・視点・方法	指導内容を配布資料を用いて復習する	30
2	卒業論文作成のための手引き2	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。（研究倫理教育） 1.先行研究の探し方と要点の把握について	指導内容を配布資料を用いて復習する	60
3	卒業論文作成のための手引き3	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。（研究倫理教育） 1.文章の書き方について 2.資料の収集方法について	指導内容を配布資料を用いて復習する	60
4	実地課題1	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60
5	実地課題2	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	実地課題3	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査	120
7	実地課題4	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査	120
8	実地課題5	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	調査成果をまとめる	60
9	実地課題6	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	調査成果をまとめる	60
10	実地課題7	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査に関するレジュメとプレゼン資料作成	120
11	実地課題発表	機器を用いて実地課題をビジュアルに発表します。（研究倫理教育）	実地調査に関するレジュメとプレゼン資料作成	120
12	文献・史料課題1	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60
13	文献・史料課題2	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	外部施設で資料調査	120
14	文献・史料課題3	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	外部施設で資料調査	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	文献・史料課題4	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60
16	文献・史料課題5	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60
17	文献・史料課題6	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60
18	文献・史料課題7	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	レジュメとプレゼン資料作成	120
19	文献・資料課題発表	機器を用いて文献・資料課題をビジュアルに発表します。 (研究倫理教育)	レジュメとプレゼン資料作成	120
20	テーマ設定のための基礎調査1	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
21	テーマ設定のための基礎調査2	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
22	テーマ設定のための基礎調査3	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
23	テーマ設定のための基礎調査4	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
24	テーマ設定のための基礎調査5	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	レジュメとプレゼン資料作成	120
25	卒業論文テーマ発表	これまでの調査・検討内容を踏まえ、研究の目的と方法を明確にします。 これから行う卒業研究が対象・方法・視点のうち、どの点に新規性を有すのか、他の研究との比較を通して発表します。 (研究倫理教育)	レジュメとプレゼン資料作成	120
26	先行研究の整理と研究計画の決定1	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
27	先行研究の整理と研究計画の決定2	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
28	先行研究の整理と研究計画の決定3	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
29	先行研究の整理と研究計画の決定4	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
30	先行研究の整理と研究計画の決定5	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	通年			
授業概要	A. The number (ナンバリング) of this subject is DS2361. B. Instructor taught English at Koriyama Women's University Attached High School (郡山女子大学附属高等学校) for 19 years. 郡山開成学園の教員として高校に勤務していました。 C. Be an active learner who enthusiastically pursues growth and excellence. D. Express succinctly research themes and personal career information. E. Demonstrate comprehension of terminology specific to your career choice. F. Write terminology and career information in contemporary formats. G. Express clearly the results of your research in reports and presentations. H. Active learning is substantially utilized in numerous lessons. FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student but also the diversity of all of the students.			
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) pertaining with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers. 4. The minimum standard to receive 4 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, 4 skills in research, documents submitted, research reports and presentations. 5. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates (1) Ethical and social responsibility, and (2) Comprehensive learning experience and creative thinking ability. 6. Attain a higher level of learning through utilization of active learning and participation.			
受講資格	大3年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude (10%) 2. Demonstration of the Four Skills through Research (40%) 3. Documents, Research Reports and Presentations (50%)	
教科書	(none)			
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.			
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines. 2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own. 3. Be an active learner with very lofty goals. 4. Conduct and continue research on a daily basis. 5. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!			
オフィスタイム	Office hours are Monday and Wednesday 5th period (16:10 ~ 17:40), and by appointment, 創学館 4 F No.3 研究室.			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Guidance	Preliminary Guidance.	Preparation	120
2	Guidance	Second Guidance Session.	Preparation	90
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.	Preparation	120
4	Preliminary Research	Continued discussion of preliminary research.	Preparation	120
5	Defining Objectives	Define the objectives for the first semester of the year. Active learning.	Review	90
6	Defining Objectives	Define the objectives for the second semester of the year.	Preparation	120
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed.	Preparation	120
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed.	Preparation	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.	Preparation	120
10	Career Objectives	Continue to correlate research themes to career objectives. Active learning.	Review	90
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.	Prepare initial research report.	180
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.	Preparation	120
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and related themes.	Preparation	120
14	Career Parameters	Define additional in-depth career parameters and related themes. Write a detailed outline of personal career parameters.	Preparation	150
15	Report on Parameters	Write and the rough draft of report on career parameters. Active learning.	Prepare second research report.	120
16	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.	Preparation	120
17	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.	Preparation	120
18	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.	Preparation	120
19	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.	Preparation	120
20	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success. Active learning.	Preparation	120
21	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.	Preparation	90
22	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.	Prepare the third research report.	120
23	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.	Preparation	120
24	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.	Preparation	120
25	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice. Active learning.	Prepare fourth research report.	120
26	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.	Review	90
27	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.	Preparation	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	More Consultation on Final Research Report	Continue consultation with students on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Prepare final cumulative research report.	240
29	Final Report and Outline of Presentation	Submit the final research report to the instructor, and submit the outline of the final presentation for review by the instructor. Active learning.	Study, review and prepare for final presentation.	240
30	Final Research Report and Presentation Practice	Use the final cumulative research report to practice for the final presentation that includes decisive conclusions on the student's career choices. Active learning.	Review	90

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	近内 直美			
開講期	通年			
授業概要	大学での学修の総まとめとして、探究したいテーマをもとに卒論のテーマを決定していく。 適宜、学内・学外等における調査を行う。 毎回、自己学習の成果を発表し、学生同士や教員との質疑応答を通して学習を深めていく。 課題・レポート提出後、コメントや質疑応答によりフィードバックする。 地域包括支援センターの社会福祉士として勤務していた経験を活かし、ミクロ・メゾ・マクロレベルを意識し卒業研究を進める。 実務経験：郡山中央地域包括支援センター 位置づけ・水準 DS2361			
達成目標	①テーマに関する知識を習得する。 ②テーマに即した研究の手法を取得し、研究についてふさわしい手法を習得する。 ③研究計画検討する。 単位認定の最低基準は：「内容の8割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的な思考力			
受講資格	生活科学科学生	成績評価 方法	課題70%、経過報告・演習等の発表30%	
教科書	特に無し			
参考書	随時紹介			
学生への要望	・授業で学んだり、自己学習を通して気づいた社会福祉の課題について、国の施策や地方自治、住民の生活との関とその連性等を意識して下さい。 ・自主的に学習に取り組み、意欲的に発表を行いながら内容を深めてください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ時限・Ⅱ時限 創学館4階No6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究を進めるうえで必要な倫理や研究方法を知る。 ・倫理については、講義や論文作成の過程でも適宜確認を行っていく。 ・卒業研究の全体像をイメージし、方向性を検討する。 ・2回目以降も含め、自己学習による発表と授業における意見交換を行い、双方向性の授業を行う。	・卒業研究について、興味のある事柄を調べる	30
2	卒業研究のテーマ設定について 1	・卒業研究に関連した論文を読む。 ・学生が関心を持っているテーマについて関連した情報を得、知識を増やす。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
3	卒業研究のテーマ設定について 2	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
4	論文の書き方について 1	・文献などの探し方について学ぶ ・データの収集の仕方について学ぶ	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
5	論文の書き方について 2	・参考文献の活用について学ぶ ・データの活用について学ぶ	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
6	論文の書き方について 1	・参考文献を活用する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
7	論文の書き方について 2	・アンケート調査に関する基本的知識について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
8	論文の書き方について 3	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
9	論文の書き方について 4	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	論文の書き方について 5	・その他調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
11	テーマの検討 1	・論文のテーマを検討する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
12	テーマの策定 2	・論文のテーマを決定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
13	研究方法の策定	・研究テーマに沿った研究方法を策定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
14	研究計画書の作成 1	・研究計画を検討する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
15	研究計画書の作成 2	・研究計画を策定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
16	既往論文の研究 1	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
17	既往論文の研究 2	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
18	既往論文の研究3	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
19	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。 ・研究内容により学外での調査などの準備を進める	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
20	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。 ・研究内容により学外での調査などの準備を進める	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
21	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
22	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
23	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
24	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
25	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
26	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。 ・研究内容により学外での調査などを実施する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
27	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。 ・研究内容により学外での調査などを実施する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
28	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
29	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	研究の実施	・ 研究の中間評価を行い、改善点を見直す。	・ 自己学習を行う ・ 授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	佐藤 久美			
開講期	通年			
授業概要	本授業の前半では、研究倫理、学術論文の読み方、先行文献の検索方法等を学び、先行文献を調査する。その上で、本授業の後半では、データの収集と分析を行い、卒業論文のアウトラインを作成する。先行文献の調査を通して批判的思考を身につけ、受講生同士で議論することにより、コミュニケーション能力の向上を図る。先行文献の発表や、卒業論文のアウトライン等については、授業内で評価・添削し、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準：DS2361			
達成目標	① 先行文献を調査し、卒業研究テーマを明確にする。 ② 研究倫理とその重要性を理解する。 ③ 必要なデータの収集と分析をする。 ④ 卒業論文のアウトラインを作成する。 単位認定の最低基準は、上記内容の7割程度達成していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	相談により担当となった学生		成績評価 方法	先行文献の収集（20％） データ収集と分析（30％） 卒業論文のアウトライン（50％）
教科書	特になし			
参考書	適宜資料配布			
学生への要望	受講生同士で情報を共有し、活発に意見交換してください。			
オフィスタイム	毎週水曜 9：10～12：50、No.3研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業論文スケジュール	卒業論文提出までのスケジュールを確認する。	卒業研究として取り組みたいテーマについて考える。	90
2	卒業研究テーマの検討	卒業研究として取り組みたいテーマを共有し、受講生同士で意見交換をする。	授業で議論した内容を整理する。	90
3	研究倫理	研究倫理について学習する。	授業で学習した内容を復習する。	90
4	学術論文の読み方	学術論文の読み方及び論文の内容をノートにまとめる際のポイントについて学習する。	授業で学習した内容を復習する。	90
5	先行文献の検索方法	先行文献の検索方法について学習する。	先行文献を読み、発表資料を作成する。	90
6	先行文献の発表	閱讀した先行文献の内容を報告する。	先行文献を読み、発表資料を作成する。	90
7	先行文献の発表	閱讀した先行文献の内容を報告する。	先行文献を読み、発表資料を作成する。	90
8	先行文献の発表	閱讀した先行文献の内容を報告する。	先行文献を読み、発表資料を作成する。	90
9	先行文献の発表	閱讀した先行文献の内容を報告する。	先行文献を読み、発表資料を作成する。	90
10	先行文献の発表	閱讀した先行文献の内容を報告する。	先行文献を読み、発表資料を作成する。	90
11	先行文献の発表	閱讀した先行文献の内容を報告する。	先行文献を読み、発表資料を作成する。	90
12	先行文献の発表	閱讀した先行文献の内容を報告する。	先行文献を読み、発表資料を作成する。	90
13	先行文献の発表	閱讀した先行文献の内容を報告する。	卒業研究として取り組みたいテーマを決定する。	90
14	卒業研究テーマの決定	卒業研究のテーマを明確化し、データ収集の方法について検討する。	授業で学習した内容を復習する。	90
15	データ収集方法	データ収集の方法を決定する。	授業で学習した内容を復習する。	90
16	データ収集	必要なデータを各自収集する。	収集したデータを整理する。	90
17	データ収集	必要なデータを各自収集する。	収集したデータを整理する。	90
18	データ収集	必要なデータを各自収集する。	収集したデータを整理する。	90
19	データ収集	必要なデータを各自収集する。	収集したデータを整理する。	90
20	データ収集	必要なデータを各自収集する。	収集したデータを整理する。	90
21	データ分析	収集したデータを分析する。	収集したデータを整理する。	90
22	データ分析	収集したデータを分析する。	収集したデータを整理する。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	データ分析	収集したデータを分析する。	収集したデータを整理する。	90
24	データ分析	収集したデータを分析する。	収集したデータを整理する。	90
25	データ分析	収集したデータを分析する。	卒業論文の構成について考える。	90
26	卒業論文アウトラインの作成	卒業論文の構成を考え、アウトラインを作成する。	序論の流れについて考える。	90
27	序論アウトラインの作成	調査した先行文献を整理し、序論の流れを考える。	序論を執筆する。	90
28	「序論」執筆	序論を執筆する。	序論を執筆する。	90
29	「序論」執筆	序論を執筆する。	序論を執筆する。	90
30	「序論」執筆	序論を執筆する。	序論を執筆する。	90

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修
担当教員	藤村 励子		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究はこれまでの学びの集大成として位置づけられ、専門的知識や論理的思考力が求められる。本授業では4年次の卒業論文の完成に向けて、研究倫理、論文の構成と読み方、先行研究の調べ方を指導する。学生は毎回の授業に際して指定された内容の発表資料を作成することとし、コメントなどでフィードバックをしていく。学生同士で発表内容について議論し考察を深める。 位置づけ・水準：DS2361		
達成目標	①自らの課題意識を先行研究との比較を通して明確にする。 ②研究倫理と研究手法を学び、自らの課題解決に適した研究手法を選ぶ。 ③必要なデータの収集と分析をする。 ④卒業研究のアウトラインを完成させる。 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	相談により担当となった学生	成績評価 方法	達成目標の達成度の総合的評価 1. 課題意識の明確化：30％ 2. 先行研究の収集：20％ 3. データ収集と分析：30％ 4. 卒業論文の構成：20％
教科書	特になし		
参考書	随時紹介する。		
学生への要望	自ら考え自ら積極的に行動すること。毎回指定された内容について資料を作成し、発表すること。		
オフィスタイム	水曜Ⅰ、Ⅱ限 No.3研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	今後のスケジュールの確認と方向性について相談	今後のスケジュールを確認する。	90
2	研究倫理について	研究倫理ついて学ぶ。	学んだことを復習する。	90
3	論文の読み方	論文の構成と読み方を学ぶ。	学んだことを復習する。	90
4	論文の収集方法	論文の検索方法を学び、自らの課題意識に関連する先行研究を収集する。	学んだことを復習する。	90
5	先行研究の収集	先行研究を収集し、論文の内容を報告する。	先行研究の収集と発表資料の作成	90
6	先行研究の収集	先行研究を収集し、論文の内容を報告する。	先行研究の収集と発表資料の作成	90
7	先行研究の収集	先行研究を収集し、論文の内容を報告する。	先行研究の収集と発表資料の作成	90
8	先行研究の収集	先行研究を収集し、論文の内容を報告する。	先行研究の収集と発表資料の作成	90
9	先行研究の収集	先行研究を収集し、論文の内容を報告する。	先行研究の収集と発表資料の作成	90
10	先行研究の収集	先行研究を収集し、論文の内容を報告する。	先行研究の収集と発表資料の作成	90
11	先行研究の収集	先行研究を収集し、論文の内容を報告する。	先行研究の収集と発表資料の作成	90
12	先行研究の収集	先行研究を収集し、論文の内容を報告する。	先行研究の収集と発表資料の作成	90
13	課題意識の明確化	自身の課題意識と先行研究を比較し、卒業研究の位置づけを明確にする。	卒業研究のテーマ決定と発表資料の作成	90
14	テーマの設定	テーマを明確化し、データ収集に必要な手法を学ぶ。	卒業研究のテーマ決定と発表資料の作成	90
15	研究手法の決定	テーマを明確化し、データ収集に必要な手法を学ぶ。	卒業研究のテーマ決定と発表資料の作成	90
16	データ収集	必要なデータを各自収集する。	データ整理と発表資料の作成	90
17	データ収集	必要なデータを各自収集する。	データ整理と発表資料の作成	90
18	データ収集	必要なデータを各自収集する。	データ整理と発表資料の作成	90
19	データ収集	必要なデータを各自収集する。	データ整理と発表資料の作成	90
20	データ収集	必要なデータを各自収集する。	データ整理と発表資料の作成	90
21	データ分析	得られたデータを分析する。	データ分析と発表資料の作成	90
22	データ分析	得られたデータを分析する。	データ分析と発表資料の作成	90
23	データ分析	得られたデータを分析する。	データ分析と発表資料の作成	90
24	データ分析	得られたデータを分析する。	データ分析と発表資料の作成	90
25	データ分析	得られたデータを分析する。	データ分析と発表資料の作成	90
26	論文の執筆	卒業論文の構成を考える。	発表資料の作成	90
27	論文の執筆	卒業論文の構成を考える。	発表資料の作成	90
28	論文の執筆	卒業論文の構成を考える。	発表資料の作成	90
29	論文の執筆	卒業論文の構成を考える。	発表資料の作成	90
30	論文の執筆	卒業論文の構成を考える。	発表資料の作成	90

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	藤田 京子			
開講期	通年			
授業概要	大学での学修の総まとめとして、自らの興味関心や学修を通して感じた疑問を明らかにし、卒論のテーマを決定していく。 課題・レポート提出後、コメントや質疑応答によりフィードバックする。 医療職としての経験を活かしながら社会福祉に関する研究や調査について授業を行う。 歴：総合病院に看護師として勤務。 位置づけ・水準 DS2361 実務経験： 実務経			
達成目標	①研究課題を決定し、その目的を明らかにする。 ②研究の目的に沿った研究計画を作成する。 ③テーマに即した研究手法を習得する。 単位認定の最低基準：テーマに関する基礎的知識を7割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的な思考力			
受講資格	生活科学科学生	成績評価 方法	課題70%、経過報告・演習等の発表30%	
教科書	特に無し			
参考書	随時紹介			
学生への要望	・社会福祉についての関係資料や先行研究に関心を持ち、課題に気づく。 ・自主的に学習に取り組み、意欲的に発表を行いながら内容を深める。			
オフィスタイム	前期・後期：木・金曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4階No2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究の意義、倫理や研究方法について学ぶ。 ・卒業研究の全体像をイメージし、方向性を検討する。 ・随時、自己学習による発表と意見交換を行う。	・卒業研究について、興味のある事柄を調べる	30
2	卒業研究のテーマ設定について1	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
3	卒業研究のテーマ設定について2	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
4	卒業研究のテーマ設定について3	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
5	卒業研究のテーマ設定について4	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
6	卒業研究のテーマ設定について5	・文献などの探し方について学ぶ ・データの収集の仕方について学ぶ	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
7	卒業研究のテーマ設定について6	・参考文献の活用について学ぶ ・データの活用について学ぶ	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
8	論文の書き方について1	・参考文献を活用する。	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
9	論文の書き方について2	・参考文献を活用する。	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
10	論文の書き方について3	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60
11	論文の書き方について4	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・調べたことを発表できるように準備する	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	論文の書き方について 5	・ 其他調査の方法について学ぶ。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
13	テーマの検討 1	・ 論文のテーマを検討する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
14	テーマの策定 2	・ 論文のテーマを検討する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
15	テーマの策定 3	・ 論文のテーマを検討する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
16	テーマの策定 4	・ 論文のテーマを決定する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
17	研究方法の策定	・ 研究テーマに沿った研究方法を策定する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
18	研究計画書の作成 1	・ 研究計画を検討する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
19	研究計画書の作成 2	・ 研究計画を策定する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
20	資料の収集と分析1	・ 既往論文、先行研究について研究する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
21	資料の収集と分析2	・ 既往論文、先行研究について研究する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
22	資料の収集と分析3	・ 既往論文、先行研究について研究する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
23	資料の収集と分析4	・ 既往論文、先行研究について研究する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
24	資料の収集と分析5	・ 既往論文、先行研究について研究する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
25	研究の実施	・ 卒論執筆のための研究をすすめる。 ・ 研究内容によってが学外での調査を実施する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
26	研究の実施	・ 卒論執筆のための研究をすすめる。 ・ 研究内容によってが学外での調査を実施する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
27	研究の実施	・ 卒論執筆のための研究をすすめる。 ・ 研究内容によってが学外での調査を実施する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
28	研究の実施	・ 卒論執筆のための研究をすすめる。 ・ 研究内容によってが学外での調査を実施する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
29	研究の実施	・ 卒論執筆のための研究をすすめる。 ・ 調査内容をまとめ発表できるように準備する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60
30	研究の実施	・ 卒論執筆のための研究をすすめる。 ・ 調査内容をまとめ発表できるように準備する。	・ 自己学習を行う ・ 調べたことを発表できるように準備する	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修
担当教員	高橋 真里		
開講期	通年		
授業概要	これまでに学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、研究テーマを指導教員と相談の上決定し、自主的に実験・調査を行い、論文としてまとめる基礎力を修得する。レポートは添削・返却しコメントによるフィードバックを行います。 位置付け・水準 HL2351 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務。その経験を活かし、授業を行う。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務		
達成目標	単位認定の最低基準は、「卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了し、指導内容の7割を理解していること」。 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」		
受講資格	建築デザイン専攻 3年 社会福祉専攻 3年	成績評価 方法	①自主性・積極性などの取り組む姿勢50% ②研究報告・発表50%
教科書	適宜、資料配付		
参考書	適宜、紹介する。		
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。		
オフィスタイム	月曜日8:50～12:00、水曜日14:30～16:00 家政学館 4 階 生活科学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究に関する概論。 研究テーマの設定についての方向性を明確にする。	卒業研究を進める	60
2	テーマ設定に向けて（1）	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める	60
3	テーマ設定に向けて（2）	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める	60
4	研究テーマ決定	研究テーマの背景と目的を明確にし、卒研究テーマ（仮）を決定する。	卒業研究を進める	60
5	論文の書き方について（1）	卒業論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める	60
6	論文の書き方について（2）	卒業論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める	60
7	論文の書き方について（3）	梗概集等の論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める	60
8	既往論文の研究（1）	研究テーマにおける既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める	60
9	既往論文の研究（2）	継続して、既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める	60
10	既往論文の研究（3）	継続して、既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める	60
11	研究倫理について	研究倫理について、研究上の注意点について確認する。	卒業研究を進める	60
12	研究方法について（1）	研究テーマに沿って、既往研究の研究方法について研究する。	卒業研究を進める	60
13	研究方法について（2）	継続して、研究テーマに沿った既往研究の研究方法について研究する。	卒業研究を進める	60
14	研究方法について（3）	研究テーマにおける、研究方法を決定する。	卒業研究を進める	60
15	研究計画（1）	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。	卒業研究を進める	60
16	研究計画（2）	継続して、研究テーマに沿った研究計画を策定する。	卒業研究を進める	60
17	研究計画（3）	策定した研究計画の妥当性を検討する。	卒業研究を進める	60
18	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を開始する。	卒業研究を進める	60
19	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
21	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
22	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
23	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
24	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
25	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
26	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
27	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
28	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
29	プレゼンテーション	これまでの、実験及び調査研究結果について、プレゼンテーションを行い、討論する。	卒業研究を進める	60
30	実験及び調査研究の評価	卒業研究！全般の、研究結果を評価し、改善等を加える。	卒業研究を進める	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修	
担当教員	大泉 由美			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。 ・私立高等学校での教員経験を生かし、生活経営的視点から課題解決に向けた応用力を養う。 ・課題発見及び問題解決に関わるレポート等に対して、添削、返却し、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準：HL 2 3 5 1			
達成目標	①明確にしたい、または解決したい問題などをとりあげ、研究テーマを決めたか。 ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。 最低基準は、内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力 ・単位認定の			
受講資格	3年生	成績評価 方法	①課題への取り組む姿勢（自主性・積極性）50％ ②研究報告・発表50％	
教科書	必要に応じて資料を配付します			
参考書	授業内で随時紹介します			
学生への要望	1. 主体性を持って参加すること 2. 途中経過を報告すること			
オフィスタイム	水曜Ⅰ・Ⅱ限（家政学館4階 被服学研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 卒業研究の意義、進め方について 2. 今後のスケジュールの検討	課題を見つける	60
2	卒業論文の書き方（1）	・研究林立につての説明 ・卒業論文の書き方についての解説	課題を見つける	60
3	卒業論文の書き方（2）	・文献の探し方、データの収集について	課題を見つける	60
4	卒業論文の書き方（3）	・参考文献の活用方法（1）	課題を見つける	60
5	卒業論文の書き方（4）	・参考文献の活用方法（2）、データのまとめ方	課題を見つける	60
6	研究テーマ設定（1）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
7	研究テーマ設定（2）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
8	研究テーマ設定（3）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
9	研究テーマ設定（4）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
10	研究テーマ設定（5）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
11	論文作成方法を学ぶ（1）	文献調査による調査方法を知る	文献研究方法について関連研究を調べる	60
12	論文作成方法を学ぶ（2）	データ分析による調査方法を知る	データ分析方法について関連研究を調べる	60
13	論文作成方法を学ぶ（3）	質問紙・関係者へのインタビュー方法を知る	質問紙・関係者インタビュー方法についての関連研究を調べる	60
14	論文作成方法を学ぶ（4）	調査方法を選定し、進め方を検討する	論文作成についてまとめる	60
15	中間まとめ	1. 研究テーマの仮報告 2. スケジュール確認	論文作成についてまとめる	60
16	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定	論文作成についてまとめる	60
17	資料収集・分析（1）	1. 資料収集 2. 資料分析	収集資料の整理と分析	60
18	資料収集・分析（2）	1. 資料収集 2. 資料分析	収集資料の整理と分析	60
19	資料収集・分析（3）	1. 資料収集 2. 資料分析	収集資料の整理と分析	60
20	資料収集・分析（4）	1. 資料収集 2. 資料分析	収集資料の整理と分析	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	資料収集・分析（５）	1. 資料収集 2. 資料分析 3. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
22	資料収集・分析（６）	1. 資料収集 2. 資料分析 3. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
23	資料収集・分析（７）	1. 資料収集 2. 資料分析 3. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
24	資料収集・分析（８）	1. 資料収集 2. 資料分析 3. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
25	資料収集・分析（９）	資料収集（１）～（８）の収集・分析から、論文タイトルを考える	収集資料の整理と分析	60
26	論文制作	1. 執筆のルール 2. 文章表現法	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍 7 冊以上に目を通す	60
27	論文制作	1. 執筆のルール 2. 文章表現法	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍 7 冊以上に目を通す	60
28	論文制作	1. 執筆のルール 2. 文章表現法	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍 7 冊以上に目を通す	60
29	中間報告（１）	1. 論文執筆状況の報告 2. 今後のスケジュール	資料収集及び論文の制作に取り組み、卒業研究Ⅱに向けて準備をすすめる	60
30	中間報告（２）	1. 中間報告 2. 研究スケジュールの検討	資料収集及び論文の制作に取り組み、卒業研究Ⅱに向けて準備をすすめる	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究Ⅰで決定した研究テーマについて、これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、自主的に実験・調査研究を行い、論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う。研究指導、論文指導では提出したレポート並びに論文について添削しコメントによるフィードバックを行います。また、大学で学んだことの集大成であるとともに、実社会での仕事の基礎となる部分も多いので、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。 位置付け・水準 HL2452			
達成目標	単位認定の最低基準は、「卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了し、指導内容の7割を理解していること」。 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース 4 年	成績評価 方法	毎週のレポート提出60％、調査、分析の進行状態20％、研究の完成度20。	
教科書	特に用いない。			
参考書	テーマに沿って随時紹介する。			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイム	前期：水曜日14:30～16:00 後期：木曜日14:30～16:00 山形：本館3F No.1 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	最終学年に向けて、卒業研究の意義を再確認し、卒業研究Ⅰでの進捗状況の発表を行う	テーマに沿って研究を進める。	60
2	研究計画の妥当性	卒業研究Ⅰでの研究計画について、その妥当性を再検討する。	検討結果を再整理する。	60
3	研究倫理について	研究倫理について、卒業研究Ⅰで確認した研究上の注意点について、学生の研究テーマに沿って再確認する。	再確認した内容を整理する。	60
4	論文構成（1）	論文作成に向けて、論文構成を行う。	卒業研究を進める。	60
5	論文構成（2）	論文構成の妥当性を確認する。	卒業研究を進める。	60
6	実験・調査の継続（1）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
7	実験・調査の継続（2）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
8	実験・調査の継続（3）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
9	実験・調査の継続（4）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
10	実験・調査の継続（5）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
11	実験・調査の継続（6）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
12	実験・調査の継続（7）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
13	実験・調査の継続（8）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
14	実験・調査の継続（9）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
15	中間発表の準備（1）	中間発表に向けて、研究成果の確認と発表準備。	プレゼンテーション準備をする。	90
16	中間発表の準備（2）	プレゼンテーション用の構成を行う。	プレゼンテーション準備をする。	90
17	中間発表の準備（3）	プレゼンテーション内容の確認を行う。	プレゼンテーション準備をする。	90
18	中間発表の準備（4）	中間発表の練習。	プレゼンテーション内容を再確認する。	90
19	実験・調査内容の再確認	中間発表での指摘及び指導に対して、今後の研究内容の追加等について確認する。	卒業研究を進める。	60
20	実験・調査の継続（10）	追加実験及び調査研究の確認を踏まえて、実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
21	実験・調査の継続（11）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
22	実験・調査の継続（12）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
23	実験・調査の継続（13）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
24	実験・調査の継続（14）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
25	実験・調査の継続（15）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
26	プレゼンテーション	実験・調査結果のプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション結果を論文に反映させる。	90
27	論文の仮提出	卒業研究論文の仮提出。	指摘された内容を再確認する。	60
28	本発表の準備	卒業研究本発表に向けた、発表内容の確認を行う。	本発表練習をする。	60
29	本発表の準備	本発表と論文の仮提出を行う。	本発表練習をする。	90
30	論文提出	卒業研究論文の提出。	本論の内容を再確認する。	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	研究テーマに関する疑問に対して、調査を実施し考察することで自らの答えを導き出す。 課題や実施報告を元にグループディスカッションを行い、その都度口頭や添削によるフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに社会福祉の課題に対して卒業研究指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DS2462			
達成目標	研究テーマに対しての答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得すること。 1. 研究計画にそってデータを収集し調査、分析を行う。 2. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成する。 単位認定の最低基準：研究の意義と倫理について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	課題70%、発表30%	
教科書	随時、印刷物の配布			
参考書	授業内で適宜紹介する			
学生への要望	諦めないで、研究をやり遂げること。			
オフィスタイム	・火曜日Ⅴ時限 ・水曜日Ⅰ時限 創学館4階 No.2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	調査依頼及び集計	研究倫理教育（調査計画、情報収集等において不備がないか点検する） 調査結果の集計	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
2	調査依頼及び集計	調査結果の集計	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
3	学外調査	調査結果について学外調査実施場所に確認	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
4	学外調査	調査結果について学外調査実施場所に確認	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
5	調査内容のまとめ及び考察	調査結果について文章化する。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
6	調査内容のまとめ及び考察	調査結果について文章化する。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
7	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
8	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
9	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
10	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察を完成させる。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
11	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察を完成させる。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
12	引用文献	引用文献について整理をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
13	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、特徴を確認する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
14	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、抱えている課題について確認する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
15	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
16	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
17	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
18	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
20	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
21	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
22	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
23	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
24	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
25	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
26	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
27	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
28	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
29	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
30	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	山本 裕詞			
開講期	通年			
授業概要	自らの課題意識をもとに調査研究を進め、論理実証的に結論を導き出し、卒業論文にまとめる。学生は、個別指導の際に、自らの課題に対する調査研究結果を発表し、それに対する小職からの講評を受け、議論を交えた上で、次回の個別指導までの課題内容をフィードバックする。すなわち、学習活動全体が広義のアクティブ・ラーニングになる。 なお、研究の必要に応じて、中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。 実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。発達障害者教育の教員としてはフリースクール飛翔中等部等で勤務。 位置付け・水準 HL2452			
達成目標	1. 自らの課題意識を、先行研究との関係で位置付ける。 2. 論理実証的手法を用いて考察を深める。 3. 中間報告、最終報告を通して、伝える技術を経験的に学ぶ。 4. 卒業論文を、論文執筆の作法に従って作成することで、自律的研究能力の基礎を培う。 単位認定の最低基準は、上記1～4の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力			
受講資格	相談により担当となった学生	成績評価 方法	達成目標の達成度の総合的評価 内訳：1. 研究の位置づけ 20％ 2. 論理実証性 30％ 3. 中間報告、最終報告 20％ 4. 論文の完成度 30％	
教科書	特になし。			
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会 2002年			
学生への要望	主体的に取り組むこと。			
オフィスタイム	前期、後期とも、学生のみなさんと相談して決定します。(時間割未決定時の仮設定：月曜日1, 2時限) 場所：教職課程推進室1(図書館3F) そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマの確定と仮の章立て	各自が卒業研究Ⅰでの学習を下地にテーマを確定するとともに、仮の章構成を考える。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
2	仮の章構成を基にした研究計画を作成 1	前回の授業で行った仮の章構成をもとに、「はじめに」と「おわりに」の文章を作成し発表する。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
3	仮の章構成を基にした研究計画を作成 2	仮の章構成、「はじめに」、「おわりに」をもとに、研究計画を作成し、説明する。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
4	仮の章構成を基にした研究計画を作成 3	前回の討議と修正を基に章立てを完成させ、研究計画を説明する。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
5	計画にそった研究の実施と経過報告 1	研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
6	計画にそった研究の実施と経過報告 2	研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
7	計画にそった研究の実施と経過報告 3	研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
8	計画にそった研究の実施と経過報告 4	研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。討論と修正。	発表用レポート作成	180
9	中間発表の作成 1	中間発表に向けて発表資料を作成し、発表内容を言語化する。それによって、達成されつつある研究目的と、残されている課題とを特定する。討論と修正。	中間発表資料と発表原稿の作成。	180
10	中間発表の作成 2	中間発表に向けて発表資料を作成し、発表内容を言語化する。それによって、達成されつつある研究目的と、残されている課題とを特定する。討論と修正。	中間発表資料と発表原稿の作成。	180
11	中間発表の作成 3	中間発表に向けて発表資料を作成し、発表内容を言語化する。それによって、達成されつつある研究目的と、残されている課題とを特定する。討論と修正。	想定問答原稿の準備。	180
12	研究計画の修正 1	中間発表の反省を踏まえ、研究計画の修正を行う。修正が必要ないときは、当初の研究計画通りに研究を進める。	発表用レポートの作成	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	研究計画の修正 2	中間発表の反省を踏まえ、研究計画の修正を行う。修正が必要ないときは、当初の研究計画通りに研究を進める。	発表用レポートの作成	180
14	計画にそった研究の実施と経過 報告 1	研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
15	計画にそった研究の実施と経過 報告 2	研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。討論と修正。	発表用レポートの作成	180
16	計画にそった研究の実施と経過 報告 3	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。討論と修正。	論文執筆	180
17	計画にそった研究の実施と経過 報告 4	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。討論と修正。	論文執筆	180
18	計画にそった研究の実施と経過 報告 5	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	論文執筆	180
19	計画にそった研究の実施と経過 報告 6	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	論文執筆	180
20	計画にそった研究の実施と経過 報告 7	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	論文執筆	180
21	計画にそった研究の実施と経過 報告 8	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	論文執筆	180
22	最終発表の作成 1	学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。	最終発表の作成	180
23	最終発表の作成 2	学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。	最終発表の作成	180
24	最終発表の作成 3	学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。	最終発表の作成	180
25	最終発表の作成 4	学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。	最終発表の作成	180
26	最終発表の作成 5	学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。	最終発表の作成	180
27	最終発表の作成 6	学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。	最終発表の作成	180
28	卒業論文の仕上げ1	学生は卒業論文を完成させる。残された課題について、説明する。	論文執筆	180
29	卒業論文の仕上げ2	学生は卒業論文を完成させる。残された課題について、説明する。	論文執筆	180
30	卒業論文の仕上げ3	卒業論文を完成させる。学生は、最終発表原稿を作成し、発表練習を行う。	論文完成、提出	180

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	安田 純子			
開講期	通年			
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していきます。探究することのおもしろさを知って研究を進めます。 論文の添削等を通して全体に対するフィードバックを行います。そして、論文の全体を確認して提出します。 位置づけ・水準 HL2452			
達成目標	目標は 各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方を学び、発表できるようにし、また、文章で表現できるように仕上げていくこと。 単位認定の最低基準は、自分の研究について発表し、文章で表現して論文に仕上げ,8割以上の完成度を求める。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力			
受講資格	家政学部 人間生活学科 4年	成績評価 方法	研究過程（態度・発表準備等）（60％）、発表（10％）、研究論文等まとめ（30％）	
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）			
参考書	各自その都度必要な文献			
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。			
オフィスタイム	前期：月曜日と木曜日の13:00~16:30 後期：水曜日と金曜日の13:00~16:30 創学館No. 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す	テーマを見つける	30
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方	資料の探しかたになれる。	30
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し	テーマを見つける	30
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方	必要な資料の探し・集めをやる。	30
5	資料集め	資料を集める	資料を集める	300
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り	資料を読み取る	300
7	必要資料集め	再び不足資料を探す	不足資料を探す	60
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	90
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。	論文構想の大枠を考える。	60
10	論文構想②	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
11	論文構想③	書ける論文のための骨組みの決定	書ける論文のための骨組みの決定する。	60
12	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成①	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
13	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成②	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
14	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成③	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
15	プレゼンテーションのために	プレゼンの練習	プレゼンの練習をする。	30
16	プレゼンテーションのために	プレゼンの練習	プレゼンの練習をする。	30
17	論文要旨集	論文要旨集作成	論文要旨集作成を作成する。	60
18	論文執筆①	論文の書き方	論文の書き方を復習する。	60
19	論文執筆②	論文執筆	論文を執筆する。	240
20	論文執筆③	論文執筆	論文を執筆する。	240
21	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
22	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
23	追加資料集め	足りない資料など	足りない資料などを集める。	60
24	追加資料集め	足りない資料など	足りない資料などを集める。	60
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
28	論文のまとめ	まとめと確認	まとめと確認をする。	60
29	論文提出用作成	提出原稿と体裁	体裁を整え提出原稿の仕上げをする。	120
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ	全体を見直し論文を提出する。	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	小林 徹			
開講期	通年			
授業概要	この卒業研究では、子どもの生活や成長に関わる種々の問題を扱う。具体的には、障がい児や支援の必要な子どもへの対応、虐待や家庭内暴力などの問題について、文献研究やフィールドワーク、アンケート調査等によって、理解を深める。3年次の卒業研究Ⅰでは、メンバー全員そろってのフィールドワークと文献購読を行い、4年次の卒業研究Ⅱでは、研究論文の執筆に向けた研究を行う。授業ではアクティブ・ラーニングを意識したメンバーによるグループディスカッションを行う。その後は研究倫理を十分に踏まえた研究論文の執筆を進めて、その都度、成果物についてフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2462			
達成目標	1. 自分の関心に基づき、メンバーとのディスカッションを経て、魅力ある研究テーマを設定できたか。 2. 積極的にフィールドワークや文献研究等に取り組むことができたか。 3. 卒業研究発表会等でメンバーと協力して準備し、積極的に発表できたか。 4. 年間を通して研究に真摯に取り組み、論文をまとめることができたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が実行できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科社会福祉専攻4年	成績評価 方法	平常点（研究態度、議論への参加）60％ 展示、発表、研究成果40％	
教科書	授業内で例示する。			
参考書	授業内で例示する。			
学生への要望	授業を休まず、予復習も怠らない、やる気のある学生の履修を希望する。			
オフィスタイム	毎週水曜日9：10～12：00、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	卒業研究の位置づけ、研究方法の指導、年間予定の確認	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
2	オリエンテーション	卒業研究の位置づけ、研究方法の指導、年間予定の確認	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
3	研究テーマの検討1	自分の研究テーマについての再検討をするとともに、3年生の研究テーマの選定に協力する。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
4	研究テーマの検討1	自分の研究テーマについての再検討をするとともに、3年生の研究テーマの選定に協力する。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
5	研究テーマの検討2	自分の研究テーマについての再検討をするとともに、3年生の研究テーマの選定に協力する。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
6	研究テーマの検討2	自分の研究テーマについての再検討をするとともに、3年生の研究テーマの選定に協力する。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
7	研究テーマの検討3	自分の研究テーマについての再検討をするとともに、3年生の研究テーマの選定に協力する。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
8	研究テーマの検討3	自分の研究テーマについての再検討をするとともに、3年生の研究テーマの選定に協力する。	事前：研究テーマの確認 事後：内容の振り返り	30
9	研究テーマの決定1	自分の研究テーマを確定し、3年生の研究テーマについても決定を支援する。	事前：研究テーマの最終確認 事後：内容の振り返り	30
10	研究テーマの決定1	自分の研究テーマを確定し、3年生の研究テーマについても決定を支援する。	事前：研究テーマの最終確認 事後：内容の振り返り	30
11	研究テーマの決定2	自分の研究テーマを確定し、3年生の研究テーマについても決定を支援する。	事前：研究テーマの最終確認 事後：内容の振り返り	30
12	研究テーマの決定2	自分の研究テーマを確定し、3年生の研究テーマについても決定を支援する。	事前：研究テーマの最終確認 事後：内容の振り返り	30
13	研究方法の検討1	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。研究方法を検討し、資料や参考書を持ち寄る。	事前：研究方法の確認 事後：内容の振り返り	30
14	研究方法の検討1	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。研究方法を検討し、資料や参考書を持ち寄る。	事前：研究方法の確認 事後：内容の振り返り	30
15	研究方法の検討2	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。研究方法を検討し、資料や参考書を持ち寄る。	事前：研究方法の確認 事後：内容の振り返り	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	研究方法の検討2	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。研究方法を検討し、資料や参考書を持ち寄る。	事前：研究方法の確認 事後：内容の振り返り	30
17	文献研究・発表・討議 1	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
18	文献研究・発表・討議 1	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
19	文献研究・発表・討議2	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
20	文献研究・発表・討議2	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
21	文献研究・発表・討議3	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
22	文献研究・発表・討議3	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
23	文献研究・発表・討議4	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
24	文献研究・発表・討議4	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
25	文献研究・発表・討議5	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
26	文献研究・発表・討議5	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
27	文献研究・発表・討議6	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
28	文献研究・発表・討議6	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
29	文献研究・発表・討議7	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
30	文献研究・発表・討議7	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
31	文献研究・発表・討議8	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
32	文献研究・発表・討議8	資料等を読み込み、発表と討議を行う。	事前：発表準備 事後：内容の振り返り	30
33	研究活動 1	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
34	研究活動 1	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
35	研究活動 2	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
36	研究活動 2	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
37	研究活動3	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
38	研究活動3	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
39	研究活動4	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
40	研究活動4	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
41	研究活動5	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
42	研究活動5	卒研中間発表に向けて構想を練る。教員とメンバーとグループディスカッション	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
43	中間発表	卒研中間発表会において発表する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
44	中間発表	卒研中間発表会において発表する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
45	論文執筆の準備	研究論文の構成を考える。研究倫理の説明。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
46	論文執筆の準備	研究論文の構成を考える。研究倫理の説明。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
47	論文執筆作業1 論文提出方法	研究結果の整理と考察。発表用原稿・作品の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。論文のフォーマットを知る。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
48	論文執筆作業1 論文提出方法	研究結果の整理と考察。発表用原稿・作品の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。論文のフォーマットを知る。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
49	論文執筆作業2	研究結果の整理と考察。研究発表に向けて、発表（プレゼンテーション）の準備をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
50	論文執筆作業2	研究結果の整理と考察。研究発表に向けて、発表（プレゼンテーション）の準備をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
51	論文執筆作業3	研究結果の整理と考察 発表用原稿の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
52	論文執筆作業3	研究結果の整理と考察 発表用原稿の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
53	卒業研究発表の練習	発表用原稿を準備し、発表の練習をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
54	卒業研究発表の練習	発表用原稿を準備し、発表の練習をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
55	卒業研究発表会	卒業研究の完成と成果発表	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
56	卒業研究発表会	卒業研究の完成と成果発表	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
57	研究まとめ1	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。①	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
58	研究まとめ1	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。①	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
59	研究まとめ2	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。②	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと1年間の反省	30
60	研究まとめ2	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。②	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと1年間の反省	30

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	通年			
授業概要	研究の意義及び目的意識を明確に、4年間の集大成としての論文をまとめることで文章力・分析力を養う。 レポート及び論文を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DS2462			
達成目標	単位認定の最低基準は以下に示す①～③について、7割達成していること。 ①研究テーマについて、深い知識と論理的思考力を身に付ける。 ②問題解決のために、ものの見方・考え方を深める。 ③論文作成にあたり、文章力・分析力を養う。 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力・問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験・創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース4年生	成績評価 方法	①取り組む姿勢20％ ②研究報告・発表30％ ③論文の完成度50％	
教科書	適宜、資料を提示する。			
参考書	テーマに沿った参考書をその都度提示する。			
学生への要望	先行研究をしっかりと読み、主体的・積極的な姿勢で取り組むこと。			
オフィスタイム	家政学館4階 生活科学研究室 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：30～12：00） 木曜Ⅰ時限（8：30～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	春季期間の研究経過報告	春季期間の研究経過を確認し、研究テーマ、研究方法、章立て等について再検討する。	研究テーマ、研究方法、章立てについて再検討する。	60
2	論文の文体について	論文の文体について、接続詞の使い方等の論文の文体について解説する。グラフや表の表現方法について、再確認する。	論文の文体、グラフや表の表現方法について整理する。	60
3	研究データ整理 1	研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
4	研究データ整理 2	引き続き、研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
5	研究データ整理 3	引き続き、研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
6	研究データ整理 4	中間発表に向けて表やグラフ、写真を整理する。	研究データの整理をする。	60
7	研究データ整理 5	引き続き、中間発表に向けて表やグラフ、写真を整理する。	研究データの整理をする。	60
8	論文執筆 1	論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
9	論文執筆 2	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
10	論文執筆 3	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
11	論文執筆 4	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
12	論文執筆 5	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
13	論文執筆 6	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
14	中間発表準備	研究成果の確認と発表に向けての準備を行う。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
15	プレゼンテーションの練習 1	中間発表に向けてプレゼンテーションのテクニックをマスターする。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
16	プレゼンテーションの練習 2	引き続き、中間発表に向けてプレゼンテーションのテクニックをマスターする。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
17	論文執筆 7	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
18	論文執筆 8	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
19	論文執筆 9	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
20	論文執筆 1 0	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
21	論文執筆 1 1	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
22	論文執筆 1 2	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
23	論文執筆 1 3	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
24	論文執筆 1 4	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
25	本発表の準備	本発表の内容と研究成果を確認し、本発表の準備を進める。	本発表に向けて、パワーポイントを作成する。	360
26	プレゼンテーションの練習 3	本発表に向けてプレゼンテーションの準備を進める。	本発表に向けて、パワーポイントを作成する。	360

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	プレゼンテーションの練習 4	本発表に向けてプレゼンテーションを実施する。	本発表に向けて、プレゼンテーションの練習をする。	360
28	本発表	研究テーマについての研究成果を発表する。	本発表に向けてプレゼンテーションの練習をする。	360
29	論文仮提出	執筆した論文を仮提出する。	論文を見直し、誤字・脱字を訂正する。	180
30	論文完成	研究発表後、論文の加筆修正を行い、製本する。	論文を修正する。	300

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	瀬谷 真理子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 卒業研究は、大学での学修の集大成として総合的に学問をみつめ、そこから、新たに創意工夫しようとする自主的な取り組みが出来るようにすることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 3年次の進捗状況から、更に調査分析を進め、中間発表の手法を学ぶ。また、本発表に向けての発表手法や論文の完成を目指す。 コメント等によるフィードバックを行う。さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な指導を行う。 〔実務経歴〕福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	[到達目標] ①論文構成を理解し、論文を完成させる。 ②PCを活用しての発表方法を学ぶ。 ③発表原稿の作成を通して、表現する力を身につける。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考			
受講資格	上記対象学生	成績評価 方法	①主体的な取り組み状況30％ ②中間・本発表状況 30％ ③論文の完成度 40％ ①～③の総合評価60％以上で合格とする。	
教科書	特になし。論文課題に対応し資料配布。			
参考書	随時紹介。			
学生への要望	論文制作は、主体的な取り組みが重要となる。決められた日程問わず、常に前向きに取り組み、理解が困難な場合などは、次週にまわさず進んで質問できるように努力する。			
オフィスタイム	家政学館4F 被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	論文制作	3年次の資料収集及び分析調査結果を踏まえ、論文の作成方法を学ぶ。	3年次の卒業研究指導内容の確認	90
2	論文制作	論文の章立てを行い、執筆をスタートさせる。	調査分析	90
3	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析	90
4	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析	90
5	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析論文執筆	90
6	論文制作	執筆した内容を提出し添削。執筆指導後、執筆を進める。	添削等修正し論文執筆	90
7	論文制作	執筆を進める。随時添削。	論文執筆	90
8	論文制作	途中経過報告会及び討論会	途中経過報告準備及び修正	90
9	論文制作	執筆を進める	論文執筆	90
10	論文制作	執筆を進める	論文執筆	90
11	論文制作	執筆を進める	論文執筆	90
12	論文制作	執筆を進める	論文執筆	90
13	論文制作	執筆を進める	論文執筆	90
14	中間報告の内容を決める	中間報告会での報告内容を決めて発表原稿作成を始める。	中間報告内容の検討	120
15	中間報告の準備	提出した発表原稿の指導内容をもとに、修正後提出	再度作成。添削後修正する。	120
16	中間報告の準備	目的、方法、結果（途中経過）の記入方法を学ぶ、要旨の作成を行う。	目的、方法、結果を記入する。要旨の添削指導を受け、加除修正する。	120
17	中間発表の準備	タイトル及びサブタイトルの決定。中間報告の原稿及びPP準備。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
18	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。原稿の提出及び添削、修正。来週完成を目指す。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
19	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。ゼミ生同士で発表の練習を行い、より良い発表方法を学んでいく。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
20	発表終了後の反省報告会	中間発表会を終えて、今後の進め方や反省などを学生及び教員間で確認をする。	内容の修正とまとめ	90
21	論文制作	中間発表会での指摘や指導やアドバイスを受けて、論文修正などを行っていく。	論文執筆	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	論文制作	12月上旬をめどに、論文の完成を目指す。	論文執筆	120
23	論文制作	各章ごとに、論文執筆状況を提出し確認を受ける。	添削等修正し論文執筆	120
24	論文制作	論文執筆状況を提出確認完了後、修正に入る。	添削等修正し論文執筆	120
25	論文制作	論文執筆状況を提出確認完了後、修正に入る。	添削等修正し論文執筆	120
26	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の制作方法を学び、目的・方法・結果に分けて記入する（提出添削）	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
27	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨集原稿の完成を目指す。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
28	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
29	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
30	論文制作	論文提出方法を学ぶ。	最終確認	90

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築に関連する歴史的な建物や都市、人、インテリアなどに関するテーマで卒業研究を行います。 研究の意義や目的意識をしっかりと持ち、4年間の集大成としての論文をまとめることにより文章力や分析力を養い、地域の課題などを解決する能力を身に付けることを目的とします。 研究テーマによっては現地に訪れることを推奨し、建物実測調査や聞き取り調査、資料調査などを実施して研究成果をまとめ、調査研究能力だけでなく、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ることを目指します。 研究の進捗状況や課題に関して、適宜フィードバックを行い、修正・改善点などを示します。 位置づけ・水準：HL2452			
達成目標	①客観性のある分析と論理的な文章構成を習得し、卒業論文を製作する。 ②地域や社会貢献に寄与する研究を実施し、研究成果を地域に公表および還元すること。 ③研究倫理を理解し、論文の書き方を習得すること。 単位認定の最低基準は、上記の①と②を遂行し、③の内容の7割を理解していること。 ディプロマポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	建築デザインコース4年生	成績評価 方法	論文完成度80％ 研究への取り組み20％	
教科書	適宜、資料を配布する。			
参考書	特になし。			
学生への要望	研究に対する目的意識や問題意識をもつこと。 論理的に考察する能力や順序立てて説明するプレゼンテーション能力を身につけるよう努力すること。			
オフィスタイム	通年：月曜日 9：10～10：30 木曜日 9：10～10：30 本館4F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマ決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究活動をはじめると共に、10月の中間発表、1月の本発表にむけた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
2	先行研究の整理1	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
3	先行研究の整理2	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
4	先行研究の整理3	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
5	先行研究の整理4	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
6	先行研究の整理5	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理 プレゼン作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	進捗状況発表1	研究目的を明確にすることを目的に、口頭発表を行う。自身の研究の新規性のある部分について、先行研究と比較しながらまとめ、何をどんな方法で明らかにするのか、研究の骨子となる部分を明瞭にする。また、これまでの進捗状況を整理し、今後の研究計画について発表する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 調査準備	120
8	調査活動1	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査準備	120
9	調査活動2	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 現地調査	120
10	調査活動3	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
11	調査活動4	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
12	調査活動5	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
13	調査活動6	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
14	調査活動7	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析 プレゼン作成	120
15	進捗状況発表2	調査などで得られた情報を整理し、今後の研究計画について発表する。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
16	進捗状況発表3	夏季休暇中に行った内容について発表する。	指導を参考に研究を進める	120
17	プレゼンテーション作成	中間発表会に向けたプレゼンテーションを作成する。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
18	中間発表練習	中間発表に向けた練習を行う。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
19	研究計画の整理1	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
20	研究計画の整理2	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
21	論文の執筆1	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	論文の執筆2	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
23	論文の執筆3	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
24	論文の執筆4	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 プレゼン作成	120
25	進捗状況発表4	これまでの進捗状況について発表する。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
26	論文の執筆5	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
27	論文の執筆6	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
28	論文の執筆7	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120
29	発表練習	本発表に向けた発表練習を行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120
30	本発表と論文投稿	本発表に向けて、発表データを作成し、投稿にむけて論文を完成させる。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	通年			
授業概要	A. The number (ナンバリング) of this subject is DS2462. B. Instructor taught English at Koriyama Women's University Attached High School (郡山女子大学附属高等学校) for 19 years. 郡山開成学園の教員として高校に勤務していました。 C. Be an active learner who enthusiastically pursues growth and excellence. D. Express succinctly research themes and personal career information. D. Demonstrate comprehension of terminology specific to your career choice. E. Write terminology and career information in contemporary formats. F. Express clearly the results of your research in reports and presentations. G. Active learning is substantially utilized in numerous lessons! FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student but also the diversity of all of the students.			
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) of language pertaining to your career with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers. 4. Understand how active learning methods can be applied to lifelong learning. 5. The minimum standard to receive 4 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, 4 skills in research, documents submitted, research reports and presentations. 6. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates (1) Ethical and social responsibility, and (2) Comprehensive learning experience and creative thinking ability. 7. Attain a higher level of learning through utilization of active learning and participation.			
受講資格	大4年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude (10%) 2. Demonstration of the Four Skills through Research (40%) 3. Documents, Research Reports and Presentations (50%)	
教科書	(none)			
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.			
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines. 2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own. 3. Be an active learner with very lofty goals. 4. Conduct and continue research on a daily basis. 5. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!			
オフィスタイム	Office hours are Monday and Wednesday 5th Period (16:10 ~ 17:40), and by appointment, 創学館 4 F No.3 研究室.			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Guidance	Preliminary guidance and creation of initial plans for the year. Active learning.	Preparation	120
2	Continued Guidance	Guidance Session No. 2. Active learning.	Preparation	120
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.	Preparation	90
4	Preliminary Research	Second session with continued discussion of preliminary research.	Review	120
5	Defining Objectives	Define objectives for the first semester of the year. Active learning.	Preparation	120
6	Defining Objectives	Second session to define objectives for the second semester of the year.	Preparation	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed during the second semester.	Review	90
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed during the second semester.	Preparation	120
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.	Preparation	120
10	Career Objectives	Second session of correlating research themes to career objectives. Active learning.	Review	120
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.	Prepare initial research report.	180
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.	Preparation	120
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and themes related to your career.	Review	120
14	Career Parameters Pt. 2	Define additional in-depth career parameters and related themes. Write a detailed outline of personal career parameters.	Review	120
15	Report on Career Parameters	Write the rough draft of report on career parameters. Active learning.	Prepare second research report.	90
16	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.	Preparation	120
17	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.	Preparation	90
18	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.	Preparation	120
19	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.	Preparation	90
20	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success. Active learning.	Preparation	120
21	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.	Review	90
22	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.	Prepare the third research report.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.	Preparation	120
24	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.	Preparation	120
25	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice. Active learning.	Preparation	120
26	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.	Review	90
27	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Preparation	90
28	More Consultation on Final Research Report	Continue consultation with students on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Prepare final cumulative research report.	120
29	Final Report and Outline of Presentation	Submit the final research report to the instructor, and submit the outline of the final presentation for review by the instructor. Active learning.	Preparation	240
30	Final Research Report and Presentation Practice	Use the final cumulative research report to practice for the final presentation that includes decisive conclusions on the student's career choice(s).	Preparation and Practice	240

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	近内 直美			
開講期	通年			
授業概要	・大学での学修の総まとめとして知識の統合化を図り、卒論のテーマを決定し、発表やレポートを作成しながら研究を進める。 ・適宜、学内・学外等における調査を行う。 ・授業の中で自己学習の成果を発表し、質疑応答などにより双方向性の授業を行う。 ・論文の提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。 地域包括支援センターの社会福祉士として勤務していた経験を活かし、ミクロ・メゾ・マクロレベルを意識し卒業研究を進める。 実務経験：郡山中央地域包括支援センター 位置づけ・水準：HL2452			
達成目標	・テーマに沿って研究方法を学び、研究を進め、論文にまとめる。 ・単位認定の最低基準は「内容の8割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学修経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科学生	成績評価 方法	経過報告・演習等の発表30%、論文70%	
教科書	特に無し			
参考書	随時紹介			
学生への要望	・研究テーマを明らかにし自主的、かつ、計画的に論文の作成に取り組んでください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ時限、Ⅱ時限 創学館4階No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・研究計画書の見直しを行い、発表に向けた研究計画を策定する。 ・卒業研究を進めるうえで必要な倫理や研究方法を振り返る。 ・倫理については、講義や論文作成の過程でも適宜確認を行っていく。 ・2回目以降も含め、自己学習による発表と授業における意見交換を行い、双方向型授業を行う。	・自主学習を行う ・発表に向けて、研究計画を確認する	60
2	先行研究の資料の収集 1	テーマに即した先行研究を整理する。	・自主学習を行い次回に備える	60
3	先行研究の資料の収集 2	テーマに即した先行研究を整理する。	・自主学習を行い次回に備える	60
4	資料を理解する	テーマに即した先行研究を理解し、卒業研究のテーマに基づきディスカッションを行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
5	資料の収集	論文作成に向けた資料を集める。	・自主学習を行い次回に備える	60
6	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。 (学外における社会資源の収集・調査を含む)	・自主学習を行い次回に備える	60
7	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
8	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
9	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
10	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
11	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
12	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
13	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
14	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
15	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	120
16	論文の作成	社会資源の収集・調査資料の分析を行う。	・自主学習を行い次回に備える	120
17	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
18	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
19	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
20	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い、原稿を修正する	120
21	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い原稿を修正する	120
22	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントの修正を行う	120
23	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントの修正を行う	120
24	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントを作成する	120
25	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文の修正を行う	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文の修正を行う	120
27	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文を書き上げる	120
28	論文の作成	発表の準備を行う。	・発表の準備を行う	60
29	論文の作成	論文の追加・加筆・修正を行う。	・論文の修正を行う	60
30	論文の提出	論文の追加・加筆・修正を行い最終提出をする。	・自主学習を行い論文を書き上げる	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	佐藤 久美			
開講期	通年			
授業概要	本授業の前半では、卒業論文執筆と卒研発表の準備を進め、本授業の後半では、卒業論文完成に向けて推敲を重ねる。卒研発表の準備を通して、プレゼンテーションのポイント（構成、スライドに提示する内容、声の大きさや話す速度等）を学び、社会人に求められるスキルを強化する。また、卒業論文を執筆することにより、論理的思考力や表現力の向上を図る。卒業論文や卒研発表の資料等については、授業内で評価・添削し、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準：DS2462			
達成目標	① 研究結果の発表に適切な表やグラフの作成方法を理解する。 ② 卒研発表に適した資料の作成方法を理解する。 ③ 研究結果について考察を深め、卒業論文にまとめる。 単位認定の最低基準は、上記内容の7割程度達成していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	相談により担当となった学生		成績評価 方法	卒研発表（30％） 卒業論文（70％）
教科書	特になし			
参考書	適宜資料配布			
学生への要望	受講生同士で情報を共有し、活発に意見交換してください。			
オフィスタイム	毎週水曜 9：10～12：50、No.3研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	進捗状況の確認	進捗状況を報告し、今後のスケジュールについて確認する。	序論を執筆する。	90
2	「序論」執筆	序論を執筆する。☒	序論を執筆する。	90
3	「序論」執筆	序論を執筆する。	方法を執筆する。	90
4	「方法」執筆	方法を執筆する。	方法を執筆する。	90
5	「方法」執筆	方法を執筆する。	方法を執筆する。	90
6	「方法」執筆	方法を執筆する。	卒業論文にどのような表・グラフが必要か考える。	90
7	表・グラフ等の作成	研究結果の発表に適切な表・グラフを検討し、その作成方法について学習する。	表・グラフを作成する。	90
8	表・グラフ等の作成	表・グラフを作成する。	結果を執筆する。	90
9	「結果」執筆	結果を執筆する。	結果を執筆する。	90
10	「結果」執筆	結果を執筆する。	結果を執筆する。	90
11	「結果」執筆	結果を執筆する。	卒業論文要旨の内容について考える。	90
12	卒業論文要旨の作成	卒業論文の要旨を作成する。	卒研発表資料の内容について考える。	90
13	卒研発表におけるPowerPointスライドの作り方	卒研発表に適したPowerPointスライド作成のポイントについて学習する。	卒研発表資料のラフ案を考える。	90
14	卒研発表資料ラフ案の作成	卒研発表資料のラフ案を作成する。	卒研発表資料を作成する。	90
15	卒研発表資料の作成	卒研発表資料を作成する。	卒研発表資料を作成する。	90
16	卒研発表資料の作成	卒研発表資料を作成する。	卒研発表原稿を作成する。	90
17	卒研発表原稿の作成	卒研発表原稿を作成する。	卒研発表原稿を作成する。	90
18	卒研発表原稿の作成	卒研発表原稿を作成する。	卒研発表の練習を行い、時間を計測する。	90
19	卒研発表の練習	卒研発表の練習を行い、受講生同士でフィードバックを行う。	卒研発表の練習をする。	90
20	卒研発表の振り返り	卒研発表を振り返り、受講生同士でフィードバックを行う。	考察の流れについて考える。	90
21	「考察」執筆	考察を執筆する。	考察を執筆する。	90
22	「考察」執筆	考察を執筆する。	考察を執筆する。	90
23	「考察」執筆	考察を執筆する。	引用文献を整理する。	90
24	引用文献リストの作成	引用文献リストを作成する。	卒業論文を見直し、推敲する。	90
25	卒業論文推敲	卒業論文を見直し、推敲する。	卒業論文を見直し、推敲する。	90
26	卒業論文推敲	卒業論文を見直し、推敲する。	卒業論文を見直し、推敲する。	90
27	卒業論文推敲	卒業論文を見直し、推敲する。	卒業論文を見直し、推敲する。	90
28	卒業論文推敲	卒業論文を見直し、推敲する。	卒業論文を見直し、推敲する。	90
29	卒業論文推敲	卒業論文を見直し、推敲する。	卒業論文の最終確認を行う。	90
30	卒業論文提出	卒業論文の最終確認を行い、提出する。	卒業研究について振り返る。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
担当教員	藤村 励子		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究はこれまでの学びの集大成として位置づけられ、専門的知識や論理的思考力が求められる。本授業では卒業論文の完成を目指して、論文の書き方、発表資料のまとめ方を指導する。学生は毎回の授業に際して発表資料を作成することとし、コメントなどでフィードバックをしていく。学生同士で発表内容について議論し考察を深める。 位置づけ・水準：DS2462		
達成目標	①自らの課題意識を先行研究の流れに位置付ける。 ②論理的に課題への答えを導き出す。 ③PowerPointの使い方、発表方法を身につける。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	相談により担当となった学生	成績評価 方法	達成目標の達成度の総合的評価 1. 研究の位置づけ：20％ 2. 論理実証性：30％ 3. 中間報告、最終報告：20％ 4. 論文の完成度：30％
教科書	特になし		
参考書	随時紹介する。		
学生への要望	自ら考え自ら積極的に行動すること。毎回指定された内容について資料を作成し、発表すること。		
オフィスタイム	水曜Ⅰ、Ⅱ限 No.3研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	進捗状況の確認	3年次の成果を踏まえ、卒業研究の計画を作成する。	発表用資料の作成	90
2	卒業論文の執筆	卒業論文の書き方を説明する。	発表用資料の作成	90
3	卒業論文の執筆	問題と目的を作成する。	発表用資料の作成	90
4	卒業論文の執筆	問題と目的を作成する。	発表用資料の作成	90
5	卒業論文の執筆	方法を作成する。	発表用資料の作成	90
6	卒業論文の執筆	方法を作成する。	発表用資料の作成	90
7	卒業論文の執筆	結果を作成する。	発表用資料の作成	90
8	卒業論文の執筆	結果を作成する。	発表用資料の作成	90
9	卒業論文の執筆	考察を作成する。	発表用資料の作成	90
10	卒業論文の執筆	考察を作成する。	発表用資料の作成	90
11	卒業論文の執筆	最終考察を作成する。	発表用資料の作成	90
12	卒業論文の執筆	最終考察を作成する。	発表用資料の作成	90
13	中間発表の準備	中間発表の内容を決める。	中間発表資料と発表原稿の作成	90
14	中間発表の準備	PowerPointの使い方を説明する。	中間発表資料と発表原稿の作成	90
15	中間発表の準備	発表資料を作成する。	中間発表資料と発表原稿の作成	90
16	中間発表の準備	発表資料を作成する。	中間発表資料と発表原稿の作成	90
17	中間発表の準備	抄録を作成する。	中間発表資料と発表原稿の作成	90
18	中間発表の準備	抄録を作成する。	中間発表資料と発表原稿の作成	90
19	中間発表の準備	発表練習をする。	中間発表資料と発表原稿の作成	90
20	発表後の反省会	中間発表後の反省会を行い、今後の方針を決定する。	発表用資料の作成	90
21	卒業論文の執筆	中間発表で指摘された卒業研究の課題を修正する。	発表用資料の作成	90
22	卒業論文の執筆	卒業論文を執筆する。	発表用資料の作成	90
23	卒業論文の執筆	卒業論文を執筆する。	発表用資料の作成	90
24	最終発表の準備	本発表用の発表資料を作成する。	発表資料と発表原稿の作成	90
25	最終発表の準備	本発表用の発表資料を作成する。	発表資料と発表原稿の作成	90
26	最終発表の準備	抄録を作成する。	発表資料と発表原稿の作成	90
27	最終発表の準備	抄録を作成する。	発表資料と発表原稿の作成	90
28	最終発表の準備	発表の練習をする。	発表資料と発表原稿の作成	90
29	卒業論文の仕上げ	発表後の反省を基に、最終の修正を行う。	発表用資料の作成	90
30	最終確認	卒業論文提出前の最終チェックを行う。	論文の完成、提出	90

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	藤田 京子			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修の成果として、研究テーマを確定し、調査等の考察を通して、文章力や分析力を養い地域の課題などを解決する能力を身につける。 課題や自己学習の成果を発表し、質疑応答などによりフィードバックを行う。 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた経験を活かしながら、社会福祉の関する研究や調査を行い授業を行う。 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置付け・水準 DS2462			
達成目標	研究テーマに沿って調査、分析した結果を研究倫理を理解し論文にまとめる。 単位認定の最低基準：研究の意義と倫理を7割理解していること。 ディプロマポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科学生	成績評価 方法	論文の完成度70％ 発表30%	
教科書	特になし			
参考書	「最新版 大学生のためのレポート・論文術」小笠原喜康			
学生への要望	自主的に学習に取り組み研究を深めていく。			
オフィスタイム	月曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4階 No.2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究計画書の修正	研究計画書を見直し修正する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
2	調査依頼	調査に関する書類の作成	指示された内容について修正しまとめる。	120
3	調査依頼	調査に関する書類の作成	指示された内容について修正しまとめる。	120
4	調査活動	調査を実施する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
5	調査活動	調査を実施する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
6	調査活動	調査を実施する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
7	調査活動	調査を実施する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
8	調査内容のまとめ	調査結果から考察する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
9	調査内容のまとめ	調査結果から考察する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
10	調査内容のまとめ	調査結果から考察する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
11	調査内容のまとめ	調査結果から考察する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
12	調査内容のまとめ	調査結果から考察する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
13	引用文献の整理	引用文献について整理する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
14	引用文献の整理	引用文献について整理する。	指示された内容について修正しまとめる。	120
15	発表に向けたパワーポイントの作成	卒業研究発表会に向けたパワーポイントを作成する。	指示に従いパワーポイントを加筆修正する。	120
16	発表に向けたパワーポイントの作成	卒業研究発表会に向けたパワーポイントを作成する。	指示に従いパワーポイントを加筆修正する。	120
17	発表に向けたパワーポイントの作成	卒業研究発表会に向けたパワーポイントを作成する。	指示に従いパワーポイントを加筆修正する。	120
18	発表に向けたパワーポイントの作成	卒業研究発表会に向けたパワーポイントを作成する。	指示に従いパワーポイントを加筆修正する。	120
19	発表に向けたパワーポイントの作成	卒業研究発表会に向けたパワーポイントを作成する。	指示に従いパワーポイントを加筆修正する。	120
20	発表に向けたパワーポイントの作成	卒業研究発表会に向けたパワーポイントを作成する。	指示に従いパワーポイントを加筆修正する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	発表に向けたパワーポイントの作成	卒業研究発表会に向けたパワーポイントを作成する。	指示に従いパワーポイントを加筆修正する。	120
22	発表に向けたパワーポイントの作成	卒業研究発表会に向けたパワーポイントを作成する。	指示に従いパワーポイントを加筆修正する。	120
23	論文の作成	卒業論文の作成	論文の修正等を行う。	120
24	論文の作成	卒業論文の作成	論文の修正等を行う。	120
25	論文の作成	卒業論文の作成	論文の修正等を行う。	120
26	論文の作成	卒業論文の作成	論文の修正等を行う。	120
27	論文の作成	卒業論文の作成	論文の修正等を行う。	120
28	論文の作成	卒業論文の作成	論文の修正等を行う。	120
29	論文の作成	卒業論文の作成	論文の修正等を行う。	120
30	論文の作成	卒業論文の作成	論文の修正等を行う。	120

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	高橋 真里			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究Ⅰで決定した研究テーマについて、これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、自主的に実験・調査研究を行い、論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う。研究指導、論文指導では提出したレポート並びに論文について添削しコメントによるフィードバックを行います。また、大学で学んだことの集大成であるとともに、実社会での仕事の基礎となる部分も多いので、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。 位置付け・水準 HL2452 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務。その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務。			
達成目標	単位認定の最低基準は、「卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了し、指導内容の7割を理解していること」。 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース 4 年	成績評価 方法	毎週のレポート提出60%、調査、分析の進行状態20%、研究の完成度20。	
教科書	特に用いない。			
参考書	テーマに沿って随時紹介する。			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイム	月曜日8:50～12:00、水曜日14:30～16:00 家政学館 4 階 生活科学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	最終学年に向けて、卒業研究の意義を再確認し、卒業研究Ⅰでの進捗状況の発表を行う	テーマに沿って研究を進める。	60
2	研究計画の妥当性	卒業研究Ⅰでの研究計画について、その妥当性を再検討する。	検討結果を再整理する。	60
3	研究倫理について	研究倫理について、卒業研究Ⅰで確認した研究上の注意点について、学生の研究テーマに沿って再確認する。	再確認した内容を整理する。	60
4	論文構成（1）	論文作成に向けて、論文構成を行う。	卒業研究を進める。	60
5	論文構成（2）	論文構成の妥当性を確認する。	卒業研究を進める。	60
6	実験・調査の継続（1）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
7	実験・調査の継続（2）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
8	実験・調査の継続（3）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
9	実験・調査の継続（4）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
10	実験・調査の継続（5）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
11	実験・調査の継続（6）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
12	実験・調査の継続（7）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
13	実験・調査の継続（8）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
14	実験・調査の継続（9）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
15	中間発表の準備（1）	中間発表に向けて、研究成果の確認と発表準備。	プレゼンテーション準備をする。	90
16	中間発表の準備（2）	プレゼンテーション用の構成を行う。	プレゼンテーション準備をする。	90
17	中間発表の準備（3）	プレゼンテーション内容の確認を行う。	プレゼンテーション準備をする。	90
18	中間発表の準備（4）	中間発表の練習。	プレゼンテーション内容を再確認する。	90
19	実験・調査内容の再確認	中間発表での指摘及び指導に対して、今後の研究内容の追加等について確認する。	卒業研究を進める。	60
20	実験・調査の継続（10）	追加実験及び調査研究の確認を踏まえて、実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
21	実験・調査の継続（11）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
22	実験・調査の継続（12）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
23	実験・調査の継続（13）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
24	実験・調査の継続（14）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
25	実験・調査の継続（15）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
26	プレゼンテーション	実験・調査結果のプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション結果を論文に反映させる。	90
27	論文の仮提出	卒業研究論文の仮提出。	指摘された内容を再確認する。	60
28	本発表の準備	卒業研究本発表に向けた、発表内容の確認を行う。	本発表練習をする。	60
29	本発表の準備	本発表と論文の仮提出を行う。	本発表練習をする。	90
30	論文提出	卒業研究論文の提出。	本論の内容を再確認する。	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	大泉 由美			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究は、大学での学修成果を総合化することを目的としている。絞り込んだテーマに沿って研究を推進し、10月の中間発表会、1月の本発表、仮論文提出、2月の卒業論文提出を目指す。 私立高等学校での教員経験を生かし、生活経営的視点から課題解決に向けた応用力を養う。 ・課題発見及び問題解決に関わるレポート等に対して添削、返却し、コメントによるフィードバックを行う。 位置づけ・水準：HL2452			
達成目標	①論文構成を理解し、論文を完成させる。 ②パワーポイントを活用しての発表方法を学ぶ。 ③発表原稿の作成を通して、表現する力を身につける。 ・単位認定の最低基準は、内容の8割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	4年生	成績評価 方法	①課題への取り組む姿勢（自主性・積極性）50％ ②中間・本発表状況50％	
教科書	必要に応じて資料を配付します			
参考書	随時紹介します			
学生への要望	1. 主体性を持って参加すること 2. 途中経過を報告すること			
オフィスタイム	水曜Ⅰ・Ⅱ限（家政学館4階 被服学研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	論文制作	卒業研究Ⅰの資料収集及び分析・調査を踏まえ、論文制作方法を学ぶ	卒業研究Ⅰの内容確認	60
2	論文制作	今年度の研究の進め方について自身の考えを発表する	スケジュールに沿って研究調査をすすめ課題を抽出する	60
3	論文制作	論文の章立てを行い、論文制作をすすめる	調査分析	60
4	論文制作	論文制作をすすめる（随時添削）	調査分析	60
5	論文制作	論文制作をすすめる（随時添削）	調査分析	60
6	論文制作	論文制作をすすめる（随時添削）	調査分析	60
7	論文制作	論文制作をすすめる（随時添削）	調査分析	60
8	論文制作	途中経過を報告・発表　ゼミ内で討論会を行う	途中経過報告準備・論文内容の修正	60
9	論文制作	前回の討論会での意見を活かし論文制作をすすめる（随時添削）	調査分析	60
10	論文制作	論文制作をすすめる（随時添削）	調査分析	60
11	論文制作	論文制作をすすめる（随時添削）	調査分析	60
12	論文制作および中間発表準備	中間発表会での報告内容を決める	中間発表会での報告内容の検討	120
13	論文制作および中間発表準備	中間発表要旨作成 目的・方法・結果（途中経過）を記入・提出・添削	調査をすすめるとともに、中間発表会の準備（発表原稿　パワーポイント作成）をすすめる	60
14	論文制作および中間発表準備	中間発表要旨作成 目的・方法・結果（途中経過）を記入・提出・添削	調査をすすめるとともに、中間発表会の準備（発表原稿　パワーポイント作成）をすすめる	60
15	論文制作および中間発表準備	発表タイトル・サブタイトルの決定	調査をすすめるとともに、中間発表会の準備（発表原稿　パワーポイント作成）をすすめる	60
16	論文制作および中間発表準備	中間発表用原稿及びパワーポイント準備（随時添削・修正）	調査をすすめるとともに、中間発表会の準備（発表原稿　パワーポイント作成）をすすめる	60
17	論文制作および中間発表準備	中間発表用原稿及びパワーポイント準備（随時添削・修正）	調査をすすめるとともに、中間発表会の準備（発表原稿　パワーポイント作成）をすすめる	120
18	論文制作および中間発表準備	中間発表用原稿及びパワーポイント準備（随時添削・修正）	調査をすすめるとともに、中間発表会の準備（発表原稿　パワーポイント作成）をすすめる	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	中間発表準備	ゼミ内での発表練習、より良い発表の検討・意見交換	調査をすすめるとともに、中間発表会の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	120
20	中間発表準備	中間発表用原稿及びパワーポイントの完成・発表練習	調査をすすめるとともに、中間発表会の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	120
21	中間発表終了後の報告	中間発表を終えての感想・反省 今後の進め方について教員と検討する	発表内容の修正とまとめ	120
22	論文制作および本発表準備	12月下旬の完成を目指し、論文制作を進める	論文制作をすすめるとともに、本発表の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	60
23	論文制作および本発表準備	論文制作をすすめるとともに、本発表用原稿・パワーポイントの制作をすすめる（随時添削・修正）	論文制作をすすめるとともに、本発表の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	60
24	論文制作および本発表準備	論文制作をすすめるとともに、本発表用原稿・パワーポイントの制作をすすめる（随時添削・修正）	論文制作をすすめるとともに、本発表の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	60
25	論文制作および本発表準備	論文制作をすすめるとともに、本発表用原稿・パワーポイントの制作をすすめる（随時添削・修正）	論文制作をすすめるとともに、本発表の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	60
26	論文制作および本発表準備	本発表要旨作成 目的・方法・結果を記入・添削	論文制作をすすめるとともに、本発表の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	60
27	論文制作および本発表準備	本発表要旨作成 目的・方法・結果を記入・添削・提出	論文制作をすすめるとともに、本発表の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	60
28	論文制作および本発表準備	ゼミ内での発表練習、より良い発表の検討・意見交換	本発表の準備（発表原稿・パワーポイント作成）をすすめる	60
29	論文制作及び製本印刷	論文の確認・印刷	全体を読みこみ確認・修正を行う	60
30	論文提出	論文提出	最終確認	60